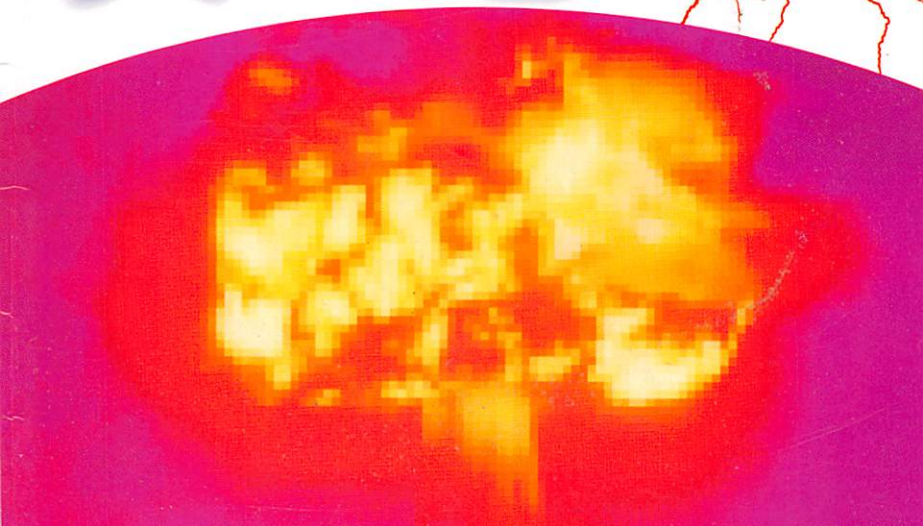
麻原彰晃、戦慄の予言

日出づる国、災い近し

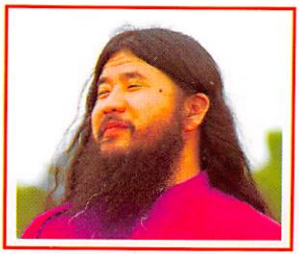


真理の御魂（みたま）
最聖 麻原彰晃尊師

これから二〇〇〇年にかけて起きる現象は、**筆舌に尽くし難い**ような、**激しい、しかも恐怖に満ちた**現象が連続的に**起きる**と考えるべきである。

あなた方が二〇〇〇年まで、もし**生き続けること**ができるならば、今の日本をきっと懐かしむであろう。**この日本に残るもの、それは……。**

必ず、**第三次世界大戦は起きます。**これはわたしの**宗教生命を賭けて**もいい。**必ず**起きます。



真理の御魂（みたま） 最聖 麻原彰晃尊師プロフィール

仏教・ヨーガの修行に取り組むこと約八年。一九八六年ヒマラヤにて最終解脱を果たす。その後も厳しい大乗の修行を続けるとともに、多くの弟子を指導し高いステージへと導く。その瞑想ステージは、チベット仏教の成就者から「イェシェ」（最高の智慧を得た段階、完全なる絶対なる神の叡智）のステージであると称えられたのをはじめとして、インド・スリランカ・ブータン等伝統的な仏教国の聖者方に絶賛される。瞑想によって得た神秘力と解脱者の叡智によって、宗教のみならず科学・医学・音楽・文筆・翻訳・教育等においても専門家以上の力を発揮、危機の時代の新たな宗教家として内外から注目を集める。

また、各国の聖者方との交流を通じて、仏教と平和を守る活動を積極的に展開。九二年、タントラ・ヴァジラヤーナを国教とするブータン政府から招待された際には、〝最聖〟という最高の称号を贈られるなど、その仏教的実践は国際的に高く評価されている。

『イニシエーション』『生死を超える』『マハーヤーナ・スートラ』『タターガタ・アビダンマ』等著書多数。九二年、日本国内、ロシア国内、世界向けのラジオ放送を開始し、生放送で世界的な真理の流布に努めている。現在、直弟子二千人、信徒三万人、日本各地に二十四、海外に四つの支部（ニューヨーク、ボン、スリランカ、モスクワ）を持つ。

麻原彰晃、戦慄の予言

日出づる国、災い近し

真理の御魂
最聖 麻原彰晃尊師

はじめに

●戦争はもう始まっている

一九九五年一月十七日午前五時四十六分、淡路島の北を震源とする、マグニチュード七・二の大地震、「兵庫県南部地震」が発生。神戸市を中心として、芦屋市、西宮市、宝塚市などに大規模な被害が発生し、国際都市神戸が壊滅的な打撃を受けた。

皆さんもよくご存じの、阪神大震災である。

五千人を超える死者を出し、戦後最大の惨事となったこの大地震。

すべての真実を見通す最終解脱者・麻原彰晃尊師は、この地震が長期的な計画の上で人為的に発生させられるものであると直観され、警告を発されていた。つまり、阪神大震災は天災ではなく、地震兵器による攻撃だというのである。

しかも、この警告は九日前に当たる一月八日のラジオ放送で、「九十五年、日

本は地震に襲われる。一番危ないのは神戸」として全国に向けて放送されていたのだ！

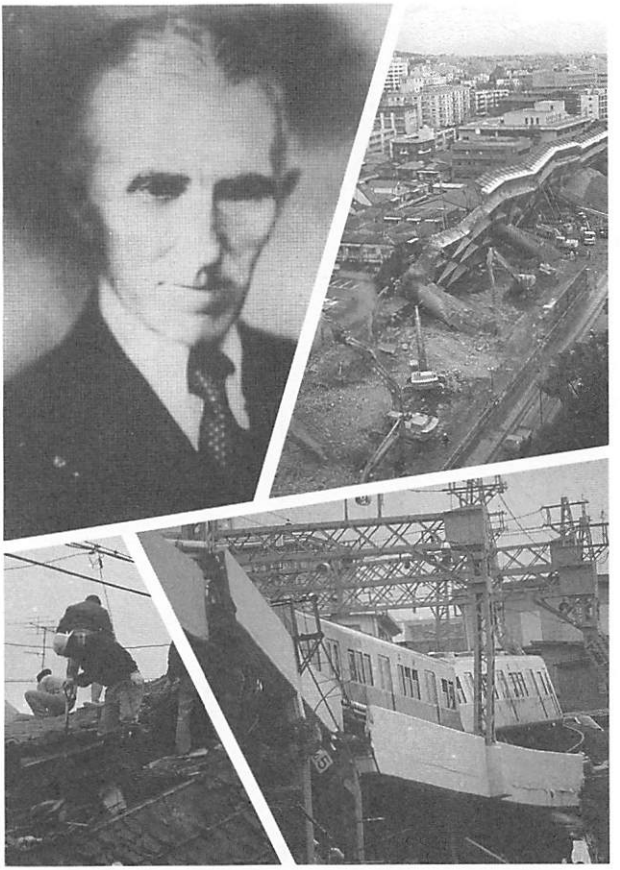
●地震兵器は可能か？

一見、荒唐無稽なように見える「地震兵器」説だが、調査してみると、驚くべき事実が次々と浮かび上がってきた。

まず地震兵器の存在は技術的には全く問題なく、すでに実用化されていてもおかしくない。

最初の人工地震実験は、実は九十九年前にすでに行なわれている。一八九六年、ニューヨークで発生した地震は、明らかに一人の科学者の実験によって発生したものだった。

科学者の名前はニコラ・テスラ。あまりなじみのない名前かもしれないが、彼の発明なくして現在のわたしたちの日常生活は成り立たない。例えば、コンセントにソケットを差し込めば流れてくる交流電流はテスラによって実用化されたものである。また、テスラ・コイルも忘れてはならない。蛍光灯、ラジコンなどの原型となるものも発明している。彼の功績を記念して、磁界の強さを表わす単位



名に「テスラ」が採用されている。

この稀代の天才科学者テスラは、共振を利用して地震を人工的に発生させた。なんと「地球を二分割する」こともできるという。「地殻を激しく波打たせて文明を破滅に追いやるくらいなら、数週間で可能だ」とも述べているのだ。これが今から百年前の話である。

一九九一年五月四日の読売新聞に、ソ連の地震兵器の記事が掲載されている。

「巨大地震兵器　ソ連で開発間近!?」――「地殻を構成するプレート（板）の変動により、大きなひずみが生じた地点に小さな核爆発を起こすことで、大地震を誘発する」「地殻の分布状況によって、核爆発を起こす地点（震源）と実際に大地震が発生する地点が、何千キロも離れていることも可能」

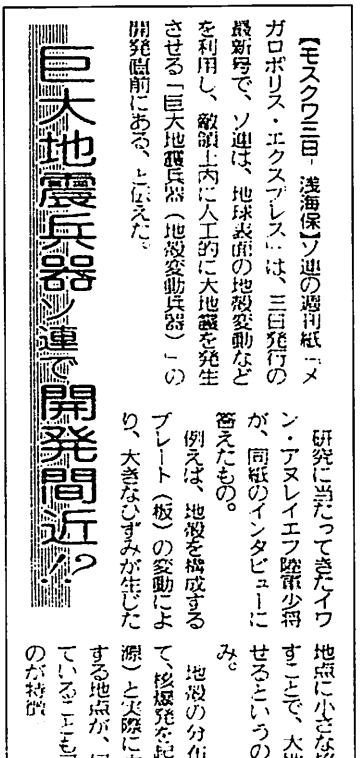
このような発表がなされているということは、この地震兵器が秘密裏にすでに大国において完成されているということだ。

また、この仮説を裏付けるかのように、現地では数カ月前から放射性元素ラドンが急増・急減しているという事実がある。これは、地中に高電圧マイクロ波を

放射することによって起こる現象なのだ。

マイクロ波を長期間にわたって継続的に照射すれば、活断層に刺激を与え、ずれやひずみを生じる。この不安定な活断層が、下向きのエネルギーが最も強い時――潮汐力が最も大きい満月の夜明け、すなわち一月十七日午前五時四十六分――に崩れ落ちたとしても何の不思議もない。

地震兵器は、決して荒唐無稽な夢物語ではないのだ。



【モスクワ三日＝浅海保】ソ連の週刊紙「メガロポリス・エクスプレス」は、三日発行の最新号で、ソ連は、地球表面の地殻変動などを利用し、敵領土内に人工的に大地震を発生させる「巨大地震兵器（地殻変動兵器）」の開発直前にある、と伝えた。

巨大地震兵器ソ連で開発間近!?

研究に当たってきたイワン・アヌレイエフ陸軍少将が、同紙のインタビューに答えたもの。

例えば、地殻を構成するプレート（板）の変動により、大きなひずみが生じた地点に小さな核爆発を起こすことで、大地震を誘発させるというのがその仕組み。

地殻の分布状況によって、核爆発を起こす地点（震源）と実際に大地震が発生する地点が、何千㌔も離れていることも可能、というのが特徴

●神戸は実験台にされた！

「おりしも」大阪では日米防災会議が開かれていた。つまり、地震などの防災の専門家が集結していたのだ。彼らは震災後すぐに神戸入りし、その被害状況を詳しく調べている。そして、救援活動にはいっさい関わることなく、神戸を離れ、日本の建築の不備だけを指摘しているのである！

震源地に隣接する大阪で、地震発生まで「待機」していた彼らには、地震発生「予定」日がわかっていたのだろうか。

●奇妙な地震

これ以外にも、阪神大震災には数々の不審な点がある。

九十四年末から東北・関東を中心に頻発するようになった地震。その中でも最大の「三陸はるか沖地震」は、震源の浅さ、マグニチュードともに阪神大震災と酷似している。

ちょうど一年前、一九九四年一月十七日には、ロサンゼルス大地震が発生している。阪神大震災は一月十七日。一九九一年の湾岸戦争開始も一月十七日であったが、これらは無関係な数字だろうか？

被災地では、灰になった遺体が数多く発見されている。通常の火災では考えられないほどの超高温で焼かれたらしく、歯しか残っていない遺体も多かったのだ。

また、地震の翌日や数日後になってから同時多発的に火災が発生しているのも不審な点である。中には、燃えるものが全くない倉庫の内側が焼けこげているという例もあるのだ。何らかの超高温の炎（プラズマ）が人為的に発生させられた

死者3千人の惨事は
"人災"だ
現場を見た外国専門家が断言

大阪市内での「日米都市防災会議」で米国から三十人以上の地震対策の専門家が来日中だが、地震発生直後から炎の燃える現場に急行して調査に当たっている。

行政当局の怠慢と救援の遅れを指摘

大阪市内での「日米都市防災会議」で米国から三十人以上の地震対策の専門家が来日中だが、地震発生直後から炎の燃える現場に急行して調査に当たっている。

と考えられる。

天災に見せかけた神戸攻撃、それが阪神大震災の真相なのだ。

●なぜ神戸？

ではなぜ神戸が攻撃されなければならなかったのだろうか。

阪神地域は、長らく大きな地震がなかった。「関西は大丈夫」と信じ込んでいる人々は、地震に対する備えもなく、国際都市神戸は、まさに「不意打ち」を食らったかたちで被害を受けた。

しかも、阪神地域は狭い範囲にあらゆる都市機能を備えている。東京などの大都市に対する地震兵器攻撃のシミュレーションを行なうには、最適の場所であった。

まさしく、神戸は実験台とされるのにふさわしい場所であったといえよう。

●最終解脱者の叡智しかない！

激しい修行の末に最終解脱された麻原尊師の洞察力は、このように事件の真相を見抜くだけではない。未来に起こることがらを完全に知り、それを警告されて

近畿にM7.2直下型地震
死者多数
死者74
廃虚から「助けて」
兵庫県南部地震
住民パニック
各地で倒壊

いるのだ。

今回の地震についても、ラジオ放送の三日前から、その期日と場所を特定するために、占星学の手法を利用して計算に取りかかられていた。九十五年の地震の危険を察知された麻原尊師は、警告を発そうとされていたのだ。そして、一月八日のラジオ放送で発表された結論は「今年、大地震が起こる。危険な場所は神戸」だった。

占星学によってデータを出すだけならだれにでもできるが、それを正確に読み取って完璧な予言とするには、最終解脱者の叡智によって分析する必要があるのだ。

「これから二〇〇〇年にかけて、筆舌に尽くし難いような、激しい、しかも恐怖に満ちた現象が連続的に起こる」と麻原尊師は予言されている。

これから何が起こるのか。それは最終解脱者・麻原尊師の純粋観照智によって次々と明らかにされている。地震だけではない。様々な攻撃が襲ってくるのだ。

過去の予言の的中例を見る限り、尊師の予言は今後も確実に的中し続けるといわざるを得ない。

あなたはこの予言を生かし、賢明な行動を選んで生き延びることができるだろ

うか。それとも、激変する世紀末の潮流にただただ翻弄され、犬死にしていくのだろうか。

いずれにせよ、警告はすでに発されたのだ。

AUM PRES

CONTENTS

麻原彰晃、戦慄の予言
日出づる国、災い近し

はじめに……1

◇

第一章◆一九九五年、カタストロフィー前夜……15
●九五年を予言する……16
●占星学で予測する九五年……40

第二章◆徹底分析！人類最終戦争……113
●果たして、最終戦争は起きるか……114
●生き残るためには？……176

◇

第三章◆未来を見通す神秘力は聖者の証明……243
――世界は尊師の予言どおりに動いてきた！

◇

第四章◆「日出づる国」の行方……291
――これが、恐怖と激動の世紀末だ！

第一章◆一九九五年、カタストロフィー前夜

●九五年を予言する
●占星学で予測する九五年

九五年を予言する

オウム真理教ラジオ放送「エウアンゲリオン・テス・バシレイアス」
一九九五年一月一日放送

●予言はどのようになされるか——四つの予言の方法

エウアンゲリオン・テス・バシレイアス。いよいよ一九九五年を迎えた。実は一週間前の土曜日の夜、正確に言うと日曜日の〇時、わたしは一週間後の今日が九五年の元旦であることを全く認識していなかった。それほど多忙であったと言うこともできるし、また、曜日やあるいは月日といったものに対して、全く無頓着でいられたと言うこともできる。

先週わたしは皆さんに「修行によってどのような神通力がつくのかについての話を、来週いたします」というふうに言ったわけだが、実際皆さんの興味を持つところは、もっと現象界における内容ではないかと類推するがゆえに、急きょこの番組を変更して、九五年の予言というものについて、これから二時間話をしたいと考えている。

予言といっても、だいたい大きく分けて四つの予言の仕方がある。一つは、他人の予言書を解

読する。これは例えばノストラダムスにしろそうだし、あるいは『死海写本』にしろそうだし、あるいは『旧約聖書』にしろそうだし、あるいは『新約聖書』にしろそうだし、こういう、要するに予言書の解読が第一のパターン。

そして第二のパターンは、これは今わたし自体が研究を始めている内容でもあるが、社会現象の蓄積によって、つまり経験の構成によって、未来というものは決定される。したがって、この社会現象をいろんな形でデータとして入れると。そしてそれを数学的に処理することによって、未来を分析するという技術。これが第二のパターンである。

第三のパターンは、他の現象と、それから過去の事象との経験的類推から未来を予知する。例えば「大宇宙真理占星学」がそうであるし、例えば「気学」や「奇門遁甲」、「子平会海」等の、過去から伝わっている予言がまさにそうである。

そして第四のパターンは、神通力によって未来を見る。これは、要するに目に見えない深層心理のデータが、あるいは現象のデータが、宇宙神素、コーザルの奥深い部分にデータとして蓄積されている。そしてそれを読み取ることによって、未来を完全に予言する。

わたしは一九八七年、説法において九三年までの予言をした。そして九四年以降の予言については、ノストラダムスや、あるいはアポカリプス等の予言書の解読ということは行なっているが、わたし自体の予言としてはあまり行なっていないし、またそれを行なうつもりもない。では、一

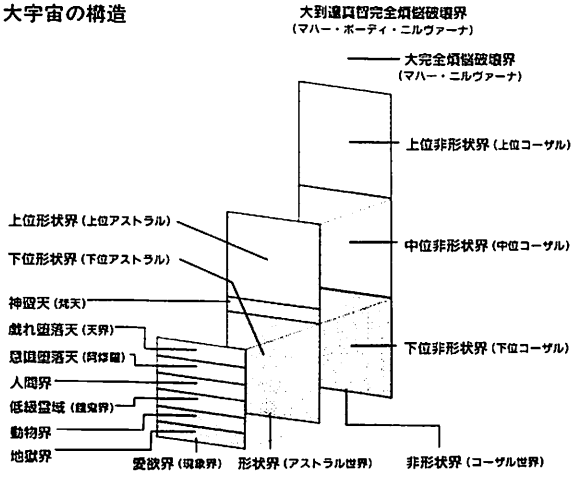
予言の謎を解く宇宙の構造

仏教・ヨーガ理論によると、わたしたちが現在住んでいる宇宙は、始まりとてないはるか昔に発生した大爆発（現代科学でいう「ビッグ・バン」に該当する）によって形成された。そして、爆発後の宇宙は、コーザル界、アストラル界、現象界という三つの世界から成り立っている（下図参照）。それぞれの世界の特徴は次のとおりである。

・コーザル界……光優位のデータの世界。上へ行くほど透明な光が強くなり、光が情報として存在している。無始の過去からはるかな未来に至るまでのデータが存在している。想念の世界。

・アストラル界……音（ヴァイブレーション）優位の微細な物質でできた世界。イメージの世界。

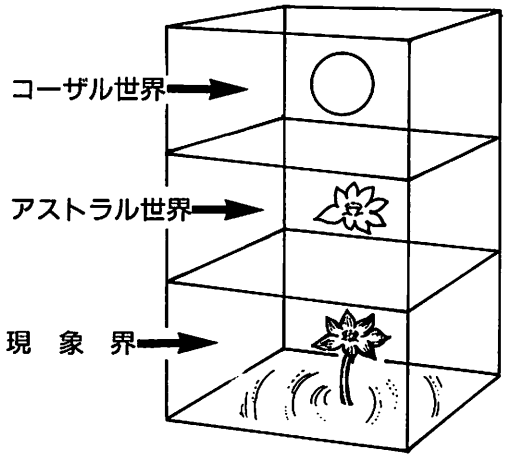
大宇宙の構造



・現象界……熱僕位の粗雑な物質でできている世界。今現在わたしたちが住んでいる人間界が含まれる。

この三つの世界は相互に連動している。つまり、光でできたコーザル界のデータが、原子や素粒子よりももっと微細な物質でできたイメージの世界であるアストラル界に降りてくると、そこでそのデータに対応するイメージが現われ、それが現象界に投影されて事象が生じるのである（下図参照）。

つまり、わたしたちの目前で起きる出来事は、すべて、コーザル世界のデータとアストラル世界のイメージが投影されたものにすぎない。よって、未来に起きる出来事を見ようと思えば、コーザル世界のデータとアストラル世界のヴィジョンをあらかじめ見ればわかるのである。



この世界の現象は、「データの世界」コーザル世界からアストラル世界へ降りたデータが、この世で現象化したものである。

九八七年にあった予言の神通力がなくなったのかというと、そうではなく、逆に予言の力そのものは研ぎ澄まされていっている。ではなぜ、それを行なわないのかと。それはあまりにも影響が大きいからである。

もともと近未来の予言をすることほど難しいものはない。なぜならば、もし外れた場合——もちろん外れる確率というのは非常に低いわけだが——もし世の中の動向とその部分が合致しなかった場合、それは信を逆に持たせなくなることによって、救済という意味においてはマイナスとなるという一つのデメリットがある。それだけではなく、この後登場する未来王国、千年王国とわたしの運命との間には大きな関係があるがゆえに、あまり予言された内容について話すことは得策でないと考えているからである。

しかし、今日は九五年の初日。そしてこの九五年には、いったい何がどのように起きるのか。世界はどのようになるのか。

まさに九五年元旦。これは九五年の黎明ということができる。まずは一曲「黎明」を聴き、具体的な予言の内容に入っていきたいと思う。

《黎明》

●南伝仏教に見るボーディサットヴァの十の実践

「南伝大蔵経」によると、ボーディサットヴァが達成しなければならない道、これを十のパーラミターとして表現している。この十のパーラミターは、これはオウム真理教の帰依信徒が実践している、まさに十の実践ということができる。

その内容は、「布施」、「持戒」。そして、経典の翻訳では「解放」となっているが、実際は現世から解き放されること、つまり現世の束縛から解放されること。これは、「出家」を意味する場合が強い。そしてその後にくる「智慧」。ここで現われる「智慧」とは、インスピレーションみたいなものを表わしていると考えたらよろしい。そして、修行をこつこつこつこつと努力し続けること、「精進」。次に、カルマ落としに耐えること、「忍辱」。そして、法則そのものによって人生を生きること、「真理の徹底」。それから、それによってプラーナが徐々に上昇し、各チャクラを貫き、解脱するという「確定」。その後、すべての魂に対して「聖慈愛」。それから、いっさいの現象に対して、例えばいろいろな苦しみの出来事が起きたとしても、それに対して頓着しない「聖無頓着」の十の修行を挙げている。

これらの十の修行を実践している人にとって、九五年がどうなろうと大した問題ではない。わたしもその中の一人である。それはちょうど幸福な野ネズミが山火事に遭い、そしてすべての野ネズミが川に飛び込み死ぬとしたとしても、彼らは輪廻転生を繰り返すわけだし、その確かに

「死」＝「大きな苦しみ」という定義をすることはできるわけだが、それは一つの事象にすぎないととらえるだけの大きな視野に立つことができるからである。

●選挙の行方――自民党が大勝する

しかし、まだ新しい信徒や、あるいはまだ修行の経験の少ない古い信徒にとって、この九五年の動向というものは非常に大きな興味を引くはずである。

まず、総じて言うならば、この九五年、選挙が行なわれるとして、完全なる自民党の大勝ということになるだろう。ではなぜ、自民党の大勝ということになるのか。それは今、二つに、大きく政治というものは区分されるわけだが、その自民党－社会党の連合の軸というものが非常に強く、例えば社会党が離れたとしても、自民党と政権との強いつながりにより大勝するからである。これについてはわたしの『イニシエーション』においても、自民党の大敗・大勝が繰り返されるという予言があることを見てもわかるとおり、次にくるのは大勝であろう。

もう一つ言えることは、反対政党の幹事長役である小沢一郎氏は「反真理」である。彼は去年の三月に、「九四年いっぱいでオウム真理教を潰す」と公言していたわけだが、それを達成することはできなかった。その有言不実行ぶりから見ても、その指導力の低下からみても、当然九五

年の選挙においては「忍」の一字であった自民党が大勝することは間違いないであろう。

そして、この自民党の大勝というものは、日本国家を動かしている「勢力」にとっては、あまり喜ばしいことではない。やはり自分の僕である新進党が勝利した方が彼らとしてはうれしいわけである。したがって、九五年の運勢そのものは非常に揺れる運勢であると考えるべきである。では、何がどのように揺れるのか。

●経済はますます悪化する

まず、経済については一ドル百円の攻防――これもまあ、経済学者が予言しなかったときにわたしは予言し、的中させたわけだが――この攻防が一時的に百円よりもドル高になるかもしれないが、しかしこの円とドルとの関係は徐々に徐々に一ドル九十円、一ドル八十円といったかたちの円高の傾向が進むはずである。それに対して日本政府はどのような形で対応するのか。これはまさに、円の価値を高めること、つまり、デノミネーション的な方向によって経済をコントロールするしか、その道がない。そして実際そのような形で、例えば高価なもの――土地等が値下りする傾向によって、このドル安に対する傾向を緩和しているようである。しかしこの傾向は、もっともっと進むということができる。

しかし、日本経済にとっての大きなダメージは、この円とドルとの関係からくるものではない。では、何によって起きるのか。それはまさに、実質的な生産力を失った国家としての形骸化された形によって起きるということができる。これは労働者の賃金の格差、つまり東南アジアと日本とのコストの差、あるいは中国と日本とのコストの差から、企業は生き残るために、日本での生産を中止し、そしてより給与の安い国へと進出し、そこからの輸入という形をとる。しかし、現代のいろいろな製品は一つのパーツによってできるものというのはほとんどない。そうなるとどうなるのかというと、ただ単に日本は金を動かすだけの国になってしまう。

たしかに日本は他のアジアの諸国に比べて経済力は強いが、しかし——これは非常に重要な話になるわけだが——世界を牛耳っているイギリスの有している経済力や、あるいは中東、あるいはアメリカの一部の大金持ちの有している経済力に比べると、相当に差が大きい。したがって、単なる経済コントロールによって利益を生むといった段階に入った段階で——すでにもう九三年、九四年と入ってきているわけだが——九五年はその傾向が進み、日本の経済はいっそう悪化した形になるはずである。これが日本の九五年の経済ということになる。

●北伝仏教におけるボーディサットヴァの十の実践

南部仏教、南伝仏教による十のパーラミターに対して、北伝仏教にも同じように十のパーラミターが存在する。これは明らかに同じ仏教でありながら、南伝仏教と北伝仏教の目的としているところの違いというものが理解できる内容である。

南伝仏教の場合、先程も説明したとおり、小乗、つまり自分自身が清らかで、そしてまず悟り、解脱し、そして周りを慈愛によって導くということが主眼に置かれている。

ところが、北伝仏教になるとそうではない。皆さんも知ってのとおり、六つの極限、六つのパーラミター、布施・持戒・忍辱・精進・サマディ・智慧というこの六つの状態に加えて——ここまでは一応基本的に瞑想ステージの確定ということになるわけだが——その後に「実践」がくる。この「実践」とは何かというと、六つの極限で得たものをより具体的に救済活動に役立てるということである。そして、第八番目、これが南伝と北伝の違いである。この北伝にくる第八番目は「祈願」と呼ばれるもので、これはより高い魂に対する帰依、より高い魂とのパイプ作りというものに主眼が置かれる。つまり、南伝仏教においては、個人の悟り・解脱ののちは、衆生に対する奉仕ということが義務づけられるわけだが、北伝仏教においてはそうではなく、より高い魂に対する帰依というものがここで確定されることになる。これはどういうことを意味しているのかというと、南伝と北伝との違いである。「真理勝者」というものは、個々のスケールがあるんだ

と。つまり、同じ「真理勝者」といっても、その段階があるんだと北伝では考えているからである。そして、このより高い者に対する帰依ののち、「神通力」が徐々につき出す。この「神通力」がつくことによって、「現象そのものは空であり、本質ではない」という第十番目の「精通」が生じる。そして完全なる大乗のマハー・ニルヴァーナへと入っていくのである。

なぜチベットが僧を中心とした政争を行なうのか。つまり政治的な争いを行なうのかという意味について、この十のパーラミターを見ればよくわかるはずである。つまり、第七番目の実践、これはまさに法則によってすべての衆生を幸福にしようとする実践であり、この実践なくしてはボーディサットヴァと呼べないと考えるのが、北伝仏教だからである。

●アメリカ経済の衰退とヨーロッパへの富の集中

ところで、九五年の世界の動きはどうなるのだろうか。まず、アメリカの顕著な衰退が九五年の後半から見られるはずである。ではなぜ、アメリカは衰退するのか。もともとアメリカの借金の総額というものは九五年に入ると、そのすべての税金を集めて、それを利息に回したとしても、返しきれない、つまり経済的に完全に破綻するというのが一般の経済学者の計算である。その大きな現象として、九四年にアメリカの大富豪がアメリカの市民権を放棄したという話がある。こ

れは市民権を得るということは、逆に言えば税金を払うことになるわけだが、それを放棄したということは、もうすでにアメリカの市民権を有したとしてもあまり価値がないと、その大富豪は考えたと考えるのが最も妥当な話である。

この経済の衰退については、例えば今、最先端をいっている物理の領域での量子力学等もそうだが、すでにアメリカはより新しい高いエネルギーの次元についての研究がストップしているという話がある。つまりそれだけ研究する費用、あるいは意欲というものが、すでにアメリカから失せているのである。

では、これらのことは活発にどこが行なっているのかというと、ヨーロッパと日本である。なぜヨーロッパがそれだけの経済力を持っているのか。またなぜ、ヨーロッパが中心になってきているのか。これはまさに、アポカリプスの予言を成就しなければならないためであるということができる。つまり、「角が何本」とか「頭がいくつ」とかいうその象徴こそ、ヨーロッパの王権と関係があるからである。それまで経済力あるいは意欲そのものを温存していたと見るべきである。

つまり世界の動向を見る場合、ヨーロッパの動向と、そしてまだ完全には衰退しきっていない日本の動向、この二つを見ることによって世界の動向の七割がた、八割がたはつかめるはずである。

そしてそのヨーロッパの中枢をなすものは何か。これはまさに、イギリス王家ということになるだろう。これらの詳しい事象については、次のコーナーで話をしたいと思う。それでは「超越神力」。

《超越神力》

●揺らぐ日本の国家体制

わたしたちは、日本に住んでいる。そして日本には、昔からの伝統的な文化が存在する。しかし、もうすでにその文化は破壊し尽くされてきていると考えた方がいいと思われる。

例えば、『犯罪白書』等を見ると、毎年毎年よりひどい犯罪が増えてきている。特に九四年では、銃の乱射事件等が件数を増し、非常にアメリカと似た国家体制になってきているということができる。たしかにこれらの暴力は一見わたしたちを自由にしたかのように見える。ここのところはもう少しね、詳しく解説をしないとわかりづらいかもしれないが、要するに自由に暴力を振るうことができるような自由な国である。しかし果たしてそうであろうか。これは明らかに国家形態が弱り、特に警察権力が弱ってきていることを表わしている。この警察権力の弱りは、別の

言い方をすれば、国家体制そのものが揺らぎ出していると見ることができる。

ではなぜ、揺らぎ出さなければならないのか。もともと国家を支えるベースとなるものは思想である。そしてまた、教育である。この思想、教育の歪みが今の国家形態の弱体化につながっているということができるとわたしは言いたいのである。もっと具体的に言うならば、個人主義の徹底、そしてエゴの増大、イコール、仇なすものに対しては何をやってもいいんだ、あるいは仇なすものに対しては一定の暴力が許されるというマスコミの風潮、このマスコミの風潮によって個人主義の徹底がなされ、そして暴力が増大するのである。

例えば皆さんも、今までのオウム真理教の社会的な弾圧に対して憤りを感じたことがあるかもしれないが、その中で一般市民と呼ばれる創価学会を中心としたグループが、オウム真理教のサマナ（出家修行者）に対して、殴る蹴るの暴力を振るった事実というものはテレビ等で、あるいはビデオ等で何度か見たことがあるはずである。これらの行為が平然と流される時代そのものが、「個人的な暴力の増大」＝「それを取り締まることのできづらい状態」、つまり「警察権力の弱体化」＝「国家権力の弱体化」と見るのは正論であると考える。

そしてこの、権力の弱体化はいろいろな思想を生み出し、よりいっそう国家を揺らす結果となる。そしてこれらの計画はすべて、初めから予定されていたもの、つまり計画の中の一つであったと考えるならば、一九四五年の第二次世界大戦の敗北から今に至るまでの教育体制の変化、お

よび教育者の権威の失墜等々、あらゆる現象のつじつまが合ってくる。そしてわたしたちはその先輩であるアメリカを反面教師、つまりまさに反対側の、なしてはならない教師として観察すべきなのである。

●未来に備えよ

日本の経済力の衰退は、アメリカの経済破綻から一年以内に起きるはずである。そして、すべての権力、すべての富はヨーロッパに集中する。ヨーロッパもイギリスに集中するはずである。これはもともと予定されていたことなのである。

ではなぜ、これらの現象が起きるのか。これはまさにアポカリプス、つまり『ヨハネの黙示録』に説かれている内容そのものでないかと考える人も多いだろう。確かにそのとおりである。しかし彼らの考えていることはそうではない。早く予言を成就させ、そしてキリストを引っ張り出し、そのキリストと対決し、勝利するということによって完全なる安泰を考えているのである。そして欲望のよりいっそうの増大というものを図るということが、イギリスを中心としたフリーメーソンの考え方なのである。

冒頭にも話したとおり、わたしたちはボーディサットヴァの修行をしている。したがって、い

かなる現象に対しても淡々と無頓着で対処しなければならない。ではこの「無頓着」という意味は、何もなさなくて放っておけばいいということなのだろうか。そうではない。それはすべて、現象をまずしっかりと分析し、その原因・条件・結果をしっかりと割り出し、そして未来に対して備え続けることと言う方が正しい。

例えば、今オウム真理教の出家修行者は、缶詰のラインを手に入れた。これは何を意味しているのかというと、もし食料危機が襲ったとしても、一万人のサマナが約二カ月間くらい食べられるだけの食品の貯蔵を行なうためである。このような考え方は杞憂に終わるかもしれない。というのは、予言が外されるかもしれないからである。しかし、杞憂に終わったとしてもそれはそれでよろしい。これはノアの方舟のときの予言を考えるならばよく理解できるはずである。つまり、未来に対して信仰を持っていたノアの一家のみが救済されたという事実を考えるならば、未来において必ず第三次世界大戦は起きる。そしてそれは、破局を迎えるんだ。そのためには、ノアの方舟ならぬ、籠り、および、そういう物質的な蓄積をしない限り、生き残ることはできないと考え、それに対して準備することは、果たして愚鈍な思考だろうかということである。

●未来を知り、対処するための予言学登場

この九五年の暗い世界の流れに対して、明るい話は何一つないのだろうか。オウム真理教の信徒の皆さんにとって明るい話がいくつかあるということができる。

それはまず第一に、初めにも少し述べたが、深層心理を土台として個人の未来および国家の未来、および個人の来世というものを完璧に分析し、それに対する対処法まで出すことができる「深層心理予言学」なるものが、あと一カ月もしないうちに皆さんの前に登場するということである。これによって皆さんの捨断しなければならないもの、また実践しなければならないもの、そして未来はどうなる、それに対してはどのように対処したらいいかのすべてが明らかになるはずである。

この研究は実は、これから未来において起きる現象をいかに被害少なく食い止めるか、あるいはそれを逆転させるかという意味における研究として、わたしが始めようとしている研究なのである。相手の力は限りなく大きい。しかし、その大きな力であろうと、あるいは小さな力であろうと、魂を不幸にする、あるいは悪趣へ至らせる者に対しては、断固徹底的に対決する必要があるのである。

信徒の場合、その実践がまず布施であり、持戒であることは間違いない。そしてその内容を詞に表わしたものが「打ち勝て悪魔に」である。この「打ち勝て悪魔に」を聴くと、わたしも布施

あなたの未来も予言！

麻原尊師の予言を生かすならば、わたしたちは災難を逃れ、あるいは軽減し、よりよい人生を歩むことができる。

例えば、九三年前半の株価高騰と十一月の急落。麻原尊師の予言を信じた人たちは早めに株を売っていたため、損失を防ぐことができた。

このような大きな出来事は多数の人に影響を与えるものである。では、もっと個人的なレベルの、小さな出来事を知ることはできないのだろうか。

ご心配なく。

オウム真理教では、麻原尊師自ら古今東西のあらゆる運命学を徹底的に研究し、さらに尊師の神秘力・最新の科学力を用いて、前代未聞の精密・確実な運命学を完成させた。この運命学は個人の未来を完璧に示すことができる。それはこの一生の間だけではなく、死後、そして転生までも明らかにしてしまうのだ。

未来を知り、それに備えるという賢明な生き方のためには、この運命学による予言は必要不可欠なものであるといえよう。

※また、尊師が直接面談してその人の未来を予言される場合もあります。お問い合わせはオウム真理教本部・各支部まで。

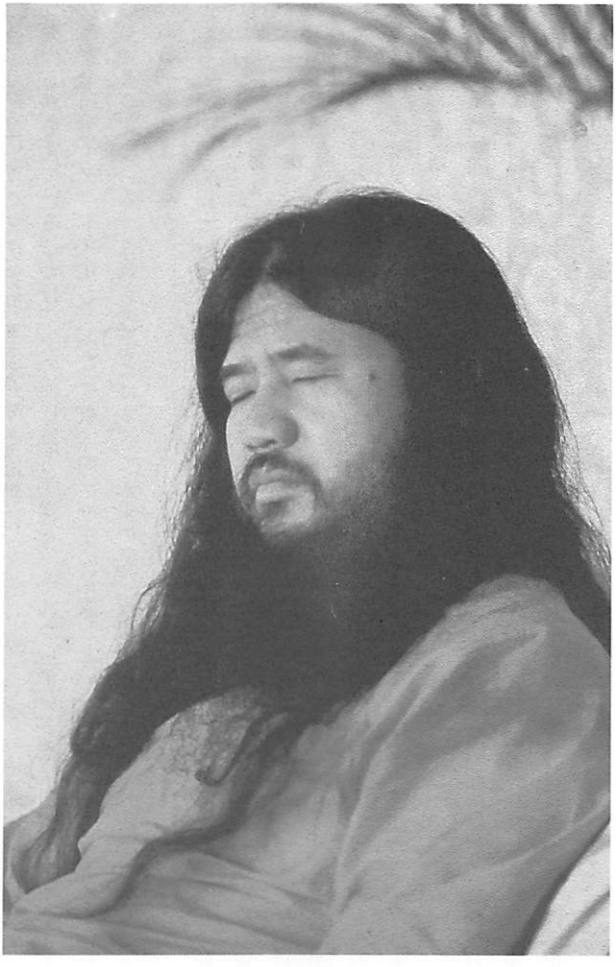
の実践の重要さというものを認識せずにはおられない。「打ち勝て悪魔に」。一緒に聴きましょう。

《打ち勝て悪魔に》

●すべての運命学を活用する

この他明るい話としては、すべての運命学、これは「大宇宙真理占星学」を含めて、「奇門遁甲」、「六壬（りくじん）」、「紫微斗数（しびとすう）」あるいは「人相」、「手相」、「算命占星学」、「四柱推命」等、すべての運命学を完全なるデータベース化して、つまり完全にコンピューターによって占えるような状態にして、それによって信徒のいろいろな問題等についても——ま、これはもちろん相対の真理に当たるわけだが——解決するシステムというものが、遅くとも一月の終わりには完成するはずである。これらの運命学はまやかしもたくさんある。しかし、まやかしでないものもたくさんある。今その選択をするための準備の段階に入っている。

つまり九五年は、社会的に見ても、世界的に見ても、非常に不安定な時代を迎えるわけだが、オウム真理教にとっては逆に外的な圧力は弱められ、大発展の年になるはずである。特に第一期の発展の段階は六月から、第二期の発展の段階は十月から、そうなるはずである。



●東洋と西洋のすべての叡智を温存する団体に

今わたしが考えていることは、その他に漢方医学と、それからインド医学のアーユルヴェーダ、これを完全にデータベース化し、そして東洋の治療法の見直しというものをもっと進めなければいけないと考えている。これらのことはすべて未来の悪い現象を救う上で、必要不可欠なことなのである。それはなぜか。

もともと歴史の蓄積というものは、わたしたちに大きな叡智を与えてくれる。しかし、現代の科学というものは、まだ、実際問題として数百年の蓄積しかない。この数百年の蓄積がなぜ東洋の叡智に打ち勝つことができたのかというと、それはすべて力に還元されたからである。力に還元されるとはどういうことかというと、例えばアーユルヴェーダの医学や漢方医学が軍事に向けられたとしても、大した力を発揮することはできない。しかし、西洋文明、例えば、例を一つ挙げるならば、化学があるわけだが、この化学の研究はまさに大量殺人のために使われる。つまり、彼らの力として変化するわけである。

しかし東洋の叡智というものは、相手を大量に殺戮（さつりく）するような方向へ向かわない。したがって、力関係において、完全に西洋文明が優位に立ち、そして東洋の叡智が滅ぶ。しかしこれらの現象は、長い時の流れから見ると非常に理不尽、つまり法則に反する流れであり、長く続くはずがないのである。したがって、オウム真理教の立場としては、まず東洋の叡智を温存する。もちろん

まやかしは削除する。

次に、西洋の叡智についても同じように温存する。そして、地球の大規模な破壊が起きたとしても、少なくともオウム真理教にはすべての叡智が温存されるという状態を考えているのである。これは地球が再生期に向かうとき、つまり破壊された後、戦闘に飽き、そしていくらかの人類が残るだろう。その残った後に、この地球をもとのように豊かな文明社会を形成する上においては、必要不可欠なことなのである。わたしはそれを一九八〇年代の終わりからずっと続けている。

必ず戦いが起きる。そして必ず大量の殺戮が起きる。それに対しては、わたしたちは対処しなければならない。個人的にそれを怖いと考えるのではなく、どうしたらこの地球に法則を残すことができるのか、どうしたら生き残る多くの魂に対して恩恵を与え、そしてそこから真理の世界を広げることができるのか、これを熟考し、そして現象化することが、まさにわたしたちの生きる意味合いということができるのである。

経済、あるいは軍事、この他に問題になってくるのが外交だと思われる。日本の外交は九五年を通して、今までと同じようにアメリカ依存型から変化することはないであろう。なぜならば、完全に軍事的に日本は支配されているからである。そしてこの九五年の傾向そのものが完全に変わり得るのが、九五年の終わりからということになる。この九五年の終わりから一気に日本は大きな変化へといざなわれるのである。この大きな変化はまさにハルマゲドン、そして第三次世界

大戦へと動いていくわけだが、その動きのきっかけの一つになることは間違いないであろう。

わたしたちはいかなる時代、いかなる条件であっても、すべての魂の真の幸福を願う必要がある。「戦え！ 真理の戦士たち〈新ヴァージョン〉」。この曲は最もわたしの好きな曲である。「戦え」と言うと、皆さんは阿修羅だと考えるかもしれないが、実際そうではない。法則を守護する者は絶えず戦わなければならないのである。

《戦え！ 真理の戦士たち2》

占星学で予測する九五年

オウム真理教ラジオ放送「エウアンゲリオン・テス・バシレイアス」
一九九五年一月八日放送

尊師　エウアンゲリオン・テス・バシレイアス。今月のテーマは「予言と解脱」です。

皆さんこんばんは、麻原彰晃です。今日の番組では先週お約束したとおり、占星学によってこの一九九五年を占ってみましょう。

それでは今日もいつもと同じように、わたしのアシスタントであるマンジュシュリー・ミトラ正大師をご紹介いたします。

聖者マンジュシュリー・ミトラ正大師　マンジュシュリー・ミトラです。まず簡単に自己紹介させていただきます。わたしは大阪大学大学院で宇宙物理学の研究をしておりました。専門は高エネルギー天文学。ロケットや人工衛星を用いて宇宙X線を観測し、太陽系が実は超新星爆発によってできた百万度のプラズマの海の中に浮かんでいるというようなことを観測しておりました。今日は物理学の立場から意見を述べさせていただきます。

続きまして、メッターベーサッジャバンディタ師。薬剤師であり、かつ優秀な占星学者であります。

愛欲天メッターベーサッジャバンディタ師　みなさんこんばんは。メッターベーサッジャバンディタです。今日は初めてのラジオ生出演、しかも尊師の目の前ということで二重に緊張しております。皆さんは夜空を見上げたことが、最近ありますか。星は何も語りませんが、実は耳を澄ませばあなたの知りたいことなら何でも答えてくれます。占星学は最近とみに科学的になってまいりましたが、つまるところはまだまだオカルチックです。真理によって完全な占星学の法則を打ち立てられたらいいですね。どうぞよろしくお願いいたします。

マンジュシュリー・ミトラ　続きまして、佐藤健英君です。彼はあらゆるコンピューター言語に通じた優秀なプログラマーです。

佐藤　こんばんは。佐藤健英です。わたしは十歳のころからコンピューターをやっておりまして、桐陰学園横浜大学で人工知能の研究をしておりました。今回は、人工知能の技術を活用したプログラムによって、様々な星の動きをシミュレーションしてみました。わたしは今回この場で、コンピューターのオペレーターをさせていただきます。よろしくお願いします。

マンジュシュリー・ミトラ　続きまして、高橋英利君です。彼は信州大学大学院で宇宙測地学という研究をやっておりました。

聖者マンジュシュリー・ミトラ正大師
大阪大学大学院理学研究科物理修士課程において宇宙物理学を専攻。修了後航空機関係の研究・開発に携わる。科学関係のみならずあらゆる分野に幅広い知識を持ち、オウム真理教科学部門のトップとして活躍。

高橋　こんばんは、高橋英利です。わたしは大学で、主に中部山岳地域の地殻変動について、その測地的な解析を天文学を応用して研究してまいりました。宇宙の果てにあるといわれているクエーサーを使って地上の位置を正確に求めるという研究をしていました。今日は占星術を用いて解析してみようと思います。

●変動を起こす星、冥王星

尊師　ところで、マンジュシュリー正大師。一九九五年の、何といっても目玉は、冥王星の動きだと思うわけだが。

マンジュシュリー・ミトラ　そうですね。

尊師　この冥王星の特徴について、メッターベーサッジャパンディタ師に少し話をしてもらおうか。

メッターベーサッジャパンディタ　冥王星の基本的な働きは、一言でいいますと「オール・オア・ナッシング」。なかなか働きを見せないのですが、いったん働くと猛烈に働いてしまい、物事を根底からひっ

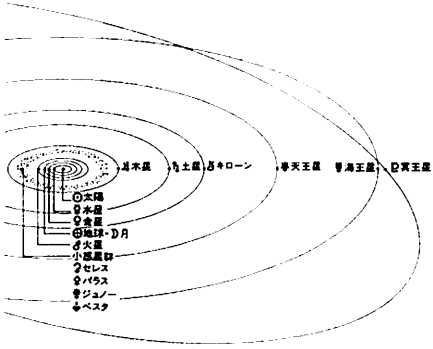
占星術（Astrology）

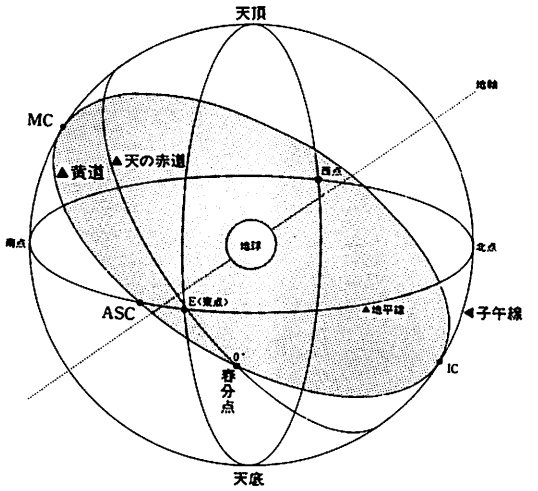
天体の動きが地上のすべての現象に影響を与えているという考えの上に立ち、星の運行によって現象を読み取ろうとする学問。約四千五百年の歴史を持つとされる。

一般に知られる「星占い」は占星学の中でも比較的新しいジャンルで、正確にいえば「太陽占星術」のこと。太陽がどの位置にあるのかで運勢を占う。占星学がポピュラーになったのはこの「太陽占星学」によるところが大きいといわれている。

本格的な占星学で占断できる範囲は非常に広く、一人一人の人間の運命の詳細から、国家、世界の事件等も読み取ることができる。近年はコンピューターの発達により高速計算が可能になり、かなり正確な星の位置を計算することが可能になったため、愛好者が増えている。しかしそのような科学的な発展に反し、現代占星学は〝秘儀〟を隠され、大切なところを抜き取られていると見る研究者もいる。

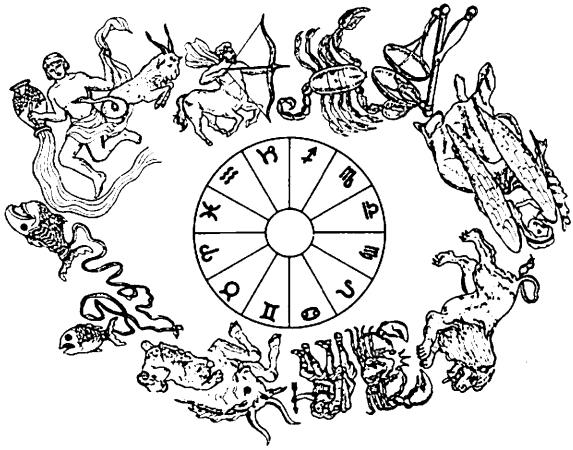
イギリス王室やアメリカ大統領が占星術師にアドバイスを求めるのは有名な話。また、ナチス・ドイツのヒトラーも有能な占星術師を抱えていたため、身の危険を何度か回避することができたといわれている。





天球の構造

・天球――地球から見た天体の形を円球に示したもの。
・子午線――この図で表わす円のこと。
・天頂――天球の頂上。
・MC（ミディアム・シーリー）／ミッドヘブン――黄道と子午線の交わった点。
・天底――天球の底。
・黄道――太陽が通る経路（太陽の公転軌道）を天球上に延ばしたライン。このラインを面でとらえたものを黄道面と呼ぶ。
・天の赤道――地球上の赤道を天球まで延ばしたもの。
・春分点――黄道と天の赤道が交わったところ。黄道十二宮はこのポイントを0度として考える
・ASC（アセンダント＝上昇点）――東の地平線を上ってくる黄道上のポイント。ホロスコープの起点とされている。占断の際には生まれたときの環境や物事の始まりを表わすとされ重要な点と考えられている。



黄道とサイン（星座）

春分点をスタートにして黄道を十二等分するのが占星学上でいわれる十二のサイン。

一般的にうお、みずがめ、やぎ、いて、さそり、てんびん、おとめ、しし、かに、ふたご、おうし、おひつじが使われる。

オウム真理教の占星学チームでの研究ではこのほかにもいくつかのサインを採用している。（→トロピカル方式、サイデリアル方式の注を参照）

これらのサインにはそれぞれの伝承があり、占断のときに有用な要素となっている。伝承はギリシャ・ローマ神話として有名。

なお、現在天球上に数えられるサインの数は八十八ある。

愛欲天メッターベーサッジャバンディタ師
1982年、第一薬科大学薬学部入学、製剤学を専攻し、86年同大学を卒業。薬剤師免許を取得し、以後薬剤師となる。89年12月にオウム真理教に出家。附属医院の薬剤師として活躍。占星学に対する造詣が深い。

くり返してしまいます。これが基本的な意味です。

それから、非常に厄介なことがあります。今、冥王星は蠍座（さそり）の二九度にいるのですが、この二九度は非常に危険な度数なんです。「*クリティカル・ディグリー（Critical Degree）」、「涙の二九度」とも呼ばれています。二九度というのはその宮の最後の角度ですから、物事の特徴が最も顕著に現われ、極端な現象が起こることを意味します。

マンジュシュリー・ミトラ　冥王星は太陽系の最も外にあり、一周回るのに二四八年ほどかかります。

尊師　平均値では、十二で割ると一つの宮がだいたい二〇年ということになるわけだが、近ごろ冥王星は太陽に近づいているから、その動きはもっと早いんだよね。

マンジュシュリー・ミトラ　そうですね。つい先日、海王星よりも近づいたぐらいで、非常に冥王星軌道の中では近くにおりますので、冥王星の中では動きは早いです。

尊師　ここで本当にその冥王星の動きが、世の中の現象を表わしているのか。これは占星学の教えの中で、冥王星が新しい宮に*入ると新し

*クリティカル・ディグリー（Critical Degree）――涙の二九度：占星学では各宮の二九度の次、つまり三〇度には見えない壁があると考えられ、そこに星が押さえつけられる状態でなかなか動けないことを表わしている。

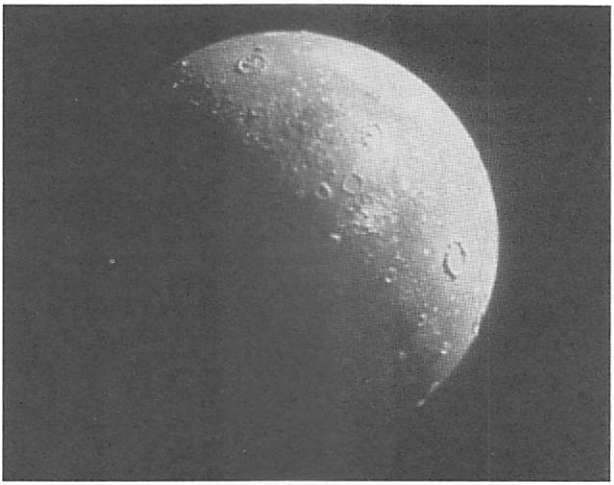
い時代が到来するとか、あるいは新しい現象が起きるといわれているわけだが、この件についてはもう少しメッターベーサッジャパンディタの方で詳しく説明してもらうとありがたいが。

メッターベーサッジャパンディタ　はい、冥王星が星座を変えますと、必ず世の中に変動が起こります。そして、今は二九度。星座を変える直前ということになります。

尊師　変動といえば、やはり一番大きな変動は戦争じゃないか。

マンジュシュリー・ミトラ　では、実際にそうなっているかどうか、少し過去に振り返って計算をしてみましょう。佐藤君、どうかな。

佐藤　はい。計算しました結果、一九四〇年の三月に冥王星は獅子座に入っております。そして一九五六年十二月には乙女座に、一九七一年



冥王星

＊入る：黄道上を移動する星が、見かけ上星座の中に入ること。例えば「冥王星が獅子座に入る」とは、冥王星が獅子座の上に移動してくることをいう。

佐藤健英（さとうたけひで）
桐陰学園横浜大学工学部制御システム工学科入学。情報制御、知識情報処理を専攻し、ニューラルネットワークを研究。幼少のころからコンピューターにふれ、あらゆるコンピューター言語に精通する優秀なプログラマー。

の十月には天秤座に、そして一九八三年十一月には二一〇度の蠍座に入ってます。

マンジュシュリー・ミトラ　尊師、一九四〇年、このときに獅子座に入っているようですね。

尊師　では、年表から詳しく、このときの様子を説明してくれるか。

マンジュシュリー・ミトラ　一九四〇年。パリが陥落しておりますね。それから、日独伊同盟の調印がなされたのもこの年です。

尊師　ということは、第二次世界大戦の勃発と考えていいのだろうか。

マンジュシュリー・ミトラ　そうですね、まさに始まった、ちょうどそのころですね、これは。

尊師　そうだね。それで、確かにこれは獅子座に入っているから、王権同士のぶつかり合いということができるよね。

メッターベーサッジャパンディタ　はい、世の中の動きは、やはり宮と星の動きで語られると思います。

冥王星（プルートー）

一九三〇年一月二十一日、ローウェル天文台のトンボーが双子座のデルタ星近くに発見した新天体。確認観測の後、三月十三日ローウェル天文台から新惑星の発見が公表され、プルートーの名がつけられた。この日が選ばれたのは、この惑星の位置推算を行なったローウェルの誕生日という理由から。

また、この名前については、イギリスのベネチア・バーニーが提案し、太陽系の外縁を回る星としての名にふさわしいとして採用された。略号はパーシバル・ローウェルの頭文字のＰＬ。

占星術では、死の世界の王として生と死に関わることを表わす。物事を根底から変えたり消滅させたりし、全く新しいことを始める星であるとされている。冥王星の影響は通常はほとんどないが、いったん発揮すると事態を決定的に左右するほどになる。

なおプルートーはギリシャ神話ではハーデスの名前で知られ、ゼウスとポセイドンの三兄弟の長兄である。

冥界の支配者、地下の神として地中より植物を芽生えさせる者、地下に眠る富の所有者、そして一度入れば帰ることを許されない死者の国の王としてプルートーンとも呼ばれる。決して現世への帰還を許さない恐ろしい神ではあるが、正義を重んじる行ない正しい神でもある。容貌はゼウスと同じく中年以上の荘重で厳粛な威厳を持ち、かなり気むずかしい神として表現される。彼の館は、入ってくる者には何もせず、出ていこうとする者は許さないという、三つ頭の猛犬ケルベロスによって守られている。妻はデーメーテールの娘ペルセポネー。

●実星主義と三〇度分割方式

尊師　今回、一つ問題なのは、トロピカル方式を使っているよね。もう一つ実星を使った……。

メッターベーサッジャパンディタ　はい、サイデリアル方式というのがございます。

尊師　この二つについて少し説明してもらって、次回までにはそのサイデリアル方式によってもっと具体的な日時の指定をしたいと考えているのだが。詳しく説明をしてくれるか。

マンジュシュリー・ミトラ　はい、わかりました。天文学では太陽を中心にすべてが回っていて、惑星は、ほぼ平面に近い軌道を描いております。その軌道が載っている面を黄道面といいます。この黄道面上の星座や惑星の位置を考える場合、春分点、すなわち昼と夜の長さが同じで、地球の自転軌道と公転軌道が交わる点を使って決めるわけです。ところが、地球の歳差運動――首振り運動――によって、その位置が実際には少しずつずれていくんですね。しかし、これでは計算ができませんので、そのときそのときの瞬時の春分点を基準にし、そして一つの宮は三〇度であると決めて計算するのが、このトロピカル方式です。

しかし、実際には尊師がおっしゃっているように、星座の大きさおよびその場所というのは、恒星に固定されておりますので、地球の自転と公転の関係で勝手には変えられないものなんです。そこで、そちらを用いて計算するのが、その、

メッターベーサッジャパンディタ　はい、サイデリアル方式と申しまして、一部の研究者の間で

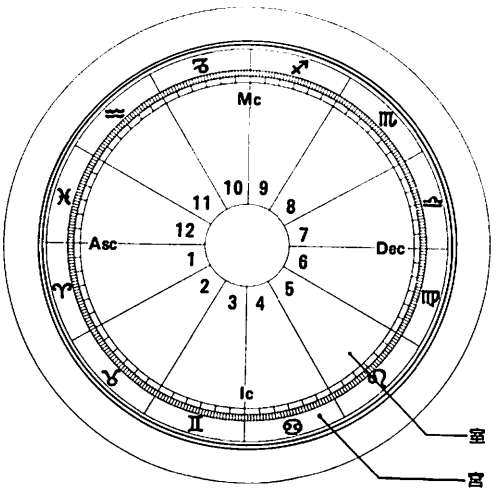
宮

黄道を十二サインによって分割したそれぞれのブロック。春分点を起点として白羊宮、金牛宮、双児宮、巨蟹宮、獅子宮、処女宮、天秤宮、天蝎宮、人馬宮、磨羯宮、宝瓶宮、双魚宮となっている。これらを総じて黄道十二宮と呼ぶ。

室(ハウス)

黄道面をASC（アセンダント）を基準として十二に分けたブロックを時計と逆周りにそれぞれ第一室から第十二室と呼ぶ。室の大きさは分割方法によってまちまちで必ずしも均等に分割するわけではない。分割方法には等分割方式（イコール）、コッホ方式、プラシーダス方式など四十種ほどがある。

日本とアメリカではプラシーダス方式が一般的。イギリスでは等分割方式が比較的多く使われる。



研究されております。実はこの占星学、歴史は滅法古いものなんです。以前は天文学者が実際に占星術を行なっておりましたが、そのときには、先程の説明のようなサイデリアル方式を使っていたんです。そして、占星学と天文学が完全に懐を分かち合った瞬間、それが現在のトロピカル方式とサイデリアル方式に分かれたそのときであると、歴史上伝えられております。

尊師　的中率の方はどちらが高いと考えるか、君は?

メッターベーサッジャパンディタ　はい。サイデリアル方式に関しての文献が少ないのでよくはわからないのですが、研究の段階ではありますが、わたくしは、トロピカル方式では、やはり曖昧な部分がどうしてもそこここに見え隠れいたしますので、サイデリアル方式に期待をかけております。

尊師　確かにヨーガの教えから、あるいは仏教の教えから見ても、恒星、つまり光を発している星のその群の影響を惑星が受け、それを反射した形で地球にいるわたしたちがその影響を受けるとするならば、実星の影響を受けているわけだから、当然サイデリアル方式の方が的中率が高いのではないだろうか。ただ、その基礎資料が少ないだろうから、そこのところ、どう考えるかというのは一つの問題点だけどね。

マンジュシュリー・ミトラ　そうですね。天文学的な立場から言いましても、夜空の星、その中には例えばX線を放つ星、あるいは紫外線を放つ星、赤外線星、それから電波——例えば電波銀

河、それから高橋君が観測していたクエーサーという超原始の銀河で、宇宙が生まれたときからあるというもの、そういうものが、恒星と同じように天球に張りついているという具合に観測できますので、やはり実星主義という尊師の思想は正しいと思います。

●獅子座――王権と自己主張

尊師　ところでこの一九四〇年代の獅子座というのは、まさに王権だよね、象徴としては。

メッターベーサッジャパンディタ　はい、そうです。

尊師　もっと詳しい話をしてもらえるかな。なぜ日本が負けて第二次世界大戦が終了し、そして今の時代が成立しているのかという説明にもなると思うんだ。

メッターベーサッジャパンディタ　はい。獅子座というのは、「自己主張」というのがキーポイントになっているんです。

尊師　「アジア連合」対「キリスト教を中心としたヨーロッパ・アメリカ連合」という形で、この二つの自己主張のぶつかり合いととらえていいよね。

メッターベーサッジャパンディタ　はい。

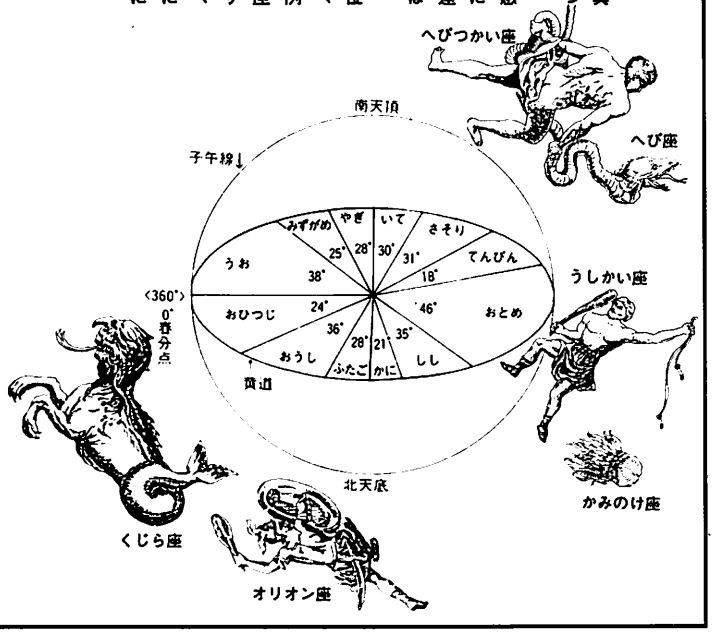
尊師　それで、これは自己主張の強い方が勝つんでしょ。

トロピカル方式・サイデリアル方式

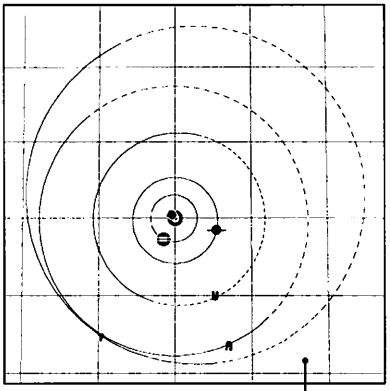
文中で説明しているとおりだが、オウム真理教の占星学チームが採用している方法について少し補足する。

一般的な占星学では、天球の黄道面上に惑星が運行していると考え、擬似的に平面上に星の位置を決定する。しかし、実際の星の運行はこの平面上だけではなく、冥王星などは特に大きくずれている。

そこでサイデリアル方式では実際の星の位置、つまり三次元的にとらえた位置を用い、さらに、黄道十二宮にいくつかのサイン、例えば、くじら座やへびつかい座、オリオン座などを占断の要素に加えている。もちろんサインの黄道上に占める割合は均等ではなく、実際の星座の大きさに合わせている。これによって、今まで曖昧だった占断結果を厳密に導き出す研究を行なっている。

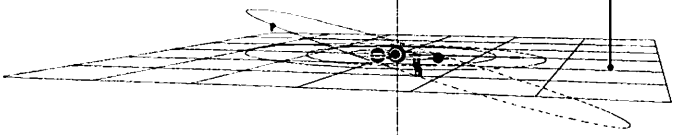


コンピューターで厳密に計算した惑星の軌道。冥王星が大きく黄道面上から離れている

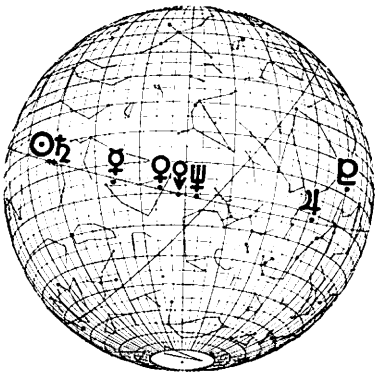


太　陽
地　球
火　星
木　星
土　星
天王星
海王星
冥王星

黄道面



天球上に投影した星の位置。これを見ると、惑星が黄道上を移動していないことがよくわかる



獅子座

獅子座は百獣の王として、王権の象徴を表わす。男性原理でもある。中国では伝説の支配者、黄帝が昇天する際に乗ったとされる龍がこの星座。龍も獅子も高貴で権力の象徴となっている。

ギリシャ神話によれば、ネメアの谷に住み人畜を殺傷していた不死身の化け獅子が獅子座とされている。最悪の怪物テュポーンと上半身女・下半身蛇の怪物エキドナの間に生まれた、とんでもない素性を持つ魔性の猛獣である。

英雄ヘーラクレースの最初の仕事がこの化け物獅子の退治だった。彼が棍棒を取り出して戦うと、化け物獅子は抜け道のある洞窟に逃げ込み、隠れてしまった。そこでヘーラクレースは洞窟の出口の一つを巨石で塞ぎ、反対の入り口より獅子を追いつめて獅子の喉を締め上げて見事に退治を成功させた。一説によれば、ヘーラクレースが終生まとっていた獅子の皮は、このネメアの獅子の皮とされている。ヘーラクレースの偉業をたたえ、ゼウスは化け獅子を天に上げ、星座とした。

メッターベーサッジャパンディタ　そのとおりです。
尊師　で、やはりエゴの強かったアメリカ、ヨーロッパが勝った。
メッターベーサッジャパンディタ　はい。

●乙女座――共産主義の広がり

尊師　この次の時代を受けるのが、かなり長い乙女座の時代だよね。
マンジュシュリー・ミトラ　そうです。乙女座に入るのが一九五六年十二月ということになりますね。
尊師　もともとこの乙女座というのは、豊饒（ほうじょう）を司っているわけだよね。
マンジュシュリー・ミトラ　はい、収穫の女神デーメーテールの姿といわれております。
尊師　いろいろな形での新しい科学兵器の開発等がこの時代に集中的に現われているわけだけれども、戦争としては共産主義の進展、共産主義の広がりを挙げることができると思うわけだが、どうかなこれは。
マンジュシュリー・ミトラ　そうですね、技術面でいいましても、そのころソ連がＩＣＢＭ、大陸間弾道弾を打ち上げました。まだそれに成功していなかったアメリカは焦ります。そうこうす

る間に、またもやソ連が、今度は人工衛星スプートニクを打ち上げて、ソ連の技術的優位が明らかになり、アメリカには衝撃が走ります。これが乙女座に入った直後の一九五七年ですね。

尊師　それだけではなくて戦争についても、例えば中国がチベットを追い落とす。つまり宗教国家チベットが中国に負けるとか。あるいは、この時代から徐々に始まるベトナム・フランス戦争だね。

マンジュシュリー・ミトラ　そうですね。ベトナム戦争がちょうどこのころから始まります。

尊師　これもやはり同じように共産主義対資本主義の対決と。どういうわけかこのデーメーテールの時代には共産主義が広がっているんだよね。これはやはり、農民に密着しているとかそういう意味もあるんだろうかね。

●天秤座――ひとときの平和

尊師　そして、次は天秤座の時代に入っていくんだよね。

マンジュシュリー・ミトラ　一九七一年十月です。

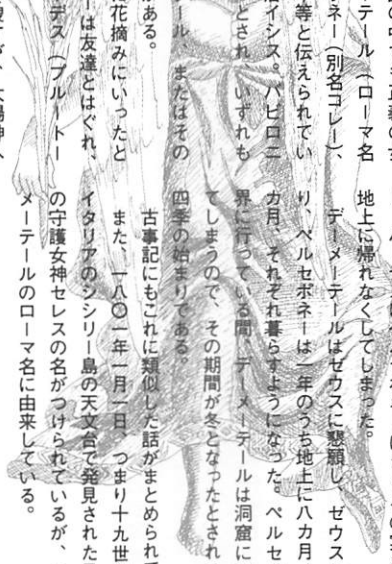
尊師　以前、アパーヤジャハ正悟師に「弁護士のバッジは天秤座のマークがついているんだ」という話を聞いたことがある。これは、バランス感覚を重んじるという意味合いであるということ

乙女座・収穫の女神デーメーテール

星座絵に描かれている乙女座は女神なのだが、何の女神なのかは諸説がある。ギリシャ神話の中でも正義の女神アストライア、農耕の女神デーメーテール（ローマ名ケレース）または、その娘のペルセポネー（別名コレー）、アテナイ王イカリオスの娘エリゴーネ等と伝えられており、ペルセポネーは一年のうち地上に八カ月、冥界に四カ月、それぞれ暮らすようになった。ペルセポネーが冥界に行っている間、デーメーテールは洞窟に閉じこもってしまうので、その期間が冬となったとされる。これが四季の始まりである。

古事記にもこれに類似した話がまとめられている。

また、一八〇一年一月一日、つまり十九世紀の初日にイタリアのシシリー島の天文台で発見された星には、島の守護女神セレスの名がつけられているが、これはデーメーテールのローマ名に由来している。



エジプトの神話ではオシリスの后イシス。バビロニアではイシュタル、あるいは地の神ベルとされ、いずれも農作を司っている。

ゼウスの妹・農耕の女神デーメーテール、またはその娘ペルセポネーには次のような伝承がある。

ある日ペルセポネーが友達と野原に花摘みにいったときのこと、夢中になったペルセポネーは友達とはぐれ、彼女に思いを寄せていた冥界の王ハーデス（プルートーン）に連れ去られてしまう。

デーメーテールは必死になって娘を捜すが、太陽神ヘリオスからことのいきさつを聞かされ、落胆しエンナ谷の洞窟に閉じこもってしまった。

このため、地上では草花一つ育たなくなり、困った神々はハーデスにペルセポネーを返すように命令した。しかし、ハーデスはペルセポネーにざくろの実を食べさせ、地上に帰れなくしてしまった。

デーメーテールはゼウスに懇願し、ゼウスの裁定によ

を聞いたことがあるわけだが、これについてはどうかな。メッターベーサッジャパンディタ。

メッターベーサッジャパンディタ　はい、そのとおりです。天秤座というのは「バランス」を司っております。主星は金星になっておりまして、一応「平和」ということになっております。

尊師　その時代は、見かけ上の平和が訪れたんじゃないか？

マンジュシュリー・ミトラ　そうですね、七二年には日中国交回復。それからベトナムの方も七三年にパリ協定ということで一応停戦交渉が成立している。けれども実際には戦闘が長引いているんですね。やはりこれは、星座の切れ目の問題でしょうか。

尊師　切れ目の問題でまだ引きずっているんだね、きっと。

マンジュシュリー・ミトラ　実は乙女座というのは非常に巨大な星座で、天秤座というのは非常に小さくて、黄道上占める角度が全然違うのです。

メッターベーサッジャパンディタ　そういう点でもやはりサイデリアル方式の有効性というものが、醸し出されるというか、にじみ出てきましたけれども。

尊師　それから、もう一つは、人間の持っているカルマというものが「平和の時期というのは非常に短くて、後は絶えず戦い続けなければならない」というカルマを象徴しているような感じがするが。

メッターベーサッジャパンディタ　おっしゃるとおりだと思います。

マンジュシュリー・ミトラ　では、天秤座が小さいのは、バランスがとれる時期が非常に短いということでしょうか。

尊師　そうだね、これは。例えば現にソビエト連邦の崩壊、そしてロシアの成立、しばらくは内乱状態。平和になったかなと思ったらまた戦闘が始まっているよね、今。

マンジュシュリー・ミトラ　そうですね。

尊師　それからまた、中東でも不穏な動きがある。これを見てもわかるとおり、やはりこの人間の世界というのは、人間、そして阿修羅の世界との関連があるから、わたしたちをなかなか安らがせてくれないのではないだろうか。

メッターベーサッジャパンディタ　まさにそのとおりだと思います。

主星・支配星

サイン（星座）にはそれぞれを支配する天体があると考えられている。これを支配星もしくは主星と呼んでいる。

サイン		支配星	
おひつじ	♈	火星	♂
おうし	♉	金星	♀
ふたご	♊	水星	☿
かに	♋	月	☽
しし	♌	太陽	☉
おとめ	♍	水星	☿
てんびん	♎	金星	♀
さそり	♏	冥王星	♇
いて	♐	木星	♃
やぎ	♑	土星	♄
みずがめ	♒	天王星	♅
うお	♓	海王星	♆

天秤座

天秤座は正義の女神アストライアの持っていた公平さと調和を保つ天秤とされている。この名前の由来には、三千年前の秋分点がここにあったため、太陽がここにあるとき昼夜を等しく分けることを天秤で表わしたのではないかという説がある。

ゼウスとテミスの間に生まれたアストライアが手に持つ天秤は、人間の罪を計るために使うと伝えられている。

世界が黄金時代のころ、神々は下界の人間の中に混じって生活していた。一年中、春の陽気で食べ物に困る者はなく、平和な時代だった。アストライアは率先して人間と交わり、正義を教えていた。やがて銀の時代がきて、四季が巡るようになると、人間たちは家を建て、畑を耕すようになる。貧富の差、強者と弱者の差が段々と多くなり、争いが起こるようになった。

神々のほとんどは人間に愛想をつかして天界へ引き揚げてしまったが、アストライアは望みを捨てずに、地上に踏みとどまり、人間に正義を説いてまわることをやめなかった。銅の時代になると、人間は嘘と暴力に染まり、剣を取って親子兄弟や国同士で戦争をするようになってしまった。ここに至り、とうとうアストライアは人間を見限って、天秤を持って天に昇り、乙女座と天秤座になったといわれている。

●蠍座――暗殺の宮

マンジュシュリー・ミトラ　そして一九八三年蠍座に入りました。

尊師　蠍座の象徴といったらやっぱり当然蠍だよね。この逸話というのは暗殺でしょ。

マンジュシュリー・ミトラ　はい。もう一つの巨大な星座であるオリオン、勇者オリオンですね。これを一刺しで倒したということになっております。ですからオリオン座は蠍座が怖くて、夏には姿を現わすことができないといわれております。

尊師　実際問題として、この八三年以降のテロ行為みたいなものはどうなのかな。

マンジュシュリー・ミトラ　まさに八三年九月、大韓航空機がサハリン上空で撃墜され、二百六十九人が死んでいます。これについては、いろいろと憶測がなされましたが、原因というか、ハッキリしたことはわからずじまいでした。

尊師　やはりテロだよね。

マンジュシュリー・ミトラ　それは間違いないと思います。

尊師　それからわたしは、この時代外国へ多く行ったわけだが、インドでも何機かの航空機が爆破されたし、この時代には多くのテロ行為が存在したことを記憶しています。これからもわかるとおり、星座の影響は一応、この冥王星は受けるというふうに考えていいだろう。

蠍座

蠍は隠れているのがうまく、予想外の動きをして、逃げるのも速いというイメージから、暗い無意識の世界を象徴している。内に隠れている対立と矛盾がこのサインの主調音とされる。

蠍座は非常に美しく、夏の星座の代表とまでいわれる。歴史も古く、各地に多くの伝説が伝えられている。古いものではメソポタニアの遺跡から発見された天球を描いた壺などに蠍が描かれているのを見ることができる。

ギリシャ神話では、ポセイドンとミノスの王娘エウリュアレーの間に生まれたオリオンを殺した蠍がこの星座となっている。オリオンは一説ではガイアから生まれたとされ、どちらにしても巨大な体格とたぐいまれな美しさを持っていた。

彼は大変な自信家で月の女神アルテミスと狩をして歩いたときに、地上のあらゆる野獣を射止めてみせると大口を叩いた。これに腹を立てたガイアは大蠍を送りつけ、怪力無双のオリオンを殺すよう命令したのである。大蠍は一刺しでオリオンを殺し、その功績で天に上げられ星座となった。オリオンもアルテミスの願いによって天に上げられたが、蠍の反対側で蠍が天に昇るとオリオンは西の空から隠れ、蠍が沈むまで出てこれないのだと伝えられている。

錬金術の方法では鉄を金に変えるには太陽が蠍座にある期間を使わなければならないという。

●九五年、冥王星の動き

尊師　さあ、そこでだ。九五年の一月にいったん冥王星は射手座に入るんだよね、佐藤君。一月何日から入るのかな。

佐藤　はい、一月の十八日にちょうど入ります。

尊師　そしていつぐらいまでいるのかな。

佐藤　一月十八日から続くんですけれど、それからすぐ出まして、……出ました。四月の二十三日には出てしまいます。これは二四〇度から二三九度へ戻ることになります。

マンジュシュリー・ミトラ　もう一度蠍座に戻るんですね。

佐藤　はい。それから十一月の十一日に二四〇度、再び射手座に入ります。そして、九五年いっぱいはずーっと入っております。

マンジュシュリー・ミトラ　その後も計算したよね。

佐藤　はい。その後ですけれど、一九九七年まで一通り計算しましたが、ずっと入ったままです。

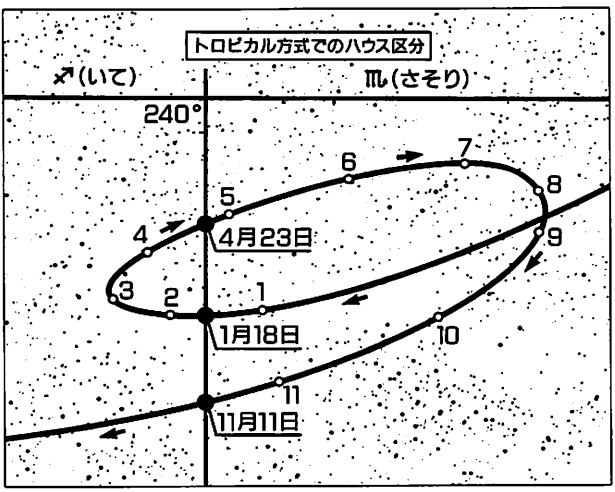
●爆発を表わす星、冥王星

マンジュシュリー・ミトラ　この蠍座の冥王星、もう一度年表をひもといてみました。一九八三

年八月、フィリピンのアキノ上院議員がマニラで暗殺されております。同じく十月には三宅島が大噴火。

そして一九八四年の十月には、インドのラジブ・ガンジー首相が爆殺されております。同じく十月、イギリスのサッチャー首相の近辺で、やはり暗殺の計画が進行され、爆殺の危機が訪れました。このときには四人死んでおります。この爆殺なんですけれども、この蠍座と冥王星の関係から何か読み取れるでしょうか。

メッターベーサッジャパンディタ　はい。冥王星の意味にはもともと爆発という意味があるのですが、冥王星の定座*、本座である蠍座に入って、がぜん元気が出たのではないかと、ボンボン爆発したのではないかと、そういうふうに考えられます。



冥王星の星座間移動図

*定座、本座：各惑星が支配する星座のこと。例えば、太陽なら獅子座。支配星が定座に入ると、ほかの星座に入っているときよりも影響力を増す。ホームポジションともいう。

●射手座は銀河の中心を射抜く

メッターベーサッジャバンディタ　そして、冥王星は一九九五年の一月の十八日に射手座に入るわけなんですけれども、射手座の意味合いを少しここでご紹介させていただきます。射手座というのは、ギリシャ神話では、馬人ケイローンにあたります。このケイローンというのは、姿は半分人間で、半分獣です。これは何を意味するかというと、宇宙創造の初期に並外れた性質と特異な姿をした怪物が生きていました。この中には前足が人間で後ろ足が馬であるような人たちもいたとあります。半分人間で半分馬である、この射手座の姿は、高貴な人間性と荒々しい獣性を合わせ持つ人間の魂の二元性を象徴しています。そしてこの射手座の支配星は木星なのですが、未知の世界や高い精神性を意味する星座だといわれています。

尊師　ところで、マンジュシュリー正大師。この形というのは、仏教でいうところの阿修羅の形と非常に似てますねえ。つまり半分神、半分獣。どうだろうか。

マンジュシュリー・ミトラ　そうですね。ただ、この射手座で表わされているケイローンというのは非常に知性が高く、ギリシャ神話の英雄たちは皆、このケイローンから様々な学問や武術を教わったということになっています。

尊師　いや、それはまさにそのとおりだね。つまり阿修羅というのは学問の神でもあるし、また武術の神でもあるんだよ。

マンジュシュリー・ミトラ　じゃあ、ぴったりですね。

尊師　そうなんだ、ぴったりだね。ということは、この射手座に冥王星が入る。しかもその主星である木星は宗教を表わす。そしてこの射手座の弓矢の先端は、銀河の中心に当たるんだよね。

マンジュシュリー・ミトラ　そうです。わたしたちの銀河系には、だいたい一千億個の星があるといわれておりますけれども、その中心の方向がちょうど射手座の弓の先三万光年ほどのところにあります。そしてこの中心では非常に活発な活動が行なわれておりまして、例えばブラックホールがある。あるいは生まれたての原始星が多数存在するということになっております。

尊師　これはまさにこの一つの道を通って阿修羅の世界に至り、そしてより高い神々の世界へ至るということを表わしているのではないだろうか。

マンジュシュリー・ミトラ　やはりその銀河の中心方向に人間界よりも高い世界があると考えた方がいいでしょうか。

尊師　そうだね。そしてそこへ冥王星が入る。

マンジュシュリー・ミトラ　すると、そこからエネルギーなり、情報なりを地球にもたらすと考えていいのでしょうか。

尊師　ということは、この一九九五年、実際問題として一月から四月まで冥王星は軽く射手座に入るわけだが、この軽く入るということはまだ本当の状態ではないよね。

射手座・馬人ケイローン

射手座は半人半馬の複体に象徴され、思弁的な理性と野性的な本能の二面性のぶつかり合いから二重性のある性格が表わされる。

この星座はティターンの末裔クロノスとニンフのピリューラーの間に生まれたケイローン。上半身が人間、下半身は馬のケンタウロス族としての姿を持つ。

ケンタウロス族は乱暴で野蛮な種族とされているが、ケイローンは善良で正義感が強く、音楽の神アポローンと月の女神アルテミスから音楽、医術、予言、狩り、馬術、弓などを授けられた。ペーリオンの山中に住み、百芸の師としてギリシャの若い英雄たちを多数導いている。ギリシャ神話に出てくる大半の勇者はケイローンの弟子となり武芸百般を伝授されたのである。その代表的な者には、イオールコスの王子イアーソン、ヘーラクレース、双子座のカストールがいる。

このようなケイローンもヘーラクレースと馬人族との戦いのとき、ヘーラクレースの放った毒矢が誤って膝に刺さり死んでしまったとされている。ただ、彼は不死身のため非常に苦しみ、英雄プロメーテウスに不死身の身を譲り、やっと死ぬことができたと伝えられている。

ゼウスはケイローンの死を悼み、天に上げ星座にしたとされている。

木星（ジュピター）

ギリシャでは時の神クロノスとレアーの間に生まれたオリュンポスの主神ゼウス。神々を率いて、ティターンの巨神族をタルタロスの底なし穴に封じ込め、オリュンポスの最高神になり君臨した。ゼウスの宮殿はオリュンポスの頂にあり、雲の門を四季の女神ホーライたちが守っている。

宮殿の大広間に神々はゼウスの招集によって集まり、いつもは宴会を開いている。ゼウスは正義の神であるとともに、雨、嵐、雷の神で、鷲を使者として下界の隅々まで情報を集めていた。

占星術では基本的に保護を意味し、幸運や援助、ゼウスの采配から公正さ寛大さ、そして権威を表わす。

マンジュシュリー・ミトラ　はい。

導師　実際、佐藤君。十一月の何日かな、冥王星が射手座に入ってそれから帰ってこないのは。つまり、いつから射手座に入りっぱなしになるのかな。

佐藤　はい、射手座には十一月の十一日に入ったきり、後は二〇〇〇年まではずっと続いています。

導師　ということは、わたしたちは一月から四月の間にどういう現象が起きるかを観察しておいて、そして十一月の十一日から完全に射手座に冥王星が入った状態をある程度占うことができると思うわけだが、どうかな。

マンジュシュリー・ミトラ　はい、その現象を観察し、それをさらに純化した形で、それが十一月から訪れるということですね。

導師　そうだね。

●宗教戦争の時代へ

導師　しかし怖いのは……、主星の木星がこの射手座に入るのは?

マンジュシュリー・ミトラ　もう入っているのではないですか。

佐藤　ええ、そうですね。木星はもう入っていますね。木星は一九九五年の一月からずっと射手座に入っております。

尊師　そうすると、木星は定位にある、そこに冥王星が入ってくるという状態が訪れるよね。これは、どうやら宗教戦争の可能性が出てきたような感じがするが、どうかな。

マンジュシュリー・ミトラ　うーん、まさに。しかも七月からは火星も射手座に入ります。

尊師　そうだね。実は正月に、これはティローバ正悟師が言っていた話だが、世界の超能力者ということで、まずロンドンに住んでいるといわれているロード・マイトレーヤが空間に十字架を作ったという話や、あるいはサイババの奇跡、あるいは中国の気功師の話、それからもう一つは、ロシアの遠隔催眠術師というか、遠隔麻酔師の話等がテレビで報道されたそうだ。これらはいずれもそれぞれの陣営を代表する宗教家として――つまり今、世の中を動かしている者たちが、まさにこの九五年のこの星の配置を検討し、次は宗教がらみでなければ現象は動かないと考えて――その前のプロパガンダを始めていると考えた方がいいと思うけれど、どうだろうか。

メッターベーサッジャパンディタ　はい、まさにおっしゃるとおりだと思います。

尊師　そして宗教プラス原爆を含めた爆発ということが、どうやらこの九五年の終わりから始まりそうだね。

火星(マルス)

軍神アレース（マルス、マーズ）の星。女神アテナの正義の戦いとは違い、善悪の区別なく、血生臭い野蛮な戦いを司る。争いと不和を好む神で、人間に禍害をもたらす忌まわしい神として嫌われる

ギリシャ神話の伝承ではアプロディーテーの夫として扱われていたりするが、叙事詩ホメーロスではアプロディーテーの夫は鍛冶の神ヘーパイストスで、アレースは不義密通の間男の役に成り下がってしまう。アレースはギリシャ北方のトラーキアで暮らしたとされている。

火星・金星はペアで考えられ、金星の愛情を獲得する行動としての火星がある。行動の極致は戦争となるが、闘争や活動、熱、乾燥等も表わす。火の星なので火と火に関係したもの一切も表わす。

●反神々の時代の災害

メッターベーサッジャパンディタ　はい。それからもう一つ考えておりますのは、やはり神々の時代に突入する前にあたりまして、今の世の中は反神々と申しますか、神々と相反する方向に傾いておりますので、まずそれを一度崩すような自然的な災害が起こるのではないかと、そのような気がしてなりませんが。

尊師　この自然的な災害というのは、人為的な自然災害だと考えるか、それとも人為が含まれていない、つまり神々の超自然的な力による災害だと思われるか。

メッターベーサッジャパンディタ　はい。そこらへんの問題は非常に難しいのですが、実際は人が手を下すと申しますか、人類が開発したテクノロジーによって、ある自然災害が起こるとは思います。しかし実際にその武器というか、そのテクノロジーを使わせたのはやはりそれは神ではないかと思われます。

尊師　つまり神の御使いが、例えば原爆を地中に発射し、そこに地震が起きると、そういうことだね。

●九四年春分図が大地震を暗示

メッターベーサッジャパンディタ　はい、そういうことです。実は、占星学の立場からいきますと、「地震占星学」というものがございます。これは、星によって地震が起こる、起こらないを占うもので、使うチャートは「ルナーマップ」と呼ばれる「新月図」「満月図」、そして「イングレスチャート」と呼ばれる「春分図」「秋分図」といったものです。それでは、地震占星学の立場から九五年の日本の地震について予測していきたいと思います。

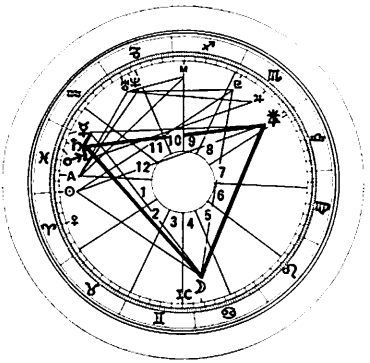
まず、九四年の春分図を見ます。

「揺れる大地」を表わす「地震表示天体」月は、地震ポイントIC[*1]とコンジャンクション[*2]しています。これは地震の可能性を強く暗示しています。

尊師　コンジャンクションとは、日本語でいうと「合」ということだよね。

メッターベーサッジャパンディタ　はい、そうです。

それから、土星・火星・水星が「障害」を司る十二室でコンジャンクションしています。これは、凶星のナンバーワン・ツーである土星と火星の凶意をいっそう増強させて



東京 1994年 春分図

*1　地震ポイントIC：天底。ミッドヘブンの反対側
*2　コンジャクション（合）：星と星（もしくは感受点）の角度が0度になること

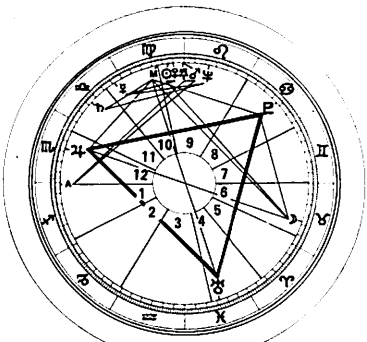
*グランドトライン：三つの星がそれぞれ一二〇度の角度に位置すること

います。そして、ICにある月、十二室でコンジャンクションしている土星・火星、地震を起こす天体として最近有名になってきた小惑星ジュノー（✻）が、*グランドトラインしているのです。グランドトラインとは、特別に強いエネルギーを天体に付与するという正三角形の座相なのですが、それらの星の象意が悪ければ、その凶意を増強してしまいます。あの関東大震災のときにもこのグランドトラインが形成されていたことはご存じでしょうか。しかも、「死」を司る八室に、「大量死」を表わす冥王星が入っており、「死のサイン」蠍座には木星が入っているところまでそっくりなのです。木星は一般的には吉星ですが、災害時にはその災害を強めてしまう働きがあります。

●地震チャートで占う

メッターベーサッジャパンディタ　ではその地震はいつ、どこで起こる可能性が高いかを、今度はルナーマップを使って探っていきます。「食」は日食と月食を合わせて年に四回起こります。この四つの食図の中で、地震を色濃く映し出しているのは、九四年十一月十八日の月食図です。

　このチャートには、実は冥王星も絡んでいるのです。ロ



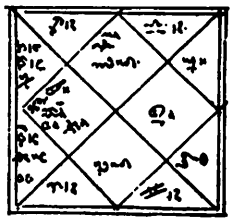
関東大震災チャート（1923年9月1日）

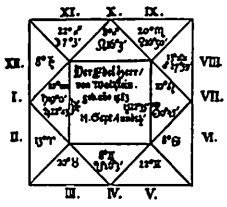
チャート・ホロスコープ

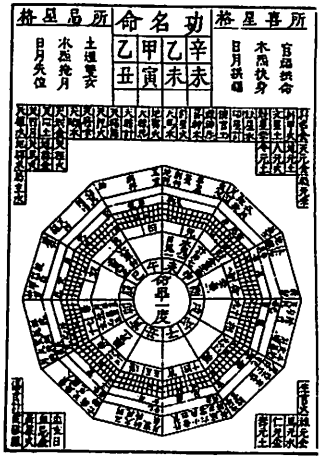
チャートは日本語で海図のこと。占星学では転じて人生の海図、つまりホロスコープのことを指す。ホロスコープとはもともと「上昇してくる角度と時間の関係」といった意味を持つ。そのときどきの星の配置を、時間と位置を確定して計算し、表わしたもの。このホロスコープの中にあらゆるメッセージが暗号化されている。

人が生まれたときの星の配置を表わす誕生チャート、国が始まったときの星の配置を表わす建国チャート、ほかに新月図・満月図・月食図・春分図・秋分図・冬至図・夏至図などがある。

現存するホロスコープの中で最古と呼ばれるものはエジプト古王国・第三王朝時代に活躍した宰相イムホテップのものであるという説もある。これは現代でも通用するほどの正確な天文暦を用いたもので、常識では考えられないほどの観測技術、もしくは何か特別な方法があったのではないかと考えられる。







地震占星学

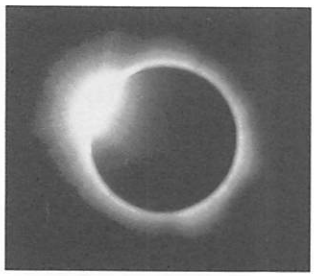
占星学では個人を占う他に、天候や地震、国家の年運を予測することができる。その際には、出生チャートの代わりに春分図・秋分図と呼ばれるイングレスチャート、新月図・満月図と呼ばれるルナーマップを用いる。

「イングレス（ingress）」は「侵入する」という意味で、太陽が活動宮と呼ばれる星座（牡羊座・蟹座・天秤座・山羊座）に侵入した瞬間の天体の配置図のことをイングレスチャートと呼ぶ。占星学では生命の源泉である太陽が活動的な星座に入った瞬間の星の配置図に何かの「兆し」が表われるとされているため、このチャートが注目される。

一年間の動向は春分図で見る。ただし、ここでいう一年は四月から三月までなので、例えば九五年の三月までを占う際には九四年の春分図を見る。

また、わたしたちに最も強い影響を与えている天体、太陽と月がわたしたちから見て重なった瞬間（新月）の天体の配置図、そしてその正反対の方向にある瞬間（満月）の天体の配置図をルナーマップと呼び、ここにも何らかの「兆し」が表われるとされている。中でも、日食図・月食図は、特に大切なものとされている。

なお、日本全体を占う場合は首都である東京のチャートを用いる。



サンゼルスの地震でも「核が絡んだ」という噂を聞いておりますが、このあたりはどうなのでしょうか。

尊師　いや、間違いなく神の御使いたちが――御使いと考えている人たちが地震を起こしているのだと思います。

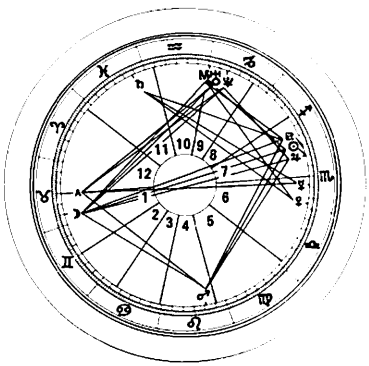
　時期はいつと出ているのだろうか?

高橋　はい。ずばり「九五年の九月十日から九月十六日、このころ日本で核絡みの地震が起きる」と地震占星学の立場から言えると思います。

尊師　あともう一つ四月十五日にも起きるんだよね。

メッターベーサッジャパンディタ　はい。この日もやはり起きやすいというように出ております。

高橋　九月十六日という日付ですが、これは先程出てきた一九九四年十一月十八日の東京の月食図を用いて求めました。まず、ミッドヘブンに天王星がコンジャンクションする日を求めます。その後に「タイトに合（きっちりと合）」になる時期を、その天体の角度を東経に変換して出しました。そうすると、このミッドヘブンと、タイトに合になる



東京 1994年11月18日 月食図

高橋英利（たかはしひでとし）
信州大学理学部地質学科を卒業した後、大学院博士課程に進む。宇宙測地学を専攻し、長基線電波干渉系を用いたプレートテクトニクスの研究を行なっていた。94年5月にオウム真理教に出家。宇宙に関する知識を占星学に生かす。

時期が割り出せるということです。

●九五年の地震は神戸が危ない！

高橋　ところで、このミッドヘブンというのは、チャートを作る上で、実はその基準とする地域の経度によってころころと変わってしまう値なんです。このように地域に依存するミッドヘブンに基づいて算出していますから、地震の場合は、その震源地を求めることもできるのではないかということです。

尊師　高橋君、地震の場所はどうかな。

高橋　はい。先程と同じように、一九九四年の十一月十八日の月食図を元にして計算したところ、だいたい兵庫県、兵庫県のこの辺りでしょう。「神戸の辺りに危ない地点がある」と出ました。

地震を占う場合、一つの図を使った二つの方法があります。

一つは、地震が起こる時期を求める方法で、先程の「九月十六日」と言いましたのは、こちらの方法を用いました。実際に天王星が「東

京のミッドヘブン」とコンジャンクションする日は九月十六日です。つまり、もし東京に直下型の地震がくるとするならば、この九月十六日が怪しいということなのです。

もう一つの方法というのは、もとになる月食図から、天王星とミッドヘブンがコンジャンクションする、その差の角度を東経に直して場所を特定する方法です。

尊師　うん、確かにそこらへんに、要するに地震ゾーンがあって、そして場所を特定する、つまり日本が危険だということで東京を基準にした場合、十六日であると。そうではなくて、もし場所をそこから読み取りたいと考えた場合は、やっぱりいちばん危険なのは神戸だってことだね。

占星学は学問だから、その両方の要素があっ

戦後最大の惨事となった阪神大震災が起こったのは、この予言がラジオ放送されたわずか十日後だった

地震攻撃は長期的計画!?

「阪神地震の前兆現象?

今月上旬、西宮の地下水でラドン濃度二〇倍に」

……同市内にある十三カ所の調査井戸のうち、深さ一七メートルの井戸から取水、昨年十月二十七日から連続的にラドン濃度を測定した。

当初は一リットル当たり二〇―三〇ベクレルだったのが、徐々に増加、十二月末に約二〇〇ベクレルになり、その水準でとどまったあと、一月八日に急増して最高値の約四〇〇ベクレルに達し、その後急激に減少した。

……

これは読売新聞の九五年一月二十九日朝刊に掲載された記事からの引用である。この記事は、今回の阪神大震災が長期的、人為的な攻撃によって引き起こされたものである証拠となるものだ。

記事に出てくる「ラドン」とは、放射性元素の一つである。図を見ていただきたい。放射性元素として有名なウラン（U）が核壊変を続けていく過程で、ラジウム（Ra）を経てラドン（Rn）となる。このラドンも崩壊して、最終的には鉛に至って安定するのだ。

このラドンが阪神大震災直前に急増・急減していた――つまり、強大なエネルギーが地下に注ぎ込まれていたということになる。

従来、地下の鉱物探査には電磁波が使われている。電磁波は、厚い地層を突き抜けて地下に到達することができる。電磁波は、超高周波・超高電圧になると、岩石を透過するのだ。各分子・原子の震動が追従できなくなるためである。しかも電磁波には、地下の鉱物と作用する性質がある。鉱物探査はこの性質を利用しているのだ。

では、この電磁波を強力にしたならば、どういう結果を生むだろうか。

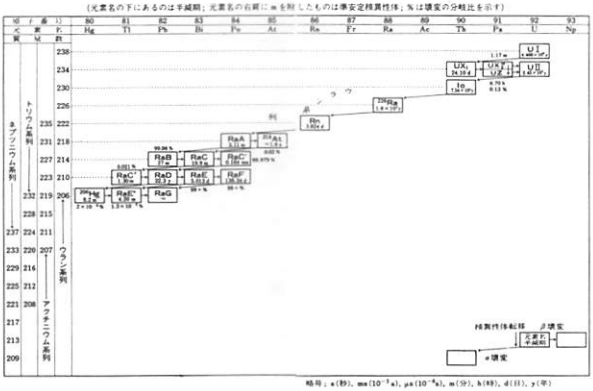
一つには、地底深くまで到達した電磁波が、極めて高いエネルギーによって核変化・核壊変を加速する。また、岩石は誘電体なので、高周波・高電圧にさらすことで岩

盤そのものを破壊することもできる。

いずれにせよ、問題のラドンは、地中に向けて放たれた高電圧マイクロ波によって生成された可能性が読みとれる。そして、少なくとも昨年からラドン増加現象が見られているということは、「長期的に」高電圧マイクロ波が照射されていたということになる。

専門家の間では「阪神大震災は長期的・計画的に仕組まれた人為的高電圧マイクロ波攻撃ではないか」との見方が強まっているのである。

壊変系列図



図：『理科年表』丸善

たとして、それはそれでいいんだよ。つまり、そのどちらが的中するか、その現象が起きているのかどうか、非常にこれは観察眼を鋭くして見る必要があると思います。

●不作の年、九五年

尊師　実は、わたしは直観的にこの九五年は不作の年であると考えています。そしてそのためにタイ米を大量に買い込み、そして、それで缶詰でも作って、サマナの——もし食料事情が悪化したらしのごうかと考えているのだが、さあ、それについてオウム真理教の占星学者たちはどう考えたのか聞いてみましょう。

高橋　収穫は秋ですから、東京の秋分図をもとに調べることになります。月と土星がオポジション、つまり一八〇度の凶角ですね。しかも、月と木星

コンジャンクション・オポジション・トライン・グランドトライン

総じて座相（アスペクト）と呼ぶ。星と星とが作り出す角度。もしくは感受点と星が作り出す角度。

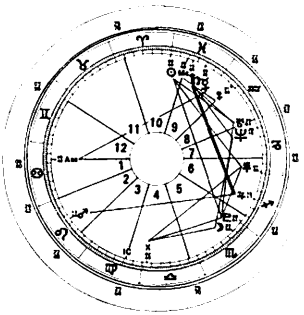
コンジャンクション	合	0度
セキスタイル	六分	60度 吉角
スクエア	矩	90度 凶角
トライン	三分	120度 吉角
オポジション	衝	180度 凶角

グランドトラインとは三つの星がそれぞれトラインになる、つまり正三角形を形作る座相を指す。

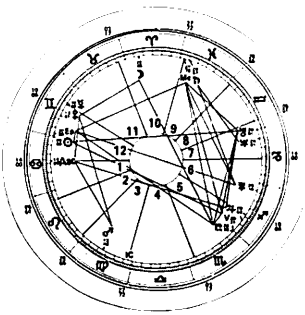
が九〇度の凶角を示しています。

メッターベーサッジャパンディタ　「収穫」を表わす月と「抑制」を表わす土星がオポジションということは、不作ですね。しかもその月は、木星とアセンダントとでT字スクエア*という特殊な凶座相まで組んで不作の深刻さを語っています。それから、月と木星の凶角も不作を意味します。その上、「食糧生産高」を表わす六室に「荒れ果てた土地」を表わす火星が入っているところも見逃せないですね。

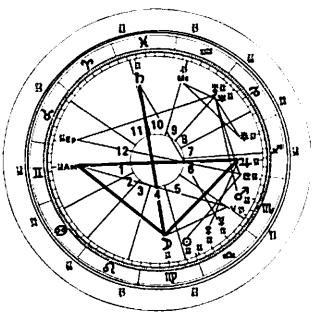
尊師　冷夏で農作物がかなりダメージを受けるのではないか。



東京 1995年 春分図



東京 1995年 夏至図



東京 1995年 秋分図

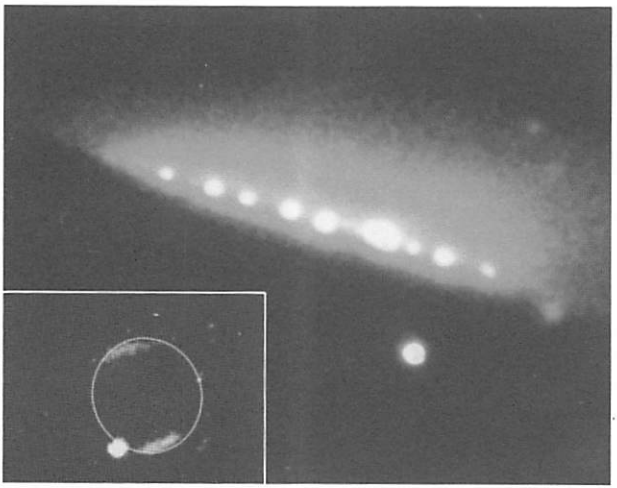
*T字スクエア：三つの星がT字をつくること

メッターベーサッジャパンディタ　そうですね、気象占星学に基づいて検討しますと、春分図・夏至図の両方とも、ICが乙女座にあります。乙女座の支配星、水星は「流動」を示しますので、収穫に影響を与える春と夏の気候は空気の流動、すなわち風によって低温になると出ています。

●眠りを覚ました木星の影響は

尊師　マンジュシュリー正大師はどうですか。

マンジュシュリー・ミトラ　そうですね、去年豊作でしたよね。それに関してわたくしは一つの意見を持っておるんですが、去年の七月にシューメーカー・レビー彗星、これが木星に衝突したんですね。ちょうど列車のように衝突直前に二



シューメーカー・レビー彗星の木星衝突

【スカイウォッチング事典】朝日新聞社
【天文年鑑】一九九五　誠文堂新光社

十一個に分裂し、そして次々とぶつかっていった。で、さすがに宇宙の衝突だけありまして、きのこ雲が二二〇〇キロにわたって立ち上りまして、相当のエネルギーが放出されました。さらにその木星――これは、雲でできているようなものなんですが――その木星にしわが寄るほどだったのです。このようなエネルギーを受けて去年はかなり温度が高かったのではないかなと思っておるんです。ただこれが傷ものの木星となってしまうとまずいわけですが、その活動を維持したまま定座に入っているというのは、やはり木星の影響が大きいなという気はします。

尊師　ところで、木星は非常に大きな天体だから、この程度の星がぶつかったとしても傷はつかないだろう。

マンジュシュリー・ミトラ　たしかに、波は立ちましたが傷はつきませんでした。

尊師　というより、木星＝善の星という象徴があるよね。

マンジュシュリー・ミトラ　はい。

尊師　これは、善の星というのはなかなか動かないとか、なかなか戦わないとかいう意味があると思うわけだが。やはりここでエネルギーを受けて宗教戦争が始まるよという、そのサインを天空で表現し出しているのではないかと思うわけだけど、どうかな。

マンジュシュリー・ミトラ　眠りを覚ました巨人というところでしょうか。

尊師　そうだね。そこでイギリスから例えばロード・マイトレーヤが現われる。そして例えば、

ロシアから遠隔麻酔師が登場するとか、あるいはサイババが登場するとか。中国からは瞬間的に病気を治すという気功師が登場するとか、こういうことではないだろうか。

マンジュシュリー・ミトラ　そうですね。木星自体の持っているエネルギーから比べますと、先程申しましたエネルギーも大したことはありません。これからが本番だと思います。はい。

尊師　その木星の眠っているエネルギーを活動させるための起爆剤だったと考えたらいいと思うわけだけれど。

マンジュシュリー・ミトラ　わかりました。同意見です。

●冷夏、洪水、輸入難

尊師　ところでこの不作だが、相当ひどい不作になるんじゃないか?

メッターベーサッジャパンディタ　はい。これは徹底的に不作になります。

先程は気温で見ましたので、次は雨の影響を見てみましょう。降水量はＩＣの星座と四室の主星や支配星の配置によって読んでいきます。春分図のＩＣは乙女座、その支配星の水星は水の宮、魚座にあり、水浸しの暗示です。「土地」を表わす土星も同じく魚座にあるので、やはり水。アセンダントも水の宮、蟹座で、何と言っても土星がからんでいるので、凶意が強まります。これ

は非常に冷えるでしょうね。水害の可能性もあります。

さらに、春分図・夏至図で土星がミッドヘブンにあることから、不況が示されています。

それだけではなく、秋分図では月と木星の凶角が重なっていますから、食料輸入の道も閉ざされることになるということです。

尊師　ということは、冷夏、洪水、しかも食料の輸入はおぼつかない。こういう現象が起きる可能性があるということだね。

メッターベーサッジャパンディタ　はい。

尊師　確かに冷夏、洪水、食料不足と、この状況を見た場合、アメリカを中心とした、要するに日本いじめの国々はそれを一つのカードとして使い、そしてよりいっそう日本に対していろいろ無理難題を言ってくることは間違いないだ

不作、しかも輸入難――この予言もすでに成就の兆しが……

ろうね。

●冥王星と木星の合――世界的不況

尊師　ところで今の話から、次に外交問題に移りたいのだが、例えば日米の関係はどうなっていくんだろうか。メッターベーサッジャパンディタ　世界情勢を占星学の立場から見ていきます。

高橋　九五年の世界情勢を占う最大のエポックは、十二年に一度形成される木星と冥王星のコンジャンクションであると思われます。これは、去年の十二月二日に蠍座で起こったもので、この会合図から、二〇〇七年末までの世界の様相を読みとることができます。

尊師　冥王星と木星が合になるわけだね。

高橋　はい、そうです。

尊師　これは、もう一つ別の見方――経済とは関係ない

土星（サターン）

土星は時の神クロノス。クロノスはティターン族のウーラノスと地の女神ガイアの末子で母ガイアの求めに応じて父ウーラノスを襲い、ティターン族の王となった。

ガイアとウーラノスは、クロノスもまた自分の子供に殺されることを予言しており、彼はそれを恐れて生まれる子供を全て丸飲みにしていたが、唯一助かったゼウスに結局は殺されてしまった。

占星術上、土星は基本的に「時」を意味している。時は無情に過ぎ、物を古くして行くことから制限し束縛する意味がある。最大の凶星とされているが、単に凶の星というだけでなく、その機能をよく考えてみる必要があるといわれる。

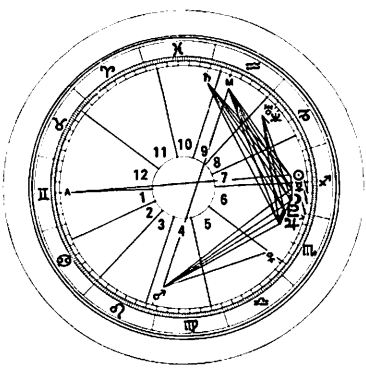
わけだが、世界の動きとして大きな問題としては、大いなる宗教改革が、この十数年間に起きるとも読めるよね。どうかな。

メッターベーサッジャパンディタ　そうですね。

高橋　彗星が衝突して目覚めた木星と、冥王星が合になります。それも冥王星が本座の蠍座において、そして木星も本座の射手座において――つまり両方本座に位置しているという最高の状態において――コンジャンクションを起こすんです。

導師　この世界の経済情勢を、もう少し詳しく話してくれるかな。

メッターベーサッジャパンディタ　冥王星と木星のコンジャンクションは、占星学においては経済恐慌のアスペクトとして知られています。十三年前、一九八一年のコンジャンクションのとき、レーガン大統領が核軍備を軸とした軍事大国化構想を打ち出しています。その後、八八年の発展途上国の累積務の増加、九一年の証券会社の損失補てん問題から始まった証券・銀行スキャンダルは、それぞれ木星と冥王星が一八〇度と九〇度の凶角のときに生じており、八



東京 1994年12月2日 木星・冥王星会合図

一年のコンジャンクションの影響を引きずっていると考えられます。また、九三年十一月のブラックマンデーのときには、冥王星と木星の合が蟹座で起こっていました。

●中東へ出兵も

メッターベーサッジャパンディタ　それから、冥王星は原子力という意味も持っています。核の時代に突入してからは、冥王星と木星の合で、核絡みの事件も増えています。

尊師　これは要するに北朝鮮問題、あるいはイラク問題等が絡んでくるわけだね。

メッターベーサッジャパンディタ　では、外交関係を九五年の東京の春分図で見ていきましょう。まず、「海外」を表わす九室には土星が来ています。外交によって何らかの損害を被る可能性が暗示されていますね。

そして、この土星は木星と九〇度の凶角を組んでいます。木星は「海外発展」の意味も持つんです。そして、この木星が「軍隊」を表わす六室の、やはり「海外」の意味を持つ射手座に輝いている。九五年の春分図は、まさに「海外出兵」の可能性を告げているといえます。

では、どこに向かって出兵するのかというと、「相手国」を表わす七室に注目することになります。この七室にきているのは、海王星――これは信仰、石油、スパイという象意を持ちますか

ら、まさに中東のことなのです。

尊師　かなり不穏な動きになりそうだね。確かに、ある軍事筋からの情報だが、一九九五年には中東に日本の自衛隊が派遣される。しかもかなり大きな規模で、という話を聞いたことがある。これはまさに占星学の予言と一致するね。

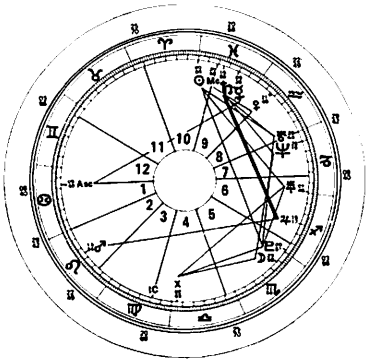
メッターベーサッジャパンディタ　はい、そうですね。

●安らぎを捨てて——救済者の宿命

尊師　マンジュシュリー正大師、この現象を見てどう思うか。

マンジュシュリー・ミトラ　そうですね。かなり明確なストーリーができており、そのとおり動くという感じはいたしますが。ただそこで銀河の中心から神々の光を受けてやってくる存在が何をしてくれるのかというのは、やはり興味のあるところです。

尊師　そうだね。この射手座の中心、銀河の中心から流れ



東京　1995年 春分図

てくるエネルギーがいったいどのような形で現象を動かすのか、非常に楽しみというか。これはおそらく今世界を動かしている人たちも、冥王星がちょうど銀河の中心に入ったあたりのときにキリストが登場すると考えているのではないだろうか。

マンジュシュリー・ミトラ　これは尊師がおっしゃっていたことなのですが、冥王星は最も地球から遠い。ですから、星々に最も近い。つまりその要素を最もうまく地球に伝えることができるという具合におっしゃってましたよね。

メッターベーサッジャバンディタ　なるほど。

尊師　しかし、いつまで経っても、なかなかわたしたちに安らぎを与えてくれないねえ。

メッターベーサッジャバンディタ　これはやっぱり、救済者として仕方がないのではないでしょうか、尊師。

尊師　そうだね。それではこの銀河の中心から本当に素晴らしいエネルギーが送り込まれ、そしてすべての魂が救済されますように。「神聖賛歌」。

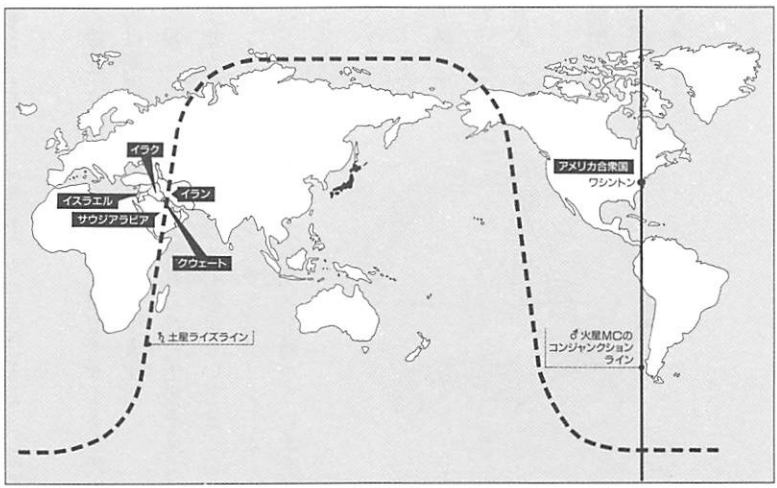
《神聖賛歌》

●占星地図に見る世界情勢

メッターベーサッジャパンディタ　尊師、実は占星地図というものがあります。これは、一九九五年の東京における春分図の天体の配置を世界地図に展開して、一年間の世界的事件を占うといったものです。実は、これを見ると、「戦争」を表わす火星とミッドヘブンのコンジャンクションのラインが、ワシントン――つまり、アメリカの首都を通過しているのです。

では、ワシントンの九五年の春分図を見てみることにしましょう。春分図はミッドヘブン、アセンダントの入っている星座や、ミッドヘブン、アセンダントと天体のアスペクトを中心に読むのですが、まさにミッドヘブンと火星がコンジャンクション。そして、「軍隊」を表わす六室のハウスカスプ*は可視の定座で最も戦闘的

*ハウスカスプ：ハウスとハウスとの境界線



占星地図

*バケット型：半円上に一つの天体を除いて他のすべての天体が集まり、まるでバケツの取っ手のように反対側にぽつんと一つの天が輝いていることから、この名前がつけられた。

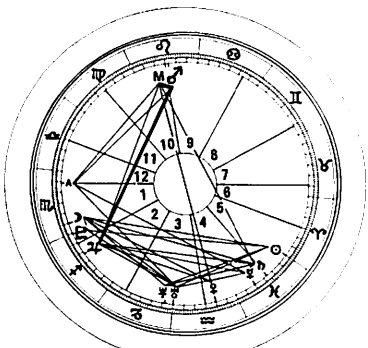
な牡羊座。しかも、アセンダントは「軍事関係」の蠍座で、その支配星冥王星もチャートを代表する一室にあるとなれば、アメリカが戦争をするのは間違いないと読まざるを得ません。

次に、星占いが発祥して以来、世界大戦を起こす星「ニニブ」として恐れられた土星を見ていきます。火星の力を持ってしても、ベースにこの土星が働かなければ全く心配はないとまでいわれています。この土星とアセンダントとのコンジャンクションのライン（ライズライン）が、中東――特にアラビア半島の南端からペルシャ湾沿い、そしてイランのテヘランを通っています。

そこで、九五年のテヘランの春分図を見てみましょう。

その前に、九五年の春分図一般に関して言わせていただくと、「バケット型」といわれる実に特徴的なチャートになっています。このチャートでは、ぽつんと離れて輝いている一つの天体に、全天体のエネルギーが集約されるのです。そして、九五年の春分図で離れて輝いている天体こそ、「戦いの星」マルス＝火星なのです。

その火星が、テヘラン以西の中東では「軍隊の部屋」六室に入り、チャートの代表第一室には「ニニブ」と恐れられる土星が輝いているのです。中でも特にテヘランのチャー



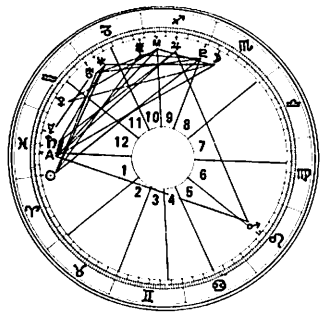
ワシントン 1995年 春分図

トでは、春分図における最重要ポイント、アセンダントは「ニニブ」土星とタイトにコンジャンクション。これは、戦争と読むしかないでしょう。

●戦争は避けられない！

導師　いろいろな考え方があるわけだが、戦争によって大量の物資を消費し、それによって軍需景気を起こすという考え方が一つ。それから、そうではなくて債権国、つまり金を貸している国に対する戦争によって、その相手を叩くことによってそれを帳消しにするという考え方が第二。それから第三番目は、戦争を起こすことにより、例えば、石油の流通等を完全にアメリカ絡みの輸送体系をとることによって経済をアメリカ主導に変え、それによってなんとか挽回しようとする考え方が第三。この三つの考え方があるわけだが、これはどの考え方がその背景にうごめいていると考えるか。

メッターベーサッジャパンディタ　はい。やはりすべて絡み合っていると思います。例えば、昨年末のアメリカの長期金利は八パーセント前後なのですが、これ以上金利が上昇すると、貯蓄の



テヘラン 1995年 春分図

方が株式より有利になって、ニューヨーク株価は暴落してしまうということです。もちろんこれは世界の経済に激しい影響を与えることになるでしょう。

マンジュシュリー・ミトラ　そこまでくると、もう終わりだと思います、わたしも。

尊師　今の説明をもう少し詳しくすると、要するに利息が八パーセント以上、九パーセントとか一〇パーセントになる。そうすると安定して利息を得る方が株式に投資するよりも利益が大きいということだね。それによって株式の中でも投資をしなくなって、それによって株価が暴落する。確かにそうだと思います。はい。

メッターベーサッジャパンディタ　アメリカの貿易・財政がすでに慢性的な赤字となっているのはご存じの通りです。元金のみならず、利息すら払えない状態なんですね。

この膨大な赤字は借金によって埋められているのですが、この最大の融資国が日本なんです。ところが、九四年、日本はアメリカの国債を買わなくなりました。しかも、古い国債の返済時期が近づいています。

尊師　この危機を乗り越えるためにアメリカが戦争を利用するということは十分あり得るだろうね。

高橋　チャートでもその可能性が読みとれます。

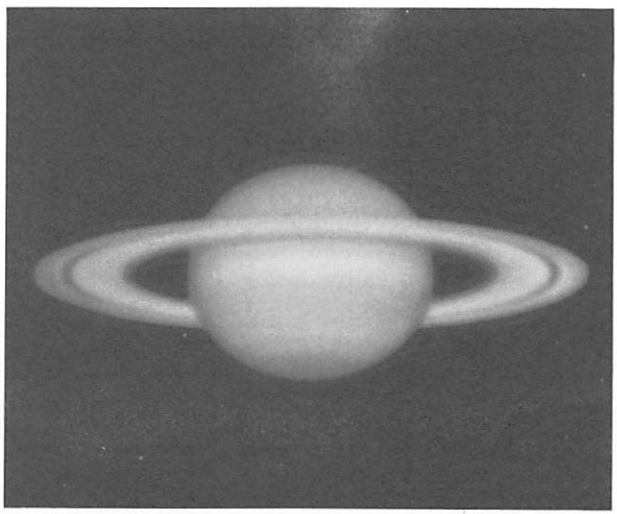
アメリカの建国チャートでは、九五年、アセンダントを通過する木星が繁栄を暗示します。し

かし、その次は冥王星がやってきます。繁栄も長くは続かず、くつがえされてしまいそうですね。もう一つ、先ほどのアメリカの春分図でも、二室の木星が火星と一二〇度で、「戦争による利益」という意味が浮かんできます。

●土星の輪消失の意味は？

マンジュシュリー・ミトラ　やっぱりそういう話を聞いていると戦争は避けられないなと思うのですが、わたしが一つ注目しているのは、土星なんです。土星は皆さんご存じのように綺麗な輪がかかっている、このような惑星ですが、実は今年は尊師、土星の輪がなくなるんです。

尊師　この土星の輪がなくなるというのは、もっと詳しく聞きたいのだが、どういうことかな。



マンジュシュリー・ミトラ　土星の輪というのは非常に薄い氷のかけらのようなものが、一つの薄い軌道上を回っていて、鏡のように光を反射する、そういうものなのですが、あまり薄いために横から見ると見えない、普通の丸い星になってしまうのです。それがなんと、今年から来年にかけて五月、八月、十一月、そして一九九六年二月と四回も全く輪が見えなくなる。こういう現象が起こります。

尊師　もともと土星の意味は、メッターベーサッジャパンディタ、「大衆的なこと」とか、あるいは「悪魔」とか、あるいは「死」とか、あるいは「欲望」というのを表わすよね、これは。

メッターベーサッジャパンディタ　はい、そうです。

尊師　で、この輪がなくなるということはどういうことだと考えるか。

メッターベーサッジャパンディタ　はい、土星は恐怖の星、「サターン」というのですが、このサターンには、我々を現世的なところ、つまり低いところに縛りつける、そういった意味合いがあるのです。土星の輪っかが消えるということは、これは現世的な力というか、我々を下に引き下げる力が一時的にせよ少し弱まるのではないか。これは宗教革命が起こる、この前触れをまさに表わしているのではないか。このようにわたくしは思いますが。

尊師　マンジュシュリー正大師、何となく救済が成功しそうな感じだね。

マンジュシュリー・ミトラ　そうですね。見通しは明るいですね。やはり、先程からありました

木星と冥王星によるその崇高な理念、その宗教思想、真理による改革。それに対して、悪魔の働きが膝を折るという、そういった図式が見えてきましたが。

尊師　そうだね。

●アメリカの偽プロパガンダ

尊師　一つ気になることは、もともと木星をアメリカだというように考えて西洋占星学は進んでいるんだね。したがって、アメリカである木星と冥王星がコンジャンクションする、つまり合になる、ということは、アメリカが原爆を使いますよという年であるという可能性もあるわけだが、どうかな、これは。

高橋　そうですね、そこでなんですけれども、一九九五年の十月の十九日から二十四日にかけて、火星と冥王星が合になるんですね。ここらへんの意味合いというのは、やはり冥王星が核という意味合いを持つとするならば、かなり危険だと思われるんですけれども。

メッターベーサッジャパンディタ　冥王星には「ひっくり返す」という意味もあるんですけれども、アメリカ建国チャートでアセンダントに近づく冥王星の影響によって、九六年には完全に経済が破綻します。

尊師　この経済がボトムになっている状況を打破するために、アメリカが宗教を使ってくる、あ

るいは核を使ってくるという可能性はどうかな。

メッターベーサッジャパンディタ　それは十分に考えられると思います。

今回の戦争は間違いなく、このどん底の経済を復興させるための必死の戦争です。ですから、核が使われる可能性は十分にあると考えられます。

宗教を使ってくる可能性もありますね。木星が、シューメーカー・レビー彗星によって活性化された状態で九五年のアメリカのアセンダントを通ります。これは、アメリカで誤った宗教が広まること、それによって外国を誤った方向へ導かせる、というようなことが考えられます。

尊師　わたしが冒頭に話した四人の宗教家たちも、まさにその前兆かもしれないね。

メッターベーサッジャパンディタ　はい、おっしゃるとおりだと思います。

●「事件の星」冥王星と火星から見る九五年

尊師　ところで佐藤君、この九五年の一月から十二月までの星の配置で危険な日を言っていただいて、正確に度数を言っていただいて、それについての軽い検討を行なって今日は終わりとしたいのだが、どうかな。

佐藤　はい、わかりました。ではまず、メッターベーサッジャパンディタ師、危ない惑星の合と

いうのはどのようなものでしょうか。

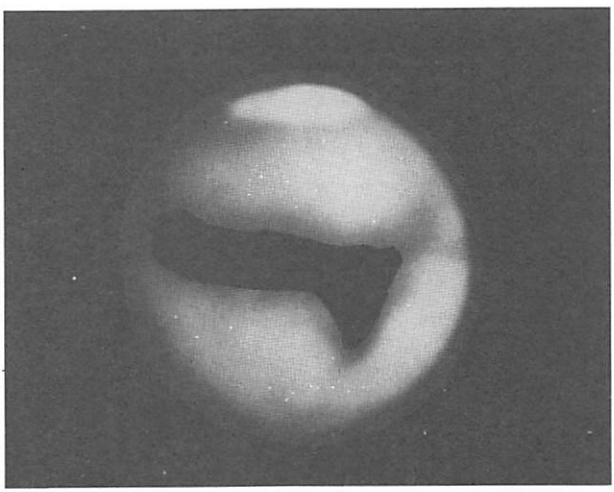
メッターベーサッジャパンディタ　はい、危ない惑星の合といいますと、やはり今話題になっている冥王星ですね。冥王星と火星の合、これはかなり危険なアスペクトだといわれております。

佐藤　ありがとうございました。では冥王星と火星の合が今年いつ起こるか、これを少しコンピューターの方で計算してみたいと思います。少しお時間いただきたいと思います。

尊師　では、計算が済むまで一曲「戦え！　真理の戦士たちパート1」。

《戦え！　真理の戦士たち》

佐藤　今コンピューターで出ました。冥王星と



火　星

火星がコンジャンクションする日、ズバリ十月十九日です。これと危ないアスペクトということで、九十度をなす角度、これが一月二十二日です。この九〇度ということは意味はあるのでしょうか。

メッターベーサッジャパンディタ　これはやはり占星学の立場で、かなり危険なアスペクトといわれています。冥王星は火星の大型のものという解釈があるのですが、どちらも事件の星として扱われています。これは予測のできない事件となることが多いのです。

導師　ということは、この十月の後半に行なわれる何かは、予測のできない事件が起こるという可能性があるということだね。しかも、戦い絡みの。

メッターベーサッジャパンディタ　そうです。その可能性が高いと思います。

導師　この一月のスクエアについてはどう考えるか。九〇度については。火星と冥王星のスクエア、九〇度だよね。

メッターベーサッジャパンディタ　はい、この九十度の意味ですが、九〇度というのはエネルギーが歪んだ方向へ向けられたり、暴走するという意味合いがあるんですね。九〇度というのは、非常にまずい方向、まずい角度なんです。そういった意味でこの時期は、人々のエネルギーと、それから天のエネルギーと申しましょうか、そういったものがうまくかみ合わなくなって、何か事件が起こる可能性というのも考えられると思います。

導師　急にどこかと、また戦争が始まるかもしれないね。

メッターベーサッジャパンディタ　その可能性は大いにあると思います。

●さらに大きな秘密兵器も開発される!?

高橋　ほかに、火星が他の惑星とコンジャンクションしている時期が、佐藤さん、いつごろになりますか?

佐藤　そうですね、危ないアスペクトということで出しました。火星と土星のコンジャンクション、これは九六年の三月二十二日にあります。

あともう一つ気になりますのが天王星と火星のコンジャンクション、これが一月の八日となっておりますが。

導師　まさに今日だね。

佐藤　ええ。これはどのような意味があるのでしょうか。

導師　天王星と火星のコンジャンクションイコール、これは天王星はまさに秘密兵器、あるいは進化した科学兵器という意味があるから、アメリカがまたどこかで秘密兵器の実験をするかもしれないね。

高橋　そうですね。そして、この天王星が水瓶座に入るのが今年の四月の二日なんです。やはり水瓶座に入るということは、人間の知的な技術というものが大きく革新する年を暗示しているとわたしは思うのですが。

尊師　今までにもアメリカ、イギリスを中心として多くの秘密兵器が開発されたが、今年の四月以降、もっともっと大きな秘密兵器が開発される可能性があるということだね。

高橋　はい、そのような危険性が感じとられます。

●人が人を超える時期の到来

尊師　マンジュシュリー・ミトラ正大師はこれについてどう考えるか。

マンジュシュリー・ミトラ　はい、そうですね、今までの占星学の見方によって戦争が起こる、そのようなことがあると思うのですが、やはり一つ違うのは一番初めに話題になりました冥王星が宮を変える、射手座に入ってくる。それによって、戦争の方向性といいますか、秘訣というか、それが、やはり今回は変わってくるのではないかなという気がするのですが。どうでしょうか。

尊師　確かに、歴史を見るとまず王権対王権の戦争。次は王権対資本主義の戦争。次は資本主義対資本主義の戦争。次は資本主義対共産主義の戦争。そして共産主義の崩壊が起きた今、資本主

水瓶座

若い男が水の流れ出している水瓶を担いでいる姿で知られているのがこの星座。エジプトではナイルの増水は水源にこの瓶が投げ込まれるためと信じられていた。

ギリシャ神話では、ガニュメーデースと彼が担いだ瓶とされている。ガニュメーデースはトロイア王トロースの子で、金色に輝く美少年としてその名は近隣を越え神々の世界までも聞こえていた。興味を持ったゼウスは、ガニュメーデースをオリュンポスにさらってきた。ゼウスはガニュメーデースの代償として父親に鍛冶の神ヘーパイストスの作った黄金のぶどうと風のように足の速いトロースの馬を与えたといわれている。

ガニュメーデースは人間のうちで最も姿麗しき少年とされ、永遠の若さと美に輝いて、果てることなく続く神々の天上の饗宴の給仕役を務めている。

他の神話ではゼウス自身が水を大地に注いでいるともいわれている。

この瓶から流れる水が象徴しているのは、単なる水だけではなく、知識でもあり、この世を浄化していく聖なる水でもあるといわれている。

コラム参考文献『占星学入門』平川出版社／『SGSmS's Astro. 講座』

義だけでは世界におけるバランスを保つことはできないから、この資本主義もまさに崩壊するだろう。その典型的な例がアメリカの実際の赤字。これは、九五年になると利息を払うこともできなくなるほどアメリカの経済は悪化すると。そして、そのほかにニュードル、新しいドルといわれている、新しい貨幣制度をもしアメリカが力ずくによって導入するとするならば、そのときの世界恐慌はたいへんひどい状態になり、それが最終的には資本主義崩壊の引き金となり、一、二年のうちに資本主義は崩壊していくのではないかとわたしは考えています。

では、そこで次に何が登場するのかというと、物質的には一応満足である。科学もアストラルを表わす音速を超えること、あるいは光には到達できなかったけれども、その光を使うこと、あるいは原子よりもっともっと小さなものに対する一応の理論的な構築等のできた今、次のステップはやはりそれで到達できない世界、つまり真の宗教とは何であるか。その真の宗教を宗教的なイデオロギーとして掲げた国こそが世界を統治し君臨するのではないかと考えます。それがまさに冥王星が射手座に入る象徴であり、そしてこれは人々の心がまさに銀河の中心に向かう時期の到来を告げようとしているのではないかと考えるわけです。どうかな。

マンジュシュリー・ミトラ　全く同感です。

導師　占星学はいろいろなチャートの出し方がある。そして今週は、先程述べた三〇度分割法によってこの九五年の運命を占ってみたわけだが、来週はそうではなく、実際の星の性質、実際の

その恒星の性質をもとにもう少し過去の事件を検証し、それに新しい考え方であるハーモニックを導入し、そしてより深い九五年の分析をしてみたいと考えています。

それでは、ね、このような話を皆さんは聞くと、いつも心が乱れるかもしれない。しかし皆さんは修行者です。修行者というものは未来を未来として理解し、それに負けないでしっかりと修行し、そしていかなる状況があろうとも堂々とこの人間の世界を生き、そしてすべての魂のために生きてもらいたいものです。皆さんがよりいっそう修行しますように。「救済の構図パート2」。

《救済の構図2》

尊師に導かれて

奇跡的に助かった会員・信徒たち。
真理の実践者は尊師の守護と日々の修行によって、
大震災を冷静に切り抜けた！

●予言どおりの大震災が

大本　宏さん　兵庫県朝来郡

麻原尊師がラジオで「神戸で地震が起きる」とおっしゃっているのを聞いて、父親に教えてあげたのですが、「そんなことあるわけない」と、相手にしてもらえませんでした。

そうしたらわずか十日後に本当に地震が来たので、驚きました。うちは家が古いので地震など来たら倒れてしまうのではないかと心配だったのですが、あらかじめ来るということを聞いていたこともあって、すぐに窓を開けたり、布団で頭を防御したり、至極冷静に対処することができました。

●わたしを守ってくれた奇跡

鈴木伸幸さん　出家修行者

出張で神戸に来ていたわたしは、夜遅くなって疲れたため、路上で駐車して休んでいました。爆発音のような激しい音に飛び起きると、辺り一面がまるで戦争のようで、建物も崩れているし、火の手もあちらこちらで上がっているという状況でした。ふと最初に車を止めていたところを見ると、塀や電柱が倒れてきていました。あのまま止めていたら危うく死んでいたところです。

わたしは一刻も早く富士に戻ろうと思ったのですが、道路は至るところで寸断されていて、しかも土地勘もありません。ふつうなら、とうてい脱出できるような状態ではありませんでした。

しかし、またもや奇跡的なことが起こったのです。例えば二つの道があって、どちらへ進もうかと考えたとき

に、一方の道が必ず光っているのです。おかしいなと思ってそちらの道に行くと、必ず抜けられるのです。尊師が導いてくださっているのだと思い、光っている道を選んで進み、無事に尊師のもとに帰り着くことができたのでした。

●尊師に感謝

岡本慶子さん　兵庫県芦屋市

ご近所は地震で大きな被害を受け、皆避難してしまったのですが、うちだけは何ともなく、いつもどおり過ごしています。知り合いの方々が心配してよく電話をかけてきてくださるのですが、「あなた、ふだんと変わらないわねえ」と驚かれます。

実は、地震の前日まで毎日家族で道場に通って修行していましたので、守られていたのだと思います。地震が起こったときも驚くほど冷静で、ベッドの下に潜りながら「これが終わったら道場へ行こう」と考えていたくらいなのです。主人とともに尊師に感謝し、手を合わせました。

●功徳のおかげです

田原寛一さん　兵庫県西宮市

わたしの家は木造建て四十年の平屋なので、地震が来たときは潰れるのではないかと心配だったのですが、結局、壁にひびもないし、窓ガラスも一枚も割れてないし、ふすまもちゃんと開くし、被害はどんぶりが二個割れただけです。大阪支部のマハーガヴァッチャ師も「これは功徳のお陰ですねえ」とおっしゃっていました。

●イニシエーションに守られた

垣原　颯さん　神戸市東灘区

地震が起きたときは、信じられないくらいに心の動揺がなく、冷静に対処できました。実はタンスが倒れてきて下敷きとなり、強烈におでこをぶつけてしまったのですが、何の怪我もありませんでした。年末年始に麻原尊師のイニシエーションを受けていたので、守られたのだと思います。

第二章◆徹底分析！人類最終戦争

●果たして、最終戦争は起きるか
●生き残るためには？

果たして、最終戦争は起きるか

オウム真理教ラジオ放送「エウアンゲリオン・テス・バシレイアス」
一九九四年十二月四日放送

聖者マンジュシュリー・ミトラ正大師　エウアンゲリオン・テス・バシレイアス。聞け！　我らの声。今月のテーマは「進化」。今日は、「果たして、最終戦争は起きるのか？」について生で二時間、真剣にいろいろな検討を加えていきたいと思います。

まず、自己紹介をさせていただきます。マンジュシュリー・ミトラと申します。わたしは大阪大学大学院で物理学を学びました。専攻は宇宙物理学です。そしてオウム真理教に出家してからも、様々な科学的研究を重ねてまいりました。今日は科学的な見地から意見を述べさせていただきます。

続いて、ボーディサットヴァ・ヴァジラパーニ師長です。彼にも同じように、物理学の観点から意見を述べていただきたいと思います。

ボーディサットヴァ・ヴァジラパーニ師長　わたくしは東京大学で物理学、特に素粒子論を専攻

しておりました。九二年四月に出家し、現在オウム真理教科学技術省に所属しております。

マンジュシュリー・ミトラ　続いて、ティローパ正悟師です。いかにして、最終戦争において生き延びるのか。建築の観点から述べていただきたいと思います。

聖者ティローパ正悟師　わたしは大阪出身で、神戸大学を卒業後、大阪府立大学で緑地計画工学というものを専攻しまして、その後ゼネコン、いわゆる建設会社に勤めておりました。その関係で、オウム真理教に出家させていただいた後、建設部門を中心に活動させていただいています。

マンジュシュリー・ミトラ　続きまして、ボーディサットヴァ・クリシュナナンダ師長です。果たして、最終戦争に使われる兵器において、人間が生き延びるのか、医学の観点から述べていただきたいと思います。

ボーディサットヴァ・クリシュナナンダ師長　わたしは東京出身で、慶應義塾大学の医学部を卒業し、心臓および大血管の外科を専門に扱っておりました。

マンジュシュリー・ミトラ　続きまして、ボーディサットヴァ・ヴィマラ師です。果たして、最終戦争をノストラダムスはどう見ているのか、あるいは他の予言者はどう見ているのか。予言の翻訳者としての観点から述べていただきたいと思います。

ボーディサットヴァ・ヴィマラ師　わたくしは京都大学の理学部に入学しましたが、約七年ほど前に出家しまして、五年ほど前から尊師のもとでノストラダムスの翻訳、予言の研究を行なって

います。

マンジュシュリー・ミトラ　続きまして、政治経済、近未来研究者であり、易の達人である石谷友輝夫さんに、今の世の中の動向と運命学について述べていただきたいと思います。

石谷　わたくしは明治大学を卒業しまして、その後、易に興味を持ちまして、十数年にわたって易を研究してまいりました。その過程で、政治経済の問題をいろいろ研究してまいりましたので、その観点から社会情勢についてお話をさせていただきたいと思います。

◎第一部　最終戦争は起きるか

●不況は戦争のためにつくられている

マンジュシュリー・ミトラ　尊師、果たして、最終戦争は起きるのでしょうか!?

尊師　こんばんは、麻原彰晃です。

結論から言うと、最終戦争を避けることはできない。これは有名なマラキの予言、あるいはノストラダムスの予言、あるいはシャンバラの予言と呼ばれるものがすべて、最終戦争が起き、そして地球人類のすべてが滅亡するのではなく、その後、新しい時代が現われるのである、と説いています。この予言の内容に入る前に、まず、政治経済の動向を分析している石谷さんの話を少し聞いてみましょう。

石谷　はい、いろんな見方があると思うんですが、政治という観点から考えてみたいと思います。着眼大局という言葉がありますが、世の中の流れを大きく見る場合、時の政治の権力者がだれであるかが大切になってくるわけです。例えば、数年前のブラジルにおいては、政情が大変不安定だったことがありました。そのようなときは当然のこととして国運も不安定となるわけです。

石谷友輝夫（いしたにゆきお）
明治大学を卒業。その後「易」の研究を続け現在に至る。様々な運命学を研究する上で社会情勢・政治経済に通じ、そのジャンルの研究者としても一人者である。オウム真理教に出家後は様々な情報の収集、分析にあたっている。

日本の政治もここ一年間で大変な変化がありました。以前ですと自民党が安定的な政権を握っていたことによって、財界等もだいたいの方向性が見えていたわけですが、九三年から九四年にかけてわずか一年間で四度も政権が変わったことは戦後の日本ではなかったわけです。こういう点から考えて、今の状況はとても先が読みにくくなってきているのではないかと思います。

尊師　石谷さんは、経済と、それから戦争の関係についても意見がおありですよね。

石谷　はい。経済ですが、ここ一年間の経済を見たところ、非常に変化が多い。特に、今の経済は一九二九年の世界恐慌が起きたときと似ているということがよくいわれています。ところが、世界恐慌のときにははっきりとした形で出てきた不況が、今はあまり形としては出ていないように思うんですね。ボディーブローのように、徐々に徐々に不況が進んでいるのでしょう。

例えば今年の新聞記事では、新卒者の昇給がストップしたという記事がありました。また、最近の新聞では、国税庁の調査によると、去

年のサラリーマン・OLの一人当たりの平均年収が、四百五十二万円で、この数字は、一九四九年の調査以降、四十五年ぶりに初めて〇・六パーセントマイナスになったと載っていました。今年、特に女子学生は、非常に就職が難しかったのですが、この状況だけ見たとしても、来年あたりからは多くの失業者が出たりして、「就職難」どころの問題ではなくなってくるのではないかと思います。

そういった点から見たとしても、大変な不況なんですね。そして、不況の後には、今までの歴史を見た場合、戦争に至っている場合が多いんです。例えば、一九二九年に世界恐慌が起こりましたが、それが完全に回復したのは、ニューディール政策など、いろいろいわれてはいますが、一九三八年のいわゆる第二次世界大戦まで

聖者ティローパ正悟師

大阪府立大学大学院緑地工学コース（修士課程）修了後、大手建設会社土木技術部に勤務。後、マーケティング、社会調査のコンサルタント、シンクタンクを経て独立。出家後、オウム真理教建築部門のトップとして活躍。

待たなければいけなかったのです。あるいは、日本においては朝鮮特需がありますね。必ず、破壊の後に再生する。不況は「つくられるものだ」という視点から見たときに、今の社会情勢の大きな流れは、そういった方向に行くのではないかと思います。

また、先程述べたような観点で、世界の歴史をずっと過去にさかのぼって見ていくと、人間というのは何も進歩していないのではないかなと感じます。人間が作った兵器で、今まで使われなかったものはないともいわれていますし。日本は今、一見平和のように見えますが、このような問題を考えると非常に……、

尊師　危険な状況であるということですね。

石谷　はい、そうです。

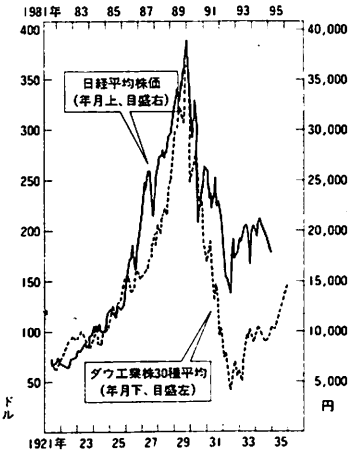
尊師　これは、やはり同じように、社会の動向について注意深く検討しているティローパ正悟師の意見を聞いてみましょう。

ティローパ　わたしも、石谷さんがおっしゃった意見と基本的に同じです。確かに、世界恐慌が起こったときにニューディール政策云々で解消したように、歴史的には教えられています。けれども、実際、恐

世界恐慌ふたたび

一九二九年の世界恐慌と、近年の経済状態はまさに同じグラフを描いている。今後の経済動向に関して、楽観的な見方は許されない。

日経平均(1981-95年)とNYダウ(1921-35年)の比較

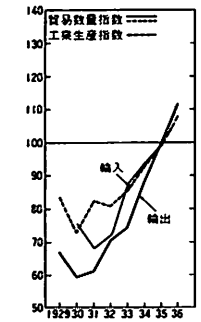


恐慌から復興するために……

世界大恐慌の影響を、植民地を持つ英・仏はブロック経済でしのぎ、国土の広いアメリカはニューディール政策によって回避した。

だが、領土も資源も持たない日本は、軍需産業を振興させる以外になかった。犬養内閣は軍事費増加などによって積極的に財政資金をばらまき、需要をつくり出した。このため、日本は諸国に先駆けて恐慌を脱したが、そのため軍部の影響を強め、諸外国との対立を深める結果となったのである。

貿易数量指数と工業生産指数
(1929-1936)



1929　世界大恐慌開始
31　犬養内閣／満州事変
32　満州建国／五・一五事件
33　国際連盟脱退
36　二・二六事件

慌というのは戦争以外では絶対に解決しないと思います。今現在の社会情勢を見ますと、明らかに恐慌に突っ込んでいます。そうすると、次に来るのは、同じように戦争以外にはない。

ところで、ここで「恐慌が起こっているから戦争が起こる」、あるいは逆に「戦争を起こさんがために恐慌がある」という見方もできるのですが、わたしは後者もうがった見方ではないと考えています。いずれにしても、今の世の中の動きは、偶然にそうなっているのではなくて、明らかに何らかの意思のもとに、戦争に突っ走っていると感じるわけです。

●いつ訪れてもおかしくない——戦争・死

尊師　マンジュシュリー正大師、よく第二サティアンビル、あるいは第七サティアンビル、第十サティアンビルに、空からのお客様があると思うわけだが、F／A18ですか?

マンジュシュリー・ミトラ　ええ、F／A18ホーネットです。

尊師　どういう飛び方をしますかね。あの飛行機は。

マンジュシュリー・ミトラ　まず、接近するまでは普通に飛んでいるのですが、上空で垂直降下、旋回、宙返り。それは、アフター・バーナーをひらめかせながらやっています。必ず二機で来ます。

尊師　オウム真理教にとって、この戦争というものは、これから例えば何年後かに起きるとして、一般の人にはそのような認識で受け止められるかもしれませんが、わたしたちにとっては、よく米軍のＦ／Ａ18ホーネットが飛んできて、実際にいつミサイルを発射されるかわからないというような状況に絶えず置かれています。

したがって、わたしたちはそのような意味において、死というものを絶えず意識しなければならない。これはこのラジオ放送を聴いている皆さんもそうです。わたしたちが、戦争に巻き込まれようと、巻き込まれまいと、この死というものは絶えず認識する必要があります。

そこで皆さんに、一曲歌のプレゼント。「さまよえるバルド」。

Ｆ／Ａ１８ホーネット　『エアワールド』1995.2

●予言を読む（一）　キリスト教は、まもなく終わる

尊師　わたしはたくさんのヴィジョンを見ています。しかし、これらのヴィジョンはあくまでもわたしの見たもの。そして客観的に現象を推し量る場合、それはわたし以外の、今まで的中率の高い予言者がどのように未来を見ているのか、この検討から入る方がよろしい。

したがってまず、最も重要な予言の一つであるマラキの予言。このマラキという人がどういう人であり、また、この人がどのような形の予言をしているのかについてヴィマラ師に話をしてもらいましょう。

ヴィマラ　はい、このマラキという人は、十一世紀にアイルランドで生まれまして、聖職者として非常に高い地位にあった人です。彼は、彼以降の歴代教皇、全部で百十二名の教皇に関して短い簡単な予言を残しています。

これを見ると、現在の教皇――ヨハネ・パウロ二世ですが、彼はマラキの予言した百十番目の教皇に当たり、「太陽の活動」、あるいは「太陽の労働」と述べられています。

尊師　ヴィマラ師、つまり、このマラキの予言によると、あとヨハネ・パウロ二世を入れて、三

ボーディサットヴァ・ヴィマラ師
京都大学理学部入学。フランス語ほか様々な言語に精通し、オウム真理教に出家後は16世紀フランスの大予言者ミッシェル・ド・ノストラダムスの予言詩の翻訳・研究に当たっている。

人しかいないということだね。

ヴィマラ　はい、そうです。

尊師　だいたい歴代教皇というのは数年から、長くとも十年ぐらい。役職につく時期というのはその程度だから、長くても最大で見て、二十数年。そして、短ければ――特に末期になると交代は早いだろうから――あと数年でこの教皇すべてが予言として通過し、そしてキリスト教が終わるかもしれないということだね。

ヴィマラ　はい、そうです。

尊師　残りの二人の教皇については、どのように予言しているのかな。

ヴィマラ　はい、次の教皇に関しては「オリーヴの栄光」で、最後の教皇として「ローマ人ペテロ」であると述べています。

尊師　この「オリーヴの栄光」というのは、非常に深みのある言葉だとわたしは感じます。マンジュシュリー正大師、オリーヴというのはノアの方舟のときに確か、鳩がくわえてきた枝だよね。

マンジュシュリー・ミトラ　そうです。新しい陸地の象徴という。

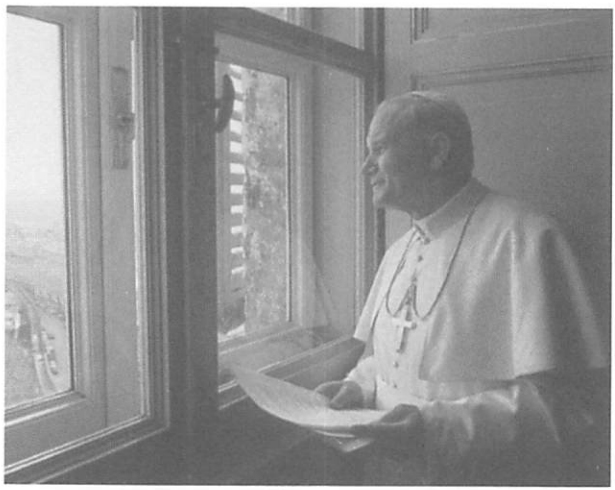
尊師　つまり、生き残る、「最終戦争あるいは神の裁きによって生き

残る栄光を与えられた者」という意味に取れるよね、これは。その次の最後の教皇は「ローマのペテロ」と。

ヴィマラ　はい。

尊師　このペテロは、キリストが十字架にかけられたとき三度、「わたしはキリストを知らない」と言ったキリストの弟子であると。つまり、弟子として非常に心の弱い弟子である。しかも、「ローマの」と言っているからイタリア出身、あるいは今すでに法王庁はローマにあるから、ローマに存在する気の弱い、心の弱い、そして心では真意を持てるかもしれないが、口においてはキリストを否定する魂が最後の法王になると予言しているんではないだろうか。

ヴィマラ　はい、わたしもそう思います。



ローマ教皇ヨハネ・パウロ２世　『TIME』1995. No. 52

●予言を読む（二）

善業と悪業のバランスが九五年を決める

尊師　このへんについては、石谷さん、易ではどうですか。この九五年、九六年、九七年あたりのエネルギーの流れは。

石谷　そうですね、「大気現象学」、「気学」と一般的に日本でいわれているものがあります。それによると、来年になると「五黄中宮」という年になりまして、非常に殺伐とした時代に突入すると同時に、天地の連携が悪いというような象意が出ています。この二、三年は大変な時代になってくるのではないでしょうか。

尊師　だいたい、五黄が中宮に入ると、すべては定位に入りますから、象意が激しいということですよね。

石谷　はい。

易で見る九五年

先天盤において、南の「乾」は天を表わし、北の「坤」は地を意味する。

平成七年（一九九五年）の盤では、先天盤の「乾」の位置に「九紫火星」が、「坤」の位置に、「一白水星」がくる。壊滅・天変地異という意味を持つ「五黄」を中心として、南北の「九紫」と「一白」は「水剋火」という五行の理により、天地の連携が悪いということになる。

先天盤

南

巽四	乾六	兌七
坎一		離九
艮八	坤二	震三

北

1995年（平成7年）
五黄中宮の盤

二	九	四
七	五	三
六	一	八

尊師　つまり、もし今の日本人が善業を積んでいるとするならば、九五年は素晴らしい年になるだろうし、もし悪業を積んでいるとするならば、その報いを受ける。つまり、果報と報いを受ける年、これが五黄中宮の年だと考えてください。

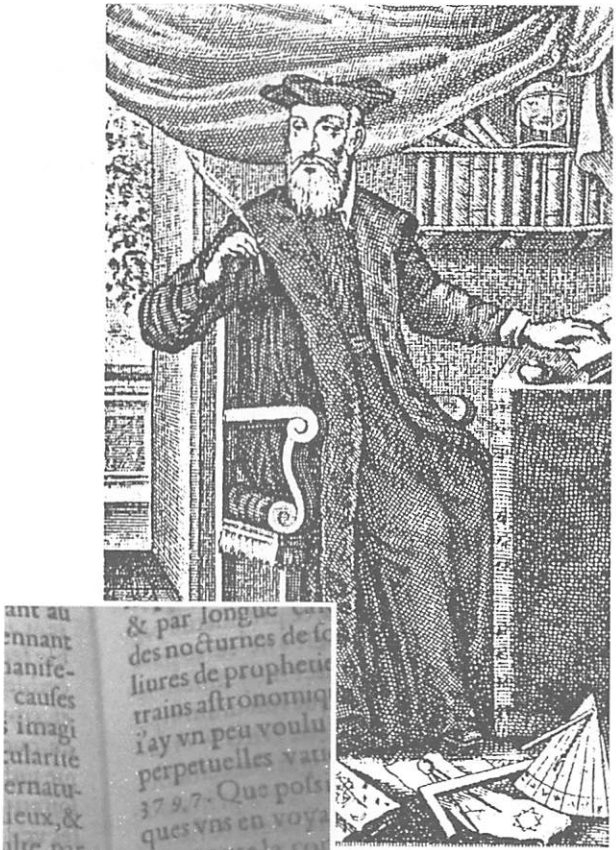
●予言を読む（三）　天変地異、そして最後の戦争へ

尊師　ところで、ノストラダムスの予言では、ヴィマラ師、どうなっているんだ。最終戦争が起きるのか。

ヴィマラ　彼の予言詩、『諸世紀』に書かれたカエサルに宛てた序文というのがあります。ここを読むと、世界的な紛争がある。その最後の紛争の前にたくさんの天変地異などが起こり、世界が破壊され、それから最後の戦争が起こると書かれています。

尊師　うん。この「最後の戦争」というのは、非常に意味深の言葉であると考える。つまり、最後というのはこの地上が続く限りあり得るのだろうか――区切りにおける最後と考えたらいいと思います。

　このノストラダムスの予言を裏づけるかのように、チベットの成就者であられるカムトゥール・リンポチェが、若いとき瞑想修行に入られ、そしてアストラルへ飛ばれた。そこで、ダーキニー



16世紀の予言者ノストラダムスと『諸世紀』の序文

麻原彰晃尊師とカムトゥール・リンポチェ師の交流（1991年5月）

の導きによって、シャンバラへといざなわれた。そして彼はそこで、多くの予言の内容について聞き、それを持ち帰り、記しました。チベット動乱によって、その予言の書かれたノートを彼は紛失しましたが、記憶している予言についてはほとんど成就し、そしてこの最終戦争については非常にわたしたちにとっては納得しやすい答えを示してくれました。

つまりもし、今の人類が善業を積むならばあと数百年後に起きるだろう。しかし、そうでなければ百年以内に起きると。この百年以内に起きるというスタートの年号が一九四〇数年ですから、二〇四〇数年までには起きるということになります。

そしてカムトゥール・リンポチェが、ほとんどの予言が成就したと言っていることと、それからポイントとなる国は何かというとイタリアである――このイタリアであるということと、先程のマラキの予言の最後の「ローマのペテロ」という詩、この二つの共通性を見ても、わたしたちが注目をしなければならない国、それはイタリアだなと見ることができるでしょう。そ

して、確かに第一次世界大戦にしろ、第二次世界大戦にしろ、イタリアという国は非常に重要な役割を演じています。戦争を勃発させている国です。

では、最終戦争の様態は最終的にどうなるのかというと、これはシャンバラの王・ルドラチャクリンと、そして愚鈍なる魂との戦い――ヴェーマチッタという言葉が使われていますが、愚鈍なる魂との最終の対決ということになります。これは、オウム真理教の信徒の方であるならばよく理解できると思いますが、アフラ・マズダーとそしてグリフォンの対決というゾロアスター教の教えと非常に類似しています。つまり、今世紀の終わりに起きるかもしれない聖と邪の最終戦争、これは、今から数千年前からの多くの予言者たちの最後に見るヴィジョンのようです。

シャンバラの王、ルドラチャクリン

したがってわたしたちは、この戦いは起きるものであると考えたらいいと思います。そしてわたしはそのときは堂々と戦いたいと思います。

わたしの最も好きな曲「戦え！ 真理の戦士たち」新ヴァージョン。どうぞお聞きください。

《戦え！ 真理の戦士たち》

◎第二部　最終戦争で使われる兵器

●兵器の推移――第一次、第二次、第三次世界大戦

尊師　ところで、ヴァジラパーニ、第三次世界大戦が起きることが間違いないとして、この第一次世界大戦、第二次世界大戦、第三次世界大戦に使われ、そして使われるであろう兵器の推移というものは、どのように考えているんだ。

ヴァジラパーニ　はい、まず現代使われております主要な兵器、これらの原型はすでに第一次世界大戦において現われています。例えば戦車、これが現われましたのは、第一次世界大戦中の一九一六年のことです。また、よく知られているように原子爆弾、いわゆる原爆が現われたのは第二次世界大戦においてです。こういったかたちの以前からある兵器が、戦後時間をかけて、より高度なものに変わってきていると考えられます。これがまずひとつ。

　これらに加えて、軍事研究というのは常に我々の知らないところで行なわれておりますから、現在一般には現われていない兵器といったものが当然あるだろう、そしてそれは必ず使われるであろうと思われます。

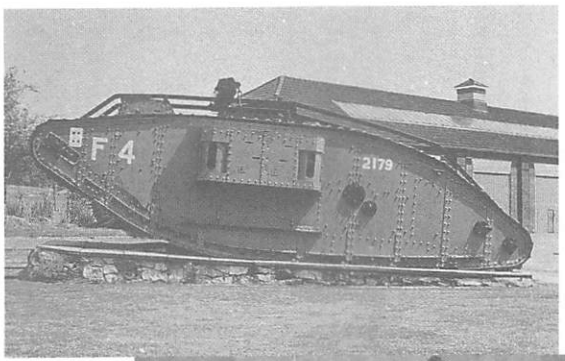
ボーディサットヴァ・ヴァジラパーニ師長
1986年、東京大学理科Ⅰ類入学。90年、同理学部物理学科を卒業し、大学院理学系研究科物理学専攻修士課程に進む。専攻はおもに素粒子理論。その後博士課程に進み、92年、オウム真理教に出家。物理学のエキスパート。

尊師　マンジュシュリー、だいたいどういうものが、新しく登場する可能性があるか。

マンジュシュリー・ミトラ　はい、それには今までの兵器の推移を見てみるとよくわかると思います。例えば弓矢。これは、人間が動物に打ち勝った兵器といえるわけですけれども、これはだいたい一〇〇ジュールぐらいのエネルギーを持っています。一ジュールというのはだいたい一キログラムのものを一〇センチほど持ち上げるのに要するエネルギー。ガソリンでいうと、四万分の一グラムが燃焼すると一ジュールになります。それが、大砲の玉ぐらいになりますと、五〇〇キロジュール。倍率でいきますと五千倍という大きなエネルギーになります。そして次に爆弾が使われるようになりますと、例えばTNTの一トン爆弾で四二ギガジュール。ギガというのは一〇の九乗です。

尊師　一〇の九乗というのは、君たち物理学者だとわかりやすいわけだが、一般の人にわかりやすいように。

マンジュシュリー・ミトラ　はい、一〇の九乗というのは、十億ですね。ですから、四二×一〇の九乗の場合には、四二億ジュールとい



上　史上初の戦車　英陸軍マーク1
下　戦車の機能は多様化している。潜水走行できるレオパルト2
【兵器最先端 4】読売新聞社

兵器の破壊エネルギー ——— 弓矢を1としたときのエネルギー比

弓矢	100ジュール		1
大砲	50万ジュール	5000倍	5000
TNT1トン爆弾	42億ジュール	8400倍	42000000
広島型原爆	50.4兆ジュール	12000倍	504000000000
1メガトン原爆	4200兆ジュール	83倍	42000000000000

うことになります。それが原爆になりますと、広島クラスの非常に原始的なものでも、ＴＮＴ一万二千トン分ということになり、非常に大きなエネルギーになります。さらに今の配備されている核弾頭は、標準で一メガトンぐらいですから、ＴＮＴ百万トン分のエネルギーを持っているわけですね。四二億×百万ジュールあるんです。エネルギー的にどんどん大きくなっていったわけですが、この例の原爆・水爆の問題としましては、全方向に広がっていきますから、効率が悪い。そこで、例えばレーザーのようにそのエネルギーを一方向に集中することのできるようなエネルギー密度の高い兵器、あるいはコントロールのしやすい兵器、といったハイテク的な兵器がどんどん増えてくるのではないかと思います。そのような方面に科学研究費と称して巨費を投じられているというのも、やはりくさいですよね。

●究極の秘密兵器――プラズマ兵器

尊師　秘密兵器研究家というか、そういうあらぬ情報に詳しいティローパ、どうだ。

ティローパ　はい。確かにおっしゃるとおり、いまだ隠された情報といいますか、本当にあるのかないのかわからないところもあるんですけれども――わたしはあるのではないかと思ってるんですけども――その一つに、よくいわれるプラズマ兵器があります。これは非常に高温、だいた

い四千度ぐらいの温度を瞬時に出せるわけです。核に比べると非常に綺麗といいますか、条件次第ではコンクリート、それから鉄を通過しますので、どんな場所にいても生命体だけを殺ることができます。

尊師　生命体というのは人間だけのことだね。

ティローパ　そうですね、人間、猫か牛とか、犬もおりましたけれど、そういうものも含めて、高熱によって殺ってしまうということができる。非常に逃げ場のない、究極の兵器といえると思います。

尊師　ちょっと待って。まずプラズマについてだけど、物理的にプラズマについて、ヴァジラパーニの方に説明を求めたい。

ヴァジラパーニ　はい、プラズマという言葉自体は非常にポピュラーになっていると思われますが、物理的には正と負の電荷が等量存在し、全体としては電気的に中性であるような一種の気体の状態、これを指しております。気体とはいいましても、電気的な効果が顕著になるため、通常の気体とは非常に異なった振る舞いをします。このため、個体・液体・気体に続く第四の状態と呼ばれることもあります。

尊師　それが、マンジュシュリー、ティローパの言うとおり、ものすごいエネルギーを兵器として発するぐらいの力があるのか。

マンジュシュリー・ミトラ　そうですね、温度的には今四千度とおっしゃいましたけど、例えば四千度から百万度といったように、プラズマ自体の温度はエネルギー状態によってものすごい幅をとることができます。そしてその温度と分子運動、そしてそこから放射される電磁波、熱等によって様々な影響を与えることができます。では、具体的にそのプラズマをどうやって発生させるかというと、これもいろいろな方法がありますが、例えばマイクロ波を使う方法というのは非常に簡便で効率的だといわれております。

尊師　そうか、よし、よくわかった。ティローパ、続けてくれるか。

●プラズマ兵器の実用性

ティローパ　はい。マンジュシュリー正大師もおっしゃいましたように、やはりマイクロ波を使った形でのプラズマ兵器というのは研究されているのではないかと思います。マイクロ波の場合、三点から照射して、その三方向の交点にプラズマが発生するといわれています。ただ、その場合、これを有効に使うため——地球のどこにでも、プラズマを起こさせるためには、やはり宇宙からの攻撃といいますか、要するに人工衛星クラスのマイクロ波を発生させる施設からできるようにしておくわけです。地上からももちろんできますけれども、より、どういう場所にでも攻撃する

報道されない超秘密兵器

湾岸戦争当初、イラク兵の死者は十数万人に上ると見積もられていた。しかし、戦場で発見されたイラク兵の死体は八千体余り。残る大半の死体は「消滅」したことになる。

戦場には、戦車が放置されたままで、人の気配のない場所が多く存在したという。例えば、激戦地クウェート市北西のマトラー峠でイラクの戦車・戦闘車両が数千台が破壊されていた戦場でも、死体が全く存在しなかったのである。兵士たちはどこに消えたのか。あわただしく撤退したのだとするには不自然な状況。まさに兵士は瞬間的にその場から「消えた」としか言いようがない。

――その答えは、プラズマ兵器。

この原理は、基本的には電子レンジと同じである。電子レンジの場合、マイクロ波により、食品中の分子が分極する。この分極した分子が急激な回転運動を起こし、発熱する。周囲から熱を与えられるのではなく、食品自体が熱を発するのである。

プラズマ兵器は、地上から発射されたマイクロ波を人工衛星で反射させ、地上を狙う。複数のマイクロ波の焦点をずらすことによって、宇宙から自由に地上の標的を狙うことができる。

そして、電子レンジと同じく、建物や戦車自体は全く傷つけることなく、中の人間だけを超高温によって蒸発させてしまうのである。戦車は戦場に放置されたのではない。突然、乗員だけが蒸発したのだ。

攻撃後は、核・生物・化学と異なり、放射能も細菌も毒ガスも残らない。極めて「クリーン」な兵器である。必要な施設は完全な形で残る。さらに、地中深くに隠れた人間でも簡単に消滅させられる。兵力を派遣する必要もない。また、自国に侵入してきた敵国のあらゆる兵器――核ミサイルから爆撃機まで――を容易に撃退できる。

まさに「理想的」な究極兵器なのである。

ことができるようにするためには、人工衛星網の発展と一体になって開発されるのではないかと思います。ちょっとくさいと思われるのは、そういう兵器ができつつある段階と合わせて、SDI構想、防衛構想等がしきりにアメリカ等から出てきたことです。そういうところから考えても、現実に実現されてる可能性が非常に高いと思います。

尊師　要するに人工衛星からマイクロ波を発信して、そしてこの地上のある点においてプラズマが発生するということだね。

ティローパ　はい。現に世界中で、正体不明の、人体から発火する現象などが起こっています。盛んに人知れず実験がなされているのだと思います。

尊師　そういう、人が燃える現象とかいうのは実験だと考えたらいいんだね。これについてはどうだ、マンジュシュリー。

マンジュシュリー・ミトラ　そうですね、確かに何らかの実験だと思いますが、マイクロ波の場合の問題は、波長の関係で、あまりスポットを小さく絞れないという問題がありますね。人工衛星にもいろいろ種類はありますが、例えば静止軌道上に、ある人工衛星を置いたとしまして、地上に一キロ程度の照射範囲を設けるとするならば、そのアンテナは八キロほど必要になります。ですから、人一人という大きさよりはもう少し広いエリアに対する作用ではないかと、個人的には思っておりますが。

尊師　以前インドで町全体が急に炎に包まれたという話があるんだが。

マンジュシュリー・ミトラ　それはちょうど合致するようなスケールですね。ビームの広がり方というのは、電磁波でいいますと波長に比例します。要するに振動数が大きくなればなるほど、広がり方は狭くなりますから、指向性がよくなるという現象を考えるならば、やはりレーザーによって鋭いビームというのが有効ではないかと思います。

尊師　ということは、この第三次世界大戦においては、兵器は進化する。そしてそれは例えば、マイクロ波あるいはレーザーを使ったような新しい型の兵器であるということだね。

マンジュシュリー・ミトラ　少なくともその二つは使われると思います。

●従来の兵器も使われる

尊師　他にどういう兵器が使われるかな。

ティローパ　はい。確かに新しい型の兵器――レーザー、ビーム兵器、粒子ビーム兵器等は使われると思いますけれども、第二次世界大戦で初めて登場し、なおかつその後発展した兵器、これもやはり使われるだろうと思っております。これが核兵器ですね。その核兵器の使われ方は、二十メガトンとか、十メガトンといったような、非常に大きなものも使われるでしょうし、あるい

プラズマ兵器の実験か？
謎の人体発火現象

一九九〇年十月、フランスのパリ郊外にあるセントメアリー大学で、この奇妙な事件は起こった。体育の授業を終えたマレリー嬢がシャワーを浴びていると、突然、体中が炎に包まれたのだ。

「助けて！　体が燃える！」

騒ぎを聞きつけてシャワールームには二十人ほどの人が駆けつけたが、どうすることもできなかった。そして通報を受けた救急車が到着したときには、すでにマレリーは一握りの灰と化していた。その後、警察により現場検証が行なわれたが、火元となるものは何も見つからず、発火の原因は謎に包まれたままとなった。

一九九一年九月には、ブラジルのリオ・デ・ジャネイロで、同様の事件が起こった。砂浜で日光浴をしていたカルメン・カストロさんの全身が、突然炎に包まれたのだ。周囲にいた人たちは彼女の身体に砂をかけて火を消そうとしたが、あっという間にカルメンさんの身体は燃えつき、歯と骨のごく一部が残されただけとなった。

この種の人体発火現象というのは、思ったよりも頻繁に起きている。ヨーロッパで特に多いが、実は日本でも起きているのだ。しかし事が現実離れしているだけにまともに取り上げられにくく、そのほとんどは、焼身自殺をしたのだとか、原因不明の出火とか落雷といった理由で片づけられてしまっている。

いずれの人体発火現象にも共通するのは、火の気のないところから突然体が燃え出すということと、その火力が短時間に骨まで灰にしてしまうほど強力だということだ。また冒頭の二つの例などをみると、シャワーの水を浴びていても発火した点、砂をかけても火が消えなかったという点から、通常の酸素による燃焼ではないということが考えられる。そこで出てくるのがプラズマだ。人体発火現象をプラズマによるものだとすれば、見事にすべての特異点の説明がつくことになるのだ。

バングラデシュでの大実験

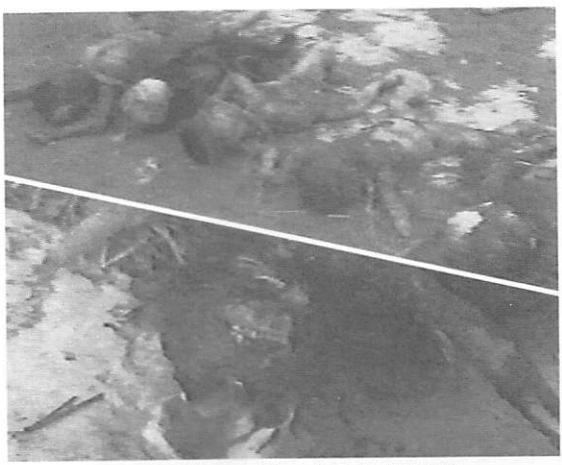
九一年四月――湾岸戦争後しばらくして、バングラデシュをサイクロンが襲った。サイクロンは、日本の台風と同じ熱帯性低気圧である。このサイクロンにまぎれて、バングラデシュの一般市民がプラズマ兵器の実験台として虐殺された。

写真を見てほしい。これは、サイクロンの暴風雨が去った後に発見された「丸焦げ」死体である。水死体ならわかる。真っ黒焦げの死体がなぜ存在したのか。

生存者の証言によると「炎のカーテンが海から陸に向かってきた」という。炎のカーテン――それは、プラズマ兵器による炎以外の何ものでもない。

このサイクロンのときの行方不明・死亡者数は、約二十万人という。もちろん、純粋なサイクロンの被害者もいるだろうが、プラズマ兵器の犠牲者がどのくらいの割合になるのだろうか。

新兵器は続々と開発され、戦争や災害の名目で冷酷な実験が繰り返されているのである。



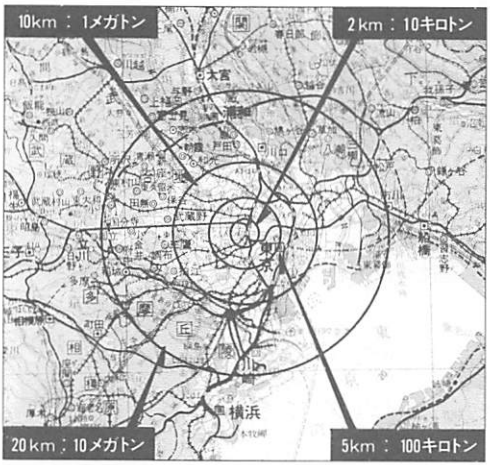
上・下：サイクロンが去った後の「丸焦げ」死体

はもっと小型化した、非常に限定性のあるものも開発されてますので、そういうものもかなりの確率で使われるのではないかと思います。

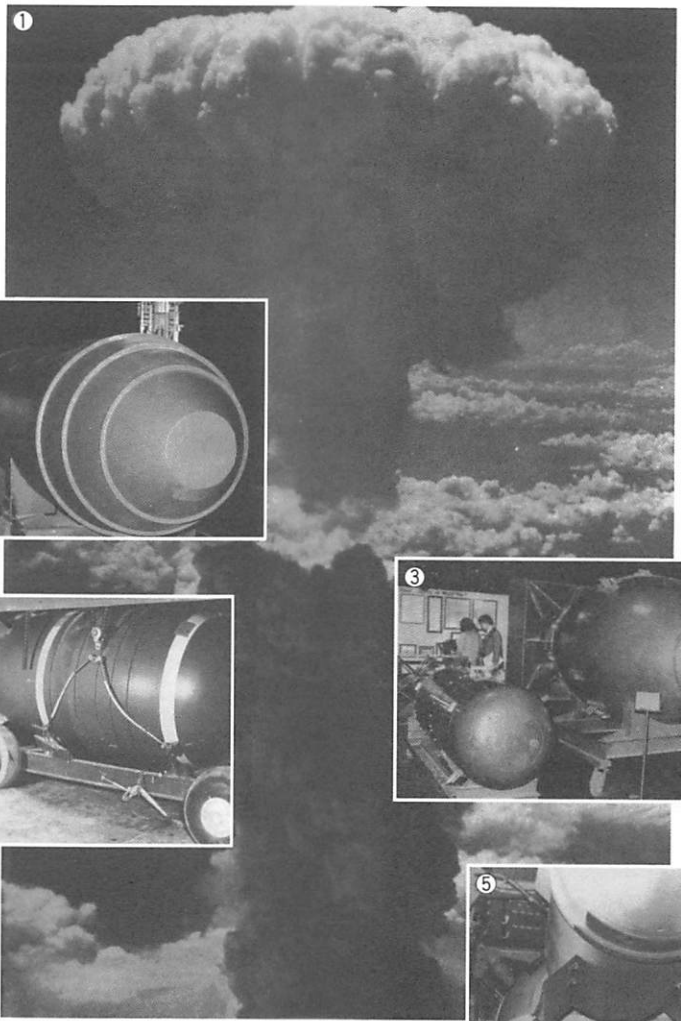
マンジュシュリー・ミトラ　確かに、F／A18ホーネットも、核攻撃能力を持っており、そのシミュレーションをやっているのではないかとわたしたちも思っております。

尊師　これは明らかに、オウム真理教においては、超能力をつけ、そして予知し、それを避けるしかない。人はだれでも神秘の力を有している。さあ皆さん、「超越神力」をお聞きください。

《超越神力》



東京都庁上空で核兵器が炸裂した場合の爆風と熱風による致死範囲



① 爆発威力23キロトンの炸裂によって立ち上ったキノコ雲（長崎）
② 最大威力11メガトン、重力21トン、全長7.47メートルという巨大な米軍初の実用水爆。1954年、ビキニでテストされた
③ 長崎に投下された“ファットマン”（右）と広島に投下された“リトルボーイ”（左）
④ キロトン級の量産型Ｍｋ６原子爆弾
⑤ 爆発威力20メガトンのＢ36水素爆弾
「兵器最先端　[7]」読売新聞社／「核戦争後の世界」水曜社

◎第三部　防御の条件

●兵器の特徴を見極めた防衛法

尊師　やはりいつものように、ハプニングが起きた。ブレーカーが落ちていないのに、この部屋の電気が全く使えなくなったと。これはわたしが旅行すると毒ガスが噴霧されたり、あるいは先程述べたとおり米軍の海軍の戦闘機がわざわざ富士山まで戦闘訓練をしに来る、等々見ても、特異な現象です。

しかし、これらは逆に、わたしたちに防衛というものがいかに大切なものであるかを教えてくれます。二番目のコーナーで出てきたいろいろな兵器、この兵器に対してどのようにしたら防衛することができるのか。それについてまず、肉体的な面からクリシュナナンダにお話をしていただきましょう。

クリシュナナンダ　はい。人間は生物ですから当然、生理学的な限界は持っていまして、それらの兵器がまともに使われた場合、そして何らの防衛の処置を採らない場合には、もうお手上げということになります。具体的にはシェルターなどになると思うのですが……。

ボーディサットヴァ・クリシュナナンダ師長
日本の心臓外科の第一人者。慶應大学医学部を卒業後、同大学の医学部に勤務、その後アメリカの心臓血管外科研究所で活躍。国立療養所晴嵐荘病院循環器科医長、および医局長を経てオウム真理教に出家。現在オウム真理教附属医院医院長。

尊師　しかし、例えば広島で原爆投下された際に、白い服を着ていた人と、黒い服を着ていた人によって、その被爆の度合いが違ったとか、いろいろあると思うんだが。

クリシュナナンダ　はい。それぞれの兵器の特徴、例えばそれは熱を主体とするもの、あるいは爆風を主体とするもの、といった特徴を緩和して攻撃力を弱めるということも可能だと思います。

尊師　ここのところは、具体的にマンジュシュリー・ミトラの方が詳しいかな。

マンジュシュリー・ミトラ　そうですね。まず、通常兵器に関しては、厚い防護壁、これがあれば大丈夫だと思います。例えばいちばん初めの弓矢程度でしたら、板でも大丈夫ですが、機関銃ぐらいになりますと、口径一二・七ミリのもので一インチの鋼板、鉄の板を打ち抜くことができるとなっています。

尊師　一インチですか。

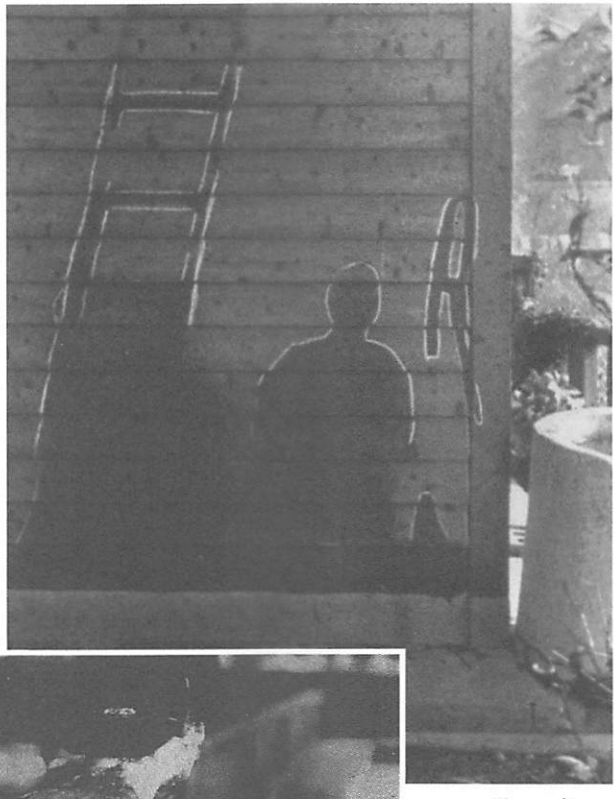
マンジュシュリー・ミトラ　一インチ、つまり二・五センチくらいですね、だいたい。そして、大砲ぐらいになるともう少しエネルギーが

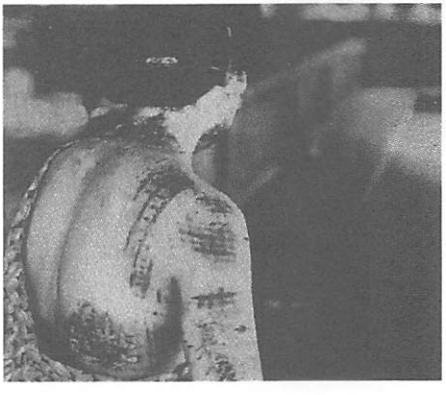
大きくなってまいります。この大砲にはいろんな種類があって、例えば破片を主体とするもの——これは、上空で破裂して破片をまき散らし、それに人が当たると死ぬというもの。これについては、速度といいますか、運動エネルギー自体は一つ一つはそれほど大きくないので、機関銃と同じように網板で防げます。それから、一かたまりになって、運動エネルギーを強化されたタイプの運動エネルギー弾になりますと、三十センチぐらいの鉄板をぶち抜いてしまいます。

このあたりは建築で防げると思うんですが、放射線をまき散らす原爆のたぐいになりますと、まず爆風、これは巨大な圧力の衝撃波のかたちでやってまいりますよね。それから熱線。この熱線に関しては、先程尊師がおっしゃったように、白い服と黒い服では熱線の反射が違いますから、当然白い方が被害が少ないということになります。それから露出している皮膚の部位、ここは非常に弱点ですから、そういう皮膚の露出が多いほどもろいということになるわけですね。それから放射線。放射線にもいろんな種類があります。例えばγ(ガンマ)線。これは厚い鉛等で、できるだけ原子番号の大きな物質で防ぐしかないものです。それから中性子。これは中性子爆弾と称して、中性子だけ非常に大量にばらまくものも開発されているようですが、これに関しては鉛等よりも、むしろ水素を含んだもの、例えば水の方が防御できるということになっています。

尊師　レーザーとか、あるいはマイクロ波についてはどうかな。

マンジュシュリー・ミトラ　そうですね、レーザーの場合は、これも波長帯によると思うのです





上　爆心地から四・四㎞地点で板に焼きついた防空監視兵の影（長崎）
下　熱線で着物の柄の濃い部分だけが焼け、皮膚に焼きついた婦人（広島）
「Quark」一九九四年五月号　講談社

が、金あるいはアルミのきらきらとした、要するに鏡ですね。鏡で反射するという方法が最も有効ではないかと思っております。

尊師　ということは、例えばだよ、熱線の場合は鏡はどうなんだ。

マンジュシュリー・ミトラ　もちろん、白い服よりも鏡の方がいいです。

尊師　いいよね。

マンジュシュリー・ミトラ　はい。

尊師　だから、鏡を使った服、しかもその内側に薄い鉛の膜の入ったような服が開発されると被害はかなり少なくなるのではないだろうか。

マンジュシュリー・ミトラ　そうですね、早速作ってみたいと思います。それから、建物全体も鏡で覆えば、なおいいかもしれませんね。

●核兵器にはシェルターで備える

尊師　これについては建築の専門家であるティローパ、どうかな。

ティローパ　はい。熱線あるいはマイクロ波、放射線、それから爆風。それぞれ破壊する要素が違ってくると思うんですけれども、鏡というのは反射可能なものについては非常に有効だと思い

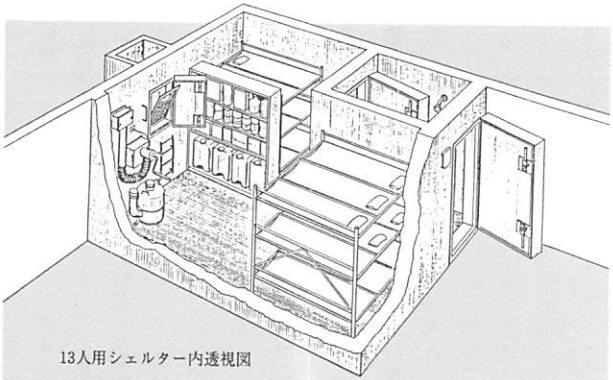
ます。原爆の場合、一次的な破壊においては非常に大きな爆風が生じます。これに対しての有効性は、やはり地下。地下に穴を掘って地下室を造る。いわゆる地下式のシェルターというのが大変有効であると思います。この地下のシェルターの場合のメリットというのは気密性が保ちやすいということですね。最初の爆風等による破壊を免れた後、大量の放射能が来ますので、それを防ぐためには気密性がないといけません。そういう気密性を確保するためにも地下で。鉄筋コンクリート、それも厚みがだいたい三十センチぐらいのもので造るというのが通常の地下のシェルターの造りです。こういうものが原爆にはよいだろうというように感じます。

尊師　そこでちょっと質問があるんだが、これはクリシュナナンダに対する質問になるんだが、例えば地下に入ると。そうすると大量の光を受けられないということがあるよね。

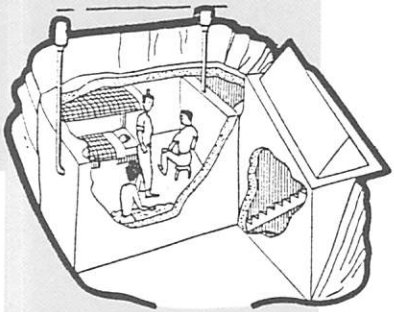
クリシュナナンダ　はい。

尊師　こういうものに対する対策というのか、あるいは実際の空気、新鮮な空気を地上から入れる、あるいは発生させる等あると思うが、このへんについてはどうなのかな。

クリシュナナンダ　空気に関しては、現在でも例えばフィルターを使いまして、かなりの防御ができるようになっていると思います。具体的にはわたしはデータを持っていませんが、各国でいろいろなシェルター造りが盛んに行なわれていて、それを専門としてやっている会社もあるということを聞いています。



13人用シェルター内透視図



地下コンクリート製の
シェルター図

クレムリン宮殿の地下には20メガトンの原爆の直撃にも耐え得るシェルターがあるといわれている

本当の自分と向き合ったとき、あなたはどうなる？
恐怖とパニックに陥る現代人、至福と歓喜に浸る修行者

サキャ神賢（仏陀釈迦牟尼）の説かれた原始仏教、そしてそこから発展したインド密教やチベット密教には、伝統的なリトリート修行が存在する。これは洞窟や、完全に密閉された個室に入り、数週間から数カ月、長いときには数年にわたって瞑想修行をし続けるというものである。

現代人の多くは、異性、食べ物、お金、遊び……と、常に自分の外側に幸福を求めて生きているが、これは実は心の内側に幸福が存在しないことの裏返しであるといえる。

外側に幸福を求めている限り、わたしたちはその外的条件に応じて幸不幸の浮沈を繰り返さなくてはならない。そして“死”によって外側の幸福がすべて奪われたとき、決定的な恐怖と絶望に陥るだろう。よってわたしたちは自分の内側にこそ、外的条件によって左右されない“絶対の幸福”を築かなければならないのだ。

修行者が異性やお金などの外側の幸福を求めないのは、幸福を放棄しているわけではなく、それ以上の幸福が自分の内側に備わっているからなのである。その意味において、リトリートのように外的な環境から遮断された環境で過ごすことは、修行者にとっては最高に幸福なひとときとなる。なぜなら、外的刺激から解放された意識の集中は、自然に心の内側へと向かうからだ。修行者は、そこで内なる幸福や歓喜を体験し、さらなる霊性の向上や心の成熟を得ていく。そして、それは常日ごろからの真理の探究、学習、および実践のたまものなのである。

尊師　日光については、ビタミンDの欠乏症というか……

クリシュナナンダ　そのようなものに関しては、現在手に入る薬剤でも十分まかなえると思います。

尊師　だいたい、何日ぐらい生きられると思うか。その地下の生活で。

クリシュナナンダ　それは、結局は備蓄次第ということになると思います。それよりもわたしが心配しているのは、そういう狭い空間に閉じこめられたときの、いわゆる心理的なパニックをいかにコントロールするかということの方が、重要になってくるのではないかなと思いますけど。

尊師　しかし、その心理的な問題については修行をすることによって、あるいは真理の教えを学び、記憶し、実践することによって乗り越えられるのではないだろうか。

クリシュナナンダ　はい、それは最もオウム真理教の特長とするところであり、得意分野でありますし、もし、オウム真理教の教義を取り入れて実践できたなら、生死を見つめて自己の内側を探究する絶好の機会ととらえるでしょうから、十分乗り越えられると考えています。

尊師　やはり、そのためにはね、皆さんに、ちょっと長い歌だが、覚者の記憶修習をしていただいたら、生命を延ばす上においては非常に利益になると思います。では、「覚者」。

《覚者》

●レーザーをはじき、マイクロ波をシールドする

尊師　ヴァジラパーニ。最新兵器の中でのマイクロ波、あるいはレーザーについての防護について、もう少し説明してくれるかな。

ヴァジラパーニ　はい。まず、これらの兵器に対する考え方としては、通常兵器のように「受け止める」のではなく、「はじく」あるいは「反射する」という方向を考えるべきであると思われます。例えば可視光のレーザーに対しては、可視光のほぼ全域にわたって反射率の高いアルミなどを用いる。あるいは波長が伸びてきて赤外の領域に入ってきたならば、いわゆる貴金属、例えば金とか銀を用いる。こういう対策が考えられます。ただ、建造物においてこれらを用いる際には、いくら反射するとは言いましても若干のエネルギー吸収は起こりますから、その冷却等を検討する必要はあると思われます。

次にマイクロ波ですけれども、これに対してはなるべく伝導率のよい金属、理想的には完全導体、つまり完全に抵抗のないものですね、こういったものでシールドするという方法が考えられます。

尊師　例えば？

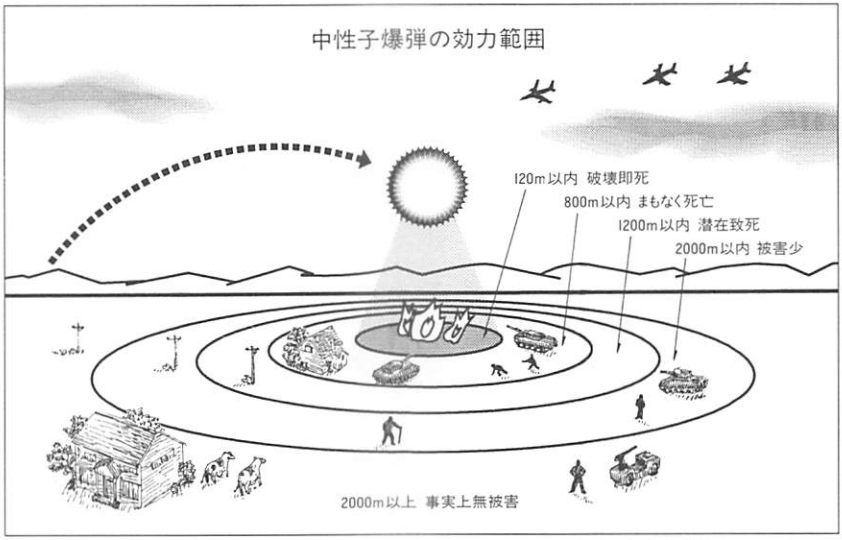
ヴァジラパーニ　はい、導電性がよいものとしましては、銀・銅などがありますから、こういったものを使うしかないかもしれません。

尊師　ティローパ。完全な防御ができるのか。

ティローパ　今の核爆弾クラスであれば可能だと思います。例えば、ロシアのクレムリンの地下には、二十メガトン級の原爆の直撃に耐えるというシェルターが造られているといわれています。アメリカもそれに匹敵する、あるいはそれ以上のものを造っていると思います。一般的なシェルターというのは、そこまでは強固ではありません。十メガトンクラスの原爆ですと三キロ四方、二十メガトンクラスでは八キロ内外のところは、シェルターがあってもだめです。しかし、それよりも離れますと、一次的な作用は防御できると思います。これが防御できれば、あとは放射能に対する防御ということになります。これはかなり可能なことだと思います。しかし、今ヴァジラバーニ師長がおっしゃいましたマイクロ波、あるいは尊師がおっしゃいましたレーザー、プラズマ兵器に対する対策、このへんも含めた総合的な、完全なシェルターとなると、これからの研究だと思います。

●修行が生存率を高める

尊師　クリシュナナンダ。もし、被爆した、あるいはもし、レーザーでやられたとしようね。この場合どういう方法を採ることが一番安全なのか。



中性子爆弾は、爆風・熱風による破壊範囲を核分裂爆弾の10％に縮小し、初期放射能を10倍に増大させたもの。そのため、爆発高度によっては、施設・設備をほとんど損傷せずに、人間・生物だけに被害を与えることが可能である。

クリシュナナンダ　難しい問題ですね。一つは被爆した場合、例えば放射能の害を、早く体外に出すということで……。

尊師　ということは代謝促進剤か。

クリシュナナンダ　代謝促進剤、その他を使うということでしょうか。

尊師　うん。

クリシュナナンダ　熱に関しては、皮膚は非常に弱いものですから、いわゆるやけどの処置ということになると思います。あるいは、今は合成の皮膚ですとか、豚などの動物から採取して抗原抗体反応を抑えた人工の皮膚というのがありますから、そういうものを用意して、皮膚の再生を待つというような方法を採らざるを得ないのではないかと考えています。もちろん、被爆しないように工夫はしなければならないと考えています。

マンジュシュリー・ミトラ　尊師、それについてはわたしも一つデータがあるのですが。

尊師　はい。

マンジュシュリー・ミトラ　例えば、放射線を浴びた場合、同じ線量を浴びても、照射のときに無酸素、あるいは低酸素の状態におかれた生体は、被害が少ない、あるいはないというのがあるんです。ですからこれは、例えば修行によって、酸素の取り込みが減った場合、あるいはサマディによって呼吸が停止して、いわゆる無酸素状態に到達した場合には、たとえ放射能を浴びても被

害がないかもしれない。

尊師　これは、実験は非常に危険だからね、なかなか難しいけども。しかし、修行することによって被害を受けない可能性があるということだけは一つ言えるよね。

ティローパ　尊師。そういうところまで行くまでもなく、シェルターの中は非常に気密ですので、実際に攻撃されるときには、密閉された状態になります。空気は、だいたい一人あたり二・五立方メートルぐらいしかありませんから、普通の呼吸でしたら二、三時間しかもたない。ところが修行によって呼吸量、代謝が落ちた場合には長時間生存することができますし、一人しか生き残れないところは二人、というようなメリットは確実にあるということですね。

尊師　ということはやはり、プラーナーヤーマによって呼吸回数を減らし、そして徐々に酸素の取り入れが少なくなっても平気の状態をまず作ると。そして最終的には、無呼吸状態、つまりサマディの状態に至るということが、一つのポイントのようだね。

ところで、この最終戦争の後どうなるのか。これはチベットの、先程述べたカムトゥール・リンポチェの予言では、ルドラチャクリンが勝利し、そして地球全体が仏教国に変わると予言されています。また、ゾロアスター教の予言ではアフラ・マズダーが勝利し、そして、神の王国になると。また、キリスト教の『新約聖書』に説かれているアポカリプスでは、そのうち千年王国ができると。キリストの統治によってと。ここで、そのキリストの統治について非常に面白い記載

酸素消費の減少と停止の科学的証明
放射線も低酸素状態ももものともしない、オウム真理教の修行者たち

修行によって酸素消費が減る、あるいは停止することなど、本当にあり得るのだろうか？　真理の科学的探究を推し進めるオウム真理教では、世界で初めて、修行者の酸素消費量を測定するという画期的な実験を行なうことになった。

（A）アティッカンタペッティヴィサヤーナンダ師の測定記録

完全密閉ステンレス・チェンバーで、五日間にわたって測定。結果、一般人に対する酸素消費量の割合は、六八・八五パーセント。

（B）マハー・ケイマ正大師の測定記録

水中に沈めた完全密閉チェンバーで約二十時間測定。結果、連続十一時間二十分の呼吸停止を確認。

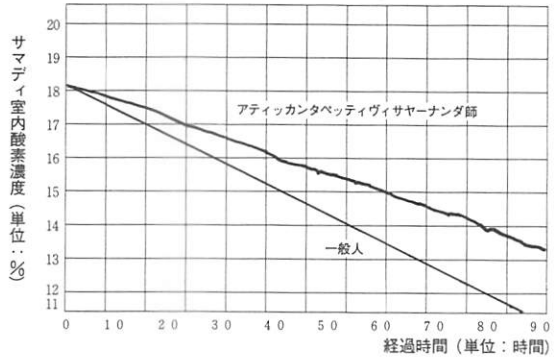
（C）ヴァジラ・アナーサカ師の測定記録

完全密閉ステンレス・チェンバーで、五日間にわたって測定。設定ミスにより、最初から低濃度の酸素量で実験が開始されてしまった。結果、「通常なら死んでもおかしくない」といわれる危険ゾーンにまで酸素濃度は落ち込んだが、ヴァジラ・アナーサカ師は平然と半日間過ごし、また実験後の健康状態にもなんら異常はなかった。

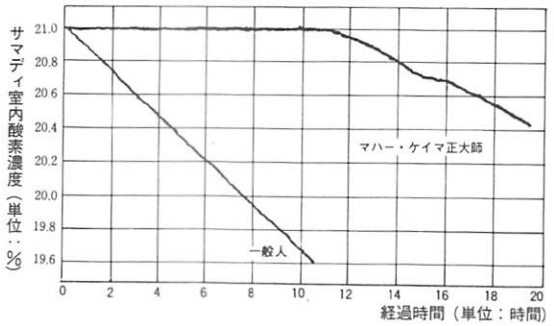
以上の実験結果からわかるように、修行者は恒常的に酸素消費量が少なく、またステージの高い成就者は意志すれば〝サマディ〟（究極の瞑想状態）によって長時間の呼吸停止状態に入ることも可能なのだ。よって修行者にとって放射線の影響は極めて少ない、あるいはないということができるのである。

また、この修行者の特性は当然、酸素量が限られたシェルター内で長時間生きられることをも示している。そしてヴァジラ・アナーサカ師の例を見ると、修行者は一般人よりも酸素消費のペースが遅いだけではなく、たとえ低酸素状態に追い込まれたとしても、そのような外的条件には左右されずに平然と生き続けることができるということも、はからずも証明されている。

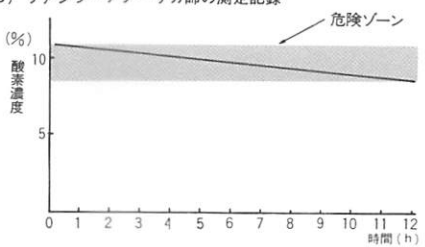
（A）アティッカンタペッティヴィサヤーナンダ師の測定記録



（B）マハー・ケイマ正大師の測定記録



（C）ヴァジラ・アナーサカ師の測定記録



がある。「そこには太陽も月もない」と表現されています。この「太陽も月もない」とは、何を意味しているのか。まさに成就者の発する光によって世の中が照らされる。つまりキリストは最終解脱をしていなければならない。それだけではなく、そこに住む人たちもその光によって照らされるわけですから、そのキリストの発する光そのものを受けることのできるステージでなければならないというふうにとらえています。

わたしの最も好きな曲「黎明」、これを聞いた後、もう少し第三次世界大戦後、世界はどうなるのかについて話をしたいと思います。

《黎明》

◎第四部　最終戦争後の世界

●千年王国のイメージ

尊師　第三次世界大戦後、この地球はまさに、この「自己の苦しみを乗り越え、尽くすこと」――愛の地球になるとわたしは考えています。しかし、人それぞれいろいろなイメージを、この千年王国に持っています。石谷さんから、自分が考える予言の時代を聞いてみたいと思います。

石谷　そうですね、時代はカーリー・ユガといつも尊師がおっしゃっているわけですが、確かに今の時代、戒律を守ることができないために、いろいろなおかしな状況が認識できると思います。例えばつい最近もいじめで人が自殺したという問題がありました。世の中がなぜハルマゲドンに至るかというと、このような人々が積み重ねてきた悪業の延長上で至るわけですね。実際にこの世の中は地獄の様相を呈しています。その中で、厳しく戒律を守って修行している宗教というのはオウム真理教以外にないわけです。尊師も説法で、ハルマゲドンで多くの人が後悔して戒律を守るようになり、そういう人たちが生き残っていくということをおっしゃっていましたが、その時代には、地球が天界のような世界になり、徳を漏らさないで生きていける非常に素晴らしい時

代になるのではないかなと思っています。

ヴィマラ　例えばノストラダムスの予言では、人口が激減する、あるいは物理的に地形、地球の様子がひどく変わる。陸と海が現在の状態ではなくなるといわれています。そうなったときに生き残る者はあるのかということについては、例えば聖書では額に刻印を押された者たちが残るといわれています。またノストラダムスに戻りますが、「偉大なキーレーンが地球の支配者になる。さらに後に愛され畏れられ、畏怖される者。その彼の評判と名声は天の神々を上回る。その唯一の称号に勝利者は満足する」といわれてますね。つまり、ある一人の王が勝利者として存在する。そしてその周りに刻印を押された者たちが生き残るという、そういう状態をわたしはイメージします。

ノストラダムス予言詩

《6章の70》

かの偉大な千の王国に属する、
小羊であるキリストが
地球の教祖になる方向に向かう
その上、さらにのちに愛され、畏れられ、
ひどく畏れられる
彼の評判と誉れは天の神々を上回る
そして、唯一の称号に力強い勝利者は、満足する

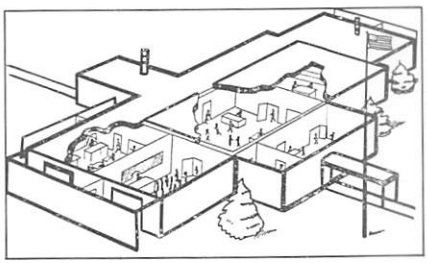
クリシュナナンダ　今日の話では、どちらかというと物理的・物質的な兵器、あるいは防御ということが主体になっていましたけれども、そのような最終戦争が起きなければならない理由は、現在の人間界の住民が、わたしたちは死すべき運命を持つ者であるという認識がない、あるいは、死が我々の目から隠されているような社会だからということです。ところが、人間界の特徴は、生と死を直結させていて、しかもその寿命が短いということが特徴なわけです。ですから、死に対する認識がない社会というのは当然、是正されなければならないということで戦争が起きてくるのだろうと考えます。ですから、次に来る時代というのは、最終的な戦争の過程で生き残ってくる人々が、死というものをはっきりと見つめ、カルマを重視する社会になってくると思います。そして、カルマを重視することによってカルマを落とし、協力して生きることによって功徳を積むということで、必然的に超越神力をみんなが持つようになると。しかも、今オウム真理教で行なわれているような、意識の力、特に無意識の力を発揮できるようなシステムがはっきりと世の中に現われてくる。それによって物質を重視する観念からすべての人々が逃れられる、そのような社会が来ると思います。

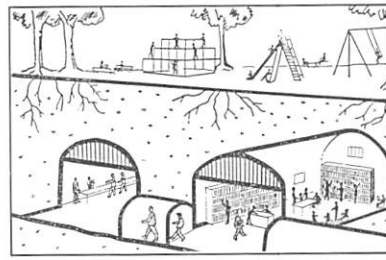
ティローパ　最終戦争に備えて――主に核戦争だと思いますが――各国がそれなりの対策をとっています。例えばロシアの地下鉄は、そのままシェルターになるといわれています。日本の地下鉄の場合、だいたい二十メーターぐらいの深度のところを走っているのですが、ロシアの場合四

十メーターのところを走っています。それだけシェルターとしての機能を最初から見込んでいるわけです。日本の場合はこれに近いのが一カ所あって、霞ヶ関の駅、永田町の辺りです。ちょうど国会議事堂などのあるところで、ここは地下鉄の駅を核シェルター化しているといわれてます。このように国の方でも施設を造っていまして、そういうところに逃げ込んだ人が、まず生き残れると思います。ただ、これは単に国だけに頼っていると、日本のような国にはほとんどそういった施設はありませんから、自分で防御するしかありません。ですから、自分で物理的な防御をした人、それから国の造った施設に逃げ込んだ人が物理的には生き残る、最初の段階で生き残ると思います。けれども結局は、二次的な放射能、それから環境悪化——毒ガス、疫病、そして食糧難——が起こってくるでしょうから、それすらも乗り越えていかなければなりません。そういうところを乗り越えて、新しい世界をつくっていく人たちはどういう人たちかということを考えますと、やはり相当智慧のある、しかも徳の高い人、そして人類始まって以来の非常な艱難を乗り越えることのできた素晴らしいカルマの持ち主が最終的には残って、今の人類を超えた新人類の世界がつくられるのではないかと思います。

ヴァジラパーニ　わたくしは、今の世の中とは正反対の世界が現われると考えています。つまり、核などによって物質的には荒廃し尽くすかもしれませんが、法則は広がり、精神的には豊かな世界が現われると思います。徳をすり減らし、低い世界へ落ちるという空間ではなく、高い世界へ

アメリカ、バージニア州の山中にある連邦政府施設。この地下には、核戦争に備えた超トップシークレットの「地下都市」が存在するという　『読売報道写真集　1988』 読売新聞社





アメリカでは公共シェルターの設置も進んでいる。公園の地下や、学校の一部をシェルター化した空間は、平時は図書館として用いられている。

ジャンプする、そういう空間になっていくだろうということですね。そして精神性が戻り、そこに存在する魂の徳が満ちてきたら、物質的にも豊かな世の中が形成されるであろうと、そのように考えます。

マンジュシュリー・ミトラ　原因があって結果があるわけです。悪業のカルマが満ちることに対して、神の裁きがあるわけですから、グリフォンに対してアフラ・マズダーが勝利することは間違いないでしょう。大戦後は神に選ばれた者のみが生き残り、地球全体がシャンバラになると思います。今の地球は悪業を積み続けることによって地獄・餓鬼とつながっていますが、そのときは真理の実践をすることにより神々の世界とつながるのではないかと思います。

●来世を確定させるために生き延びろ！

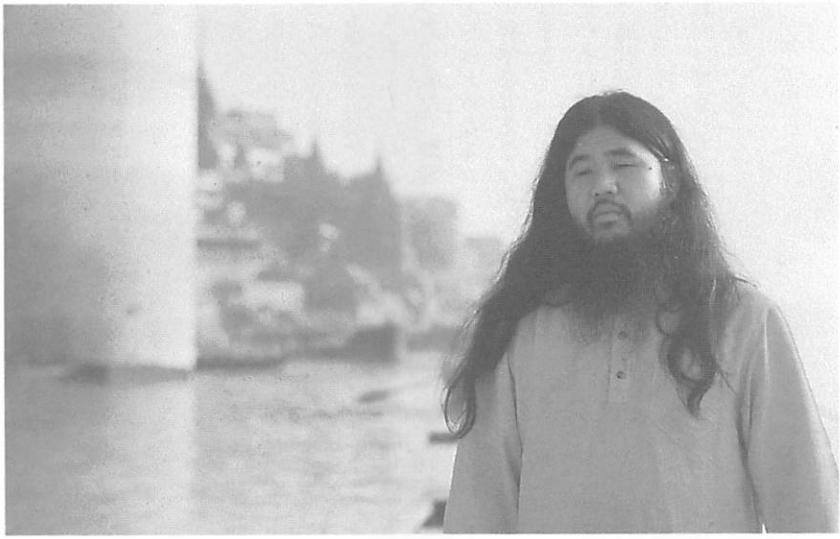
尊師　聖者と呼ばれる者は、普通の人とどこが違うのか。それはあるべきものをあると見る。ないものをないと見る。例えばわたしたちは必ず死ぬ。これはみんな知っているはずです。しかし、その知っているはずの死に対して準備をしないで、そして目の前の楽しみに奔走する。老いについても同じです。例えば十代の元気はつらつのときに比べて、三十代、四十代と年を取るにつれ力がなくなります。そして五十代、六十代、七十代と。年齢が積み上げられていけばいくほど、

シャンバラのマンダラ

わたしたちは自分のなしたいこと、つまり意志していることができなくなっていくのです。しかし、わたしたちは若いときはそのエネルギーをただ放出し、老いに対する対策をとりません。またもう一つ、病も同じです。わたしたちは呼吸によって、そして食事によって、あるいは多くのいろいろな形の接触によって、またストレスによって病にかかります。しかし、かからないで健康な状態にいるとき、わたしたちは決して病のことを考えません。

わたしはこれと同じ次元で、第三次世界大戦は起きると考えています。そしてわたしは、わたしと今日ここに集まった弟子、そしてわたしと一緒に法則を実践しているその他のすべての弟子たちとともに、いかなることが起きようとも生き延びるべきであると考え、準備をしています。なぜ、生き延びる必要があるのか。聖者であるとするならば、例えば核が落ちたとき肉体が滅んでも意識はそのまま天界へといざなえばいいのではないかと考える人もいるかもしれない。

これについては仏典が正しくわたしたちを導いてくれます。仏典ではこのように説かれています。つまり、修行者は「確定」という意味において長く生きる必要があるんだと。「確定」とは何でしょうか。例えば天へ至る徳を有したとしても、その徳が尽きたら、また人間界へ落ちなければなりません。あるいは低級霊域・動物・地獄へと落ちなければなりません。したがって、天界にまず、確実にこの魂を移し変えることができるようにするためには時間が必要なのです。そしてそれよりもっと大変なことは、天界で修行するための種子を培うことは、もっと大変なこと



なのです。そして、そのために生きなければならない。

それだけではありません。

わたしたちは普通の生活の中でどの程度、「地球」というものを意識しているでしょうか。わたしたちはこの地球に大きな、そして多くの恩恵を受けています。飲み物はどうか。例えば一般にひかれている水道も、川の水です。これは当然、地球の山から、そして海へ流れるその途中のものをわたしたちは受けているわけです。またわたしたちが普通歩いている道、これはまさに「地球の皮膚」といっても過言ではないでしょう。そしてその上にわたしたちは家を建て、生活しているわけです。そしてわたしたちがいくら酸素を吸い、二酸化炭素を出しても、それは森がしっかりと光合成によって、また、酸素を一定の量にキープしています。

第三次世界大戦後の地球はどうなるか。それはまさに自然と魂が融合した状態、そして科学の面からいうならば、今の科学をはるかに超えた科学が存在するでしょう。その科学の中心は何に向けられるのか。それはまさに「わたしたちの意識とは何であろうか。そして生、生まれるとは何であろうか。そして老いとは何であるか。病とは何であるか。死とは何であるか」についての徹底的な解明がなされる時代がやってくるはずです。

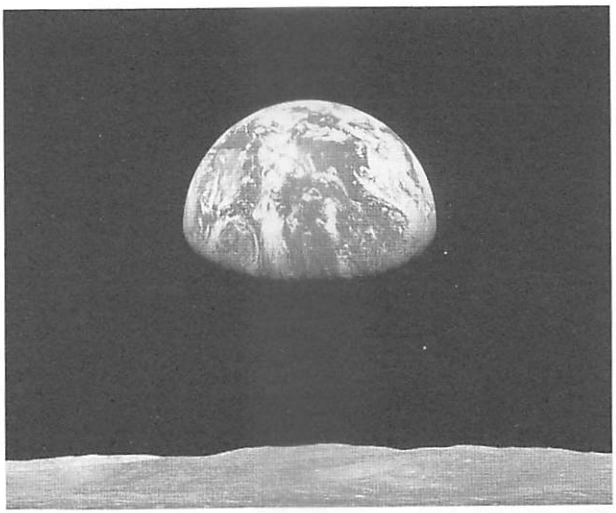
例えばわたしたちがもし、今の空気を、正確に言うと、空気の汚染を浄化するシステムが存在するとするならば、それだけでもわたしたちの寿命は、十年や二十年は長く生きることができる

はずです。また、もしわたしたちの生命をコントロールする技術が発達すれば、例えばホルモンのバランスを整えるとか、特にこのホルモンの中でも副腎皮質ホルモンだよね、ストレスはね、クリシュナナンダ。

クリシュナナンダ　はい、そうです。

尊師　副腎皮質ホルモンのコントロールができるようになれば、外的なストレスに対してより強くなり、それによって二百年、三百年、あるいは千年間この地上で生きることも夢ではありません。なぜこれらの研究がなされないのか、それはまさに金にならないからです。つまりこの日本は、そして地球は、低級霊域に半分足を突っ込んでいる状態で、今存在しているのです。

　わたしは第三次世界大戦が起きることを今では喜んでいます。なぜならばそれは、仏典に説



『地球／母なる星』　小学館

かれていることだから。あるいは聖書に書かれていることだから。そしてとにかくその第三次世界大戦後まで生きたいと考えています。今日のわたしの最後の発言に対して、賛否両論があるでしょう。それについてはもちろん、発言することも考えることも自由ですが、よく考えてみましょう。わたしたちは死ななければならない生命である。そしてわたしたちが望もうと望むまいと、第三次世界大戦は必ず起きるんだと。

さあ、賢いあなたはどうしますか。聖者の道を歩き、その準備をしっかりと怠りなく行ないますか。それとも、光に包まれ、そしてもだえ苦しみながら死にますか。それはあなたの選択次第です。

生き残るためには？

オウム真理教ラジオ放送「エウアンゲリオン・テス・バシレイアス」
一九九四年十二月二十五日放送

聖者マンジュシュリー・ミトラ正大師　エウアンゲリオン・テス・バシレイアス。聞け！　我らの声。今月のテーマは「進化」。今日のタイトルは「最終戦争で生き残る方法」です。二時間生放送で様々な検討を加えていきたいと思います。

まず、自己紹介をさせていただきます。マンジュシュリー・ミトラと申します。大阪大学大学院で宇宙物理を専攻後、神戸製鋼所で航空機関係の研究をしておりました。オウム真理教出家後は科学部門を担当させていただいております。今日は最終戦争を物理学の立場から論じていきたいと思います。

続きまして、ボーディサットヴァ・ヴァジラパーニ師長です。東京大学大学院博士過程で素粒子理論の研究をなさっておりました。

ボーディサットヴァ・ヴァジラパーニ師長　ヴァジラパーニです。同じく今日は、物理的な観点

からハルマゲドン、そして防御に関係して意見を述べさせていただきます。よろしくお願いします。

マンジュシュリー・ミトラ　続きまして、ティローパ正悟師です。神戸大学卒業後、大阪府立大学大学院で緑地計画工学を専攻されまして、その後建設会社およびコンサルタント会社を経て出家されております。

聖者ティローパ正悟師　ティローパです。建設工学的立場から、最終戦争で生き残る方法について、主に核シェルターのことになりますが、述べさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

マンジュシュリー・ミトラ　続きまして、ジーヴァカ正悟師です。京都大学医学部博士課程でウイルス学、遺伝子工学を専門に研究されておりました。

聖者ジーヴァカ正悟師　こんばんは、ジーヴァカです。今日は生物学的、および微生物学的立場で細菌兵器について説明したいと思います。

マンジュシュリー・ミトラ　続きまして、ボーディサットヴァ・ヴァジラティッサ師長です。京都府立医科大学卒業後、消化器内科を専門になさっております。

ボーディサットヴァ・ヴァジラティッサ師長　こんばんは、ヴァジラティッサです。今日は内科医として、ハルマゲドンに起こる現象に対して、どうやって対応していったらいいのかについて

お話ししていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

マンジュシュリー・ミトラ　続きまして、ボーディサットヴァ・クリシュナナンダ師長です。慶應大学医学部卒業後、慶應病院および関連病院で心臓、大血管外科を専門とされておられました。

ボーディサットヴァ・クリシュナナンダ師長　クリシュナナンダです。こんばんは。今日は外科医の立場から、最終戦争に関する準備、その他をお話しできたらと思っております。よろしくお願いします。

マンジュシュリー・ミトラ　続きまして、ボーディサットヴァ・クシティガルバ師長です。筑波大学大学院博士課程化学研究科出身で、有機物理化学を専攻として研究なさっておりました。

ボーディサットヴァ・クシティガルバ師長　こんばんは、クシティガルバです。今回は化学者の立場から、現在公表されている化学兵器、そして今後予想される化学兵器の形態、そして将来的な防御法に関して述べさせていただきたいと思います。

●経典に見る、最終戦争を生き残る条件

マンジュシュリー・ミトラ　尊師、最終戦争で生き残る方法を教えてください！

尊師　こんばんは、麻原彰晃です。

わたしたちの道しるべとなっている経典、特に仏教の経典においては、未来を予知した予言書的な経典が存在しています。この経典では「最終戦争は起きる。そしてそこから逃れた人がそのの ち、しっかりと法則を守り、戒律を守り、そして新しい人類を築くんだ」と説いています。では、どのような人が助かることができるのか。これはまず「山に逃げた人が助かる」と説かれています。しかも「岩間の陰等に隠れた人が助かる」と書かれています。まあ、こういう理由があってオウム真理教の道場が富士山周辺にあるとお考えになったら非常にわかりやすいと思います。

では、いったいなぜ、山に逃げたならば助かるのか。例えば原爆にしろそうだし、あるいは、他の爆薬兵器、細菌兵器ともそうですが、そんなに広範囲に影響を与えるものではない。これについては、あとでマンジュシュリー・ミトラ正大師、あるいはヴァジラパーニ師長の方からもっと詳しい説明があると思います。したがって、皆さんが現世を捨て、そして出家し、そして富士山周辺で暮らすならば、それだけでも皆さんが生き残る確率というのはかなり高くなるのではないかと考えられる。

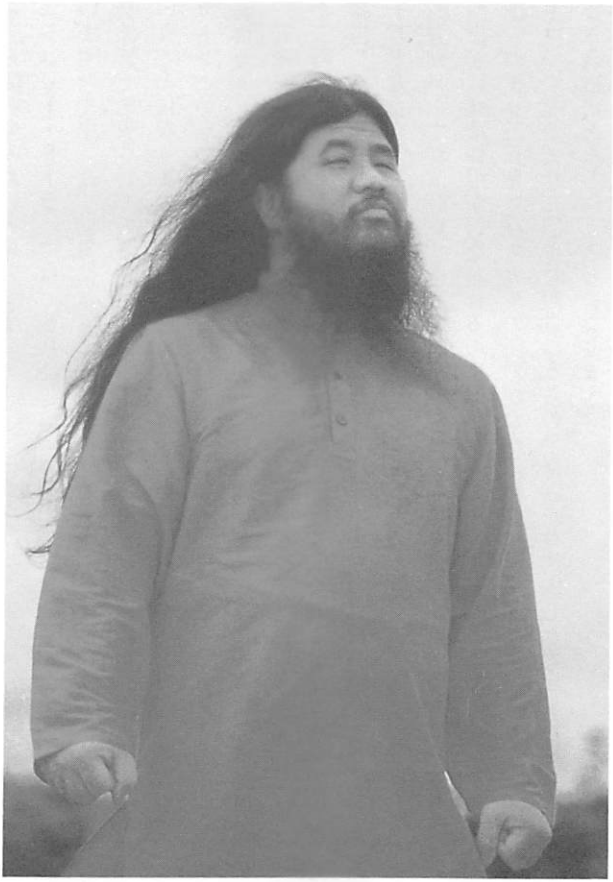
次に食糧についてだが、木の根っこを食べる。サキャ神賢の時代、当然缶詰類はなかった。この木の根っこというのは最も放射能を受けづらい部分である。したがって、サキャ神賢は木の根っこという表現をもとに、放射能に汚染されていないものを食べて生き残るんだと言っていらっしゃるのではないかと考えています。つまり、皆さんはしっかりと準備をし、もう、光ったら遅いわ

けだから、出家できる人はできるだけ早く出家し、そして救済のお手伝いをし、そして自分の霊的な進化――この霊的な進化は、もともとわたしたちの身体というものは、外的な刺激や外的な攻撃に対して、修行すればするほど強くなります。修行すればするほど強くなるということは、これも今日のタイトルである「最終戦争によって生き残ることができるのかどうか」の一つの答えになるわけだが、当然生き残れるチャンスというものは高くなる。そして都会から離れて生活する。もちろん日本の法律が許すならば、地下都市でも用意して、そしてそこで生活することができれば、間違いなく、ハルマゲドンが来たとしても、わたしたちは完璧な状態で生き残ることができると思います。

整理するならば、まず都会から離れた場所での空間の確保。それから次にそこでの食糧。そして医療。そしてその空間に耐え得る精神力。これらを兼ね備えるならば、生き残ることができるのではないだろうか。

●核爆発による危険区域

尊師　皆さんがいちばん、やはり恐がっているのは核兵器だと思うが、この核兵器について、これからマンジュシュリー・ミトラ正大師と、それからボーディサットヴァ・ヴァジラパーニ師長



の方から話を聞いてみたいと思います。

マンジュシュリー・ミトラ　では、核兵器について若干の計算をしてみたので、それを報告したいと思います。まず、今、世界にどれくらいのエネルギーの核兵器があるか。これは、戦略核兵器制限交渉等で発表されている数字を信用するとするならば、弾頭が一メガトン相当のものが二万発ということになります。ただ、それよりも少し多い可能性ももちろんあるとは思います。

一メガトンというのはエネルギーの単位で、ＴＮＴという一般の爆薬、ケミカルな反応で破裂する爆薬百万トン分ということになります。これは物理学的なエネルギーで表わすと、四・二×（かける）一〇の一五乗ジュール。別の言い方をすれば四・二ペタジュールということになります。

これが二万発あったとして、どれくらいの範囲を破壊し尽くすことができるかについて、計算結果を報告します。まず、陸地の面積、これは、地球のうちの三割が陸だとしまして、だいたい一億五千万平方キロメートルあります。仮にそれを二万発で割りますと、一発あたりだいたい九〇キロ四方カバーすればいい。そうすれば全部破壊し尽くされるということになります。しかし、核兵器で最初に破壊作用が行なわれるのは爆風なんですけれども、この爆風による致死領域は〇・三五気圧、つまり三五キロパスカルの圧力がかかる範囲です。これは一メガトンの弾頭に対して半径五キロです。つまり九〇キロ四方のうちの半径五キロ円内しか爆風では壊れないということで、かなり余裕があるということになります。

ヴァジラパーニ　次に中性子爆弾に関して申し上げます。中性子爆弾といいますのは、核兵器の一種ですが、爆風や熱風はそれほど出ない代わりに多くの中性子線を出し、それによって生物の殺傷を狙ったものです。例えば、一キロトン級の中性子爆弾が地上約一〇〇メートルで爆発した場合を考えますと、まず半径約一〇〇メートル以内のものは完全に破壊されます。しかし、半径が二〇〇〇メートルを超えますと、事実上無害といわれております。つまり、中性子爆弾といいましても、直撃を避けることができれば、つまり三キロ、四キロと離れれば生き残れる可能性は十分にあると、このように考えていいと思います。

マンジュシュリー・ミトラ　実際には、陸地に均等に爆弾がまかれるわけではなく、攻める側の立場からするとやはり重要な施設、あるいは人口密集地、その他を狙うと思いますので、都会から離れ山に逃げた人の生き残る確率はもっと高まると思います。

＊〇・三五気圧：人体は二気圧以上もの高い過剰圧力に耐えられるが、爆風による死者の大部分は、建物が崩れたり、人間が吹き飛ばされて何かにたたきつけられたり、破片が落下したりという間接的な影響によって生じる。一般には、爆風の致死効果の計算には〇・三五気圧の過剰圧力の値がとられる。

核兵器が炸裂すると

爆発

●一〇〇万分の一秒後：火球の発生（一〇〇〇万度、数百万気圧）
　火球からはX線などの電磁波が放たれる。
　電磁パルスが生じ、広範囲の通信網・電気回路を破壊する。

●一〇〇〇分の一秒間：第一閃光。紫外線なので、遠くから見た人にも有害。

●一〇秒間：第二閃光。熱放射線であり、大規模な火災を引き起こす。

●一秒後：爆風。爆心地から爆風が吹き出し、数秒後、逆に吹き込む。

●一〇秒後：一メガトン爆弾の場合、火球が最大直径一二〇〇メートルに達する。

●一分以内：初期放射線。ガンマ線・中性子などの放射線が地上に届く。
　※空中ではなく地上で爆発した場合、クレーターが生じる。

●火球が冷え、大きな白い雲となる。
　熱線、初期放射能、爆風、衝撃波によって多数が即死する。

●二四時間以内　：局地的降下物＝フォールアウト（〇・一ミリ程度の放射性粒子）が降ってくる。
　残留放射能は長期間にわたって影響を及ぼす。
●数週間以内　：放射能による後遺症の発生。
　食糧・飲料水の破壊・汚染による深刻な食糧問題。
●数カ月間　：伝染病の流行（抵抗力低下、栄養不足、伝染病媒介動物の繁殖による）
　核の冬……一〇〇メガトン以上の核爆弾の使用で発生。
　地上は数十度の気温低下。上空では数十度の気温上昇。
　気候の異常が発生する。
●その後
　長期的な残留放射能の影響
　食糧供給困難による飢饉
　成層圏におけるオゾン層の破壊……紫外線増大、有害反応を引き起こす。
　オゾン層が正常に戻るには一〇年ほどかかる。

●放射線による影響を防御する

尊師　死の灰についてはどうなのかな。

マンジュシュリー・ミトラ　はい。死の灰と申しますのは、原子爆弾、あるいは水素爆弾等によって、いわゆる放射性崩壊を起こす元素がたくさん発生し、それが――「死の灰」「フォールアウト」といいまして――降ってくるということになるわけですね。

その害は、放射能の単位でグレイというのがあります。一グレイというのは、一キログラムあたり一ジュールのエネルギーを放射能によって受けるという単位です。自然界の放射線は一年間で一ミリグレイ、千分の一グレイ以下です。これで一グレイ以上受けますと、かなり損害が出てきます。これによって、被爆当初は大丈夫でも、放射線によって最終的に死んでしまうケースが多く、そのような被害を受ける範囲が結構広いわけです。簡単に計算しますと、一メガトンで、だいたい二〇キロ四方が「フォールアウト」による被害のある範囲です。これも風向き等によっては範囲がかなり変わりますが、九〇キロ四方までには、かなりまだ余裕があります。

尊師　これは例えば、オウム真理教で開発した「コスモクリーナー」で吸収することはできるわけだよね。

マンジュシュリー・ミトラ　はい。その「コスモクリーナー」でキャッチすることはできます。それによって、死の灰による体内被曝が抑えられるので、放射能の被害を少なくするには大変効

放射線の種類と人体への影響

α（アルファ）線……ヘリウム原子核。一枚の紙でも防げるほど透過力は弱い。
　α線を放射する物質そのものが呼吸器・消化器・傷口を通して体内に取り入れられると、組織に障害を与える。

β（ベータ）線……電子。透過力はほとんどない。皮膚にやけどを負わせることがある程度。

γ（ガンマ）線……電磁波。透過力が大きい。人や装置に損傷を与える。

中性子線……中性子。透過力が大きい。人や装置に損傷を与える。

放射線被曝量と人体への影響

放射線の種類によっては、同じ放射線量（ラド）でも影響は異なる。また、身体のどの部分に受けるかによっても差が生じる。特に骨髄・腸粘膜・脳細胞・筋肉細胞に浴びると損傷が大きい。

次の表は、全身被曝による平均的な効果である。

放射線量（ラド）	
150まで	・短期間に効果は現われない
150～250	・24時間以内に吐き気および嘔吐をもよおす ・48時間以内に回復する。
250～350	・4時間以内に吐き気および嘔吐をもよおす ・約48時間で症状はおさまるが、再発し、2～4週間で死に至る者もいる。
350～600	・2時間以内に吐き気および嘔吐をもよおす ・2～4週間目より多数が死亡する ・無能力症状は長期にわたる
600以上	・ほとんど即時に吐き気および嘔吐をもよおす ・1週間以内に100パーセント死亡
2600	・1時間以内で無能力症状
5000	・5分以内に完全な無能力症状 ・1日ないし2日以内に死亡

果的です。

尊師　キャッチした後、それを無害化する方法というのはあるのかな。

マンジュシュリー・ミトラ　そうですね、今のところ人間の体内に入らないように隔離する。どこか処理するところに捨てに行くしかないですね。

尊師　酸とかアルカリではダメなんだね。

マンジュシュリー・ミトラ　酸とかアルカリ――化学反応ではダメです。ただし、例えばガラス固化、あるいはアスファルト固化などの方法で、飛散しにくくすることはできると思いますが。

尊師　固めることはできるんだね、要するに。

マンジュシュリー・ミトラ　はい。

尊師　じゃあ、逆に捕獲してしまったがためにマイナスになるということもあるわけだな。

マンジュシュリー・ミトラ　それは、放射線の種類を考える必要があります。例えば、壊変した放射性物質は、放射線の種類としましてα線（アルファ）、β線（ベータ）、γ線（ガンマ）。すなわち、ヘリウムの原子核、それから電子、それから波長の短い電磁波。何種類かの方法で害を与えるわけですが、距離を離せばかなりいけるのではないでしょうか。

ヴァジラパーニ　そうですね。まずα線、β線に関しては透過力があまりありませんから、なんらかの物質によって遮ることは十分に可能です。ただ、α線そのものよりもα線を放射する物体

が、人体に対して非常に有害ですので、これらは取り込んだのち、廃棄という手段が望ましいと思われます。それから波長の短い電磁波であるγ線、あるいは中性子線、これらは透過力が大きいので、距離を離すしかないかもしれません。

尊師　まあ、皆さんもわかったとおり、今一般的に「核戦争が起きたならば、この地球は完全に崩壊してしまう。そして全人類だけではなく、全生命体が死ぬ」といわれているが、実際そうではない。この計算は一般的な式を使って計算しているから、どの科学者が出しても同じ結果が得られるはずである。

●シェルターで核戦争を生き延びる

尊師　ところでティローパ。防御について、もう一つ重要なシェルターについてだけれども、どうかな。

ティローパ　はい、今、マンジュシュリー正大師の方から、〇・三五気圧の範囲で爆風による被害があると説明がありました。それが五キロ圏内というお話でしたが、例えば今、スイスなどで基準化されているシェルターでいきますと、だいたい一気圧に耐えるもの、それから三気圧に耐えるものがあります。そうしますと、例えば一気圧のものであったとしても、五キロ以内でもシェ

ルター内におれば生き残る可能性は十分あるということがいえると思います。

それから、フォールアウト、二〇キロ四方の死の灰についての防御ですけれども、これも例えば土の場合、八・四センチの厚さを通すとだいたい半分ぐらい放射能が減少します。コンクリートの場合は五・六センチですね。そのセンチを重ねるごとに二分の一、二分の一に減少していきますので、例えば地下九〇センチのところにおりますと、これだけで放射能は二千分の一に減少します。それから三〇センチのコンクリートで防御されたシェルター内にいますと、五〇分の一になる。そうしますと、例えば地下九〇センチのところに三〇センチのシェルターを造りまして、その中で——当然、換気等はきちっとしたフィルターでやらないといけませんけれども——換気がきちっと行なわれた場合には、放射能は十万分の一になります。そうすると、死の灰が降る二〇キロ圏内におきましても——だいたいこの地区の放射線量は毎時五万レム*ぐらいだと思いますけれども、そういうところにおいても、生存可能な状況まで減少できるということになります。したがいまして、シェルターがあるのとないのとでは、生存率が非常に違ってくると考えるわけです。

尊師　これはしかし、相当な予算が必要だろうけれど。

ティローパ　いえ、例えば今申し上げた地下九〇センチ——約一メートル——のところに、三〇センチの厚みの天井厚を持った鉄筋コンクリートのシェルターで、大きさがだいたい四五平米——

*レム：物質に吸収された放射線が人体や生物に与える影響の大きさを表わす単位。放射線の種類によって異なる生物への影響をガンマ線の線量に換算して表わしたもので、エックス線の〇・〇一グレイと同等の効果をもつ量が一レムにあたる。

深さと放射線量の関係

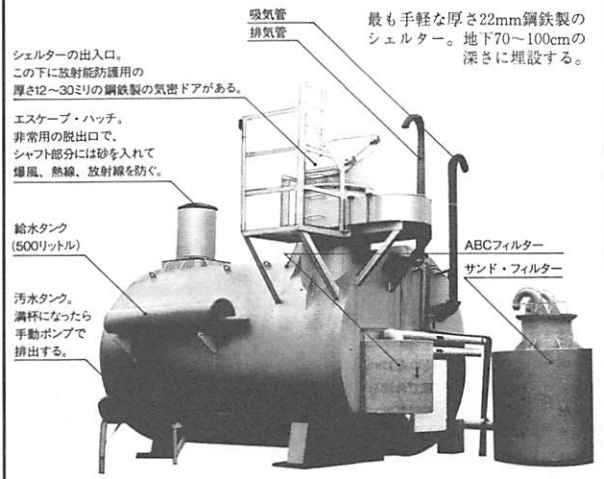
放射線は、隔壁によって弱めたり防いだりすることができる。この隔壁の種類と厚さによってどの程度弱められるかが決まっている。

コンクリートの場合、五・六センチの厚さで放射線量を二分の一にできる。以下、五・六センチ厚くなるごとに、放射線量はさらに二分の一ずつになっていく。

土砂の場合は、放射線量を二分の一にするのに八・四センチの厚みがいる。

このことから、四〇センチのコンクリートの屋根を持ち、その上に九〇センチの土砂を盛ってある地下シェルターなら、放射線量は約四〇万分の一、ほぼゼロに近い数値まで減らすことができることがわかる。

土砂	コンクリート	放射線量
8.4cm	5.6cm	1／2
16.8cm	11.2cm	1／4
58.7cm	39.1cm	1／128
83.7cm	55.8cm	1／1024
117.3cm	78.2cm	1／16384
142.5cm	95.0cm	1／131072



十人から十五人ぐらい居住できるもの――を想定しますと、実は西ドイツで市販されているものがあるんですけれども、これはだいたい日本では一千万円くらいで売ってるんです。しかし、これを仮に自分たちで造ったとすれば、そんなにかからない――もちろん、用地はいりますけれども――建設費でいきますと、だいたい五百万ぐらいでできるんではないかと思います。

それから、もっと小さなものであれば、数百万円で可能ではないかと思います。

尊師　四五平米、約一五坪だね。

ティローパ　はい。だいたい十人から十五人ぐらいはいけるんではないかと思います。

尊師　この番組を聴いている方々も、少なくともシェルターを造っていただきたいと思います。

●恐ろしい電子戦――始まってからは逃げられない

尊師　ところで、ティローパ正悟師。このハルマゲドンというものはどういう形で起きると考えていますか。戦争の形態だね、要するに。

ティローパ　戦争ですね。まず、いきなり例えばミサイルが飛んできて、至近距離で軍事施設なり都市を攻撃するというように、一般的には考えられているかもしれませんが、やはり、現代の特徴としまして、電子戦というのは非常に重要な役割を持っています。例えば通信、それからミ

サイル誘導にしましても、電子機器を大量に使っていますし、交通網体系それぞれにしましても、電気系統は非常に重要な役割を現在の社会では持っています。したがいまして、核戦争の一発目、先制攻撃では、高高度――例えば地上四〇〇キロメートルから一〇〇キロメートルのところ――で、だいたい二〇メガトン、あるいは一〇メガトンぐらいの水爆なり原爆を爆発させると。そうすることによってだいたい半径二〇〇〇キロにわたりまして、徹底的に電子・電気製品が破壊されてしまいます。これがまず一発目に来るのではないかと思います。

特に日本のように、このような強力な電磁パルスを防御することを全く考えていないような体制においては、すべての交通機関が停止するでしょう。例えば車にしましても、日本車は非常に電子化されています。これは全部やられてしまう。電車などはもちろんです。それだけでなく、通信、放送局といった社会的機能と呼ばれるもののほとんどがこれによって停止してしまうのではないかと思います。

したがいまして、戦争が起こった時点でどこかに避難しようと思っても、まずこれはできない。動くに動けない。あとは人力あるいは機械力によって動くものしか使えない。そういった状況がつくられるのではないかと思います。そして、第二弾、第三弾の本格的な破壊力を伴う攻撃が次になされてくるのではないかと思います。

尊師　ということは、もうハルマゲドンが起きてからでは逃げられないということだね。

ティローパ　はい。仮にそういう電磁パルスが用いられなくても、今の大陸間弾道ミサイルが発射されて、到着するまでだいたい十五分から一時間といわれています。しかし、実戦的な立場からすれば、五分以内にシェルターに入らない限り、普通はダメだといわれています。その五分間を有効に使うとしても、先程の第一撃の強力な電磁パルスによって破壊された場合、遠距離にはまず移動はできないでしょうから、本当に家のすぐそばとか、職場のすぐそばでないと避難ができない状態になってくると思います。

尊師　いや、信徒さんからね、よく質問を受けるんだよ。

ティローパ　はい。

尊師　つまり、わたしは現世に愛著してて、現世を楽しみたい。しかし、ハルマゲドンが来たらそのときは迎えてくれますかと。しかし、わたしの答えとしては、いや、こちらとしては迎えたいけども、それはおそらく無理だろうと。

　なぜかというと、まず、今言った交通手段もマヒしてしまっているだろうし、来れたとしても、例えばシェルターのドアを開いておくわけにはいかないから。だから、その時期については、しっかりと瞑想して、それより前に出家するようにしなさいとは言っているんだけれどね。

ティローパ　はい、もう、そのとおりだと思います。

尊師　で、もし出家しない人の場合は、自分でまずシェルターを用意しないと。あるいは買って

電磁パルス

電磁パルス（EMP……Electromagnetic Pulse）とは、瞬間的に強烈な電磁波が放たれるものである。一メートルあたり五万ボルトという強度は、レーダーの二百ボルト、通信の十ボルトと比べものにならないほど強い。

大気圏内で核爆発を起こせば、二十キロ以内にある電気製品を破壊するなど、局地的な大損害が与えられる。また、大気圏外でメガトン級の核爆発を起こした場合、電磁パルスの影響は数百キロ四方以上に及ぶ。

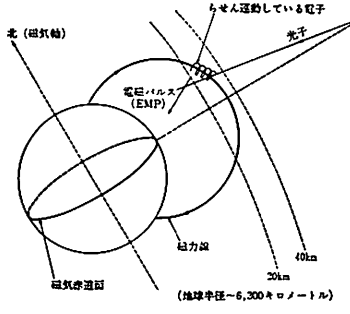
まず、強烈な電波によって、レーダーや無線通信が最大数時間にわたって混乱し、使用不能になる。特に短波通信機能がストップしてしまう。

電子機器は一時的に故障を起こすだけではなく、修復不能なまでに破壊される場合がある。トランジスター・IC・ダイオードなどの半導体を使用している機器は非常に破壊されやすい。また、大電流が生じて壊れる場合もある。日常の電化用品――AV機器・パソコン・交通機関・電話・炊飯器など――は全滅するということだ。

また、電磁パルスによって生じたスパークが引火して、ガソリン蒸気・航空機燃料・爆発物が発火することがある。広範囲にわたる原因不明の大火災が引き起こされる可能性があるのだ。

また、送受電機器の破壊により電力供給が絶たれることも予想される。

持続時間は数百分の一秒にも満たない電磁パルスだが、決してあなどることはできないのだ。



大気圏外爆発による電磁パルス発生図

図：『核兵器』地人書館

埋めて、そして食糧とそれから水ね。

それからあと、これからいろいろアドバイスがあるわけだが、それをやっぱり用意した方がいいと思うね。

●電磁波をシールドする

尊師　ところで、マンジュシュリー、質問があるんだが。

マンジュシュリー・ミトラ　はい。

尊師　この電磁パルスによる被害を受けなくするための、電子戦の防御というか――これについては、一般的にはシールドという方法があると思うんだけど――それを少し詳しく説明してくれるかな。

マンジュシュリー・ミトラ　はい。まず電磁パルスで発生して、被害を与えるのは主にマイクロ波領域の電磁波です。これはロシアで聞いて驚いたことがあるんですが、あちらの兵器システムその他は、あまり電子化されていないんですね。つまり半導体を使っていない。非常にローテクに見えたんですが、これは彼らの説明では、核戦争が起こっても同じように使えるためには、このようなレベルで、つまりメカ的なところで稼ぐ、あるいは量で稼ぐ、あるいは材質で稼ぐ。そ

ういう形で、電子化、ハイテク化をしないというのが彼らの戦略だと聞きました。ここでいうように、主にトランジスタとかＩＣとかの半導体が一発でやられますが、それをシールドするには、やはりできるだけ電気伝導度の高い物質……。

ヴァジラパーニ　例えば銀あるいは銅ですね。こういったものでシールドすれば、電磁波はかなり減少します。

マンジュシュリー・ミトラ　これは実験的に行なっているのですが、尊師のお車も銅の金網でシールドをしております。これについてはどうでしょうか、効果は。

尊師　やはり非常に効果は高いと思います。実は、車で走っていると胸が非常に熱くなる。しかもそれは昼り空でも熱くなるという現象が、しょっちゅう起こるようになって、わたしはマイクロ波が照射されているのではないかということで、君たちにお願いしたわけだが、その結果として全く熱くならなくなったから、シールドされているんだと思います。これについては。

マンジュシュリー・ミトラ　やはり、電磁パルスと同じ波長帯でありますところのマイクロ波が尊師には照射されているということでしょうか。

尊師　可能性は高いと思います。

●前代未聞の生物兵器も使われる

尊師　ところで、ジーヴァカ。この第三次世界大戦、ハルマゲドンで使われるB兵器＝生物兵器について説明してくれるかな。それから生物的にみた防護法と、それに対するヴァジラティッサ、クリシュナナンダの医学的な見解を聞きたいんだが。

ジーヴァカ　はい。では、どのような細菌兵器が、今後使われる可能性があるかということに関して述べたいと思います。

細菌兵器というのは、一般的にいわれている細菌、ウイルス、および毒素兵器が入ると考えられます。例えば細菌兵器としましては、よく知られているものではペスト菌、炭疽菌、赤痢菌、コレラ菌。あと、腸チフス、野兎病菌、そういうのが知られています。

次にウイルス兵器として今のところ知られているものとしては、天然痘ウイルス、黄熱病ウイルス、ラサ熱ウイルス、マールブルグ病ウイルス、エボラ出血熱ウイルス、およびベネズエラ脳炎ウイルス、その他いろいろなものが知られています。

次に毒素兵器ですが、これはボツリヌストキシン、アフラトキシン、テタノストキシン、トリコセテン、これらが知られています。

で、この細菌兵器といいますのは、だいたい第二次世界大戦前後から、日本軍およびその他でかなり詳しく研究されているのですが、意外と強くないのではないかという話もあるんです。そ

聖者ジーヴァカ正悟師

北海道大学医学部を卒業後、京都大学医学部博士課程に進む。専門はウイルス学・遺伝子工学で、エイズウイルスの研究などを行なっていた。現在はバイオテクノロジーを応用した研究を行なう。

れはたぶん伝染力および細菌兵器の使い方によると思うのですが、今後、この第三次世界大戦で使われると予想されるものに関しては、わたしとしましては、今述べたような通常の細菌の形では使われないのではないかと予想しています。もちろん、各国とも細菌、ウイルスに変異をかけて強毒株、より毒素の強いものを取っていると考えられるわけですけれども、それだけではなく、現在は遺伝子工学というものが比較的発達していますので、そういう遺伝子工学の手法で作った新しい微生物体が使われる可能性が大きいと考えております。

例えば現在、発ガン遺伝子とか毒素遺伝子、その他の遺伝子というのがかなり分離されていますけれども、それらを組み込んだ細菌、ウイルス等がそれらの候補の一つになると思います。

また、全く知られていないような生命体ですね。これらの遺伝子工学、表面には出てきていませんが、いろんな遺伝子を組み込んで作った新しい生命体による、新しい細菌兵器、そういうものが使われる可能性も大きいと思っております。

これらに対する対策なんですけれども、通常の場合、ワクチン、そ

れから抗血清というものを準備する。これらは各国ともやっているのではないかと考えられます。あと、実際の細菌に対しては抗生物質が効くといわれているので、いろんなスペクトルを持った抗生物質を確保する、これらが一つの対策だと思います。しかし、先程言ったように新しい生命体――新しい微生物、いろんな組み替え手法を使ったもの――が使われた場合は、これらの対策というのは、あまり意味をなさない可能性もあります。

根本的には、こういう細菌兵器が使われた場合には、先程ティローパ正悟師が話されたように、完全なるクリーンルーム、例えばヘパ(HEPA)フィルター、ウルパ(ULPA)フィルターなどによる空気の浄化、それと、二重ドアによるエアーロックシステム、その他がかなり有効なのではないかと考えます。あとは先程も言ったように、食糧、水、これらは完全に殺菌されたものを取るようにするのが、こちらとしての対策だと思います。

尊師　今、ジーヴァカ正悟師の方から細菌について、ウイルスについて、そして細菌毒素についての説明がありました。ここでわたしたちに聞き慣れないヘパフィルター、あるいはウルパフィルターという、つまり外気を取り入れて、そのフィルターを通してシェルターに吹き込むときの特殊な言葉が出てきたわけですが、これについてマンジュシュリー正大師。どのくらいのものを通すのか、あるいはどれくらいのものは通さないのかの説明を少ししてもらえるかな。

マンジュシュリー・ミトラ　はい。ヘパ、つまり高性能、それからウルパ、これは超高性能とい

これまでの戦争で使われた生物兵器

本格的な生物兵器開発は、第二次世界大戦中、日本陸軍の七三一部隊によって行なわれた。特にペスト菌の研究に力が注がれた。この研究成果は戦後、アメリカに受け継がれている。

公式には実戦で生物兵器は使用されていないことになっている。しかし、世界平和会議実行委員会が結成した国際調査委員会の調査により、朝鮮戦争でアメリカ軍が細菌戦を行なったことが明らかになった。

朝鮮戦争の戦線が膠着（こうちゃく）していた一九五二年初め、朝鮮北部と満州各地で異常な伝染病が発生したのだが、その特徴は、

1　過去五〇〇年間、ペストの発生したことのない地域
2　突然
3　流行期には少なくとも三カ月早い厳冬期
4　米空軍機が不発弾を投下した地点で発生

というものである。明らかに人為的に発生させられた伝染病であることがわかる。

（『日本全史』講談社）

朝鮮戦争では、細菌兵器が使われた可能性が高い。

うものです。これらを組み合わせた場合には、〇・一一ミクロンの粒子、ちょっとメーカーによって差がありますが、九九・九九九パーセントぐらいは取り去れるはずです。

尊師　ということは、十万個に一個は通る可能性があるということだね。

マンジュシュリー・ミトラ　そういう可能性はあります。

尊師　わかりました。

●治療・医療の観点から生物兵器を見る

尊師　ジーヴァカ正悟師の方から二重ドアにしてエアーカーテンをつけるとか、あるいは食べ物、飲み物は無菌状態のものを食べる――これは缶詰、あるいはレトルトパックのことを言っているんだと思うが――それを用意しておいた方がいいという話があったが、もっと具体的に、専門的に治療活動・医療活動を行なう場合、どういう治療があるのか。それからまた一般の人はどういうものを用意しておいたら、このB兵器について防御できるのかについて、ヴァジラティッサおよびクリシュナナンダ、説明してくれるか。

ヴァジラティッサ　はい。先程ジーヴァカ正悟師がおっしゃったような最新の生物兵器が使われた場合、対処できる方法は非常に限られてくると思います。医学が追いついていないという感じ

ボーディサットヴァ・ヴァジラティッサ師長
京都府立医科大学を卒業後、大阪鉄道病院消化器内科に勤務。89年にオウム真理教に出家。以降は附属医院の顧問として活躍する、オウム真理教の医学部門の中心的存在。

がします。

古典的な生物兵器が使われた場合に関しましては、例えば、抗生剤を用意しておきます。注射は難しいかと思われますので内服で結構ですが、ペニシリン系の抗生剤をまず用意しておいていただく。なぜペニシリンかというと、これは最も初期の抗生剤ですが、いまだにペニシリンほど安価で多くの細菌に効く抗生物質はないからです。それから、綺麗な水を用意しておいていただくと。それは必ずしも完全に滅菌された水でなくても結構ですが、とりあえず外部から遮断されて、そして日持ちがする水ですね、それを用意しておいていただいて、例えば汚染された部分を洗浄できる、そういった状態にしておくことは大切だと思います。

あと、これは一般の方には非常に難しいかもしれませんが、やはり対症療法としては最低でも点滴をできる用意が必要だと思います。細菌兵器等で下痢、あるいは食事が取れないといった状態になりますと、栄養が採れませんし、水分も入ってきません。あるいは本当に重症患者になりますと、薬を投与するのにも内服は無理で、点滴が不可欠に

なってきます。ですから、点滴だけはできるように確保しておきたいと。で、これは一般の方には無理だと思いますので、やっぱり、例えばオウム真理教のようにですね、おそらく生き残るであろう医師とコンタクトをつけておいていただいて、危なくなればそこに行くと。そういった用意を今からしておいていただくということがポイントではないかなと思うんですけれども。

尊師　蛇足だが、ガージャ・カラニー*等の浄化法の練習によって、一回の吸水の量が非常に高まって、それによって逆に輸液がいらない状態、つまり点滴がいらない状態を形成することもできるよね。もし、胃腸が動いていればの話だが。

ヴァジラティッサ　はい。

尊師　続けてくれるか。

クリシュナナンダ　今のお話に続けてですが、千葉の方で、普通のいわゆる風邪を引き起こす溶連菌（溶血連鎖球菌）という細菌の変異株で、急激に筋肉を融解してしまうというようなものが、局所的にはやったことがあります。そういったものすごい毒性を持った細菌に対しては、ほとんど抗生物質は役に立たない、感染してから四時間から二十一時間くらいで、どんな医療も役に立たないというような状況に追い込まれるようなんです。ですから、そういう細菌を兵器として使われたときには感染した部分を、外科的にいえば切断してしまった方が生き残る可能性は高いですね。ただしどうやってそれを見分けるかという問題が出てきますので、なかなか難しいことが

*ガージャ・カラニー：クリヤー・ヨーガのひとつ。『超能力秘密のカリキュラム　健康編』（オウム出版）を参照

劇性型Ａ群溶血性連鎖球菌感染症

溶連菌（溶血性連鎖球菌）は、しょうこう熱、リウマチ熱、腎炎、へんとう炎などを起こすものであるが、欧米で一九八六年ころ発見された新型のＡ群溶連菌（ストレプトコッカス）は、手足を腐らせるなどの激しい症状を示す。このため英国などでは社会問題ともなった。

日本で最初に確認された劇性溶連菌の患者は、九二年夏、千葉県で発生。発病後約二週間で亡くなった。その後、千葉県を中心に東京、石川、熊本などでも患者が発生。全国約四〇例のうち、死亡が約三〇例とされている（九四年五月現在）。

生きたまま急激に肉体が腐っていく。早ければ、発症後数時間で命を落とすこともある。早期発見によるペニシリンの大量投与が唯一の治療法だが、それも気休めにすぎないのだ。しかも、恐ろしいことに、この病気は空気感染するともいわれているのである！

死亡率の高い劇症溶連菌感染症

日本でも発生、7人死亡

進行速く、手足など腐る

あります。

あと、一般の方に用意していただく医療用品としては、あとでお話が出る化学兵器にも共通してくるのですが、今は、ビニール等、軽量でしかも外からの粒子を通さないものができていますので、そういうものを——ビニール袋でも——何枚も用意しておくなどですね。あと、洗浄剤と洗浄水。また、傷の部分の消毒薬、それと外用薬、これは抗生物質入り、抗菌剤入りのもの。そして、傷ばかりでなくて、気道感染、空気を通しての粉塵（エアゾール）という形を介しての感染が結構多いものです。古典的な細菌兵器でもそういうのはありますので、うがい薬や吸入療法というのも結構バカにできないものではないかなと思います。

その他、外傷に関しては、出血をコントロールできるようなゴム、あるいはしっかりとした布でできた止血帯。日常の訓練としては、例えば出血をした場合には足を高く上げる等の体位の研究ですね。そういう知識を得ていることが、一般向けの対処法といえると思います。

●最新の医療技術が生存を助ける

尊師　クリシュナナンダ師長は、この番組が始まる前に、生き残るための必須条件として、血液の保存と、それから自己免疫のための培養という話をしたわけだが、それをもう少し詳しく説明

してくれるかな。

クリシュナナンダ　はい。今は、B兵器ということでお話ししなかったんですが、そういう戦争下においては、外科の言葉でいうと「どこまでやるか」ということになるんです。ちゃんとした施設に近いかどうか。あるいは所属しているグループの規模、処置できる場所までの時間というのが常に問題になると思います。で、今度起きる戦争に関しては、今までの大戦に比べて、その気になれば生き残る可能性は、はるかに高いとわたしは考えています。

　と申しますのは、例えばわたしの研究分野であった体外循環、あるいは体の血漿（けっしょう）を交換してしまう、あるいは人工の透析、あるいは毒素を吸着するカラムみたいなものが今ではできていますので、そういうものを利用する。あるいは人工臓器の発達によって、完全ではありませんが人工肝臓や人工関節ですとかがあります。そういったものは、時代とともに発達してきましたので、それらを利用することによって、生き残る可能性、あるいは体の各部分を温存できる可能性というのは、今までの戦争のときよりも高くなっていると考えます。

　施設等が十分なところでは、足や手が吹き飛んだとしてもマイクロサージェリー、細かい血管神経をつなぐ手術でつなげます。あるいはやけど等の場合には、人間以外の生物の皮膚を利用する、あるいは先程お話にありましたように、あらかじめ――こういう平和なときにですね――自分の皮膚の細胞を培養しておくですとか。あるいは出血に関しては、現在もすでに行なわれてお

りますが、ふだんから自分の血液を採ってグリセリン等と混ぜて、冷凍保存しておくというようなことも考えられます。いずれにしても、戦争の度に救急処置の技術は発達しています。例えば、先程出てきました点滴による輸液の問題などは、ベトナム戦争の際にかなり理論的にも実際的にも進歩した分野です。そういったものは、今度の最終戦争には準備をしておけば応用できると考えます。

また、気道の熱傷というのもかなり致命的になるんですが、例えば、ECMO（エクモ）といいまして、人工の肺を体外循環と組み合わせて利用して、長期の呼吸補助――肺を使わなくても血液を酸素化できて長期生存できる、そして自分の肺の回復を期待する――というような研究まで行なわれて、実際に臨床に応用されています。そういうものも有利に作用するのではないかと考えています。

●新種の化学兵器物質も登場

尊師　ところで、クシティガルバ師長。次の大戦、つまり第三次世界大戦、ハルマゲドンで使われる新兵器について、君の立場から。

クシティガルバ　はい、わかりました。まず第三次世界大戦に使われる化学兵器をお話しする前

ボーディサットヴァ・クシティガルバ師長
筑波大学大学院博士課程科学研究科で有機物理化学を専攻。化学関係では抜群の才能を見せる。オウム真理教に出家後は化学部門での研究を担当している。

に、今現在、わたしが主流と考えている化学兵器に関して話させていただきたいと思います。

まず、今年六月、長野県の松本市でも問題になったサリンはご存じの方も多いと思います。このサリンなどは、化学兵器としては神経ガスに分類されます。で、わたしが現在主流と考えている化学兵器、これは神経ガスおよびびらん剤です。

その一つ目の神経ガスとしてはサリン、ソマン、タブン等があります。このサリン、ソマン、タブンの共通した特徴としましては、五価のリン化合物であると。この五価のリン化合物というのは、リン原子から五本の手が出ていて、その一本一本の手に原子がくっついていると考えていただければいいと思います。

次のびらん剤。このびらん剤にはイペリット等のマスタードガス。マスタードガスにも窒素原子を含んだものをナイトロジェンマスタード、硫黄原子を含んでいるものをサルファマスタードといいます。

では、この神経ガスとびらん剤の特徴を兼ね備えたものはないのかといいますと、これが、一九五〇年から六〇年代に開発されたＶＸガ

スと呼ばれるものです。

これらの化学兵器の特徴なんですが、合成されたその瞬間に、非常に有毒な物質になります。それに対して、化学兵器の形態としてバイナリー兵器、つまり使用直前までは最終生成物の一歩手前の物質で止めておく。そして使用時にそれらを混合して反応させ、そこで化学兵器を合成する、そして使用するという形態が今現在でもあります。

それから、第三次世界大戦においては、化学変化というものにポイントが置かれるのではないかと考えています。つまり、例えばもともとは無毒の物質を、噴霧直後に光照射等の外的エネルギーを加えることで、異性化、つまり化学変化を起こさせ、それによって猛毒物質を作り上げるといった化学兵器を予想しています。

それから、例えば神経ガスのサリン、ソマン、タブン等は偶然出来上がったものではなくて、もともとは農薬だったんです。これはドイツで開発されたのですが、強力な農薬が開発され、その農薬をもとに、このような強力な化学兵器が開発されました。ですからまず、その化学兵器を開発するうえでその元となる物質――リード化合物というのですが――、これが各国において開発されていると思います。

この開発の手法といいますのは、まずレセプター、つまり薬物受容体の構造から――レセプターの構造においても、構造既知のレセプターと構造未知のレセプターがあるわけですが、構造未知

毒ガス

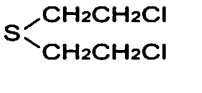
毒ガスには、神経性ガス・びらん性ガス・窒息性ガス・血液ガス（血液毒）・嘔吐（くしゃみ）性ガス・精神錯乱性ガスなどがある。

びらん性ガスは皮膚・粘膜・眼をただれさせ、呼吸器を冒し、死に至らしめるものである。イペリットガス（不純なものはカラシ臭がするので、別名マスタードガス）が有名だが、これには四種類ある。

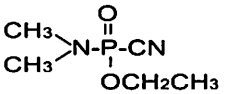
精製マスタードガス。ナイトロジェン・マスタードガス。T－イペリット。Q－イペリット。

神経の末端と筋肉をつなぐ物質がアセチルコリンである。このアセチルコリンを、コリンエステラーゼという酵素が分解する。もしアセチルコリンが酵素によって適切に分解されないならば、神経は常に緊張状態になり、筋肉のマヒ・瞳孔収縮・体温上昇・下痢・嘔吐・失禁・不安・不眠・興奮・情緒不安定・昏睡・けいれんなどを引き起こし、死に至る。

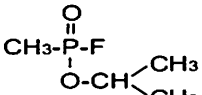
神経性ガスは、このコリンエステラーゼを破壊するものであり、「致死効果は水爆にも匹敵する」と喧伝されている。松本毒ガス事件やオウム真理教攻撃にも使用されたサリンはこの神経ガスであるが、その他にもタブン・ソマンなどがある。



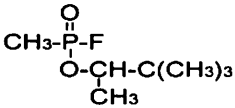
イペリット



タブン



サリン



ソマン

の場合はその構造を予測したうえで――これらのレセプターにフィットする化合物をコンピューター計算等によってピックアップする。そして、次のステップとして、このピックアップされた化合物をより高い生物活性を有する化学物質に変換させるための誘導体化のステップ、つまりQSAR、定量的構造活性相関という手法を用いるのですが、このような手法を用いて、その新種の化学兵器物質、こういったものがドラッグデザインされていると思われます。以上がわたしの考えです。

●個人では難しい化学兵器対策

尊師　これについて、治療家の立場からヴァジラティッサ師、およびクリシュナナンダ師どうだ。

ヴァジラティッサ　はい。クシティガルバ師が今おっしゃったのは、主に非常に毒性の高い神経ガスということになるかと思いますが、これに関しては、いくつかの治療の方法があります。基本的な作用は、組織中のアセチルコリンエステラーゼという酵素を阻害することによって、神経ガスがその毒性を発揮するわけですが、その特異的な解毒剤として、いわゆるオキシム剤というのがあります。日本で市販されている薬は、ヨウ化プラリドキシム、いわゆるPAM（パム）という薬なんですけれども、これは非常に特異的な解毒薬、つまり簡単に言えば特効薬です。さらにこれは一般の有機リン系の農薬の中毒の際にも使うことができます。

それから、硫酸アトロピン。これは非常に一般的な薬なんですけれども、こういったものを使うことによって、根治ではないですが症状を抑えることはできます。

あともう一つは、神経ガス等が使われた場合には、筋肉にけいれんが起こりまして、人工呼吸はしづらくなります。気管がけいれんによって狭まっていきまして、それによって窒息してしまうのです。それを防ぐために、ジアゼパムという薬があります。治療に使う薬として不可欠なのは以上の三つです。

それから神経ガス、神経剤に対しては、予防薬というのがありまして、これは、ピリドスチグミンなんですけれども、これを八時間おきに内服することによって、神経ガスに暴露された場合の治療が容易になります。

治療法としてはだいたいこういったものなんですけれども、ただ、今申し上げたものには、非常に問題があります。例えばピリドスチグミンの錠剤は毒物でもあり、一般の方ではとても手に入らないんです。それから、パムはなるべく早期に使わなければ効果は薄いということです。例えば、神経ガスのソマンに関しては、暴露後二分以内にパムを射たなければ、薬の効果は半減してしまいます。つまり、これはエイジングといわれる現象なんですけれども、同じ量の薬を射ったとしても効果は半分になってしまうんです。四分後では四分の一、八分後では八分の一になってしまいます。つまり、民間の方が助かるには自分で注射をするしか手がないということになり

ます。

尊師　質問していいかな。

ヴァジラティッサ　はい。

尊師　注射の仕方には静脈注射とか皮下注射、筋肉注射とかあるわけだが、これはどの注射でもいいの？

ヴァジラティッサ　はい、米軍は筋肉内に自己注射をするというやり方を採用しているそうです。ただ、法律がらみで二つ問題があります。日本では薬事法の関係上、そういったものを自分で注射できません。もう一つは、日本国内で生産されていないため、海外から輸入をしなければならないのですが、それが非常に難しいのです。

　硫酸アトロピンに関してはさらに問題がありまして、このアトロピンの原料は、ベラドンナという薬草なんですけれども、これはブルガリアでしか作っていないんです。ですから、非常な戦略物資であって、いざとなると日本に入ってこなくなる可能性もあるんですね。ですから、現状では、皆さんができることといえば、それを備蓄しているところを見つけておく、そういった治療をしてもらえる、頼りになる病院を見つけておくということしか手がないかなという気はいたします。

クリシュナナンダ　今、神経に作用するガスに関する治療を言っていただきましたけれど、特に

外科の分野ではびらん剤――皮膚がやけどをしたようなかたちになるわけですが――が関係してきます。これは非常に治りが悪いです。というのは、マスタードガスから抗癌剤というのが作られたのですが、それほど細胞の分裂そのものを傷害してしまう薬剤というか毒薬なので、非常に治りが悪い。それが、しかも広範囲になった場合にほとんどお手上げであろうと考えられます。ただし、戦時中ですので――これは変な話なんですが――死体がありますね。そこから皮膚を取って、例えばグルタールアルデハイドというような、抗原抗体反応をなくしてしまうようなもので処理をして移植をしておいてやけど部分を覆い、自分の皮膚が再生してくるのを待つというようなことも可能ではないかと考えられます。

尊師　それではここで一曲。これはハルマゲドンもそうだが、救済も同じです。ただ、「ハルマゲドンが起きる。怖い」と思ってても仕方がない。しっかりその状況を考え、そして原因を分析し、そして生きる。できるだけ長く生きて修行する時間を確保する。これが聖者の道だと思います。同じようにあなた方の周りの人の苦しみをただ単に聞いていても仕方がない。やはり救済するしかないんだということを皆さんに、もっともっと心に浸透していただくために、ここで一曲「魂の苦悩」を聴きたいと思います。

《魂の苦悩》

●レーザー兵器、マイクロ波兵器も使われる

尊師　ところで、ＡＢＣ兵器という、第二次世界大戦から見て想像できる兵器について今まで分析してきたわけだが、第二次世界大戦で使われなかった兵器、例えばマイクロ波とかレーザーについてもう少し詳しく、科学者の立場として、マンジュシュリー・ミトラ、ヴァジラパーニに聞いてみましょう。

マンジュシュリー・ミトラ　はい。まずレーザーですが、波長帯によって何種類かに分かれます。例えば紫外線を発するエキシマレーザー。紫外線の場合は、化学反応を起こす力が強いですから、いろんなものをイオン化して化学反応を起こさせる。――太陽の紫外線で皮膚が黒くなるのは皆さんご存じのとおりだと思います。

それから可視光線。このあたりの波長には、例えばヘリウムネオンレーザーをはじめとする、目で見える光を発する様々なレーザーがあります。ただ可視光線のレーザーの特徴としては、あまり出力が強くない。

そして赤外に入りますと近赤外線と呼ばれる可視光に近い分野、このあたりでＹＡＧ（ヤグ）レーザー。それから遠赤外線といって、可視光からずっと遠くて主に熱線と呼ばれるような分野で、CO_2レーザーとかＣＯレーザーなどがあります。これらは赤外で結構エネルギーをたくさん乗せることができるので、例えば鉄板を切ったり、溶接したりといった分野で使われております。

波長帯とレーザー

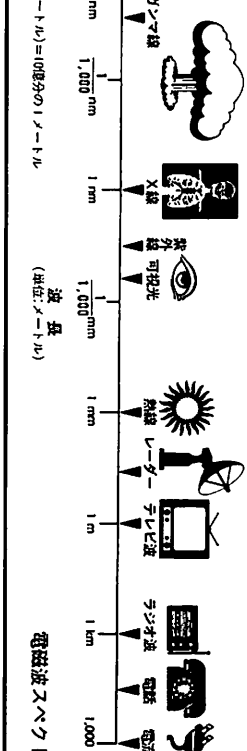
電波と光は、どちらも「電磁波」だが周波数が違う。電磁波は波と考えていただきたい。この波の幅がどれだけ細かいかを表わすのが周波数である。正確にいえば、一秒間に振動する数が周波数（ヘルツ）ということになる。また、波の長さでいえば波長ということになる。電磁波の名称は波長で区分されている。

ＡＭラジオの電波（波長1km～100m）の場合、一秒間に百万回前後振動しているということだ。1476KHzなら一秒に百四十七万六千回振動している。ＦＭは千万回前後。

さらに振動数が増えると、テレビのＶＨＦ（超短波）、ＵＨＦ（極超短波）となる。ＵＨＦからセンチ波・ミリ波・サブミリ波をマイクロ波と呼んでいる。

さらにマイクロ波より周波数が高くなると、遠赤外線、赤外線、そして赤から紫までの可視光線となる。さらに紫外線を経て、真空紫外線、Ｘ線、γ線に至る。

これらの各種電磁波を、一つの方向に集中させて発射するのがレーザーである。エネルギーが集中し、精確に遠くまで到達するため、非常に効率の良い兵器となる。



図：『ビームディフェンス』時事通信社

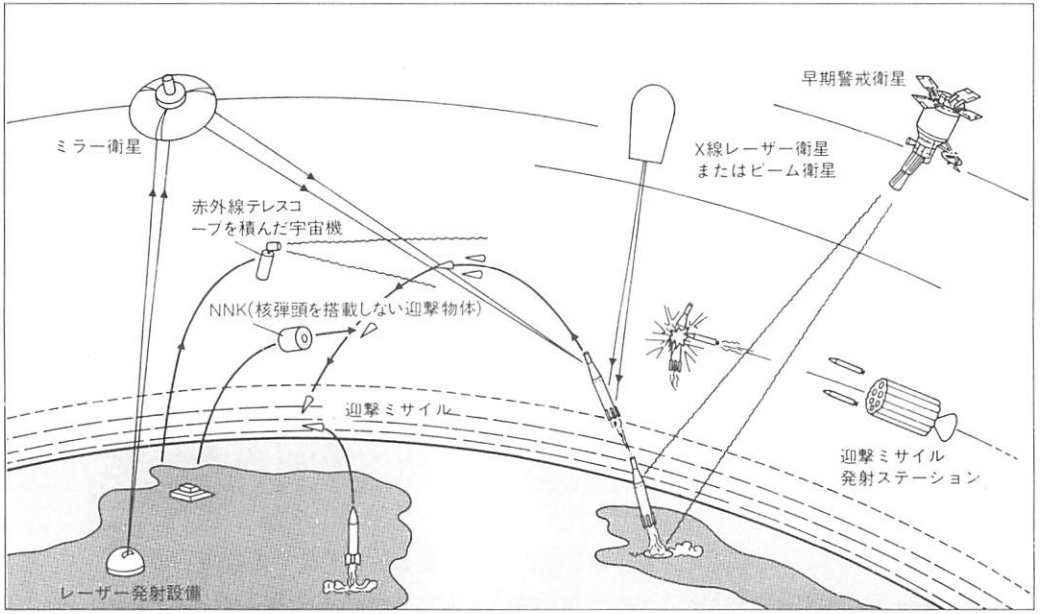
さらに、波長が長くなってミリ波と赤外線の中間領域、サブミリ波というあたりの波長になりますと、例えば自由電子レーザーのようなものが考えられ、今、軍で盛んに研究されているようです。

この中で最も使いやすいものというと、赤外の熱ですね。やけどを起こさせるというレーザーではないかと思います。現に先程のヤグレーザーというのは波長が可視光に近いので、ガラス等でも吸収されず、普通の車の窓とか眼鏡とかは通ってくるんですね。例えば尊師の車の運転をされている運転手の方などが、時々目の痛みを訴えられていた、それに対してヤグレーザーの防護眼鏡を差し上げたところ、その痛みがなくなったということでもわかるように、オウム真理教はすでにレーザー攻撃をされているということがいえると思います。

ヴァジラパーニ　レーザーに関して、軍事の視点からいいますと、やはりX線レーザーが盛んに研究されております。これは以前話題になったSDI計画で、相手のミサイルを迎撃する目的での研究がなされておりました。ただ、現在のところ、これは原爆を用いますので、つまり原爆の核爆発によって生じたX線を利用しますので、地上では使いづらいと。したがって、もっぱら宇宙においてミサイルを迎撃する目的で研究されているようです。

マンジュシュリー・ミトラ　ただ、それは地上実験もやっているよね。

ヴァジラパーニ　やられている、とは思います。



大気圏外を飛来するＩＣＢＭ（大陸間弾道ミサイル）等の核兵器を宇宙空間で迎え撃ち、事実上無害化して核攻撃の脅威から世界を解放するという、いわゆる戦略防衛構想＝ＳＤＩの概略図。各種レーザー兵器、砲弾兵器といった種類と機能の異なる防衛兵器陣を三段構えに配置し、それぞれの段階で90～95％の効率で撃破、結果として100％の迎撃システムにすることがねらい。

図版：「ここまで進んでいる宇宙の危機」学習研究社

マンジュシュリー・ミトラ　測定器が蒸発して大成功だったという話を聞いたことがあります。

●レーザー攻撃を防ぐ

尊師　これらの防御についてはどうかな。ヴァジラティッサ。

ヴァジラティッサ　はい。先程マンジュシュリー正大師が、レーザー用のゴーグルをつけるというような話をされていましたけれども、レーザーが目に入って、網膜に作用した場合、失明の可能性があります。実際、レーザーは医療用にも使われておりまして、網膜の黄点という一番よく見えるところがあるんですけれども、そこに当たった場合は失明してしまうという例も報告されておりますので、とにかく、まず目には入れないということが肝要かと思います。

身体の他の部分について言いますと、人間の中での生命現象というのはほとんど酵素反応で、それはだいたい体温、つまり三十七度付近で起こります。この温度を大きく外れると、生命活動が維持できなくなり、病気、あるいは死を迎えることになります。ですから、強大なエネルギーがレーザーによって与えられた場合は、ちょっと防ぎようはないかなという気はいたします。

尊師　じゃあ、防ぎようはないということだな。簡単なものについては、特殊なゴーグル等で防御できるが、それ以上強くなると防ぎようがないと。

ヴァジラティッサ　はい。当たってしまうと、その障害を防ぐのは無理だと思います。

尊師　ただマンジュシュリー、波長帯によっては防ぐことは可能なんじゃないか。そうでもないか。

マンジュシュリー・ミトラ　そうですね、簡単にいえば反射してしまえばいいということで、やはり反射率の高いもの。金……、

ヴァジラパーニ　あるいは銀。こういった貴金属で反射するという方向でしか対応できないと思います。

マンジュシュリー・ミトラ　先日実験した結果では、アルミでも結構効果がありました。

ヴァジラティッサ　それはそういった服を着ているということでしょうか。

マンジュシュリー・ミトラ　そうですね、服および帽子およびお面といいますか。皮膚を露出させない。これは、原爆の熱線に対してもかなり効果はあるのではないかと思っておるんですけれども。これはどうでしょうか。

尊師　これはやはり、今後特殊チームをつくって、そういう大戦が始まったときに防御し、隠れる服を実際作って試してみる必要があるね。

マンジュシュリー・ミトラ　そうですね。この前の実験では、同じアルミでもプラスチックに蒸着されたものを使った場合には、かえってそのプラスチックが溶けて張りつくために、やけどの

危険が増えるというような結果が出ております。

尊師　まあ、実験してみるしかないと。

●プラズマ兵器にどう備えるか

尊師　ところでティローパ。他に、どういうものが使われると思うか。

ティローパ　先程、レーザーの話が出ましたけれども、こちらの方が実用化されれば非常に怖いと思うのがプラズマですね、前にも申しましたように。プラズマ兵器というものが使われるのではないかと思います。新たな破壊兵器としましては、やはり、SDI構想と関連したプラズマ兵器というのが最終的なものではないかと思います。

それから、破壊方法ではないのですが、武器そのものがどんどんリモコン化されて、ミサイルはもちろん今でも無人なんですけれども、今の戦闘機のようなかたちの無人のものがどんどん開発されると思います。それによって人間では制御できないようなものを、制御しやすくしていくというような、移動あるいは運搬手段のロボット化ですね。

尊師　これは、どの新聞だったか忘れたが、台湾で実際に警察ロボットというものが動き出すというような話を聞いたが、いよいよアニメーションの時代に没入していくという、そういう感じ

かな。

ティローパ　はい、そうですね。アニメーションも一概には笑えない部分がありまして、将来を暗示するようなものが多分にあると思います。まさにアニメーションを超えた世界が今後、ハルマゲドンでは出てくるのではないかと考えております。

尊師　この、先程からいわれているプラズマだが、プラズマに対する、科学的防御というのはあるのか。どうだ、ヴァジラパーニ。

ヴァジラパーニ　もともとプラズマを閉じこめる研究というのは盛んになされております。プラズマを構成している電荷を持った粒子というのは、磁場を横切りにくいという性質を持っていますので、強い磁場によって閉じこめるというのが一つの方法です。ですから、これを利用して、例えば強い磁場によって、プラズマを遮蔽（しゃへい）するというの

「ロボコップ」
7月に登場
台湾

台湾の警察当局はこのほど、凶悪事件の際の現場出動用として、遠隔操作式の「武装ロボット警官」を独自開発し、フランスのメーカーに二台発注した。

警察当局者が二十六日明らかにところによると、この「ロボコップ」は一台が約二千二百六十万元（約二千三百五十万円）で、七月までに完成する予定。

映画もどきの鋼鉄製ロボットは「身長」が一・五㍍で、重さ六十㌔。マシンガンや高圧電流銃、催涙ガス弾で武装し、襲われた所から警察が状況を把握できるようにと、ビデオカメラも装備している。このほか、犯人との交渉用に通信機能も身に付けている。

警察はこの新兵器が一度に五人の犯人を相手にできると自慢しているが、製造メーカーの名前は伏せている。（AP）

「朝日新聞」94年３月４日朝刊

は可能かと思われますが、その場合、逆にその磁場そのものの人体に対する影響が無視できなくなってくる可能性があります。普通のレベルの電磁波程度であれば、先程から出ている銅・銀などの導体で反射するという方策も可能であると思うのですが、それがある領域を超えますと、普通の防御では苦しいかもしれません。

尊師　領域を超えるということはパワーが強くなるということだな。

ヴァジラパーニ　そういう意味です、はい。

尊師　マンジュシュリー・ミトラの見解はどうだ。

マンジュシュリー・ミトラ　そうですね。やはり金網の実験におきましても、材質によっていろいろ特性がありまして、例えば鉄の金網なんかの場合ですと、かえってその金網からプラズマが発生し、中のものが焼かれてしまうというような結果がありました。そのために、尊師の車に関しては銅の金網を使っているわけですね。しかし、これが非常に強い電磁波にさらされた場合には、そこに誘起される電流がある限度を超えまして、銅自体も溶けてしまいますし、あるいは銅の端から放電が起こり、マイクロプラズマに包まれるという可能性はあります。

ただそこで強い磁場というのは一つの方法だと思いますね。いったん発生したプラズマは、強い磁場を横切ることができませんので、それで壁のようなものをつくってしまえば、これは一種のバリアーがつくれるのではないかと思います。

尊師　いずれにしろ、わたしたちは長く生きなければならない。なぜ長く生きなければならないのか。それは経典にもうたわれているとおり、長く生きることによって未来の生を確定するためである。つまり短く生きるということは、例えば、来世天界へ行けるという確信があったとしても、それは非常に弱いものとなる。しかし、長く生き、法則を修習し確定するとするならば、それはわたしたちを安全な未来世への経験へといざなってくれる。そしてこのカーリー・ユガの現代においては、生きるためには戦うしかない。例えば毒ガスを噴霧されたら、その毒ガス噴霧に対して毒ガスを除去できるようなクリーナーを作らなければならないし、例えばマイクロ波が照射されたら、それを防御するような金網を用意しなければならない。例えばレーザー照射がなされたら、それに対応できる防具類を用意しなければならない。まさに戦いである。そしてこの戦いは、こういう物理的な防御だけではなく、わたしたちの救済の輪を広げる意味での戦いに発展し、そして最終的にはこの地上のすべての魂を救済しなければならない。

「戦え！　真理の戦士たち」。

《戦え！　真理の戦士たち》

プラズマ人間に変身せよ！

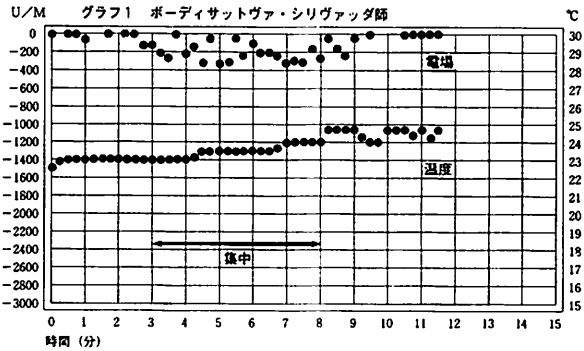
プラズマ兵器から自分を守る唯一の手段

プラズマ兵器に対する別の観点からの対処法として、自らの身体からプラズマを発するプラズマ人間に変身するという方法がある。何やらSFのような話だが、実はそれほど現実離れした話ではない。オウム真理教の修行者は、なんと身体から電場を発生させることが可能なのだ。その電場をとらえた実験をご紹介しよう。

今回の実験は、チャクラ（人体に存在する霊的なセンター）が存在する部位に生じる電場を測定することを目的とした。実験には、FETという装置が使われた。これは電界効果トランジスタをセンサーとした、電場測定装置である。

被験者は、オウム真理教で修行をしている十二人の健常者。うち五人がクンダリニー・ヨーガ、二人がラージャ・ヨーガの成就をそれぞれ達成している。

グラフ1はクンダリニー・ヨーガの成就者、ボーディサットヴァ・シリヴァッダ師の実験結果である。ご覧のようにアージュニャー・チャクラ（眉間）に意識を集中

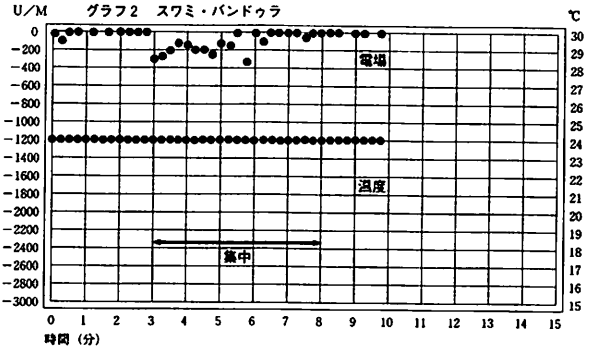


しているときに負の電荷を起因とする電場が発生しているのがわかる。明らかに精神集中によってチァクラが電気的な反応を示しているのだ。グラフ２はラージャ・ヨーガの成就者、スワミ・バンドゥラの実験結果である。やはり集中しているときに電場が生じている。

　では、全体の実験結果をまとめてみよう。表は、修行ステージと測定された電場の強さの関係を示したものだが、修行ステージと電場の強さに見事に相関関係が生じていることがわかる。つまりこれは電場の発生が修行の進度と密接に関わっていることの証明であり、オウム真理教で指導されているような正しい修行をある程度の期間行なえば、だれでも電場を発生することができるということの証明になるのである。

　この電場の発生は、実はアージュニァー・チァクラにつながる三本のエネルギー管と関係がある。そしてこの三本のエネルギー管から発されるマイクロ波の周波数がすべて一致したそのとき、プラズマが発生するのである。

　身体からプラズマを発生させることに成功した者に対しては、プラズマ兵器はまったくの無力になる。なぜなら、プラズマを身体から発している人間が外的にプラズ



マの照射を受けた場合、単に自分の発するプラズマが増大する、つまりエネルギッシュになるだけなのだ。

攻撃を受ける度に強くなっていく――オウム真理教の修行者にとっては、恐怖のプラズマ砲も殺人兵器とはならず、かえってエネルギーの補給源となってしまうということである。

正しい修行によって心を浄化し（心の浄化は三本のエネルギー管の浄化とイコールである）、浄化された管を通して生命エネルギーを上昇させ、アージュニァー・チァクラにエネルギーを導き、その周波数を完全に一致させたとき、わたしたちは身体からプラズマを発し、プラズマ兵器から守られることになる。最終殺人兵器・プラズマ砲の攻撃の下で生き延びる最後の手段は、〝正しい修行〟の実践しかないのである。

なお、もちろん付け焼き刃の修行で電場やプラズマを発生させることは難しい。生き延びたいと思うなら、できるだけ早いうちから修行を始めておくことが肝要である。

表　ステージと電場の強さ　　が被験者１人

ステージ ＼ 電場(V/m)	0	0〜100	100〜200	200〜300	300〜400	400〜500	500〜600	600〜700	700〜800
クンダリニー・ヨーガの成就者									
ラージャ・ヨーガの成就者									
非成就者									

●オウム真理教で強力な防御法の開発を

尊師　そろそろまとめに入りたいと思います。クシティガルバ、化学者としての立場から追加のアドバイスがあったらお願いしたいんだが。

クシティガルバ　わかりました。まず、今後の防御法。これについては今、コスモクリーナー等があるわけですけれども、わたしは今のオウム真理教科学技術省のポテンシャルを信じていまして、今後、より強力な防御法を開発していただけると思っております。

防御法には消極的防御法、それから積極的防御法というものがあると思うんですけれども、消極的防御法としましては、今現在、開発されつつあるものとしまして――これは二つあるわけですが――一つはレーザー反射光の蛍光検出法。これは要するに強力なレーザー光を空気中の毒ガスに当てる。そして、その反射光の蛍光を検出する。この蛍光というのは物質特有のスペクトルを与えますから、そのスペクトルからすぐその毒ガスの種類を推定する。そのような「消極的防御法その一」。

次に「消極的防御法その二」。これは〝CADS〟――〝ケミカル・エイジェント・ディテクション・システム（Chemical Agent Detection System）〟――といわれるものですが、これは戦場の各所に、まあ、戦場でなくてもいいわけですけれども、各所にサンプリング・ステーションを設けます。このサンプリング・ステーションに毒ガスが触れると、自動的に高周波を発しま

す。この発する高周波の周波数で、毒ガスの種類、これを検知するというものです。この二つが、将来的に何とかオウム真理教で具足したいなと思う消極的防御法なんです。

もう一つの積極的防御法。これは、毒ガスというものは化学物質ですから、例えばレーザー、プラズマというもので一瞬にして破壊してしまう。焼いてしまうのです。そういうことができるならば、その化学兵器に対する恐怖というものは除かれるし、化学兵器に対する防御というものも完璧になると思います。ですから、今後オウム真理教でそのようなものを具足できたらいいなと、わたしは考えております。

尊師　この積極的な対策というのは、要するにレーザーとかプラズマを当てることによって高温化し、それによって毒ガスを分解するというわけだね。

クシティガルバ　はい、そういうことです。

●東洋の叡智が最終戦争を切り抜ける

尊師　わかりました。次にクリシュナナンダ。どうだ。

クリシュナナンダ　はい。一番初めの尊師のお話の中に、食糧で木の根を食べる、その理由としては放射線を防げる部分と、汚染されていない部分を食べて生き残るというのがありました。木

の根に関しては、例えば現在でも甘草というような薬は、肝臓の解毒剤をそこから抽出していますから、そういった具体的な抽出技術なども利用できるようにしておかなければならないと思います。

また、長く生きるというお話が先程ありましたが、その点に関しても、プラーナを温存したり強化したりするような、医療に関する方法も必要ではないかと思っています。その一つの方法としては、伝統医学にある、例えば経絡のつぼを利用した、先程言ったような抽出物の注射、そういったものによって、例えば腎不全の患者でも人工透析をしないで腎不全を改良できるといったような治験も、少ないですがあります。そういうような方向を少しこれから模索してみたいなと考えています。

尊師　要するに、東洋の叡智をもう少し活用して、ハルマゲドンを乗り切りたいと考えているんだね。

クリシュナナンダ　はい。生体エネルギーといえば、やはり東洋医学だと思うんです。

●オウム真理教の使命は大きい

尊師　ヴァジラティッサはどうだ。

ヴァジラティッサ　はい、そうですね。今回わたしは、やはり皆さん、一般のごく普通の方が、

家庭もしくは職場等でできる治療に関しては非常に少ない、さらに医療機関でも準備がいるということを申し上げたわけです。ちょっと先程数えてみたんですけれども、例えば人に点滴をするだけで、その点滴の機材の部品は、点滴のボトルから針までで十一個もありました。それは全部別の物質でできているわけなんですけれども、例えば戦争が起こって、いったん社会的な基盤がなくなってしまったら、そういったものはすぐには作れません。ところが、社会では手に入らなくてもオウム真理教は産業基盤から立ち上げて、いろんな物質、さらには製品を作ろうとしています。ハルマゲドンが起こっても、最低限の必要物資が確保されている、そういった対応ができる組織に、オウム真理教はなっていかなければいけないのではないかと思います。医療技術を残すとともに、そし

90年6月に厚生省の認可を得て開設されたオウム真理教附属医院

て現在ある医療用品を備蓄していくとともに、さらに今度は、何もない状態から医療をつくり出せるような、そういった組織に、どんどん発展していかなければいけないのではないかという気はします。また、そういった発展の可能性を大いに備えている組織であると思います。ですから、これからハルマゲドンに対してわたしたちオウム真理教が背負っている使命というのは、非常に重いなあという気はいたしました。今後ともよろしく尊師のご指導を仰いで、ハルマゲドンへの備えに万全を尽くしたいと思います。

●死に対する心構えもあれば万全

尊師　ジーヴァカはどうだ。

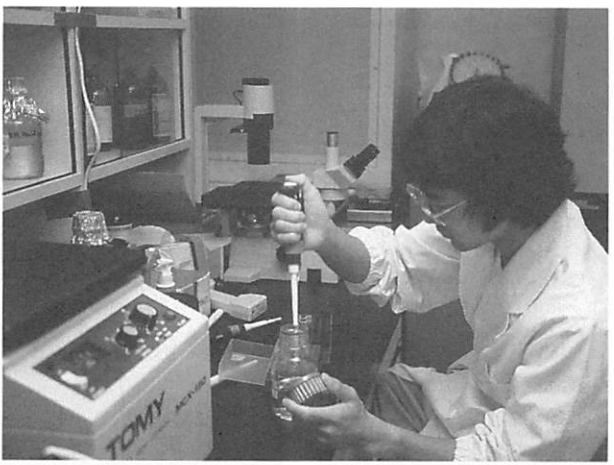
ジーヴァカ　はい。病気というものは世間一般にあるわけですが、細菌兵器というものはわたしたちに病気を引き起こします。したがって、本当にこの細菌兵器が使われたというときには、わたしたちの病気というものは非常に重くなってしまって、気がついたときには大量の死者が出ている可能性があります。また、エイズ・ウイルスというものは某国で作られた生物兵器といわれているように、こういう病気、生物兵器なのではないかといわれているものは、意外と身近にあるんです。したがって、わたしとしてのアドバイスとしては、信頼できる団体、医者というもの

を近くに置いておく。そして今回皆さんがおっしゃったような防御策ですね、これをできるだけ取っておく。そしていざ、そういう細菌兵器にさらされてしまって、死が身近に迫っても慌てないように、しっかりと今から死に対する心構えをなしておく。つまりしっかりと修行すると。それがわたしのアドバイスです。

●結局は自己との闘い

尊師　ティローパはどうだ。

ティローパ　はい。細菌兵器、化学兵器、それから核兵器等にしましても、一応これらの兵器については、シェルターがあれば相当な確率で生存することができると思います。例えば一〇メガトンの水爆が爆発した場合、シェルターがなければ、



バイオテクノロジーの研究によってハルマゲドンを生き残る

二五〇キロ四方にわたって死の灰によって確実に死んでしまう。しかし、シェルターがあれば、少なくとも一〇キロより遠い人は助かる可能性がありますし、三〇キロ離れていれば、ほぼ確実に助かるといわれております。そういう理由で、アメリカにしろ、ロシアにしろ——ロシアは地下鉄をシェルター化し、四〇メートルから一〇〇メートルの深さのところに造っていますし、アメリカはもう、国民の二倍近くの収容人員を誇るシェルター化がなされているわけです。

ところが、日本においてはほとんどそういうことはなされていない。地下鉄、この間も申しましたけれども、ただ一つ国会議事堂に近い霞ケ関の駅だけがシェルター化できるんではないかといわれるぐらい、貧弱な対応しかできていない。そうしますと、各個人が自分でなんとかするか、あるいはそういうことを見越した、非常にしっかりした団体に所属するか、どちらかしかないと、こういうふうに思うわけです。個人でなんとかしようという場合には、できるだけ軍事的な戦略地点から遠ざかったところで、比較的簡単に造れる、先程申しましたような、地下一メートルのところに、三〇センチぐらいのコンクリートでシェルターを造るといいでしょう。

しかし、こういうところで防御したとしましても、結局はその攻撃後、社会的な激変が起こるわけです。例えば、食糧難でありますとか、いろんな病気が蔓延したりとかいうことが起こってくるわけですし、また、社会的な移動も非常に難しくなるわけですよね。こういったものに対処するためには、医療、それから食糧、そして町づくりもできるようなきちっとした、例えばオウ

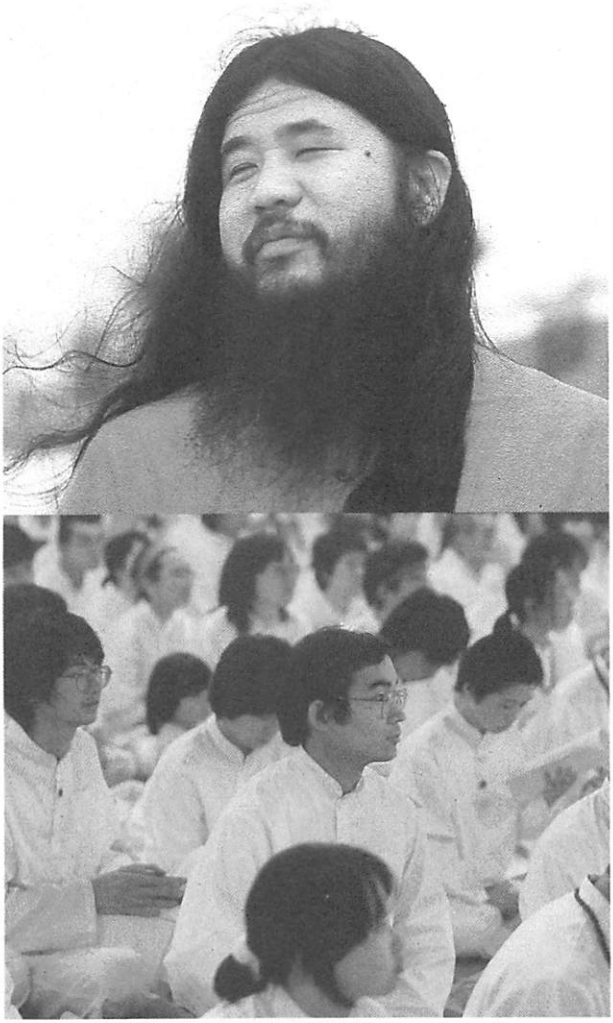
ム真理教のような団体に所属される。これが一番の、生き残る策であると思います。それから、結局は自己の煩悩との闘いになってきますので、そういう精神的な向上を今からきちっとおやりになるというのが最良の方法であると思います。

●最高の自己利益——出家

尊師　はい、では次はヴァジラパーニ。

ヴァジラパーニ　はい。兵器に関して補足いたしますと、ＡＢＣ兵器には入らないのですが、ある種の電磁波が人体に影響を与えるという話があります。例えば、これはアメリカだったと思うんですけれども、ある種の電波を使ったレーダーの研究をしていたが、その周辺の人間に対する影響が甚大であったため、その研究は中止されてしまったといわれております。この話が本当であるとすれば、これを逆手にとった兵器というものも当然考えられるわけで、こういったものを含めて、今、表に出ている兵器、あるいは出ていない兵器、すべてが使用されると考えていいと思います。

　これに対して、我々が考える完璧な防御といいますと、やはり水中都市、あるいは潜水艦で潜る、こういうものしかないと思われます。ただこれは明らかに個人レベルでは無理であって、か



といって国が守ってくれるかというと、先程も出ましたが、守ってくれるどころか国会議事堂前だけ地下鉄が深いというような状況ですから、とても無理であると。こういった状況で冷静に考えますと、やはり出家、それも救済ということを真剣に考えている団体への出家しかないと思います。出家といいますと、精神的な面が強調されますし、実際それは非常に大きいわけですが、これからの時代においては、物質的な意味でも、最高の自己利益になる道、それが出家ではないかと考えます。以上です。

●予知能力を持ったグルの指導が必要

尊師　マンジュシュリーどうだ。

マンジュシュリー・ミトラ　はい。湾岸戦争でテレビ放映されてご存じのように、今、兵器のハイテク化ということがどんどん進んでおり、例えばピンポイント攻撃等が行なわれるようになっております。これは、いろんな誘導具を作りまして、その正確な制御、その他で、そのポイントを攻めるわけですが、この結果として、兵器としては値段は高くなるということです。だから、兵器産業としては成り立つと思うんですが、実際、例えば一発あたりの弾頭の威力等に関していうと、かえって小さくなっています。例えば飛行場に飛行機が並んでいるところで攻撃されて、

飛行機だけつぶれているとかいう写真が発表されております。これはやはり攻撃される場所にいる方が悪いといいますか、実際わたしたちの立場としましては、空気、水、食糧、エネルギー等の準備をした上で、いちばん重要なのは「いつ」「どこが」「どのような」攻撃を受けるのか、これを予知しなければならないと考えています。でも、我々にはそういう能力がありませんから、そのような予知能力を持っておられるグルの指導に従うというのが、いちばん安全な道ではないかと思います。

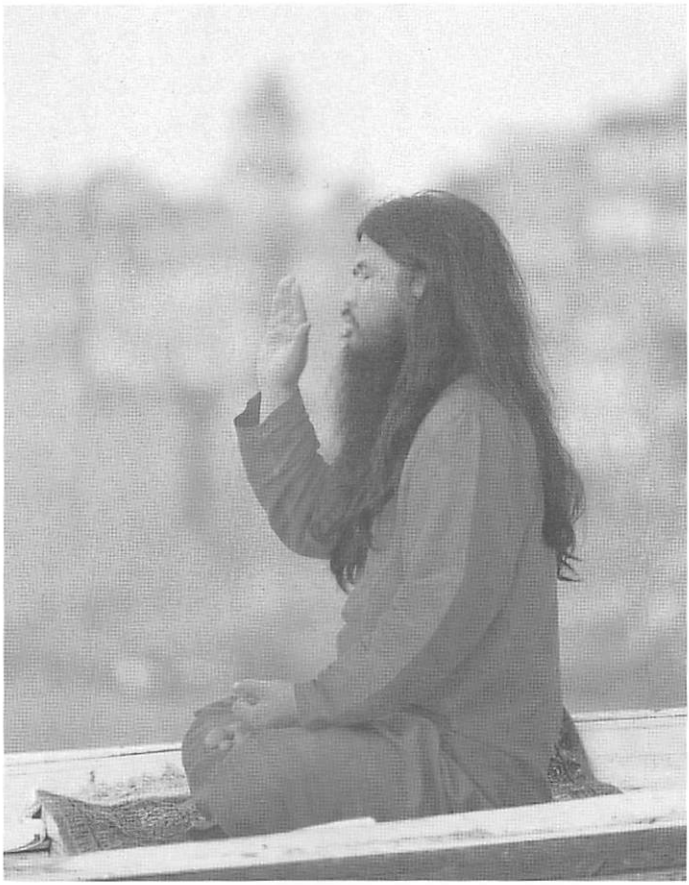
●最終戦争の恐怖を取り除くために

尊師　わたしたちにとって経典というものは、まさに道であり、そして予言書であるということができます。例えば、冒頭にも述べたとおり仏典には必ず中間のカルパにおいて戦いが起き、そしてほとんどの人類は死滅すると説かれています。生き残る魂はどのようなかたちで生き残るのか。これは「岩山に隠れ、そして木の根っこを食べた魂。あるいは山林に入り、そして木の根っこを食べた魂が生き残る」と経典はいっている。これを例えば現代の日本に当てはめた場合、森林はあるのかと。ま、一応あることはあるが非常に小さい。岩山はどうか。これはやはり富士山を中心としていくつかの岩山は存在する。

では、現代生活に慣れたわたしたちがこの岩山で生活することができるのだろうか。それはわたしは否であると考えています。おそらく寒さのため、あるいは雨のため、あるいは食糧のため、もし戦争が長引くとするならば、結果的には発狂したり、あるいは飢えるしかないのではないかと考えるからです。

では、それを防ぐためにはどうしたらいいか。その岩山に都会をつくるしかない。そして先程ティローバ正悟師が言ったとおり、第三次世界大戦ではどのような兵器が使われるのか。そしてそれを防御するためのシェルターを造る。あるいは、完璧版としてヴァジラパーニ師長が言ったとおり、水底都市、海底都市を造る。あるいは完全なる地下都市を造る。これしかないのではないかと考えています。しかしこれらはあくまでも希望であり、願望である。例えばわたしたちが地下に穴を掘り、そして建物を建てるとした場合、当然国家は規制するだろう。したがって、オウム真理教としてはその規制内でいかに限界まで自分たちが防御するかしかない。

わたしはアメリカにしろ、ロシアにしろ、あるいはドイツにしろ、その他フランス等、いろんな国を歩いたわけだが、日本ほど戦争のにおいのない国はない。しかしわたしたちは少なくとも一九四五年において広島、長崎で原爆の痛い目に遭っているはずである。しかしこれを忘れている。そして次の大戦が起きた場合、ハイテクの国であり、かつ肌の色の違う日本は、また同じようにターゲットにされるであろう。



したがって、この番組を聴いた人はここでいくつかの決断をする必要があると思います。つまり、第一の決断は生き残りたいのか、生き残りたくないのか。第二の決断は生き残る場合、個人によって生き残るのか、それとも集団によって生き残るのか。これら一つ一つの決断を固めていくとするならば、予言のときまで残り少ない時間を何に費やせば最も利益になるのか、皆さんはよく理解できるはずです。

そうだね、もちろん、何のために生きるのがいちばんいいか。それは少なくとも修行すること。そしていつ戦争が来て死んでも、後悔しない人生を送ること。そして積極的な人生を送る人の場合、できるだけ早く出家し、そしてその防御の面にしろそうだし、あるいはその他の救済の面にしろそうだし、そのお手伝いをすること。もしこの点について皆さんがしっかりと認識なさるならば、第三次世界大戦、ハルマゲドンは決して怖いものではないと思います。

第三章 ◆ 未来を見通す神秘力は聖者の証明

――世界は尊師の予言どおりに動いてきた！

経　済

◉ 日本は、アメリカ・ヨーロッパとのね、経済摩擦をきっかけとして、少しずつ少しずつじり貧の生活に入っていくだろう。いいですか。その本当の口火が切られるのは一九九〇年だ。

（八七年五月に予言）

一九九〇年を境にして日米経済摩擦は激化。湾岸戦争でさらに悪化し、米国では反日感情が高まる。バブル経済も崩壊し、九一年八月以降、少しずつじり貧になっている。

湾岸戦争と経済

「当分の間派手なパーティーやイベントは慎み、静かに過ごすように」

湾岸戦争が火を噴いた十七日、本田技研工業は、米国に駐在する従業員にこんな通達を出した。米国が戦争をしている時に、日本人だけがパーティーなどではしゃいでいては、反日感情に火を付けかねない、との配慮からだ。

目立つまい

事を載せた。「湾岸危機　本の貢献不足　米国の　裁も」という見出し　「米国の消費者が、　帰ってくる兵士の死体袋と日本製自動車を見比べたら、厄介な事態が起きるに違いない」と書いている。現在、米国の

対日批判増大を懸念

ずるい印象　恐れる企業

消費者は品質に定評がある日　まず間違いない」と漏らしてい　は、「アラブ石はサウジとクウェ　けた実績は、サウジ政府からも

時、イラク軍がサウジ　するとの独自の情報を　月九日にサウジなど派　にいた社員十九人の　を香港などに脱出させ

「中東派兵の経費負担少ない」

米議会、対日不満高まる

省関税局長は、　国舘のスピ　も少なくなかった。日本人だけ　が逃げた、と言われたら、今後　のビジネスに支障が起きかねな

「湾岸戦争に日ソ　るかが、日本の今後の対外経　関係に大きな影を落とすことは

被弾まで

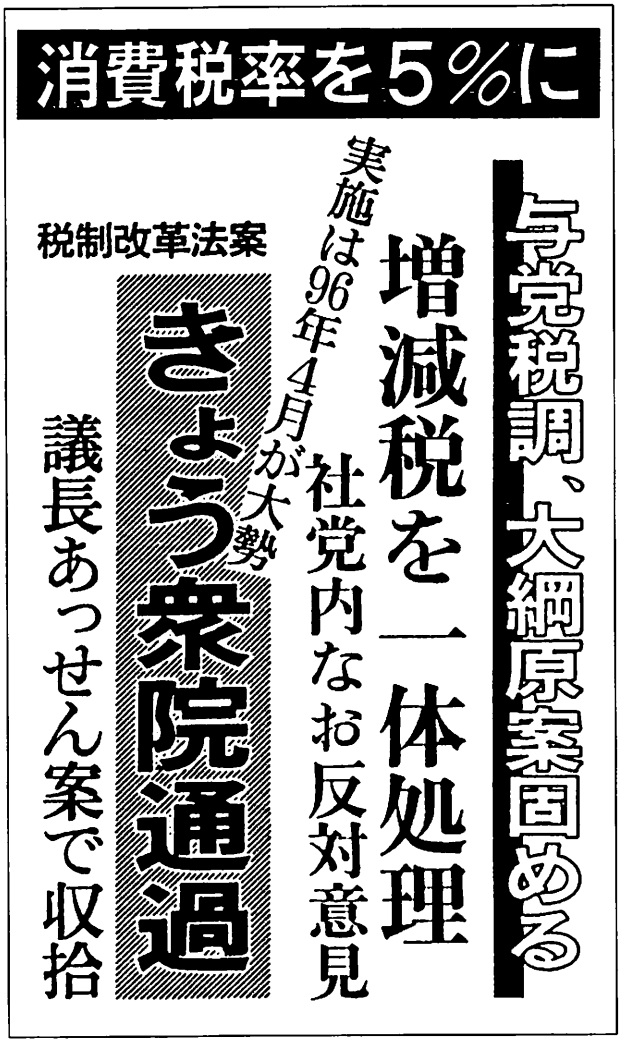
ゲッパート氏ら会見

昨年八　パートに　た。そ

◉ この消費税がOKになったら、また消費税は大きくなるから、やっぱり止めるべきだと……。

（九二年十二月「おはようナイスディ」インタビューにて）

一九九四年十一月十一日　平成九年四月より消費税率三パーセントから五パーセントへの引き上げ、衆議院を通過。


消費税率を5%に
与党税調、大綱原案固める
増減税を一体処理
社党内なお反対意見
実施は96年4月が大勢
税制改革法案
きょう衆院通過
議長あっせん案で収拾

◉ 経済の予言なら、（九三年）二月、三月にちょっと上がりますよ。しかしそれはあくまでも貪り多き日本人に投資をさせて、で、その後一気に引き揚げてその金をなくしてしまうと。

（九二年十二月「おはようナイスディ」インタビューにて予言）

一九九三年　三月　株価の上昇。
一九九三年　十一月　株価急落。

◉ ・九三年の中盤、後半になると、もっともっと経済は悪化します。（九三年三月に予言）
・株の投資を行なっている人は、そうだね、六月ぐらいまでは、まあ様子を見ながら投資してもいいかもしれないが、七月以降は投資をしないように。（九三年四月に予言）

この予言を信じたある銀行員は、まだ株価が上がり続けているうちに周りの反対を押し切って銀行株を売り払った（会社が政策的に自社の株を社員に買わせようとする傾向はよくあることで、彼も自分の銀行の株を買わされていた）。その後、株価は急落したが、その銀行員が売り払った時期はちょうど高値で売ることができ、約三百万円の現金をセーブすることができた。

景気底入れの兆し

鉱工業 | 自動車 | 公共事業 | 住宅

明るさ示す指標も

株相場、息吹き返す

今年の最高値を更新

株急伸、金融相場の様相

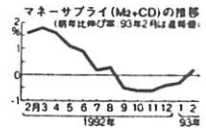
日経平均 年初来高値 1万8788円

海外資金も流入加速

株価終値も

1万9000円台

二十九日の東京証券取引所第一部の平均株価は三営業日連続で上昇した。景気見通しに明るさが出て積極買いが入ったため、終値は前週末に比べ二百九円六



株急落 16000円割れ

"底"見えない株価下落

株、終値は1万6078円

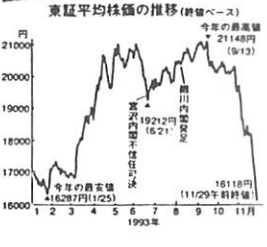
東証 年初来の安値を更新

一時、1000円超す下げ

今年の最安値 景気対策に不安感

評価損で財務圧迫

政府に直接対策要望も



◉ 円高はいっそう進むだろうね。わたしは一〇〇円を切ると考えています。

（八七年五月に予言）

一九九四年　六月二十二日　ニューヨーク外国為替市場で一ドル九九円九〇銭を記録。

その後、円高の傾向はますます高まっている。

円、99円台に

「景気に水」困惑走る

円の99円台突入

欧米の99円台受け

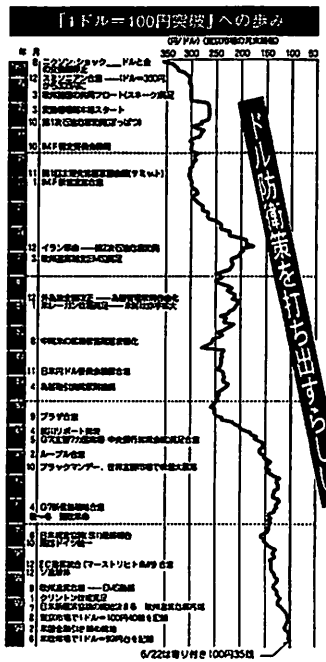
日銀が大規模介入

こんなに簡単に突破するとは

NYで戦後最高値　景気回復に冷水

ドル防衛策を打ち出すらしい

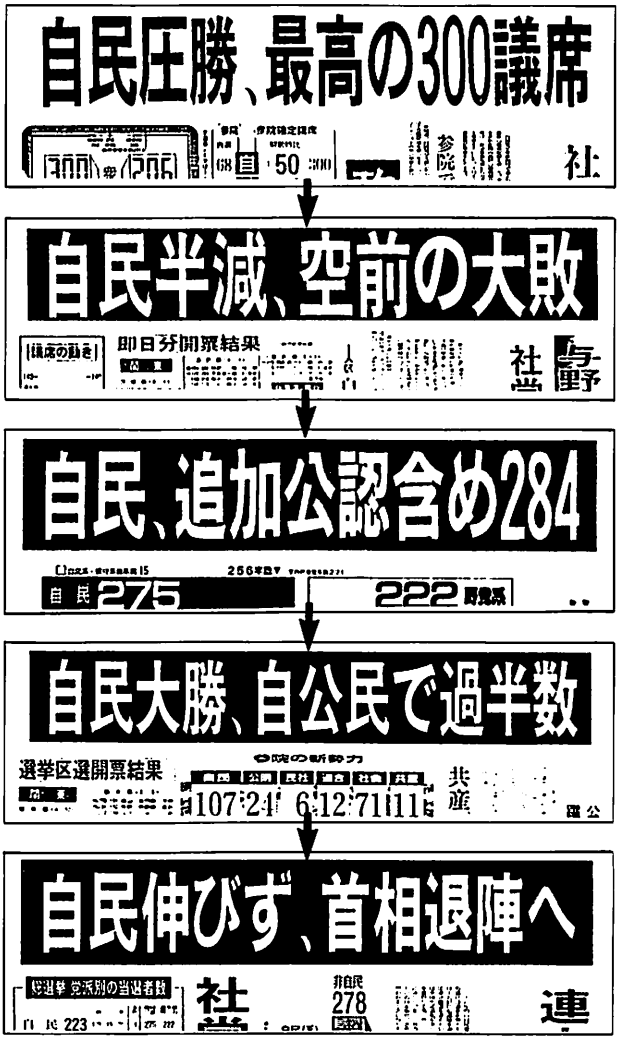
「1ドル＝100円突破」への歩み



政治

◉ 日本における選挙だが、これは非常に波があるだろう。波があるというのは、例えば、自民党が大勝したり、逆に大敗したりということだ。（八七年五月に予言）

一九八六年　七月　衆参同時選挙。自民党圧勝。
一九八九年　七月　参議院選挙。消費税導入により自民党惨敗。与野党逆転。
一九九〇年　二月　衆議院選挙。自民党勝利。
一九九二年　七月　参議院選挙。自民党大勝。与野党逆転状態解消。
一九九三年　七月　衆参同時選挙。自民党、過半数を割り惨敗。
結党以来の事態。自民与党五十五年体制に終止符を打つ。

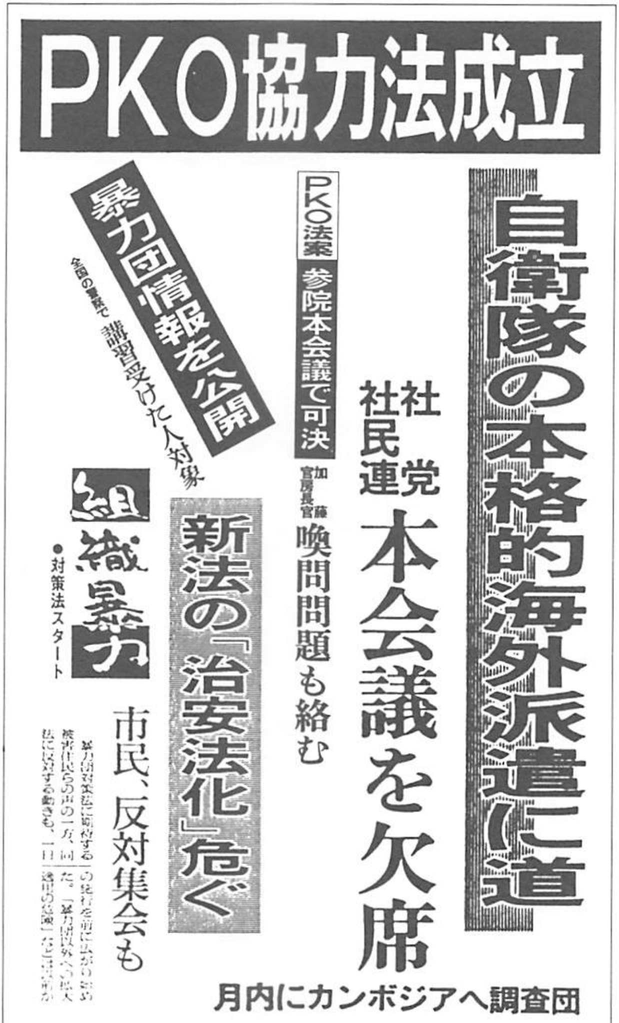

自民圧勝、最高の300議席
参院
社
自民半減、空前の大敗
即日分開票結果
社
与野
自民、追加公認含め284
自民275
222
自民大勝、自公民で過半数
選挙区選開票結果
107
24
6
12
71
11
共産
公
自民伸びず、首相退陣へ
社
非自民
278
連

◉ 国家の力・警察の力が増大していくだろう。

（八七年五月に予言）

一九九二年　六月十五日　ＰＫＯ協力法が成立。この法律により、政府はＰＫＯ参加等の国家的規模の活動にあたって、国内の人と物資を意のままに動かせるようになった。

一九九二年　三月一日　「暴力団新法」施行。これにより、司法手続きを一切経ずに、警察権力だけで「暴力団」と呼ばれる団体の活動を封じ込めることができるようになる。「これは憲法に違反する稀代の悪法だ」（遠藤誠弁護士）という批判の声も多い。



PKO協力法成立

自衛隊の本格的海外派遣に道

社党
社民連　本会議を欠席

PKO法案
参院本会議で可決

加藤官房長官
喚問問題も絡む

月内にカンボジアへ調査団

暴力団情報を公開
全国の警察で　講習受けた人対象

新法の「治安法化」危ぐ
市民、反対集会も

組織暴力
●対策法スタート

暴力団対策法に抵抗する
被害住民らの声の一方、同
法に反対する動きも、一日
の施行を前に広がり始め
た。「暴力団以外へも拡大
適用の危険」などを理由か

◉　一九九一年から二年くらいの間に、農作物の輸入自由化が行なわれるだろうね。

（八七年五月に予言）

一九九一年　四月一日　　牛肉・オレンジ輸入自由化。
一九九二年　四月一日　　オレンジ果汁輸入自由化。
一九九三年　十二月十四日　米輸入自由化。

牛肉 オレンジ きょうから自由化

牛肉、オレンジの輸入が一日から自由化される。百貨店やスーパーなどは大々的な販売キャンペーンを予定しているが、経過措置として牛肉に七〇％（初年度）の高率関税が課される一方、オレンジは品不足状況にあり、当面値下がりは期待できそうにない。

牛肉は過去三年間、毎年六万トンずつ輸入枠を拡大し、九〇年度は三十九万四千トンが輸入されている。ただ在庫がこの三分の一もあり、供給過剰感が強い。このため初年度の輸入量は前年比マイナスになるとの見方が多い。関税率が高いので価格も下がらない見通し。従って国内牛肉の値下がりにもつながらないとみられる。

一方、オレンジは八七年度以降四年連続輸入枠を消化しておらず、枠が撤廃されても影響はほとんどなさそうだ。主力のカリフォルニア産が昨年末の寒波で大幅に減産、小売価格はむしろ高くなる見込みだ。

牛肉 本番・自由化 オレンジ

オレンジ果汁自由化スタート

一部に供給過剰懸念

コメ開放 首相会見

「断腸の思い

日本のコメ開放 決断を称賛

ガット事務局長

【ジュネーブ13日逸見義行】関税貿易一般協定（ガット）のサザーランド事務局長は十三日夜、日本政府のコメ開放決断を歓迎。新多角的貿易交渉（ウルグアイ・ラウンド）成功へ向けての貢献を称賛した。

◉ 政治的には右傾化してくるはずだ。

（八七年五月に予言）

一九八九年　二月　　新学習指導要領の右傾化
一九九二年　六月　　ＰＫＯ協力法成立
一九九四年　七月二十日　社会党が自衛隊を合憲と認める。

新学習指導要領案

日の丸・君が代義務づけ

「道徳」の徹底図る

高校社会「地歴」「公民」に再編

東郷元帥 教科書に復活

中島前文相ら反対・慎重論

強まる「愛国心」論

元帥復活

PKO協力法成立

自衛隊「憲法の認めるもの」

村山首相 国会答弁で明言

日米安保は必要

村山首相答弁の骨子

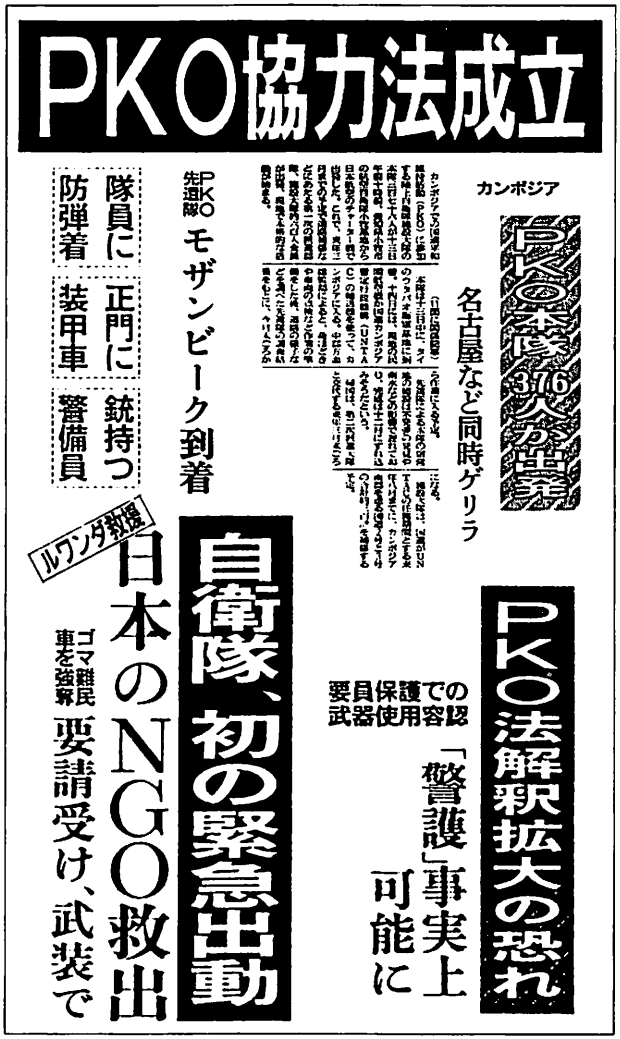
〈自衛隊・憲法問題〉
専守防衛に徹し、自衛のための必要最小限の実力組織である自衛隊は憲法の認めるものと認識している。

〈日米安保体制〉
国際社会が依然、不安定要因を内包している中で、わが国が引き続き安全を確保していくためには日米安保は必要だ。

〈「日の丸」「君が代」問題〉
国旗掲揚、国歌斉唱については本来、強制するものではないが、「日の丸」が国旗、「君が代」が国歌であるとの認識は国民の間に定着しており、尊重していきたい。

◉ 一九九三年には再軍備だ。　（八七年五月に予言）

一九九二年　六月　PKO協力法成立
　　十月　PKO協力法に基づく自衛隊のカンボジア派遣。
一九九三年　三月　カンボジアの自衛隊、自動小銃を装備。
　　五月　PKO協力法に基づく自衛隊のモザンビーク派遣。
一九九四年　十月　PKO協力法に基づく自衛隊のルワンダ派遣。
　　十一月三日　ルワンダの自衛隊、初の緊急出動。


PKO協力法成立
カンボジア
PKO本隊 346人が出発
名古屋など同時ゲリラ
PKO法解釈拡大の恐れ
「警護」事実上可能に
要員保護での武器使用容認
自衛隊、初の緊急出動
日本のNGO救出
ゴマ難民車を強奪
要請受け、武装で
ルワンダ救援
PKO先遣隊 モザンビーク到着
隊員に 正門に 銃持つ
防弾着 装甲車 警備員

自衛隊、事実上の「巡回」

カンボジア

邦人保護に武器使用も

カンボジア派遣自衛隊

投を毎日偵察

員の安全確保策

陸幕長が発表

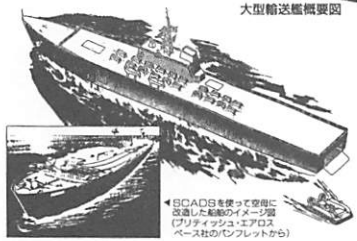
選挙監視要員らに 目前で攻撃なら

政府・自民見解

軽空母に改造可能

海自が近く発注の大型輸送艦

大型輸送艦概要図



◀SCADSを使って空母に改造した船舶のイメージ図（ブリティッシュ・エアロスペース社のパンフレットから）

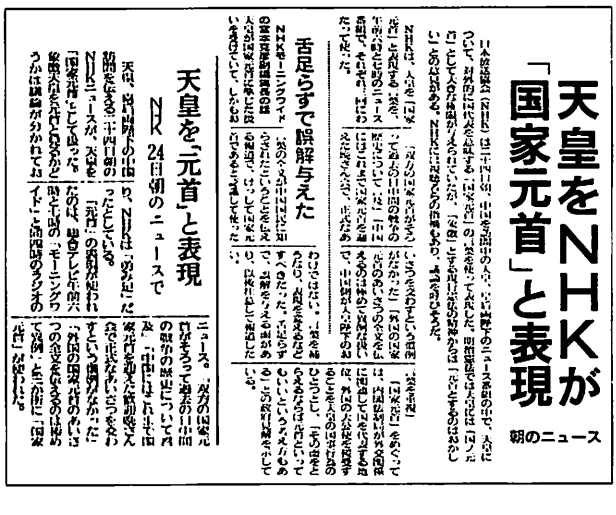
海上自衛隊が今年度予算で近く発注する大型輸送艦（基準排水量八、九〇〇トン）が、英国製の改造部品や部隊を運搬するのが目的の新型輸送艦は、戦車や部隊を運搬するのが目的の戦車揚陸艦、海自は現在、五両トラック三千人までの四種類十隻の輸送艦を保有しているが、前中期防衛力整備計画（八六―九〇年）で九、五〇〇トンの大型輸送艦二隻を導入する計画をもっていた。

だが当時は財政当局から「九州

◉ 天皇が「象徴」から「元首」に変わる。

（九二年九月に予言）

一九九二年　十月　天皇訪中に伴い、ＮＨＫが天皇を元首として紹介、朝日新聞がそれを叩く。



天皇をＮＨＫが「国家元首」と表現

朝のニュース

天皇を「元首」と表現

ＮＨＫ　24日朝のニュースで

舌足らずで誤解与えた

263

◉　わたしの予想では、今年の終わり、あるいは来年の頭ぐらいに次のような現象が起きる。それは、カンボジアで自衛隊員が殺されるということだ。

（九三年三月二十一日に予言）

一九九三年　四月　カンボジアにて海外協力隊として参加していた大阪の青年が殺された。
その後、警官も殺された。

カンボジア選挙監視員
日本人殺害される
民間ボランティア
乗った車に銃撃
大阪出身
中田さん
コンポントム州
コンポントム
プノンペン
カンボジア

◉　九四年三月において、細川政権は倒れるはずである。

（九三年十月六日に予言）

一九九四年　三月　細川首相の一億円借金問題に関連して、野党が予算審議拒否。

四月　細川首相の辞意表明。

風潮

◉ 日本の国民は徐々に徐々に、同じようなものの考え方に統一されていくだろう。

（八七年五月に予言）

八九年二月　新学習指導要領の右傾化。

九〇年～九二年　自衛隊の海外派兵に対する世論が、わずか一年足らずで反対から賛成へと大きく変化した。

国際理解、道徳、伝統を重視

学習指導要領 文部省が全面改定案

中学に「習熟度別」

国旗・国歌を明確指導

「皇室へ親しみ」67%

本社世論調査

過去最高に

「関連ニュースに興味」67%

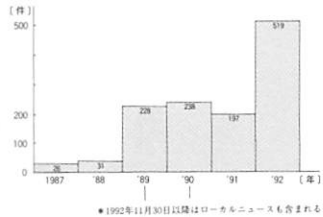
天皇について

皇室関係のニュースに

調査方法

天皇に関係する報道量の変化

●NHKニュース原稿（全国向・首都圏向ニュース）



◉ 人々は、よりいっそう現実主義にね、移行していくだろう。そして、わたしたちを操っているマスコミはだ、いいですか、わたしたちに食欲、性欲、それからスポーツというね、三つの享楽しか与えなくなるだろう。別の言い方をすれば、精神的な面を徐々に制約していく、ということだよ。

（八七年五月に予言）

この言葉どおり、マスコミはテレビ、ラジオ、雑誌等を通じて、食欲、性欲、スポーツの情報を大量に垂れ流すようになり、マスコミ情報は低俗化した。

グルメブームの火付け役となった"グルメマンガ"

グルメ雑誌に、グルメマップ。グルメブームはとどまることを知らない

女性月刊誌が挑戦する「セックス記事」の過激度

手を焼く声のポルノ

ＮＴＴが民営化後の新分野として、89年から始めている「ダイヤル Q²」は、電話を利用して、手軽に情報を得られるシステム。年々爆発的に売り上げを伸ばし、90年度の売り上げは約278億円に達した。また、番組数も4月末までに、約9300に増えた。

これに伴って表面化してきたのが、番組の約半分を占める〝声のポルノ〟とも言われる「アダルト番組」や見知らぬ男女とをつなぐ「ツーショット」、不特定多数とのコミュニケーションを主目的とした「パーティーライン」などの性的な番組。

これらの情報料金は最高限度の「3分間300円」と設定している番組が多かったことから、料金をめぐるトラブルは後を絶たなかった。

ＮＴＴは問題化した6月に、新規契約と契約更新を打ち切ったり、従来の5分の1以下の料金に設定する対応をとった。

一方「ダイヤル Q²」に絡んで、テープでひわいな声を流したとして、わいせつ物公然陳列罪に問われた神戸市のスナック経営者らに対する裁判で、大阪地裁は12月2日、アダルト番組は「不特定多数が電話で聴取しており、公然陳列に当たる」との初の判断を示して有罪判決を言い渡した。

宮沢りえ写真集

発売からわずか18日
年間ベストセラー1位に

書籍取次大手の東京出版販売は五日、今年の年間ベストセラーを発表した。一位は先月十三日発売された篠山紀信撮影の宮沢りえ写真集『Santa Fe』。半月余りで年間トップに躍りでた。出版元の朝日出版社によると、これまでに百万部を発行したという。

東京出版販売が昨年十二月一日から今年十一月三十日までの全国の主要書店百店の実売データと、出版社の発行部数をもとに集計した。

二位から十位までは次の通り。

②さくらももこ著『もものかんづめ』③シドニィ・シェルダン著『血族』④大川隆法著『ノストラダムス戦慄の啓示』⑤シドニィ・シェルダン著『時間の砂（新書版）』⑥ビートたけし『だから私は嫌われる』⑦笑っていいとも編『タモリ・ウッチャンナンチャンの世紀末クイズ』⑧篠山紀信撮影、樋口可南子写真集『water fruit』⑨S・W・ホーキング著『ホーキングの最新宇宙論』⑩宜保愛子著『宜保愛子の幸せを呼ぶ守護霊』

宮沢りえの写真集は、朝日などの新聞に1ページ使って載せられ、"ヌードを載せない"という新聞のタブーを破った。

日本プロサッカーリーグ開幕戦、ヴェルディ川崎－横浜マリノス。59分、横浜のディアス（右から2人目）が決勝のシュート＝15日、国立競技場で

Jリーグ開幕

観衆6万人、新時代に酔う

Jリーグ開幕戦 視聴率32%

関東地区調査

巨人戦を上回り サッカー史上最高

十五日夜に東京・国立競技場で行われた日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）の開幕試合、ヴェルディ川崎－横浜マリノス戦を生中継したNHK総合テレビの視聴率（ビデオ・リサーチ社調べ）が関東地区で三二・四%を記録し、サッカー中継としては過去最高の数字になった。

一方、放送時間が重なったプロ野球の広島－巨人戦（テレビ朝日系）は、巨人のナイター戦として今シーズン最低の一七・五%となり、改めてサッカー人気の盛り上がりを示した。

また、ジーコとリネカーの両スーパースターの初対決が注目された十六日夕の鹿島アントラーズ－名古屋グランパス戦（テレビ東京）は九・四%。同日夜のガンバ大阪－浦和レッズ戦（同）は一四・四%で、放送時間が重なった広島－巨人戦（フジテレビ）は一八・一%だった。これまでのサッカーの最高視聴率は先月十八日夕に放映されたW杯アジア予選、日本－UAE戦（日本テレビ）の二四・〇%。

初優勝を決め[illegible]に戻って、集まったファンに手を振る若花田＝[illegible]、大阪府立体育会館で

若花田が初優勝

大相撲春場所

大相撲春場所（大阪府立体育会館）十四日目の二十七日、東小結の若花田（本名花田勝、東京都出身、二子山部屋）が、初優勝を飾った。弟の大関貴ノ花はすでに二度優勝しており、伯父の元横綱初代若乃花（現[illegible]）、父の元大関初代貴ノ花（現二子山親方）に次ぐ史上二組目の兄弟優勝となった。

（3面に「ひと」、運動・社会面に関係記事）

優勝争いの単独トップに立った若花田はこの日、寺尾を[illegible]取り口で下して一敗を守った。この後、貴ノ花が武蔵丸に敗れて二敗目を喫し、千秋楽を待たずに優勝が決まった。

若花田は一九八八年春場所、弟とともに初土俵を踏んだ。三十一場所目での優勝は、年六場所制になった一九五八年以降では[illegible]の速さ（幕下付出しは除く）。

自然災害

◉ 今年は、干ばつがあるよ。
（八七年五月に予言）

一九八七年　夏　記録的大干ばつ（日本、東南アジア、インド）。

◉しばらくの間、暑さに気をつけなくてはね。

（八七年五月に予言）

一九八七年　七月二十三日　日射病・熱射病で東京都内で五十八人倒れる。

二十四日　全国各地で日射病・熱射病の死者も出る。

二十五日　都内全域の救急車出動件数一千三百一件。

暑さで58人倒れる　都内

二十三日の暑さで、東京都内で五十八人が脱水症などで倒れて救急車で病院に運ばれた。一人は重体。また宇都宮市では釣りをしていたお年寄りが日射病で死亡した。

日射病で2人死ぬ　埼玉

二十四日の猛暑で、炎天下で作業していた埼玉県内の男性二人が日射病で死亡した。

救急車は大忙し

東京消防庁、最高記録

大半の小中学校が夏休みに入って最初の週末となった二十五日、東京消防庁には一一九番が相次ぎ、この日一日の都内全域での救急車出動件数は千三百一件。昭和十一年に救急業務を開始して以来、最高となった。

この原因について、同庁は、雷雨はあったものの、相変わらずの猛暑で日射病で倒れる人が続出し、四十一人を運んだことや、夏休みに入り、行楽地でけが人や急病人が多く出たため、としている。

◉　今年の終わりごろに、三原山が爆発するぞ。
（八六年三月に予言）

一九八六年　十一月十五日　大島三原山大噴火。

◉　三原山は再噴火するよ。

一九八七年　十一月十六日　大島三原山再噴火。

三原山1年ぶり噴火

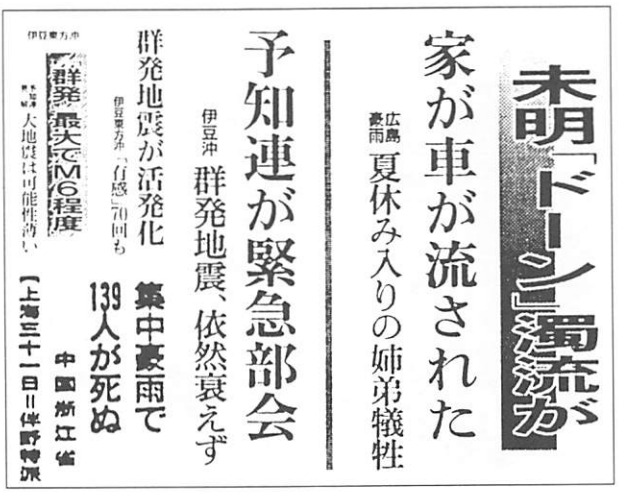
また噴火…「つらい」

山頂から噴煙4300メートル

火山弾で山林火災

◉　本期間中（七月十日から八月九日）は、地震・大災害・集中豪雨……という可能性が高いでしょう。（『マハーヤーナ』八八年七月号にて予言）

一九八八年　七月二十～二十一日
広島・島根で集中豪雨（死者行方不明十五人）。
七月二十六日～八月二日
伊豆半島東方沖で一万三百四十八回の群発地震が記録される。
七月三十一日
中国浙江省で集中豪雨（死者行方不明四百人以上）。


未明「ドーン」濁流が
家が車が流された
広島 豪雨 夏休み入りの姉弟犠牲
予知連が緊急部会
伊豆沖 群発地震、依然衰えず
群発地震が活発化
伊豆東方沖「有感」70回も
群発 最大でM6程度
大地震は可能性高い
集中豪雨で
139人が死ぬ
中国浙江省
【上海三十一日＝伴野特派】

◉冬と夏の区別がつきづらくなってくるだろうね。例えば四月、五月になろうとしているのに急に冷えたり、あるいは十二月になってぽかぽか陽気になったりといった現象が起きてくるだろう。

（八七年五月に予言）

一九八八年　七月　全国的な冷夏。最高気温平均値が、平年を五度下回る。

一九八九年　五月　霜と雹と豪雨。栃木では平年の三倍の落雷を記録。

冷夏
泣かされました
散々の「季節商売」
「夏」がなかった今年の夏
熱帯低気圧が次々北上
高気圧片寄り寒気流入
海の家・清涼飲料・青果・電気街…
記録的な「ピカッ、ゴロッ」
五月に五日間、大正以来
夏異変
柏崎に見る

一九九〇年　二月　平年より二度以上高い異常高温＝暖冬。

三月　全国百カ所の観測所のうち五十四カ所で観測史上最早の桜の開花を記録。

五月　霜と雹と集中豪雨。群馬では農作物に五億円の被害。

十一月　全国の半数以上の気象観測地点で十一月の観測史上最高気温を記録＝全国で記録的暖冬。

十二月　東京で観測史上最高気温の二三・五度を記録。

都心の桜 開花宣言

平年より10日早く

気象庁発表

全国で並み観測史上最高

年平均気温

一九九一年　冬　異常高温＝暖冬。

五月　雹と雷。宇都宮では雷観測日十日、降雹連続三日という観測史上最多記録。

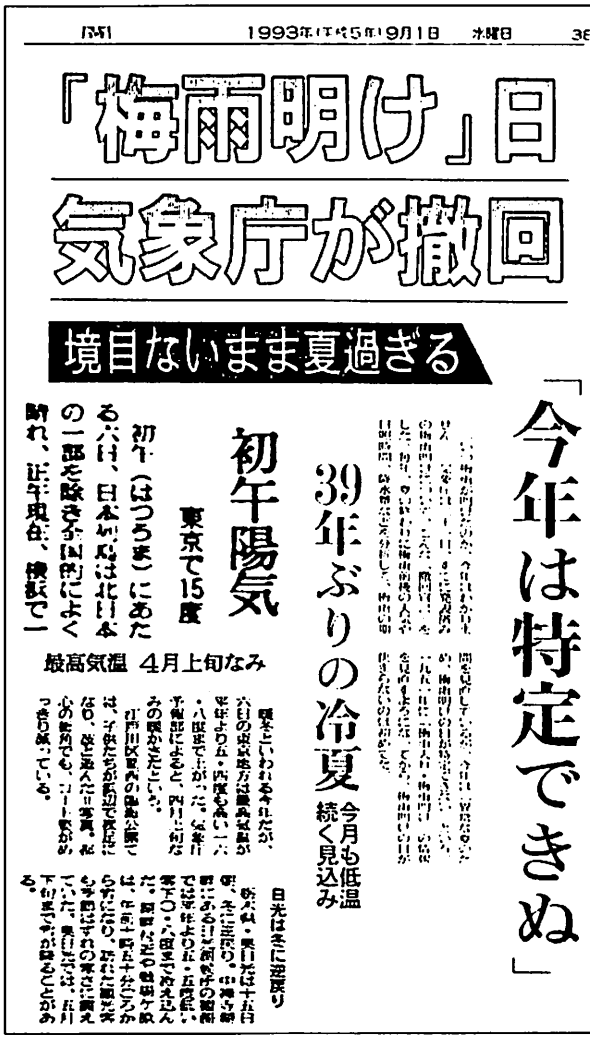
一九九一年　八月　平年気温を五度下回る冷夏。

暑い夏どこへ

4年ぶり冷夏

気圧配置はや秋型

一九九三年　二月　春本番を思わせるぽかぽか陽気。
三月　東京地方で最高気温が四月下旬並み。
五月　栃木県日光で平年より五・五度低い最低気温マイナス〇・八度を記録。
七月　平均気温が全国的に平年より一～三度低くなる。
夏　一九五四年以来、三十九年ぶりの冷夏（低温、豪雨、日照不足）。
六月一日～八月三十日までの平均気温が南西諸島を除き全国的に平年を一～二度下回る。特に北日本の太平洋側では二～二・五度低かった。
降水量は九州南部で平年の三倍近くに達する。北、東日本の太平洋側では平年の一・五倍を超える。
日照時間は全国的に平年を下回り、東北～九州地方にかけては平年の五～八割。
気象庁は梅雨明け宣言を撤回。梅雨明けが特定できないとした。
著しい低温・日照不足で不稔が全国で発生し、稲は青立ち状態。最終的なコメ作況指数は戦後最悪の七四という厳しい不作となった。



1993年(平成5年)9月18日　水曜日

「梅雨明け」日
気象庁が撤回

境目ないまま夏過ぎる

「今年は特定できぬ」

39年ぶりの冷夏
今月も低温続く見込み

初午陽気
東京で15度

最高気温　4月上旬なみ

日光はさに逆戻り

281

一九九四年　二月　ぽかぽか陽気で三月下旬並み。十四日の最高気温は平年を二～七度上回る。この日、東京で四・九度、水戸で五・四度、千葉で五・二度、横浜で四・二度、平年を上回る。

冬　全国的に平均気温が〇・五～一度高い弱い暖冬。東日本では八年連続、北日本では六年連続の暖冬。

雪の目立つ暖冬でした

汗ばむ冬

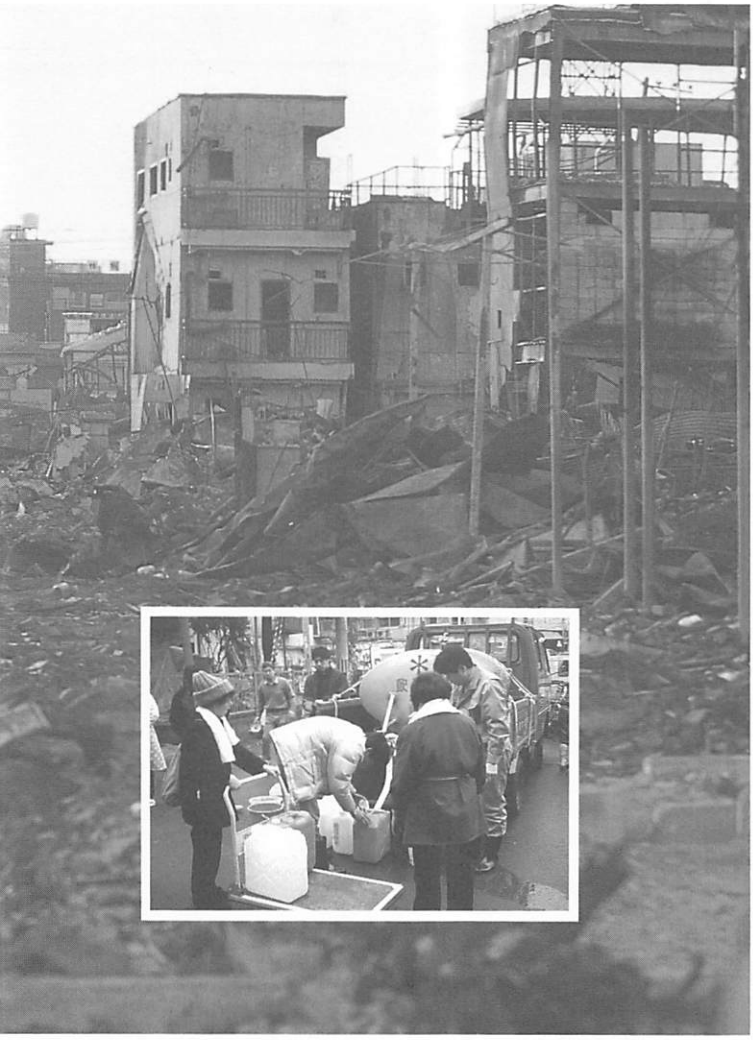
気象庁は一日、昨年十二月から今年二月までの[illegible]は雪が多かったが、平均気温は平年より〇・九[illegible]近畿・中国地方を除き、全国的に暖冬だった。[illegible]でも六年連続。過去に例を見ない連続暖冬記録は[illegible]年連続は異例だが、このまま暖冬が続くとは考え[illegible]

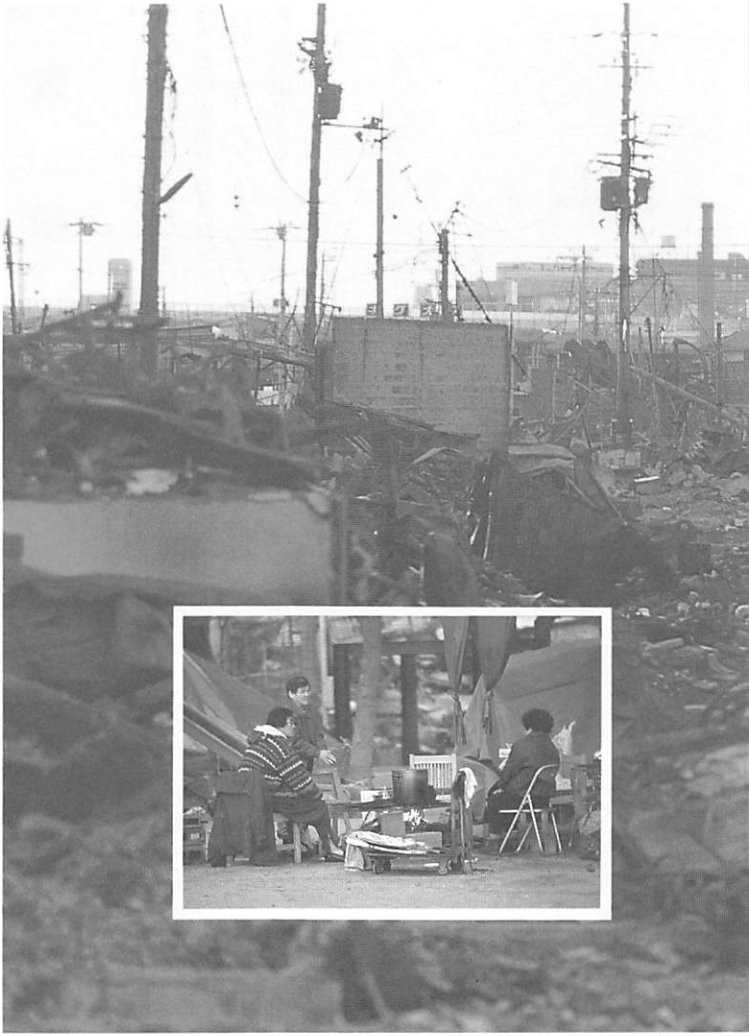
各地の気温、3月下旬並み

[illegible]

◉　地震……やっぱりいちばん危険なのは神戸だということだね。　（九五年一月八日に予言）

一九九五年　一月十七日　兵庫県南部でM七・二、震度六の地震が発生。死者五千人以上という戦後最悪の被害となる。最も被害の大きかった神戸では、地震による家屋倒壊だけではなく、火災や食糧難などの二次災害に襲われた。





戦争

◉（八八年）四月中旬には、イラン・イラク戦争が激しさを増すかもしれません。このとき、アメリカが強く干渉したら、それを回避できそうです。

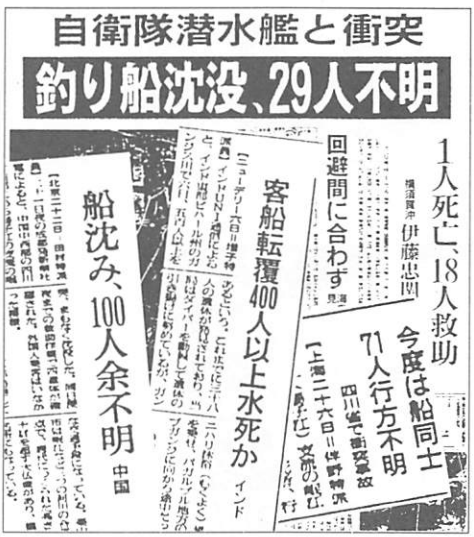
（『マハーヤーナ』八八年四月号にて予言）

一九八八年　四月十八日
アメリカ軍がペルシャ湾の石油基地攻撃。
四月二十五日
イラン・イラク戦争、大国管理の色彩強まる。

事故

◉七月後半から八月前半にかけて、海での事故・惨事が起こる可能性があります。
（『マハーヤーナ』八八年七月号にて予言）

一九八八年　七月二十一日
中国で二百五十人を乗せた渡し船が沈む。
七月二十三日
海上自衛隊潜水艦「なだしお」衝突事故（死者二十人）。
八月六日
インドで客船転覆事故。


自衛隊潜水艦と衝突
釣り船沈没、29人不明
1人死亡、18人救助
今度は船同士
71人行方不明
回避間に合わず
客船転覆400人以上水死か
船沈み、100人余不明

宗教

◉（九二年の宗教界は）社会的な問題になる年であると考えています。……今まで安泰であった宗教にも、一つ一つメスが入っていくんじゃないかと思いますね。……一つではなく、二つ、三つはそのタイプになると思いますね。……少しずつ少しずつ、その教義の問題も出てくるんじゃないでしょうか。つまり、宗教の持っている、一つの俗世的なけがれですね、例えばお金が集まるとか、あるいは内部の権力抗争があるとか、そういう問題だけではなくて、その宗教のもう一つ持っている宗教的なものというんですか、そういうことがクローズアップされ出すと思います。

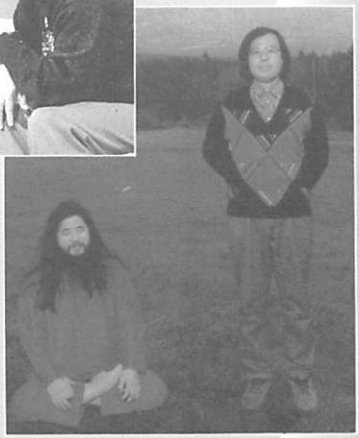
（九一年十二月「おはようナイスディ」インタビューにて予言）

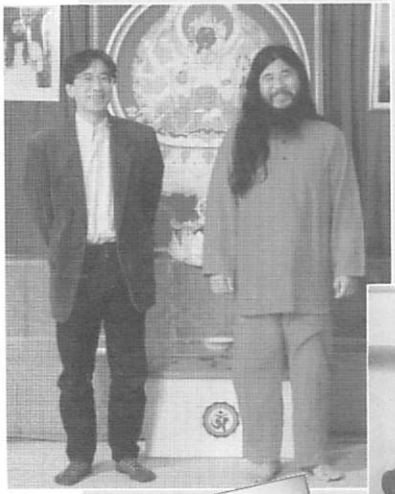
九二年は宗教団体では特に愛の家族、統一協会が叩かれた。雑誌では教義にもメスが入り始めている（「文藝春秋」など）。

◉ **五年後くらいにオウム真理教は真理だと定評が立つだろう。**（八七年十一月一日に予言）

一九九一年　九月　「朝まで生テレビ」で徹底討論。経済人類学者・栗本慎一郎氏、評論家・西部邁氏、宗教学者・島田裕巳氏、作家・中島渉氏らが麻原尊師とオウム真理教を非常に高く評価する。これ以降、オウム真理教の教義に対する認識が一般に深まり、評価されるようになった。

十二月　「たけしのテレビ・タックル」で尊師とビートたけし氏の対談。話が弾み、高度な法則が交わされた。たけし氏の希望により、翌年、集英社『ＢＡＲＴ』誌上において再び対談がなされた。





91年後半以降、麻原尊師への雑誌社のインタビューやテレビ・ラジオへの出演依頼が相次いだ。ビートたけし氏、中沢新一氏、荒俣宏氏など各界の著名人が、麻原尊師のステージの高さとオウム真理教の教義の正しさを評価した。

第四章◆「日出づる国」の行方

――これが、恐怖と激動の世紀末だ！

◎第一部　近未来の日本の変動

●キリストを迫害した日本の運命

今から二千年前に登場したイエス・キリストを迫害したユダヤ人は、そのカルマによって五十年内外のうちに国外に逐われ、そして流浪の旅へと至った。

今の日本は、わたしをはじめとする偉大な達成者たちに対して、ものすごく大きな迫害をなした。このカルマは、当然、日本経済の衰退、そしてそれだけではなく、大きなカルマ落としをこれから受けなければならない。なぜならば、二千年前に登場したキリストと、それから今登場しているキリストとでは、そのカルマの大きさ、それから役割が全く違うからである。つまり、ちょうど天に唾を吐いたような現象が起きるはずである。

（九三年三月二十日　於・横浜支部）

●天変地異と戦争が日本を襲う

これからの日本は、大きな二つの洗礼を受けることが予言されています。その一つは、水による洗礼です。これは、洪水を中心とした、要するに天変地異であると。そしてもう一つは、わたしたちの最も嫌な戦争による災禍と。

（九二年十一月七日　於・横浜国立大学）

●日本が焼け野原になる

あなた方が二〇〇〇年まで、もし生き続けることができるならば、今の日本をきっと懐かしむであろう。それはこの日本に残るもの、それは焼け野原だからである。しかし、その日本を作っているのはだれか、それはここにいるあなた方であり、あるいはまだ真理に目覚めることのできない日本人なのである。

（九四年三月十一日　於・仙台支部）

●日本の地殻変動と水没

わたしは何回も水のヴィジョンを見た。それは、東京が沈むシーンから始まる。じわじわと、日本列島のある部分が水没していくのだ。それだけではない。時を経ずして、日本を取り囲む海面が急に盛り上がり、大地を飲み込む。必ず、このヴィジョンは現実のものとなるだろう。異変が起こるのは、一九九五年、または一九九六年である。（『トワイライトゾーン』一九八八年一月号より）

●都市人口が十分の一になる

これから二〇〇〇年にかけて起きる現象は、筆舌に尽くし難いような、激しい、しかも恐怖に満ちた現象が連続的に起きると考えるべきであるというのがわたしの立場です。

では、どのような現象が起きるのかと。これは例えば、ノストラダムスの予言詩の一つを紹介するならばよく理解できると思われますが、この日本の国土が荒れた大地と変わる。では何によって変わるのかと。これは考えられることは、核である。ではその時期はいつだと。それは九六年から九八年の一月までの間に起きる。ではどのような形でどこが攻めるのかと。それはアメリカを中心とした連合国である。

わたしの精神的力によって見た経験と、それからいろいろな過去の予言者たちの話を総合すると、大都会においては十分の一くらいの人口しか残らないというのが今のわたしの立場です。つまり十人中九人は死んでしまう。

（九二年十一月二日　於・大阪大学）

●天皇制に持っていくマスコミの動き

マスコミの動きとしては、例えば三大紙である読売・毎日・朝日等を含めて、それからテレビは全局を含めて、よりいっそう国粋主義的な方向の宣伝に乗り出すはずである。この国粋的な宣伝の典型的なパターンとして、天皇に対する国民アンケートが、月に一回程度なされ、天皇称賛・天皇肯定のパーセンテージが徐々に徐々に上げられるはずである。

一方、政治についてのマスコミの対応は、徐々に厳しくなり、特に自民党――社会党あるいは共産党・公明党等の野党だけではなく――自民党の腐敗についても徐々に徐々にその腐敗を暴露するかたちで叩きが始まるはずである。これによって国民の思考というものは、もう天皇制以外にないというその頂点にまで必ず持っていかれるはずである。――これがマスコミの最後である。これは九六年までには完了するはずだ。

（九三年六月十日　於・第六サティアンビル）

●戦争に都合のよい宗教が登場

オウム真理教バッシング、統一協会バッシング、幸福の科学バッシング、愛の家族バッシング等々のバッシングが続いているわけだけど、これは明らかに宗教を統一するときの手口なんだね。そして宗教は必ず統一される方向に向かうだろう。それは戦争に最も都合のいい宗教が登場する。

（九二年九月二十七日　於・富士山総本部）

●戦争肯定の思想統制の動き

そして、教育もこれと連動し、今まであった例えば戦争の記事内容その他については、今もそうだが、徐々にそうなっているが、完全に抹殺され、そしてそれと連動するかのように――これは子供の教育にも関わるわけだが――よりいっそう戦い、戦争の場面の多い番組が組み込まれる。そしてそれと同時に、「正義」、つまり、Aという現象が起きた場合、それに対してはAを打ち返すしかない、つまり〝目には目を〟という精神的な教えというか、そういう番組が徐々に徐々に増大してくるはずである。つまりこれは、「日本がやられたらやり返せ」という、そういう思想統制が始まると考えてよろしい。

今回の場合、前回の第二次世界大戦と違い、それが絶妙なかたちで、自分たちで情報を得ているというような、そういう状況のフィーリングの中でそれが展開される。そして、日本の暗い部分については全く報道しない、こういう状況が形成されるはずである。これが、九三年から九六年までのマスコミの動きである。

（九三年六月十日　於・第六サティアンビル）

●不景気から軍需産業、大戦へ

では経済はどうかというと、今の不況より、よりいっそう不景気になる。そして軍需産業を増大させない限り、経済の再興は不可能な状態を各国が形成します。そしてそれによって大戦、大きな戦いが起きるのです。

（九二年十一月二十二日　於・東京大学）

なぜ、これらの戦争が必要なのかについて検討する必要がある。それは二つの理由がある。その第一の理由は、軍事兵器と呼ばれるものの実験場が必要である。

それから第二番目には、経済を一元的に集中させるためのステップである。つまり、戦いということにより、一つの意図にカネを集中する。そして、当然戦争というものは、物を壊すということを前提として行なわれるわけだから、本来彼らが望んでるものは、「適当に人が死に、多くの物が壊れ、その再建にまた巨額のカネが投資される」ということが理想なんだね。これを繰り返すことによって、世界経済というものは発展してきたんだ。だから必ずその前に、恐慌というフォームをとり、つまり、お金が全くない、もうどうすることもできない状況を作り、そしてそれによって、「じゃあとにかく内需拡大のために軍事産業を拡大するしかないんだ」というかたちを形成していく。

（九三年六月十日　於・第六サティアンビル）

●亡国の前兆

今の現状を見ると、例えば労働力を見た場合、台湾、あるいは香港、あるいは韓国、あるいはその他の東南アジアの国々に、労働力は完全に持っていかれ、そしてついに考える部門も、後進国の人々に追い上げられていっているという現状があります。

つまり、始めに手足をもぎ取られ、これは皆さんも知ってのとおり、週休二日制とか、あるいは週休三日制とか導入がどんどん進んできた場合、わたしたちは働かない修習をすることになります。それだけではなく、頭脳の面も完全に煩悩の修習をさせられることによって低下するとするならば、まず手足を完全にもぎ取られ、そして頭をもぎ取られた生命にすぎなくなるということがいえるでしょう。これは明らかに、資源のない日本にとっては亡国、つまり国が完全になくなる前兆であると考えるべきでしょう。

（九二年十一月三日　於・千葉大学）

●日本の軍事力の実態

よく日本は軍事大国だといわれている。しかし、例えば日本の人口の十分の一しかいない台湾の軍事力と比較しても日本は劣っています。つまり、質の悪いものを高く買わされていると。それはプラエトルであるアメリカの属国に成り下がっているからです。そして、今の世の中の動向を見ると、そうではなく、再軍備であるといっています。しかしたとえ再軍備がなされたとしても、今のような兵力では、この日本は確実に第三次世界大戦によって滅びてしまうでしょう。それを皆さんは理解する必要がある。つまり、何を言いたいかというと、最も武術の弱いものが、武術の強いものとぶつかり合うと。これは一気に叩き潰されるということがよく理解できるはずだ。これが今の日本の自衛力である。

（九三年一月三十一日　於・第五サティアンビル）

●どのように戦争へ突っ込むか

日本は、ムードによって、戦争を始めることになる。そしてそのまず第一番目の相手国は、東南アジアのある国であろう。この「東南アジアのある国」というのは、考えられる例としては、例えばカンボジアがその典型ではないかと。そして、戦争により、例えば相手の領土の一部を活用する、あるいは何らかの利益を得ることにより、日本人に対して戦争の勝利の味というものを味わわせる。これが第二段階の彼らの計画である。そして、より大きな戦争を行ない、もう一度勝利させる。つまり日本には、二度勝利させることが与えられている。しかしそれは、力の差から見て当然の対決である。つまり、例えばわたしが三歳児四歳児と戦うようなものである。

そしてこれらののち、いよいよ本格的な戦争へと没入する。

（九二年六月十日　於・第六サティアンビル）

●負けるために計画されている戦争

この日本が勝つ側に組み入れられている計画であるとするならば、このハルマゲドンは、日本の領土を拡大することができる大きなチャンスであるという意味において、メリットの大きい戦争かもしれない。しかし、もし負けるために計画されている戦争であるとするならば、あなた方の知人友人等を含め、多くの人が犬死にをしなければならない結果となるであろう。

そして当然、それは後者であるということができる。

ではなぜ、後者であるといえるのか。通産省の調査によると、日本の、アメリカ対アジアに対する投資は、数年前アメリカが二、そしてアジアが一という比率であった。ところが、ここ一、二年は、アジア二、アメリカ一となっている。これは明らかに、経済的にアメリカから離れようとする傾向を示している。というより、そのように方向づけられているのである。そして、日本はアジアの王として立ち、アジアの軍勢を引き連れ、そしてハルマゲドンに突っ込む。

（九三年四月十一日　於・大阪支部）

戦いの様相としては、日本・中国、それから他のアジアの諸国等の連合国対ヨーロッパ・アメリカの連合国といったかたちになるであろう。ロシアは、初めのうちは静観すると。

（九三年六月十日　於・第六サティアンビル）

●殺戮の後大きな変換へ

もともとこの日本は一九九六年の終わりを契機として大きな変換に至る。そしてこの大きな変換、これは何を意味するのかというと、その前に多くの殺戮がなされる。ではそれはどのような形でなされるのか。それは日米対決である。日本の一部の権力者と、そしてアメリカが結びつき、そして日米決戦を行なう。それによって日本人の多くの魂は死ぬ。しかし、そこで多くの軍事産業がいったん勃興し、そしてそれによってフリーメーソンだけではなく、この世界統一政府をもくろむ多くの企業が多額のお金を手中に収める。そしてそれにより、より強固な国家体制を作ろうとする。

（九四年三月十一日　於・仙台支部）

●アメリカに勝てる見込み〇%

もちろん電子最先端の日本がアメリカに勝てる見込みは〇パーセントである。なぜ〇パーセントなのか、それは今まで米軍の属国部隊として働いていた自衛隊のすべての機能は、米軍そのものが知り尽くしているがゆえに、よっぽどの新兵器が開発され、そして米国が打ち上げている人工衛星を打ち落とさない限り勝つ見込みはない。あるいはロシアで開発されているラムジェット、これを積み込んだ最先端の電子機器を搭載した大陸間弾道ミサイル、しかもそれに原爆でも積まない限り勝つ見込みはないということをつけ加えておこう。

（九四年三月十二日　於・大阪支部）

●アメリカは着々と準備している

事実、わたしの調査によると、この日本の重力異常をアメリカが検査して——この重力異常というものは何に影響を与えるのかというと、ICBM、大陸間弾道弾の修正というか、ぴったしと目的の場所に当てるために必要な条件になるわけだが——そのための修正、つまり、今ICBMは日本に向けられてセットされているんじゃないかという話もある。したがって、九六年、原爆というのも——ま、原爆じゃない、水爆でもいいけどね——核弾頭というのも非常に、ない話じゃないな、という印象を持っている。

（九四年四月二十七日　於・南青山総本部）

●世界統一のもくろみ

なぜ、勝敗の見えた戦いに巻き込まれなければならないのか。それは、例えばアメリカの中にも人道主義的な人は当然たくさん存在する。すると彼らは、国家内における二分化が生じ、それによって力の分散が生じる。ところが、戦争という大義名分のもとで戦うならば相手をやっつけることは、問題ではない。したがって、戦争は起こす必要があるわけだ。これがシナリオである。しかも、予言されているキリストはまだ登場していない。彼らとしては、キリストが登場する前にすべてを終わらせてしまいたい、すべて世界を統一したいと考えるわけだね。

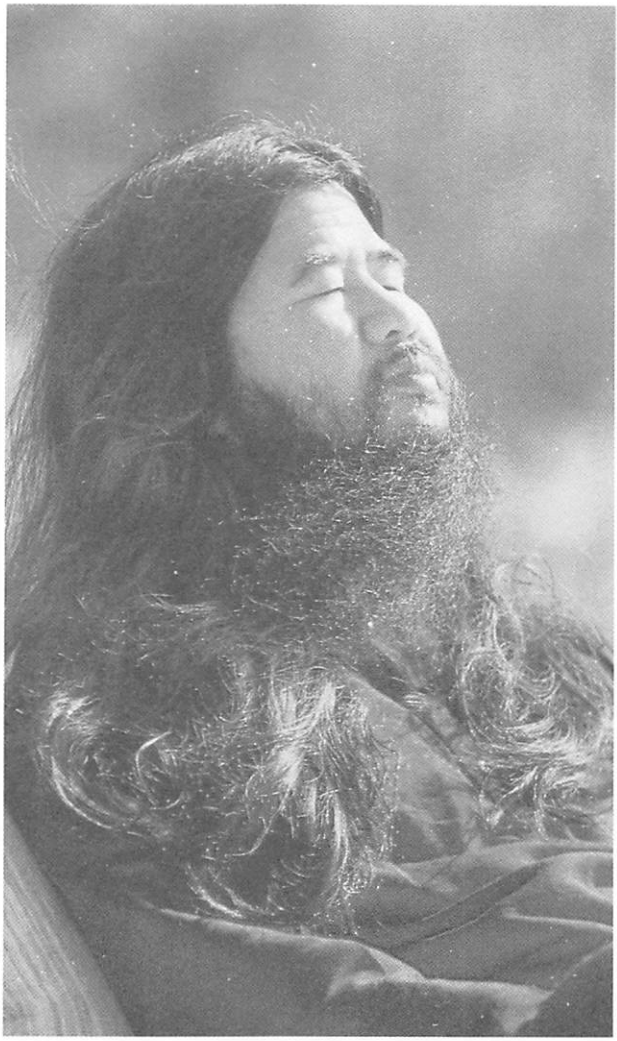
（九三年四月九日　於・高知支部）

◎第二部　第三次世界大戦に向けての世界の動向

●核戦争のヴィジョン1

今から四日前、アストラル世界において、放射能を浴びるヴィジョンを見た。これは九七年から二〇〇一年にかけて必ず起きるであろう核戦争の疑似体験であると考えている。そのときわたしの状態は、端から見て何の変化もない。しかし、自分自身では明らかに放射能の影響を受けているという体験であった。周りに数名の弟子たちがいて、数名の弟子たちは一部ただれが起きていたりといった状態があった。間違いなく、最終戦争と呼ばれる戦争は起きる。しかも、それは九七年から二〇〇一年の間に必ず起きる。戦争のポイントはどこか。それは中東である。そして前回行なわれた湾岸戦争は、その模擬戦争であると考えるべきである。

（九二年九月二十七日　於・富士山総本部）



●核戦争のヴィジョン2

わたしの変化身は肉体を離れた。変化身は、この世で感じるよりも、ずっと鮮明な意識を持っている。しばらく宙に浮いたままでいた後、部屋の窓へと向かった。

……やがて明るい光の中に出た。そして、ゆっくりと地上に降り立った。そこは一面の枯れ野原。……どのくらい歩いただろうか。左側に民家がポツンと一軒だけ見えた。背丈ほどの生け垣に囲まれたその家は、今風のスマートなデザインであった。

庭に目を移すと、小学校の二～三年生かと思われる女の子がいる。彼女の顔や手は赤くなって、腫れているようだった。

「お父さんかお母さんはいる?」

わたしはこう聞いてみた。

「ちょっと待ってね」

女の子はそう言うと、家の中へ消えた。間もなく、母親とおぼしき女性が出てきた。頭に手拭いをかぶっており、田舎でよく見られる農婦のような格好をしている。

わたしは「過去にやって来たのだろうか」と思った。この女性もさっきの女の子と同様に、顔や腕が赤くなっている。

「こんにちは。さっそくですが、ここはどこですか」

そうわたしが聞くと変な顔をする。が、答えてくれた。
「広島です」
「広島……ですか。今年は何年になるのですか」
わたしは自分がいつの時代に来ているのか、確かめようと聞いてみた。……
「二〇〇六年です」
……そこでわたしは、一番気になっていることを尋ねた。
「いったい、第三次世界大戦は起きたのですか?」
一瞬、そこに居合わせた人々の顔に、驚きと不審の色が走った。
「起きたがな」
二〇〇六年、人類はすでに第三次世界大戦を経験している!
瞑想から覚めたわたしは、改めて変化身が体験したことを思い起こしてみた。それによると、西暦二〇〇六年までには、第三次世界大戦の勃発と終結があるはずなのである。

(『トワイライトゾーン』一九八八年一月号より)

●第三次世界大戦は必ず起こる

必ず、第三次世界大戦は起きます。これはわたしの宗教生命を賭けてもいい。必ず起きます。

（九三年四月十日　於・福岡支部）

●九七年、ハルマゲドン勃発！

わたしの研究はいよいよノストラダムスについても、最後を迎えてきている。それによると、九七年ハルマゲドンである。九七年、間違いなく、ハルマゲドンが起きるであろう。これは単純な理論で、詩の九十七番にそれがあるからだってことだね。

一般的には、「ハルマゲドン」イコール「最終戦争」という考え方を持つ。しかし実際そうではない。ハルマゲドンは、あくまでも「ハルマゲドン」と呼ばれるエリアでの戦いである。しかもそれは、世界大戦の様相は秘めているが、まだそのときにはアメリカ、あるいはイギリス、フランスといった国々に力が残されていることは間違いないし、このときにまだ世界が認めるキリストは登場しない。

（九三年三月二十日　於・横浜支部）

●スケールが違うハルマゲドン

もともと、ノアの箱船のとき、ノアは、衆生に対してこのように言った。「間もなく神の裁きがありますよ。さあ、あなた方もこの神の裁きに対して、準備をしなさい」――しかしそれに対して、だれも耳を傾けなかった。そしてその結果、多くの者が大洪水で亡くなった。しかし今回は、大洪水だけではない。洪水、疫病、飢饉、そして戦禍である。これらが連続で起きるこの二十世紀の最終段階、それはちょうど第二次世界大戦前までは「あのような多くの被害が世界に現われない」と信じていた人たちが、その期待を裏切られ、そして、大きな災いと何千万という人口が亡くなったあの様子を、思い出せば理解できるはずである。

そして今回のこの、二十世紀の最後に来るハルマゲドンは、そのようなレベルではない。スケールが一ケタも二ケタも大きなスケールで展開される内容であるということを知ることができるならば、あなた方が何をどのように準備しなければならないかよく理解できるはずである。

（九三年二月二十八日　於・名古屋芸術創造センター）

●戦争は長く続く

では、どれくらいの間戦いは続くんだろうか。ノストラダムスの予言詩を解読すると、三年数カ月とも、あるいは四十年とも五十年ともいわれる。つまり、ものすごく長きにわたり戦いは続くのである。

（九三年三月二十五日　於・松本支部）

●使われる兵器

第三次世界大戦で使われる兵器は、原爆や水爆のようなチャチなおもちゃではないのである。まず、今ロシアが中心として使おうとしている兵器は何かというと、これは、「反射恒星砲」と呼ばれるものである。それに対して、アメリカはどうか。これは、SDIという計画があるわけだが、この延長上に〝マイクロ・プラズマ〟というものがある。

これらの研究、いったい軍事はどの方向に向かうのか、ということについて考えなければならない。それは第一は「機動性」である。第二は「自分の兵隊をいかに移動させないで相手をやっつけるか」ということである。この光、あるいは電波を使った作戦は、確かに兵隊を移動させる必要はない。人工衛星さえ打ち上げておけば、対象に対して照準を合わせ、そこをポイント攻撃することができる。――では「なぜ、原爆や水爆が効果がないのか」と。つまり、それを発射する前、あるいは発射したあと、即それを打ち落とされてしまうからである。

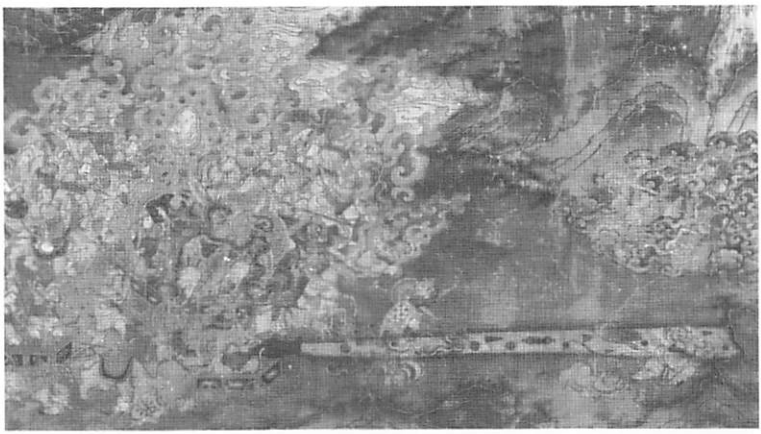
これらの内容から考えると、日本が軍事大国になろうとしたとしても、彼らは秘密兵器についてあまり表に表わしていないから、例えば核を有したとしても、例えば生物兵器を有したとしても、例えば化学兵器を有したとしても、日本が彼らに勝つことは〝不可能〟なのである。そして、より大きな兵器を持てば持つほど、日本人であるわたしたちは多くの大きなダメージを受けなければならない、ということになる。これが第三次世界大戦の様相であると見るべきである。

（九三年四月十九日　於・札幌支部）

●「つるぎ」――超大型レーザー兵器

しかし、まだ戦いは始まったわけではない。「戦いが始まったわけではない」とは何を意味しているのか。これは、この二つの兵器だけが登場するのではなく、これ以上の超兵器が登場する可能性があることを示している。わたしは最終的には、超大型のレーザー兵器ではないかと考えている。このレーザー兵器は、パワーが強くなるために、その中間状態の空間すべてをプラズマ化する。それによって完全に白い一本の帯、つまり剣として見ることができる。これはまさに、「ヨハネの黙示録」に説かれている〝つるぎ〟である。この〝つるぎ〟によって、完全にほとんどの衆生は消滅してしまう。

（九三年四月十七日　於・仙台支部）



科学技術を駆使したシャンバラ軍の最終兵器。これは黙示録に「つるぎ」と記されているものだ

●SFの世界の現出

二十世紀の終わり、あるいは二十一世紀にかけては何が起きるのかというと、まさにSFの世界が現出するはずである。ではSFの世界には、いったい何があるのかというと、そこには三つの要素が展開している。第一番目は高度な科学文明である。そして第二番目は戦いである。第三番目は超能力である。この三つが一九九〇年代の終わりから二〇〇〇年代にかけて起きる現象であるとわたしは分析しています。

（九四年一月三十日　於・第四サティアンビル）

●オカルティックな破局

質問者　オカルティズムであるとか、あるいは、霊的な現象がブームになっていますが、その原因あるいはその影響についてどのような見解を持たれていますか。

尊師　それは、この現実の粗雑な世界と、それからアストラル世界つまり霊的世界とが近づいてきているというふうに考えています。したがって、次における破局というのはオカルティックな破局が起きるんじゃないかというのがわたしの見解です。

（九二年六月四日　於・北海道大学）

●イスラム教とキリスト教の対決

今後、イスラム教対キリスト教といった対決の形が構図化されていくであろう。それはなぜかというと、イスラム教も経済の独占、これを図っている。あるいは、キリスト教の背景にあるユダヤ教も、同じように経済の独占、これを図っている。そして大変似た宗教で、一方はヤハウェを崇拝し、一方はアラーを崇拝している。このどちらかが偽物でどちらかが本物である。あるいは両方とも本物かもしれないし、あるいは両方とも偽物かもしれないけども、少なくともこの二つが対立する教えでないにかかわらず、対立する宗教であることは間違いない。そしてわたしたちは、それに間違いなく巻き込まれることとなるだろう。（九一年十二月二十八日　於・大阪支部）

●最終的な宗教戦争

世界の今あちらこちらで宗教戦争が勃発している。今世界を牛耳っているキリスト教、彼らは多くの迫害を他の宗教になしていることは間違いがない。ではこのような現象は次に何を生み出すのか。すべてはカルマの法則である。したがって、迫害したものは迫害されなければならないし、また弾圧したものは弾圧されなければならない。よって必ずや、この地上における宗教戦争は最終的には仏教対キリスト教の対決になるであろう。（九三年三月二十五日　於・松本支部）

●黙示録に見るハルマゲドンの予言

「第六の者が、その鉢を大ユウフラテ川に傾けた。すると、その水は、日の出る方から来る王たちに対し道を備えるために、かれてしまった。また見ると、龍の口から、獣の口から、にせ預言者の口から、かえるのような三つの汚れた霊が出てきた。これらは、しるしを行なう悪霊の霊であって、全世界の王たちのところに行き、彼らを召集したが、それは、全能なる神の大いなる日に、戦いをするためであった。(見よ、わたしは盗人のように来る。裸のままで歩かないように、また、裸の恥を見られないように、目をさまし着物を身に着けている者は、さいわいである。)三つの霊は、ヘブル語でハルマゲドンという所に、王たちを召集した。」　(ヨハネの黙示録)

まだこれは、現象化していない。つまり、ハルマゲドンのところに召集してはいないからである。しかし、少なくとも、大ユウフラテ川、これがダムができ、実際にユーフラテス川の水が渇れかかっていることは事実である。だからこれも間もなく現象化するであろう。

例えば、この三つの霊、つまり龍、獣、そして偽予言者と。これは何を表わしているんだろうか。龍は皆さんもご存知のとおり、当然ロシアを表わしているはずである。獣は先程述べたアメリカである。では、もう一つの偽予言者とは何か。これはイスラム圏である。つまりイスラム圏の国、そしてロシア圏の国、そしてアメリカ、この三つが全世界の王を集めて闘いを挑む。

「第七の者が、その鉢を空中に傾けた。すると、大きな声が聖所の中から、御座から出て、『事はすでに成った』と言った。すると、いなずまと、もろもろの声と、雷鳴とが起り、また激しい地震があった。それは人間が地上にあらわれて以来、かつてなかったようなもので、それほどに激しい地震であった。大いなる都は三つに裂かれ、諸国民の町々は倒れた。神は大いなるバビロンを思い起し、これに神の激しい怒りのぶどう酒の杯を与えられた。島々はみな逃げ去り、山々は見えなくなった。また一タラントの重さほどの大きな雹が、天から人々の上に降ってきた。人々は、この雹の災害のゆえに神をのろった。その災害が、非常に大きかったからである。」

（ヨハネの黙示録）

これは、実際に雹が降ります。しかも、その時期は一九九九年前後であると考えるべきです。まず、徹底的な天災が起きます。しかもそれは九七年から徐々に徐々に本格化し、九九年から二〇〇一年にかけてピークに達します。

（九一年十一月九日　於・川崎市幸市民館）

●原油を契機にハルマゲドンが起こる

中東が原油を出さない時代が来ます。そのときにハルマゲドンなんです。

（九三年六月十日　於・第六サティアンビル）

●中国の崩壊

一九九三年、あるいはそれから数年後だね、一九九七年とか八年とか、そこらへんに一つの大きな中国の変革、つまり共産主義の崩壊があるはずである。まあ、実際問題として、この現象はもうすでに現われ出している。

（九一年十月二十六日　於・名古屋支部）

●アメリカが世界の王から降ろされる

ノストラダムの予言詩の中には、アメリカ合衆国の力が一九九八年一月以降、つまり二月からは世界の盟主、世界の王から降ろされるという予言があります。（九二年十一月三日　於・千葉大学）

●ハルマゲドンに導く人物

一九九五年の選挙でアメリカ大統領となる人物と、その時点でのロシアの大統領がハルマゲドンまで導いていくだろう。

（『滅亡の日』オウム出版より）

●ドイツ・ナチズムの復活

ヒトラーは、『わが闘争』という本を遺している。これには、ヒトラーの世界観、社会批判、ナチスの政策などについて書かれており、ゲルマン民族の大帝国を成立させることにまで言い及んでいる。

これは戦後処理の一環としてだと思われるが、『わが闘争』は発禁処分とされた。戦争に導いたイデオロギーが、ぎっしり詰まっているとなれば当然である。そして、因縁めいているが、その発禁処分の期限が切れるのが、なんと一九九九年（!）なのだという。

発禁処分の解けたこの年、アンチ・ヒトラーの世代が初めてこれを読んだとしたら? ヒトラーのナチス・イデオロギーに共鳴する人間が続出する可能性を否定することはできまい。しかも、一九九九年にはハルマゲドンが勃発し、社会情勢が大混乱に陥っていることが予想されるのだ。ナチス・イデオロギーに救いを求めるようになるかもしれない。

ハルマゲドン後にナチスが不死鳥のごとく甦るというのも、あながち絵空事だとは思えなくなってくるではないか。ヒトラーの構想には、大ゲルマン帝国の建国が含まれているのだ。

（『滅亡から虚空へ』オウム出版より）

●イギリスの終焉

この大英帝国が二〇〇〇年に崩壊する。

この二〇〇〇年ちょっきりにイギリスに大きな変化が起きることを示唆しているものと見るべきである。で、これはヨハネの黙示録との照らし合わせからいっても、まあ起きて当然であるというか、起きるべくして起きる内容であるということだね。

このイギリス自体がもうすでに輝かない。そして海なしに存在するというのは、これはイギリスそのものの領土が海続きから陸続きになるのか、あるいは陸続きのような状態になることを表わしている。そして、この時に地球規模の大きな奇跡がいろいろと起きだす。つまり、この九八年くらいからは、奇跡が起きだす年であると考えてください。

（九一年十一月三十日　於・京都市東部文化会館）

●九八年、日本の危機

九八年、このサヤエンドウの国・日本は蹂躙されるといっている。この九八年には、この日本の国はものすごい大量の血を流し、そして、それだけではなく完全なる食料危機と、それから水のない状態が生じるとノストラダムスは言ったのである。これは、四の九十八の内容である。

（九三年三月二十八日　於・名古屋芸術創造センター）

●一九九九年、世界規模の戦争勃発

一九九九年八月一日前後が運命の分かれ目だ。この日はハルマゲドンが勃発する日なのだ。世界経済が行き詰まり、生きていけないという窮地に陥ったときに、世界的規模の戦争が始まる。アメリカ、ロシア、中近東を中心とするイスラム諸国、日本が、正面切ってぶつかり合う激しい戦争となるだろう。

（『滅亡から虚空へ』オウム出版より）

●恐怖の大王が降ってくる

一九九九年九月二日、三日に必ずや大いなる現象が起きるはずである。で、この時もはや天からマナが降ってこない。じゃ、何が降ってくるんだという問題が出てくる。きっとマナの代わりに恐怖の大王が降ってくるんだね、これは。で、このマナというのは何かというと、これは天の恵みである。で、その反対の言葉として、恐怖の大王が取り上げられているわけであるから、これはやはり天変地異と見るべきであろう。

（九一年十一月三十日　於・京都市東部文化会館）

●人類最終戦争の行方

わたしたちの住むこの大地が激しく揺れ、巨大な水の壁が地上のあらゆるものを洗い流してゆく。そんな光景に恐怖して、国外に逃避しようとする人もいるかもしれない。

だが、たとえ国外に脱出したとしても、もはや安住の地を得られるような時代ではない。世界各国の天変地異はいうに及ばず、核による恐ろしいハルマゲドン（人類最終戦争）が我々を待っているのである。

生活できない、生きていけないという窮地に陥ったときに、世界的規模の戦争が始まる。自分たちだけが生き残るために。これはまさに、狂気のなせる業としかいいようがない。

星の配置からは世界戦争が、四つ巴（どもえ）の大戦となることが読みとれる。アメリカ合衆国、ロシア、中近東を中心とするイスラム教の国々、そして日本が正面切ってぶつかり合う、激しい戦争となるだろう。

だが、一九九九年に始まるであろうこの戦争も、しばらくの間、核兵器は使われない。核が飛び交うようになるのは二〇〇三年になってからだ。二〇〇三年十月三十日から十一月二十九日までの間に、核兵器による決定的な破局が訪れる。そのピークは十一月二十五日。

（「トワイライトゾーン」一九八八年一月号より）

◎第三部　なぜハルマゲドンが起こるのか?

●カルマによって戦争が起こる

現代人を観察すると、現代人を構成しているものは何か。まず「嫌悪」である。ただ、自分だけ良ければいいと考える。次に「無智」。今さえ良ければいいと考える。次に「貪り」。自分だけ独占したいと考える。次に「性欲の興奮」。とにかく異性を見たらセックスの対象と思え、という修習をする。そして「闘争」。とにかく権力を得るためには手段を選ばないでいいんだと考える。――これらの、下位に結びつけられた五つのきずな、この五つのきずながまさに、現代の人々である。

そして、このカルマの構成の集積が何かというと「戦争」である。よって、戦争における新兵器はどんどんどんどん開発され、例えば、原爆・水爆等の、光ることによって肉体がただれ、そして内臓が焼け、乾きと飢えによって苦しまなければならない。あるいは完全に焦がされるといったような現象が生じる。あるいは、化学兵器では、毒ガスを吸うと。これはまさに、わたしたちが殺虫剤によって虫を殺しているのと同じカルマがそのまま投影されるというかたちになる。そ

して、ロケット、あるいは戦車の砲弾の威力もどんどん増大し、わたしたちの手が飛んだり、頭が飛んだり、足が飛んだりといったような状態になる。

そして、それは「周期的」に行なわれる。なぜ、周期的に行なわれるのか。それは、カルマの集積の度合いがある点を超すと、必ずそれ以上この人間の世界に存在することはできないんだよというカルマの法則が存在するからである。そしてそのカルマの法則によって、間もなく大いなる戦い、つまりハルマゲドンが生じるのである。

（九三年四月十七日　於・仙台支部）

●生存――カルマによって選択

質問者　戦争で生き残るということはどういう意味を持っているとお考えですか。

尊師　これは仏典の引用をすることによってその答えとさせていただきたいんだけど、それまでの過ち多き人生を、その生き残った人たちは、悔い改めると。そしてそれによって、戒律を守るようになり、一つずつ戒律を守るようになり、それによって人類が発展的になり、寿命が延び、幸福になるとうたわれています。

質問者　それを実践できる可能性の高い者が生き残るべきであるというふうにお考えですか。

尊師　いや、要するに実践できるできないは関係なく、そこでのカルマの力によって、必ず選択が起きるんじゃないかとわたしは見ています。

（九二年十一月七日　於・横浜国立大学）

●人間の完全な二分化

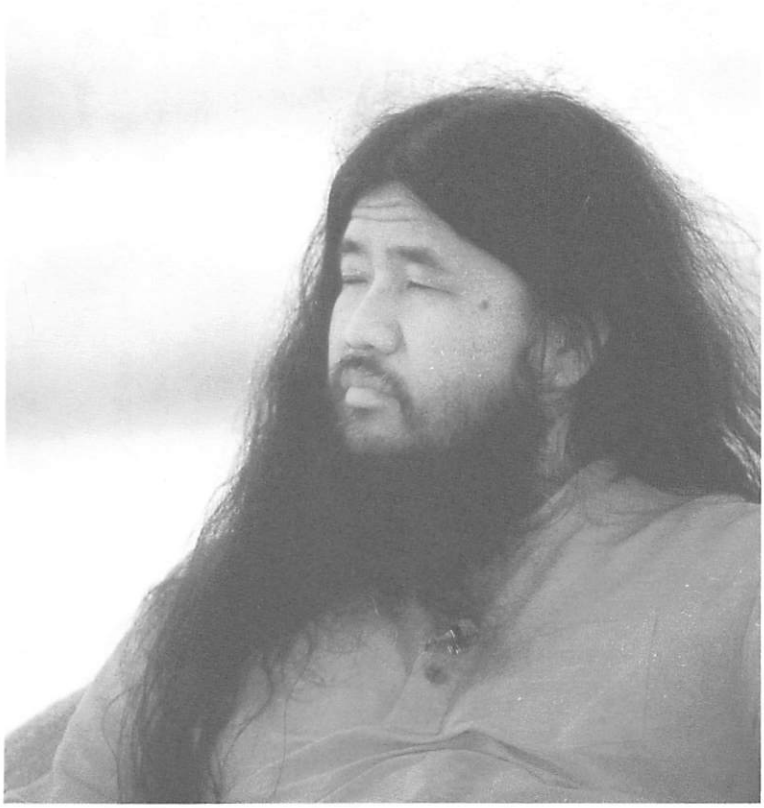
完全に人間の中に二つのジャンルを作る——神々の要素を有する者と、それから、そうでなく三悪趣の要素を有する者の二つを完全に区分する——ために、今回のハルマゲドンは生じるのである。

（九三年四月十一日　於・大阪支部）

●第三次世界大戦の狙い

そして、第三次世界大戦のもともとの狙いというものは、都会を完全に死滅させること。そして、ある意味での無政府状態をつくること。そして、地球の統一的な政権をつくること。この三段階に計画は分類されている。

（九三年六月十日　於・第六サティアンビル）



●影の支配者の考え

今、アメリカのバックについている大いなる智慧を有する者たち、ロシアのバックについている大いなる智慧を有する者たち、中国のバックについている大いなる智慧を有する者たちが何を考えているか。それは、彼らは一つ。つまり、この人類をより神々の方向へ近づけようとしているのである。ということは、本来、ここに集っている君たちは、救済され得なければならない魂ということになる。

ではその彼らとわたしたちの違いは何であろうかと。それは、四無量心という、「四つの偉大なる心の覚醒」というものを有するか有さないか、ということがポイントになる。つまりわたしたちは、すべての魂を、できたら引き上げたいと、すべての魂を救済したいと考える。どうだ。

しかし、時がない場合、それをセレクトし、そして必要のない魂を殺してしまうこともやむなし、と考える智慧ある者、あるいは徳のある魂がいたとしても、それはおかしくはない。

そして最終的には、この二つは大きなぶつかり合いになるのである。もうすでに、その選定は始められている。

（九三年四月十八日　於・杉並道場）

●最終戦争の理由

ぐちゃぐちゃな状態にこの日本はいよいよ突入する。これらはすべてフリーメーソンの計画どおり進められている。

では、フリーメーソンはなぜこのぐちゃぐちゃな状態を作ろうとしているのかというと、彼らはもともと人間ではこの地上、地球というものはコントロールできず――ここでいう「コントロール」とは支配という意味だが――支配できず、そしてそれゆえに聖書の予言あるいはノストラダムの予言、あるいはいろいろな聖者方の予言等を研究し、この世の中をぐちゃぐちゃにし、最終戦争に対しての準備を行なっている。最終戦争に対する準備とは何かというと、これはまさにその最終戦争をクリアしない限り、キリストの統治がないと彼らは考えているからである。これこそがまさに聖書の予言の成就であり、そして自分たちが静かにこの地球で神へ至る道を歩くことができるただ一つの道である、と彼らは考えているのである。

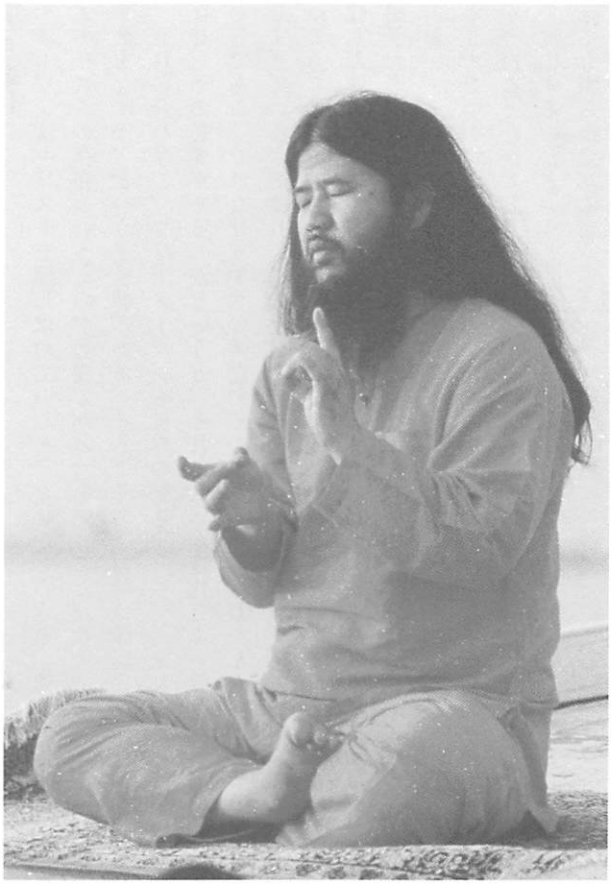
（九四年四月二十九日　於・名古屋支部）

フリーメーソンには二派ある
——キリスト観の違い

フリーメーソンには二つのタイプが存在している。それは、予言を信じ、キリストの登場を待つグループと、それからもう一つは、「キリストの存在そのものが幻影であり、カルマの法則も存在しない。個々が自由に生きることをポイントに世の中をつくり変えてしまおう」とするグループである。前者がキリストを世界の中心に持っていこうとするのに対し、後者は「キリスト」と認められる人物を引っぱり出して対決しようとしているのである。

この二派の対決はずっと続いているが、今の段階では後者が優位に立っている。彼らは、人間を完全に無智化させ、動物化させ、そして国家そのものが成立しないような状態をあちこちにつくり、それを一部の者がコントロールし、そして、この地上に完全に動物的自由、あるいは動物的な平等というものを与えることを目的としている。一般の魂は、彼らから見るとまさに動物と同じ価値しか存在しないということになる。彼らは、キリストが千年経っても、千二百年経っても、千五百年経っても現われない現状を見て、そのような考えに至ったという。

しかし、もともとフリーメーソンとは、"キリスト待望の集団"、つまりキリストが登場したら、そのキリストに奉仕するために結成された秘密結社である。彼らにとって最も重要なことは、人類を進化させること、そしてキリストの予言を成就させることである。予言を成就させる場合にはそのためのロケーション、シチュエーションを確定させる必要があるのである。この二つの目的によってフリーメーソンが設立され、今のような現象がつくられているのである。



●破滅から進化へ

フリーメーソンはキリストを探し求めていたと。なぜかというと「魂が進化する系譜においては、必ずキリストの存在というものが必要である」ということだね。で、次に、キリストはどのような事業をなすか、という予言詩がある。そしてその予言詩は確実に一つ一つ消化されていっている。それに合わせて、フリーメーソンも世界の動きを一つ一つそれに合わせている。

ではなぜ、その必要があるのかというと、それは人類が進化しない限り、今の人類はすべて滅亡するからである。ではなぜ、すべて滅亡するのかと。それはわたしたちがあまりにも欲望的な生活をしすぎているがあまり、この地球の統制機構、例えば空気、あるいは大気と日光との関係、その他によって必ず滅亡しなければならないんだということ。で、それをくい止めるためには、より進化した魂の系譜の一群が降りてくるはずである。それがキリストである。キリストとキリストの弟子たちである。そしてその弟子たちによって、この地球は進化系に移行する。

「おいおい、そんなこと言わなくたって、別に大丈夫じゃないか」「今だってわたしたちは生きているじゃないか」と言うかもしれない。しかし、これは、大宇宙真理占星学を研究してはっきりわかったことだが、どんなに狂いがあっても今から二千年後、人類は滅亡します。じゃ、何によって滅亡するのかというと、地磁気の逆転によって滅亡する。そしてこれは、過去の地球の歴史を見ても明らかである。

ということは、長い目で、つまり、今の人類の子孫の系統をしっかり考えられるような智慧の持ち主である、今の魂の中で最も優れたフリーメーソンが何を考えるかというと、この地球人類をどのようにして生き残らせ、進化させるかを考えるはずである。そしてそのためのチャンスは一度だけ存在する。それは、キリストがこの世に登場したときである。そのときに、要するに淘汰された魂が、新しい進化系の流れに乗り、そして、例えば地軸が逆転したにしろしないにしろ、要するにこの地球は滅びるわけだから、滅びるときにも滅びないような系統を樹立しようと考える。これが、フリーメーソンがキリストを探し、そして「キリストが存在したら」ということを確信して、どんどん世界を——要するに、ある意味で破滅の方向、別の言い方をすれば破滅から進化の方向へ導いているゆえんである。

（九三年一月三十一日　於・第五サティアンビル）

◎第四部　キリストの登場と至福千年王国

●世界全体を光で包む救世主

今から約二千年前、イエス・キリストと呼ばれる救世主の一人が登場した。彼は、いろんな奇跡を行なっていることは事実である。しかし、そのようなものは他の呪術的方法でも、たまに成功するという例があることによって、すべての人たちはイエス・キリストを救世主として信じなかった。

そしてこのキリストクラスの成就者は、インドやチベット、あるいはブータン、あるいはネパール等、あるいはタイ等に多く出現した。そしてそれは仏教という形を取り、あるいは密教という形を取り、あるいはヨーガという形を取り展開した。しかし、先程述べた世界全体をサットヴァの光で包む救世主は登場しなかった。もともとその救世主の役割というものは、世界に真理の法則を宣べ伝えさせ、そしてサットヴァの光を強めさせることにより、すべての魂に未来際において真理を実践させ、すべての魂を偉大なる最終の煩悩破壊の世界であるマハー・ボーディ・ニルヴァーナへといざなうことが役割なのである。

（九二年九月二十七日　於・富士山総本部）

●転輪聖王の出現

ユダヤ教が望むキリスト、つまりメサイアとは何であるかということについて検討しなければならない。というのは、このメサイアは、ハルマゲドンにおいて、それから二千年の契約において、この世界を、地球を統治する、と予言されているからである。

例えば、「ヨハネの黙示録」には、〝ダビデの若枝〟という表現がなされている。このダビデの若枝とは何かと。これは祭司と、それから軍事的な王、この両方を兼ね備えた武人灌頂王のことを表わしている。この「武人灌頂王」とは、「転輪獅子吼経」にも述べられているように、聖なる者に――つまり予言者に――祝福された者、頭に油を塗られた者、という意味である。つまりこれは、「予言者にイニシエーションを受けた祭司・宗教家である軍人」ということになる。そしてユダヤは、この救世主がハルマゲドン前後に現われる、と信じているのである。

（九三年三月二十五日　於・松本支部）

●キリストの登場

では世界が認めるキリストは、いつ登場するのか、という問題になる。これは、最終的に二〇〇〇年であろうと考えられる。ではその九七年の戦いには、キリストは参加しないのか。これは、予言詩では参加することになっている。そしてそののち、イギリスが叩かれ、そしてアメリカが叩かれると。これが予言詩の全容である。

（九三年三月二十日　於・横浜支部）

●一九九五年あたりにターニングポイントが

皆さんは、今の日本を独立国家と考えているかもしれない。しかし、これは実際第二次世界大戦に参加した智慧ある戦士たちは、「今の日本の状態は明らかに独立国家ではなくアメリカの属国である」と主張する。なぜならば、「自国に、つまりこの日本に他の国の軍隊が駐屯していること」イコール「属国」であると定義するからである。したがって、そのような目で見るならば、アメリカにおべっかを使う政権は、あるいはおべっかを使う人は、それによって権力を得、そして国を統治する形態がとられている。

しかし、ここで一つ気をつけておかなければならないことがある。それは、このような属国支配体制というものは、世界史上いろいろ検討すると、そんなに長くは続いていないということである。せいぜい続いたとしても四十年、あるいは五十年が関の山ということになる。もし、五十年だとするならば、一九九五年あたりにターニングポイントがあると考えるべきである。

（九四年三月十五日　於・杉並道場）

●大いなるエネルギーの開発

では、この日本は、ただその敗北をなめなければならないのかと、そして犬死にをしなければならないのか、というとそうではない。彼らの思想には、確かに瞑想、そして神へ近づくことという修行命題は存在する。しかし彼らは、世界の構造においてこの欲界の構造しか理解していない。つまり、意識における格差のある神聖世界、次に男女の登場する愛欲の世界、そして、それ以下の粗雑な肉体を持つ、人間世界以下の低級霊域・動物・地獄といったような世界、これが彼らの世界観である。

しかしもしこれよりも上位概念を根本とし、瞑想し、彼らの智慧をはるかにしのぐことができるならば、それは、はるかなる智慧を有し、そしてそれをもとに大いなるエネルギーを取り出した民族が、あるいは大いなるエネルギーを取り出した魂が勝利者となり、そしてその魂の意図によって、地球はそちらの方向へ動くのである。——つまりもし、偉大なる四無量心という、人類済度の、人類だけではなく衆生済度の大いなる瞑想をなす魂がいるとするならば、その大いなる瞑想により大いなるエネルギーが開発され、そして、この地球は完全なる真理の御国と変化するはずである。

（九三年四月十九日　於・札幌支部）

●一九九七年、西暦が終わる

世界の動向を観察すると、一九九六年に大きな山場が現われる。そして、この大きな山場の後キリストの登場、一九九七年に至って西暦が終わる。

（九四年八月二十一日　於・第四サティアンビル）

●金星の法則VS太陽の法則

五十三番に重要な詩が存在している。これはどういう詩かというと、日本でもよく持ち出される、「太陽の法則と金星の法則が相争う。そして、お互いに頑固にそれを受け入れない。お互いに予言を研究する。太陽の法則はメシアによって保持される」という予言詩である。この予言詩の内容は、〝太陽の法則〟つまり絶対の真理と、〝金星の法則〟つまりこの世の中を享楽的に――例えば金を儲けたり、現世ご利益といったようなもの、これが完全にぶつかり合う時代が来るんだということを予言している。

（九三年三月二十八日　於・名古屋芸術創造センター）

●カルマの法則が証明される

このような現象において神が関与するとユダヤの本質的な経典ではうたっているし、それから、ヒンドゥーの本質的な経典でもうたっている。ヒンドゥーの経典においては、ここでカルキが登場する。カルキとは何か。それはシヴァ大神の化身であるマハーカーラが登場することになっている。そしてユダヤでは、だれが登場するのか。これは「天界の第四の御座の神の化身がこの世に現われる」という表現となっている。そしてその魂は、なんと、紫の衣を着ているそうだ。

そしてそこで何を現わすのか。それは当然、カルマの法則は存在するんだということを現わすこととなる。つまり、これは明らかに、神々対、そして無智である疑念の塊である者の対決ということができる。それは別の言い方をすれば、カルマの厳然たる法則が存在するのか、あるいは存在しないのかの対決となる。そして当然、この日本は、それよりも先に大きな変化を迎えることとなるだろう。

キリストも説いている、それからサキャ神賢も説いているこの「カルマの法則」というものはあるんだと。そしてそれはこれから二〇〇〇年にかけて、必ずや証明されるであろう。偉大なるシヴァ大神とすべての真理勝者方の祝福によって。

（九三年三月二十一日　於・杉並道場）

●六人の最終解脱者

二〇〇〇年を、つまり新しい世紀をしょって立つのは、明らかに日本であるとノストラダムスは予言しています。

この日本のカルマはどうなるのかというと、ノストラダムスは別の詩で、「六人の免れた者」、つまり「罪から免れた者」、つまりオウム真理教の言葉を使うならば、「最終解脱者」の登場によって罪は隠される、つまり、他の国に比べて——先程述べた九〇%ぐらいの人が亡くなるとしても、それでも——平安な移行を行なうんだと予言しています。

では、もし六人の最終解脱者が出なかったらどうなるのか。これは第二次世界大戦の最後の様相、つまり、例えば広島や長崎への原爆の投下、あるいは東京大空襲、あるいは、沖縄の全滅状態、あるいは大阪、神戸の空襲といろいろありますが、これらの現象の復活、つまり日本の壊滅的な状態と見ることができるでしょう。

（九二年十一月七日　於・横浜国立大学）

●超人類の誕生

私は二〇〇六年くらいに第三次世界大戦が起こるだろうと考えていますけど、その間には間違いなく、そういう新しい人類というか今の人類を一つレベルアップした人類というのが、誕生しているんじゃないかと。そして、その一つの助けになればなと考えています。

（八八年十月九日　於・水戸支部）

●キリストの弟子が集まる

一九九九年七の月にキリストが世界に散っている真理の弟子たちを呼び集める。

（『キリスト宣言PART2』オウム出版より）

●キリストが登場するか否かによって予言の内容が変わる

ところで、この九七年にキリストが、世界的に姿を現わすかどうかによって、九七年以降の予言は全く違ったものとなるんだね。

（九三年六月十日　於・第六サティアンビル）

●ノストラダムスの予言が終わる!?

「私の予言は成就し、私の詩はそれ以降なくなる」（ノストラダムス）

これは、未来の運命が変化してしまうということをいっているんだよね。ノストラダムスが十六世紀に詩によって予言していたことがなくなってしまうということなんだから……。この太陽は本物の光ということだよね。光はコーザル世界のデータを変え、カルマを変えることができる。したがって未来を変えることもできるということだ。

……反射光のような実体のない宗教の後、太陽のように光を作り出して未来を変えてしまう宗教が登場する。そのため、ノストラダムスのこの予言が成就した暁には、その後の出来事として予言している事象は起こらなくなってしまう、と自ら言っているのだ。

（『マハーヤーナNo.21』オウム出版より）

●オウム真理教に課せられた使命

まず、ハルマゲドンは回避できない。しかし、オウムが頑張って多くの成就者を出すことができれば、その被害を少なくすることができる。ハルマゲドンで死ぬ人々を、世界人口の四分の一に食い止めることができる。そして、残りの四分の三の人口の中のどれだけが生き残れるかは、オウムの救済活動次第だと。わたしは、わたしに与えられたこの使命に命を懸けているんだよ。

（『滅亡から虚空へ』オウム出版より）

●偉大なる神通によって

タントラヤーナの戒律の中にこういう教えがある。「成就者は、村や町を破壊してはならない」と。つまり、タントラヤーナの修行、ヴァジラヤーナの修行をある程度行なっていくと、それを小さな町や村を破壊するほどの神通力が生じるわけだ。つまり、この第三次世界大戦を止めることができるのは、世界においてただ一人、わたししかいないとわたしは考えている。

そして、おそらく、それを行使する時期が来るだろう。それは偉大なる神秘的な力と叡智によってね。そして必ず予言が正当であれば、勝利するはずである。

しかし、現象というものは、必ず相反する要素があるから——今言っているのは、わたしの関与してない予言なんだよ。つまり、この地上に組み込まれているデータを君たちに話しているんだ。でなかったらオウム真理教なんかわたしは開いていないよ。ひっそりと瞑想生活に没頭しているよ。

（九三年六月十日　於・第六サティアンビル）

●未来を背負って立つのは日本

文明の発展にはこの非双極磁場が、どれくらい強いかということが一つのポイントになるんではないかとわたしは考えている。この磁場が完全に日本を真中心にするのは、これから四十三年後である。そしてこの日本を中心としてアジア大陸等に大きな影響を与えることとなっている。

つまり、これから未来は日本を中心として、新しい文明の発展発達が約束されているとわたしは考えているのである。

（九二年十二月二十五日　於・松本支部）

●新しい勢力の勝利

「歴史は繰り返す」といわれるが、実際にそうではない。必ず、以前生じたイデオロギーというものは、必ず死滅する傾向にある。そして、この日本経済が本当にパニックになり、そののち旧勢力が現われるその前後に、新しい勢力が現われるはずである。これが予言の流れである。これは世界史を検討している者は、必ずこの現象に気づくはずである。そして必ず、新しい勢力が勝つことになっている。

（九三年三月二十五日　於・松本支部）

●オウム真理教が中心へ

ノストラダムスの予言詩にこのような内容がある。「偉大な教祖は、教団を拡大させようと思念する。しかし、大きくならない」と。――これは何を意味しているのか。ある段階が来るまで、つまり、爆発的に教団が大きくなるまでは、大きくならないということである。しかし、爆発的に教団が大きくなるとき、おそらくこの教団は、千倍、あるいは一万倍といったスケールの教団の大きさになるはずである。それはなぜならば一方の陣営の中心を担うからである。

そして、この日本の果たさなければならない役割というものは、非常に大きい。ではなぜ大きいんだと。それは先程述べた、人間が完全に金星の法によって、欲望のケダモノと化し、そして三悪趣へ落ちる。その魂に対してストップをかけ、そして高い世界へ至らせる――つまり、太陽の法に従わせるために、この日本は存在しているからである。

（九三年三月二十七日　於・京都支部）

●オウム真理教が叩かれる理由

質問者　フリーメーソンの本の中に、大いなる世界の構築者との略称で「ＡＵＭ」という言葉が出てきました。彼らはエジプトからの教えをきちんと守っているのか、それともオウム真理教の活動とは少しずつずれたようなことをやっているのかというのをお聞きしたいのですが。

尊師　彼らは彼らで予言の研究をしていて、で九六、九七あたりに彼らを包括する宗教が存在する、それがオウムであるということを認識し、理解したうえで、オウムを叩いているんだよ。で、本当にこの教団がオウムなのかどうかということを認識し、理解するために叩いているわけだよね。ま、その間熾烈な戦いがあると考えるべきである。戦いというのは何も棒を持って戦うのが戦いじゃなくて、例えば宗教者の戦いというのは、ひたすらじっと耐えるとか、あるいはそうだね、いかなる境遇においても動じないとか、あるいは、苦しみのときに愛を与えてあげるとか、そういうことも戦いになるわけであって、そういう、神々としての実践ができるかどうかっていうことが、最終的にフリーメーソンを包括概念として、入れることができるかどうかのポイントと考えている。

で、彼らがその「ＡＵＭ」と言っているのは、もうすでにそういう前兆が現われていて、最終的に海の宗教であるオウム真理教に彼らの教えがすべて内在されるほどの示唆的な内容であると考えていいと思いますよ、それは。

（九一年十一月三十日　於・京都市東部文化会館）

●オウム真理教はフリーメーソンを包含する

今のキリスト教と関係のある最高宗派、しかも最もレベルの高い宗派であるフリーメーソン、このフリーメーソンがまず、オウム真理教のスタンスである頑固さ、射手座というものを恐れるけれども、それに対して畏敬の念を持つというのが九六年である。

要するに最終的に、フリーメーソンの教えそのものと、オウム真理教の教えそのものとの間に完全なる一致、あるいはオウム真理教の宗教概念の中にフリーメーソンの宗教概念が抱合される感じで、この二つの流れが同一になる。これは実際わたしの前生も関係があるわけだけれども、同一して本来は当然なわけなんだね。

（九一年十一月三十日　於・京都市東部文化会館）

●済度できるのは真理だけ

世の中は悪化し、そしてだれも収拾のつかなくなる状態が来ます。で、それを済度できるのは本当に真理の流れだけであるということになると思います。

（九一年十一月九日　於・川崎市幸市民館）

●聖者が必要とされる時代が来る

二〇〇〇年前後に起きる天変地異と、それから戦争、これの終結を迎えるのが二〇一三年から一四年における最終戦争です。ですからこの二〇一三年から一四年の戦いというのはかなり激しいものになります。しかし期間的にはそれほど長くない。ですから、今まだ若くて二〇一三年、一四年まで生きている人はしっかりと、どのような形でこれから世の中が流れていくのか見ればよろしい。

オウム真理教の流れとしては、布施・持戒・忍辱・精進、そしてサマディ・智慧という六つの極限の在家の修行と、それから出家修行者については七科三十七道品を土台として、その中心である聖なる八段階の実践、これを固めていくと。そして、非暴力・不殺生・不偸盗・不邪淫・不妄語、そして他の、言葉のカルマの捨断、心における愛著・邪悪心・迷妄の打破といったものを中心として自己を高め、皆さんが必ず必要とされる時代が一九九七年から起きます。その一九九七年に皆さんを必要としたときに、皆さんがしっかりと聖者としての心、聖者としてのヴァイブレーション、あるいは聖者としての知性、つまり、いかなることに関しても絶対的な答えを出せるというような状態、これを持つべきであると思います。（九一年十一月九日　於・川崎市幸市民館）

●わたしたちはどのようにとらえるべきか

皆さんが日々の修行をしっかりと行ない、そしてその日々の修行によって、自分自身の状態を神々へ変え、例えば原爆の被爆に耐えることのできない身体でも、そこで肉体が捨てられ、天界へ生まれ変わるとか、あるいは逆に、よりいっそう修行し、その原爆の風に対して、対抗できるような肉体の状態を形成することによって、原爆が投下されたとしても、平然と生きていけるような身体をつくると。このような意識状態で皆さんがこれから生活するならば、一九九〇年代に何が起きようとも、あるいは二〇〇〇年代に何が起きようとも、皆さんにとっては全く問題ないはずです。そして、それをわたしは与えるために、ここに存在している。

（九一年十二月三十日　於・福岡支部）

●死の準備を

たとえ第三次世界大戦が起きようと起きまいと、ということをわたしは以前から言っていたわけだが、起きるとして死ぬ確率はかなり高い。起きないとしてもいずれ死ぬ。この二つの条件を考えるならば、死を直視し、そして死の後どのような形でわたしたちが輪廻転生を行なえばいいのかについて検討に入り、努力する時期がやってきた。そして、死の準備のためには数週間や数時間ではなかなか間に合わない。自分自身の本当に決定的な輪廻転生を考えるならば、それは明らかに今から準備をするべきである。

（九二年九月二十七日　於・富士山総本部）

●地上楽園の到来

今の経済的な困窮状態、皆さんも知ってのとおり完璧な不況の状態であるわけだが、これはおそらく世界のモラルが変化するまで続くと見るべきである。つまり日本の場合九七年から二〇〇〇年、これぐらいに逆転現象が起きるはずである。そしてその時代に生き残った人たちは、大変豊かな経済的な土台が確立するはずである。しかしこの大変豊かな経済的土台というのは、何を意味するのかというと、それは他の衆生に対して利すだけの、つまり利益を与えるだけのゆとりが与えられると見るべきである。つまり豊かな者は貧しい者に対して恵みを垂れるという原則的な実践が行なわれてこそ、本当の意味での地上楽園は成立する。

（九二年九月十九日　於・名古屋支部）

●八万歳の寿命に向けて

仏典では、わたしたちに一つの示唆を与えています。それはわたしたちがいろいろな心のけがれ――例えば生き物を殺すとか、盗みを働くとか、あるいは嘘をつくとかいったようなけがれ――によってわたしたちの寿命は短くなり、そしてそれらの行為・言葉・心の働きが停止したときに、わたしたちの寿命は逆転し、増大するんだという教えです。

ところで、ここにいる皆さんはそういう意味においては大変幸せな存在であるということができるでしょう。なぜならば、二〇〇〇年前後を境として、この逆転現象が起きると、これは仏典にもそうですし、あるいは聖書の予言、あるいはノストラダムスの予言にも説かれているからです。

仏典や聖書を読む限りにおいては、要するに正しい生き方、そして心を清める生き方をする者だけが生き残ると予言されているからです。それによって、最終的には人間の寿命は約十万年になると。仏典では八万年となっていますが、聖書には十万年となっています。

（九二年十一月二十三日　於・京都大学）

◎第五部　質疑応答

●兵器が使われる順番

質問者　日本が戦争になった場合に使われる兵器の順番を教えていただけますか。

尊師　使われる兵器の中心的なものというのは、プラズマ兵器であると考えてください。プラズマ兵器、およびレーザー兵器。つまりＳＤＩがありましたね。そのＳＤＩでいったん消えたかに見せていて、実際は非常に開発が進んでいます。例えば、例を挙げるならば、約五〇キロワットの、もしプラズマ兵器があるとするならば、これは車に載るぐらいの大きさですが、だいたい二〇〇メーターから四〇〇メーターぐらいの空間の生命体は瞬時に死んでしまいます。

質問者　では核兵器等はほとんど使われないということでしょうか。

尊師　核兵器は、局所的に使われると考えていいと思います。しかし、核兵器はエネルギー効率が悪いんです。例えば一メガトンの核兵器があったとして、それはだいたい一〇キロ×一〇キロぐらいの空間を死の灰にしますが、しかし、核兵器を使った場合、まあ中性子爆弾の場合は別にしても、爆破したあと、その空間はそのまま使えませんよね。ところがプラズマ兵器の場合はそ

れが可能なんです。

質問者 比較的綺麗な兵器から使って核は最終的に部分的にしか使わないということですね。

尊師 核兵器はあまり怖くないんです。

（九三年六月十七日 於・第六サティアンビル）

●キリスト教VS仏教の戦い

質問者 仏教対キリスト教の戦いになると言われましたが、詳しく教えてください。

尊師 仏教対キリスト教の戦いというのは比喩的な表現ということができます。つまり、仏教対キリスト教を奉じて物欲に支配されている魂たちとの対決になりますよと。この仏教というのは仏教ではなく、この人間の世界が一つのマーヤ、幻影であり、その幻影に立脚した、つまり本質的には意識であり、その意識そのものが空であるということに立脚した集団、対、物欲の集団の対決が最終的な対決になりますよという意味です。

したがって形ある仏教徒とか形あるキリスト教徒、わたしは仏教徒である、わたしはキリスト教徒である、さあ、刀を持ってチャンバラしましょうというような状態ではなく、非常に激しいものになると考えられます。

ではその最終戦争の模様はどうなるかというと、これは起きるか起きないかわからないよ。わたしは起きると考えているけれど、おそらく今持っている原爆や水爆等を含めたものの撃ち合い、

それから化学兵器等を含めたものの使い合い、それからレーザー、プラズマ、あるいは反射恒星砲等を含めた、ありとあらゆる兵器がフルに使われ、最終兵器として、例えば空間一キロとか一〇キロの空間が瞬間的に炎となるような最終兵器が使われるようになると思います。

ただ、まだ、この短いというか、狭い、正確に言うと小さい空間に対して、その空間を炎と化すというんだったら例えばレーザーあるいはプラズマ等によって達成できますが、それが一〇キロ四方を瞬間に炎と化すような兵器は今のところまだ現われていないんではないかなとわたしは思っております。そして、最終的にはこれを手中に収める方が勝利するんではないかと考えております。

（九四年三月二十六日　於・杉並道場）

●米軍基地からの攻撃はあるか？

質問者　日本には岩国・厚木・横田・三沢等にアメリカの空軍基地がありますが、そこからアメリカの軍用機が、日本の都市に対する核攻撃をすることはあるのでしょうか。

尊師　アメリカの在留米軍による日本攻撃はないです。では、なぜないかといいますと、それでは利益が得られないからです。

では利益とは何かというと、より大きな戦いを起こさない限り、より多くのお金が使われないと。あるいは、より多くの物が破壊されないという現状があります。例えば今アジアを見渡した

場合、韓国・日本・中国とありますが、これが例えばヨーロッパ・アメリカ軍に対抗し、スレスレで負けると。あるいは一年二年対決したら負けるような状況をつくるためにはどうすればいいのか、ということを検討した場合、当然、それは今のアジアの中で科学技術の進んでいる日本がアジア側に加担し、そしてアメリカ・ヨーロッパとぶつかり合うことが彼らにとっての希望なわけです。

その場合、その中心的な国である日本をもともと半支配である在留米軍が叩いたとした場合、より大きな戦いは起きません。だけではなく、国際世論の問題においても利益があまりないと。まあ、そういう意味において、いったん引き下がる。というよりも、日本とアメリカの関係がいっそう悪化し、例えば米軍が引くようなかたちをいったんとると。つまり、自主防衛ができるんだというかたちをいったんとる。自主防衛をするとしたら、日本は今、日本に残っている最後のお金を振り絞って、当然、超軍事大国をつくろうと天皇を中心に計画するはずです。

そして、それらの勢力とアジアの勢力が先程言ったヨーロッパ・アメリカの軍隊とぶつかり合って、で、カネとモノがなくなる。そしてモノを提供しながら、カネをまた一点に集中させると。

（九三年六月十日　於・第六サティアンビル）

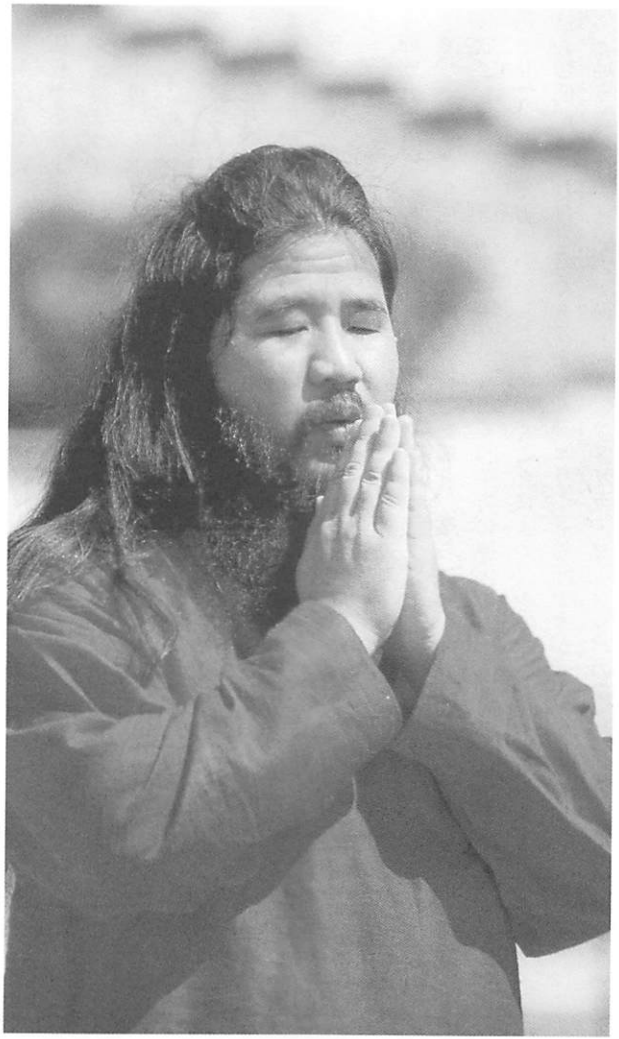
●戦争を起こす意図は何か

質問者　日本・中国・アジアの連合国対西洋についてですが、西洋側、要するに戦争を仕掛ける方の意図というのは何でしょうか。

尊師　違います。戦争を仕掛けるのは東洋です。正確な言い方をすると、西洋のうまいマスコミ操作によって、東洋が戦争を仕掛けるようになるんです。つまりそういう状況をつくらせておいて突っ込ませると。

質問者　あのう、日本の隷属化を考えているなら、例えば東京なり横浜なりに原爆を一個ポンと落としてしまえば、日本はまず、身動きとれなくなると思うんですね。彼らの科学力で考えれば、わたしたち民族を一瞬のうちに蒸発してしまうことも可能と思われるんですね。で、彼らは、わたしたちを完全に抹殺しようとしているのか、それとも隷属化させようとしているのか、どちらなんでしょうか。

尊師　結論から言うと、まず今あなたが発想していらっしゃることは、現実問題としては起きないんです。それはなぜかというと、この戦いの背景にあるものは、フリーメーソンの系統のある一部の流れです。で、彼らは今、その世界経済その他をすべて牛耳っていますが、彼らは徳の流れというものを知っているわけです。つまり、ある程度のカルマの法則を理解しています。その場合、彼らが自分たちでその力を行使した場合、自分たちの運命がどうなるか、等についてはよ



く理解できているんです。だから、例えばアメリカで最も大切にされている宗教の一つにチベット仏教があります。

例えばダライ・ラマ法王は、今のアメリカのマスコミ界においては、まあある意味でスーパースター扱いをされています。というのは、チベット仏教には教えはあるが力がないからそれができるんだよ。つまり、チベット人が、少ないチベット人がアメリカに行って、アメリカ人全体を支配することはできないから。つまり彼らに興味があるのは、教えは純粋に教えとして、しかし、それが権力機構と絡んできてもらったら困ると。で、そうじゃないタイプの聖者は称賛し、そのようなタイプの聖者は称賛されないと。

例えばバグワン・シュリ・ラジニーシの場合、間違った教えも随分あったわけだが正しい教えも一部あったと。しかし、その彼が抹殺された理由というのは、地球統一構想、それによって彼は叩かれた。

で、それを考えて今の現象を分析した場合、彼らはカルマの法則は一応は知っていると。しかし欲望も強いと。そうなる場合、うまく相手方に原因を生起させる条件作りをしてあげて、突っ込ませて、叩いた方がいいんだと。叩くことによって——まあ隷属化といっても彼らのグループは人数的にはそれほど多くありません。エリート集団ですが。

ということは、言い方を換えれば、アメリカ・ヨーロッパの連合軍といってもアメリカ・ヨー

ロッパの下っ端の人たちが彼らに帰依しているってわけじゃないんだよ。だから、それが非常に難しいとこなんだね。

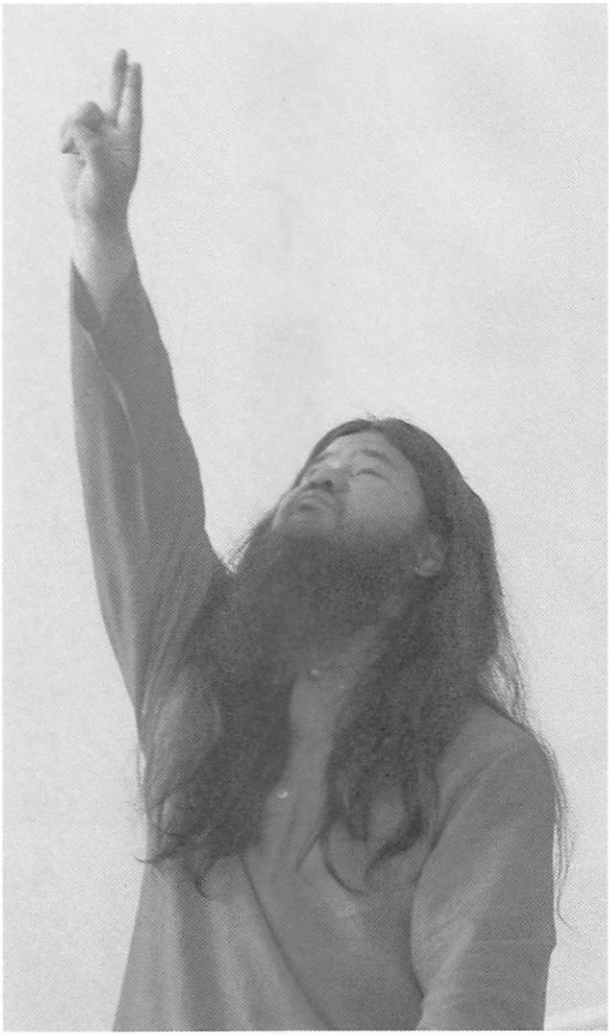
もう少し詳しく説明するならば、要するにある一部のコントロール機関がある。で、そのコントロール機関の一部の人たちの人数はそれほど多くはない。しかし彼らはその一部の人たちに集中させようとしているんだ、すべてを。その場合例えば、単純にヨーロッパ、あるいはアメリカが戦争で勝ったとしても、それはマズいんだよね。だから、考え方として、当然その戦いにおいては、一部の彼らにとって敵対する、ヨーロッパやアメリカの勢力を、そこで戦争させることによって消滅させるとか、そういうことも計算に含まれている。「合法的抹殺」というやつだね、これは。

だから単純に人口減らしとか、あるいは単純に隷属ではないんだよ。じゃあ何が狙いなんだというと、彼らの思っている方向ですべてをコントロールできる地球をつくることが狙いなんです。だから、例えばわたしたちは、今の日本に隷属していないように見えるが、しかしマスコミ等のコントロールによって、ある程度やっぱり隷属しているんだね。例えば、仕事をしたら税金を取られてしまう。これも、無意識のうちにもうそれは当たり前だと考えているが、国家に対する奉仕をしているわけだよ。例えばものの考え方も「これがうまい、あれがうまいよ。この人は悪人だよ、この人は善人だよ」という宣伝についても、新聞・テレビ、あるいは雑誌等でうまくコン

トロールされているわけだ。
だから、戦いが単純でないというのは、そういう背景を加味した上でなんだよ。

（九三年六月十日　於・第六サティアンビル）

〈編集部注〉
「未来というのは、過去のカルマと現在の努力を総合した形で決定される」
「そのため未来というものはすべて決定ではない」
「今の時点からその人が修行をすることによって、カルマが変わってしまえば予言は外れる」
「しかし、個のカルマ、あるいは生まれてくる魂の質等を検討するならば、これはほとんど決定されているということになる」
麻原尊師がこうおっしゃっているように、未来は人々のカルマによって変わってくる。本章では、麻原尊師の予言を列挙しているが、違う時期に述べられた説法を掲載しているため、最終戦争が起きる時期がそれぞれ異なっている。これは、人々のカルマが年々悪化してきているために、最終戦争の時期が早まっているということである。



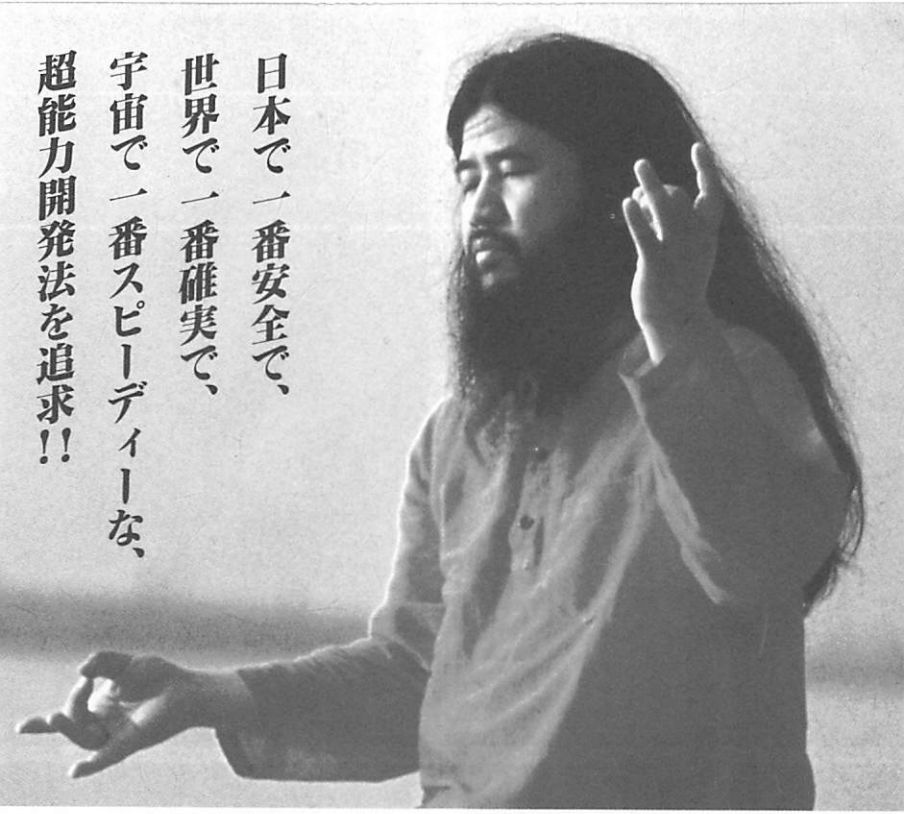
今世紀屈指の予言者・麻原彰晃尊師が
あなたをあらゆる真理に導く。
世紀末の破局を超越し、
予言の未来を生きるために——。

集え！尊師のもとへ

——オウム真理教

最高の教義、最高の奥儀、そして麻原尊師のもと、すべては確実に実現します。詳しい資料をご希望の方は資料請求券を貼付したハガキ、または電話にて最寄りの本・支部までご連絡ください（本・支部一覧は巻末参照）。

日出づる国、災い近し
資料請求券



ザ・超能力秘密の開発法

真理の御魂 最聖 麻原彰晃尊師著

超能力のつかない修行は、ニセモノだ！
自信に満ち溢れたこの言葉こそ、「絵に描いた餅」を超えた真実の証明。
アーサナ、調気法、瞑想、そして正しい生活を通じての秘密の超能力開発法
さらには多くの修行者たちの体験談に加え、
麻原尊師の貴重な修行手記まで一挙公開！
この本の真実をその身をもって実証するのは、ほかでもないあなた自身だ!!

B6版/定価1260円

オウム出版
〒154 東京都世田谷区世田谷2-8-17 TEL 03（3439）6043

仏陀の智慧が光を放ち混迷の時代を照射する

INITIATION

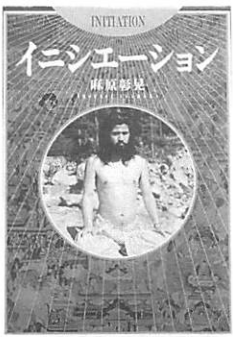
イニシエーション

真理の御魂（みたま）最聖 麻原彰晃尊師 著

この名著はすべてを語っていた！

「解脱」「悟り」のプロセスを細やかに説き明かし、
最高の修行法を伝授する。
本来、選ばれた弟子にのみ明かされる秘儀――
ヨーガ・仏教の奥儀を極めた修行の正しさは、
誕生した三五〇名の解脱者が証明する。
さらに、自民党の大勝と大敗、円高の進行、
農作物輸入自由化など、
今日の世界と日本の動向を正確に予言している、
驚くべき記述の数々！

◎「解脱」「悟り」の真実／現代の仏陀麻原彰晃が最高の修行法を公開。
◎タントラ・イニシエーションの全貌／チベット密教・ゲールク派とオウム真理教の秘儀を比較する。
◎確実に核戦争だ！／日本と世界の近未来を予言する。
◎総勢三十一名の体験談／「クンダリニーが覚醒する」「過去世が甦る」「悟りのプロセス」など、これが修行プロセスと霊的ステージの真実だ。



武田 健さん（東京都／学生）
「末法の時代は終わった」ということを確実に感じさせる本である。

松岡謙次さん（愛媛県／警備員）
読めば読むほど、「頑張ろう、やるぞ」と思わせるような素晴らしい本です。

山本 勇さん（石川県／会社員）
解脱するまでの心の状態が、多くの例を挙げてわかりやすく書いてある。

大森恵子さん（山口県／店員）
他の書では得られない絶対なる真理に触れることができた。

武田葉子さん（熊本県／主婦）
「人間として最高の、最終の目的は何か」ということがはっきり示されています。

本間智加子さん（東京都／経理事務）
宗教に対する偏見がいっぺんに吹き飛んでしまいました。

定価2163円 ご注文は書店にてお願いいたします。直接郵送にお申し込みの場合は下記まで。
オウム出版 〒154 東京都世田谷区世田谷2-8-17 電話03(3439)6043 郵便振替 東京2-109325

絶対幸福の鍵を解く!!

生死を超える（改訂三版）

真理の御魂　最聖　麻原彰晃尊師　著

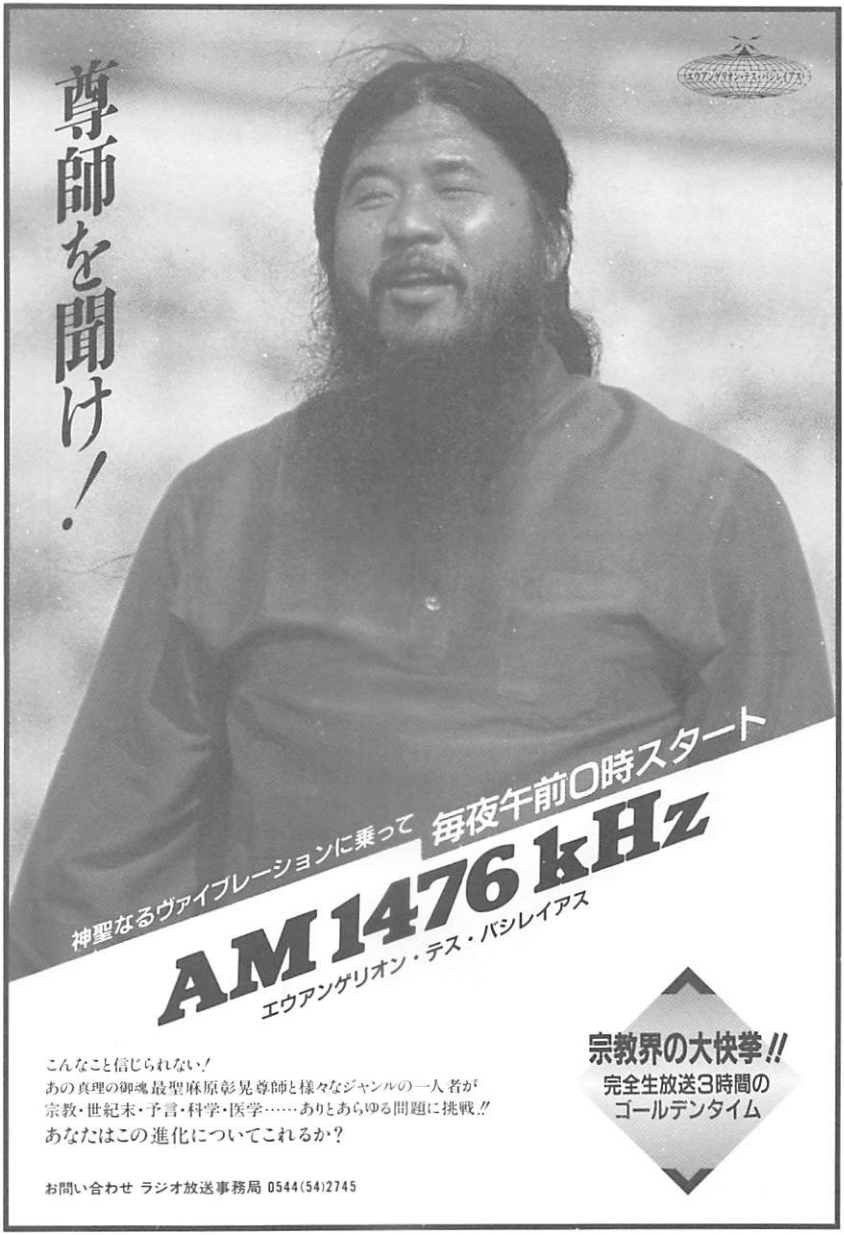
B六判　二九二ページ／定価　一八〇〇円（税込）

キミの解脱は約束された!!

修行の道は長く、険しい。
だが、ここにそれを乗り越えて、
最終地点に到達した一人の聖者がいる。
生と死のすべてを知りつくし
絶対自由・絶対幸福の
境地を得た一つの魂がいる。

真理の御魂　最聖　麻原彰晃尊師が
自らの実体験をもとに真理を説く。
解脱とは何か……、
仏陀釈迦牟尼の遺した
膨大な法則の真実は……
すべてを今、明らかに。

オウム出版
〒154　東京都世田谷区世田谷２-８-17／TEL　03（3439）6043／郵便振替　東京２-109325


尊師を聞け!
神聖なるヴァイブレーションに乗って
毎夜午前0時スタート
AM1476kHz
エウアンゲリオン・テス・パシレイアス
宗教界の大快挙!!
完全生放送3時間の
ゴールデンタイム
こんなこと信じられない!
あの真理の御魂最聖麻原彰晃尊師と様々なジャンルの一人者が
宗教・世紀末・予言・科学・医学……ありとあらゆる問題に挑戦!!
あなたはこの進化についてこれるか?
お問い合わせ ラジオ放送事務局 0544(54)2745

京都支部　075 (371) 3759
〒600　京都府京都市下京区堀川通り松原上ル五軒町384 松本ビル2F
大阪支部　06 (251) 4264
〒541　大阪府大阪市中央区久太郎町3-2-15 マルイビル2F
堺支部　0722 (21) 1843
〒590　大阪府堺市海山町4-168-9
和歌山支部　0734 (24) 2859
〒640　和歌山県和歌山市駿河町42 和歌山酒販会館2F
広島支部　082 (264) 7252
〒732　広島県広島市南区西蟹屋4-4-18 和田ビル3F
高知支部　0888 (84) 8286
〒780　高知県高知市はりまや町2-8-8 安藤ビル2F
福岡支部　092 (474) 2877
〒812　福岡県福岡市博多区博多駅前2-6-15 第一渡部ビル6F
那覇支部　098 (866) 9537
〒902　沖縄県那覇市安里2-4-12 嘉数グラビアハイツ5F
深谷出張所　0485 (74) 8143
〒366　埼玉県深谷市萱場441-8

〈海外支部〉
ニューヨーク支部　212 (421) 3687
8 East 48th St.#2E (2nd Floor), New York, N.Y. 10017 U.S.A.
ボン支部　(0228) 616647
Auf dem Hügel 48, 53121 Bonn, S.R.Germany
スリランカ支部 (AUM SACCA SAṄGHA ASSOCIATION)
Horahena, Watte, Angulugaha, Galle, Sri Lanka
モスクワ支部　215-57-02
1st Block, 21 Bld. Zvyozdnyi Boulevard Moscow 129085, Russia

この本をお読みになって、どのような感想をお持ちになりましたか。あなたのご意見を、ぜひ下記の「『日出づる国、災い近し』読者係」までお送りください。

〒154 東京都世田谷区世田谷2-8-17
オウム出版「『日出づる国、災い近し』読者係」

◆各道場のご案内◆

富士山総本部
〒418-01 静岡県富士宮市人穴381-1
東京総本部 03 (5467) 2745
〒107 東京都港区南青山7-5-12 マハーボーシャビル2,3F
世田谷道場 03 (3327) 8565
〒156 東京都世田谷区赤堤2-42-5 杉田村松ビル1F
杉並道場 03 (3396) 9393
〒167 東京都杉並区下井草4-4-4 井口ビル2F
札幌支部 011 (241) 4938
〒060 北海道札幌市中央区北2条西2丁目19-1 チサンホテル本館2F
仙台支部 022 (268) 3904
〒982 宮城県仙台市若林区河原町1-4-20 十全会ビル2F
水戸支部 0292 (26) 8044
〒310 茨城県水戸市中央2-2-1 HDビル6F
高崎支部 0273 (46) 1573
〒370-12 群馬県高崎市倉賀野町下稲荷前1081-5
船橋支部 0474 (66) 4965
〒274 千葉県船橋市新高根6-26-18
横浜支部 045 (243) 8079
〒231 神奈川県横浜市中区若葉町3-41-2 コスモ伊勢佐木長者町ビル204
藤枝支部 0546 (46) 2068
〒426 静岡県藤枝市築地堤下11-5
松本支部 0263 (28) 7429
〒399 長野県松本市芳川野溝527-3
名古屋支部 052 (252) 0709
〒460 愛知県名古屋市中区栄5-8-14 万国ビル3F
金沢支部 0762 (51) 8457
〒920 石川県金沢市京町25-20 ソフトオフィスビル2+4 2F
福井支部 0776 (26) 6145
〒910 福井県福井市御幸3-3-41 東伸ビル2F

日出づる国、災い近し
一九九五年三月二日　初版発行

定価　一二八五円
著者　真理の御魂（みたま）　最聖　麻原彰晃尊師
発行者　松本知子
石井久子
発行所　株式会社　オウム
〒一五四　東京都世田谷区世田谷二―八―一七
電話　〇三（三四三九）六〇四三
振替　東京二―一〇九三一五

乱丁・落丁がありましたらお取り替えいたします。

©His Holiness the Master, Shoko Asahara 1995
ISBN4-87142-109-0　C0030　P1285E

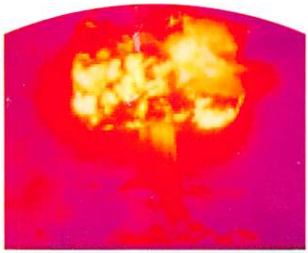
9784871421096

ISBN4-87142-109-0

C0030 P1285E

定価1285円(本体1248円)

1910030012852



日出づる国、災い近し